

国 語 科 1 年 国語総合（現代文） 年間授業計画（シラバス）					
科目名	国語総合（現代文）	対象	スポーツ	コース	単位数 2/4 単位
教科書	精選 国語総合 出版社 東京書籍				
副教材	「精選国語総合 学習課題ノート」（東京書籍），「新総合 国語図説」（東京書籍）， 「ニューエイジ 現代文 基礎1」（第一学習社），「品詞別 頻出漢字マスター 3000」（尚文出版）				

1 学習の到達目標

- ① 論理的文章を「言葉の意味」「キーワード」「段落構成」などに注意し、的確に読み取ることができる。
- ② 文学的文章を「場面・時間の流れ」「登場人物の心理」などに着目しながら、読み味わうことができる。
- ③ 語彙力・国語常識を身につけ、自分の視野を広げたり深めたりすることができる。
- ④ 自分の考えを整理し、適切に文章にまとめることや意見を述べることができる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話すことができ、また的確に聞き取りながら自分の考えをまとめ、深めている。	必要な情報等を整理して、相手や目的・課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取り、また目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりを理解し、語彙・漢字などの知識を身に付けている。
評価の 方法	学習に対する姿勢 ノート プリント 課題提出	授業中の発言・態度 ノート プリント	要約や感想文など ノート プリント 定期考査	要約や感想文など ノート プリント 定期考査	語彙力の定着度 プリント 問題集・小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の「評価の方法」によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 … 定期考査8割， 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

※ 課題は提出日を厳守のこと。

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	・ガイダンス 【基礎学力到達度テスト】 ・評論「水の東西」	・「現代文を学ぶために」を使い，高校での学習・目標について理解する。また，基礎学力到達度テストの過去問から傾向と今後の対策，テストのイメージを持つ。 ・「二項対立」を意識しつつ，評論を読み取る。 〈評論の体験学習〉	2 6
5	【1学期中間考査】		
6	・小説「羅生門」	・5W1H を押さえ，登場人物の心情を読み取る。 〈小説読解の体験学習〉	10
7	【1学期期末考査】		
8	・小説「沖縄の手記から」	・時代背景を理解しつつ，「生きる」意味を考える。	6
9	・短歌「十五の心」 〈抜粋〉 俳句「白牡丹」 〈抜粋〉	・短歌と俳句の形式やリズム，表現方法に着目し込められた心情を読み取る。	5
10	【2学期中間考査】		
11	・小説「城の崎にて」 ・評論「ものと記号」	・優れた表現を味わい，登場人物の心情を読み取る。 ・段落ごとに整理し読み進めつつ，「序論・本論・結論」の段落構成から主題を読み取る。	6 6
12	【2学期期末考査】		
1	・詩「I was born」	・散文詩の特徴を理解しつつ読み味わい，「僕」や「父」の思いを読み取る。	4
2	・評論「今ここにある無数の未知」 ・評論「まちの豊かさとは何か」	・評論の読解について確認し，筆者の主張を的確に読み取る。 ・社会的なテーマの読解を進めた上で「豊かさ」について考えたことについて，討論する。	3 12
3	【学年末考査】		

※学習状況により，進度・内容を変更することがあります。

国語科 1年 国語総合（古典） 年間学習計画（シラバス）					
科目名	国語総合（古典）	対象	スポーツ	コース	単位数 2／4 単位
教科書	精選 国語総合			出版社	東京書籍
副教材	「新総合 図説国語」（東京書籍），「新・要説文語文法 五訂新版」（日栄社）， 「精選国語総合 学習課題ノート」（東京書籍），「ニューエイジ 古典 基礎1」（第一学習社）， 「体系 古典文法準拠ノート 三訂版」（数研出版）				

1 学習の到達目標

- ① 国語で適切かつ効果的に表現する能力を高める。
- ② 伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を高める。
- ③ 言語感覚を磨き、進んで表現する姿勢を身に着ける。
- ④ 表現することによって、国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観 点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内 容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じ、幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の 方 法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における発言内容や態度 ノートプリント ワークシート 定期考査	感想文などの文章 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容は定期考査8割・平常点2割（学習態度・小テスト・ノート・課題など）とする。

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	○ガイドンス・体験学習 【基礎学力到達度テスト】	・ 予習・復習等，高校での学習の仕方を具体的に学習する。	1
5	○宇治拾遺物語（説話） 「児のそら寝」	・ 古文を読む基礎を学ぶ。 ・ 歴史的仮名遣いを理解する。	4
	5月連休課題		
	○今昔物語集（説話） 「検非違使忠明」 1学期中間考査	・ 古語辞典を用いながら，説話の面白さを味わう。 ・ 品詞，活用形等を理解する。	5
6	○徒然草（随筆） 「神無月のころ」	・ 作者の物事の見方，感じ方を読み味わう。 ・ 用言の活用と活用の種類を理解する。	4
7	「九月二十日のころ」 ◇漢文入門 「訓読の基本」 1学期期末考査	・ 訓読の決まりを理解し，訓読に慣れる。訓点に従って漢文を読み，漢文に慣れ親しむ。 ・ 返読文字・置き字・再読文字について理解する。	4 6
8	夏期休暇課題		
	第1回学力考査		
9	○伊勢物語（歌物語） 「芥川」 ◇漢文 故事成語 「矛盾」	・ 歌物語の特徴を捉え，内容を的確に理解する。 ・ 助動詞について理解する。 ・ 漢文の内容を読み取り，故事成語の意味を理解する。 ・ 語彙に着目して口語訳する。	5 4
10	○土佐日記 「馬のはなむけ」 2学期中間考査	・ 日記文学に触れ，読み味わう。 ・ 助動詞の知識・理解を深めると共に，助詞についても学ぶ。	4
11	◇漢文 寓話 「借虎威」	・ 寓話の内容や表現の仕方について理解する。 ・ 単語や句法等を読み取り，そこに込められた意図を捉える。	4
	11月提出課題		
	○枕草子（随筆） 「にくきもの」	・ 作者の観察眼と現代に通じる思いを味わう。	6
12	○和歌 「万葉集」「古今和歌集」 「新古今和歌集」 2学期期末考査	・ それぞれの歌集の特徴について学ぶ。 ・ 和歌の修辞を踏まえて口語訳し，和歌を詠み味わう。	7
	冬期休暇課題		
1	第2回学力考査 ◇漢文 唐詩 「江雪」「送元二使安西」 「春望」	・ 絶句や律詩を読み，描かれた状況や心情を捉える。 ・ 漢詩のきまりを理解する。	4
2	○竹取物語（物語） 「天の羽衣」	・ 古語や文法を踏まえて物語を味わう。 ・ 敬語を理解する。	11
3	◇漢文 思想 「論語」 学年末考査	・ 古代中国の思想や思想家について理解する。	4

国 語 科	1 年	国語総合（現代文）	年間授業計画（シラバス）		
科目名	国語総合（現代文）	対象	進学Ⅰ	コース	単位数 2/5 単位
教科書	精選 国語総合 出版社 東京書籍				
副教材	「精選国語総合 学習課題ノート」（東京書籍），「新総合 国語図説」（東京書籍）， 「ニューエイジ 現代文 基礎1」（第一学習社），「品詞別 頻出漢字マスター 3000」（尚文出版）				

1 学習の到達目標

- ① 論理的文章を「言葉の意味」「キーワード」「段落構成」などに注意し、的確に読み取ることができる。
- ② 文学的文章を「場面・時間の流れ」「登場人物の心理」などに着目しながら、読み味わうことができる。
- ③ 語彙力・国語常識を身につけ、自分の視野を広げたり深めたりすることができる。
- ④ 自分の考えを整理し、適切に文章にまとめることや意見を述べるすることができる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の内容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話すことができ、また的確に聞き取りながら自分の考えをまとめ、深めている。	必要な情報等を整理して、相手や目的・課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取り、また目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりを理解し、語彙・漢字などの知識を身に付けている。
評価の方法	学習に対する姿勢 ノート プリント 課題提出	授業中の発言・態度 ノート プリント	要約や感想文など ノート プリント 定期考査	要約や感想文など ノート プリント 定期考査	語彙力の定着度 プリント 問題集・小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の「評価の方法」によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 … 定期考査8割， 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

※ 課題は提出日を厳守のこと。

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	・ガイダンス 【基礎学力到達度テスト】 ・評論「水の東西」	・「現代文を学ぶために」を使い，高校での学習・目標について理解する。また，基礎学力到達度テストの過去問から傾向と今後の対策，テストのイメージを持つ。 ・「二項対立」を意識しつつ，評論を読み取る。 〈評論の体験学習〉	2 6
5	【1学期中間考査】		
6	・小説「羅生門」	・5W1H を押さえ，登場人物の心情を読み取る。 〈小説読解の体験学習〉	10
7	【1学期期末考査】		
8	・小説「沖縄の手記から」	・時代背景を理解しつつ，「生きる」意味を考える。	6
9	・短歌「十五の心」 〈抜粋〉 俳句「白牡丹」 〈抜粋〉	・短歌と俳句の形式やリズム，表現方法に着目し込められた心情を読み取る。	5
10	【2学期中間考査】		
11	・小説「城の崎にて」 ・評論「ものと記号」	・優れた表現を味わい，登場人物の心情を読み取る。 ・段落ごとに整理し読み進めつつ，「序論・本論・結論」の段落構成から主題を読み取る。	6 6
12	【2学期期末考査】		
1	・詩「I was born」	・散文詩の特徴を理解しつつ読み味わい，「僕」や「父」の思いを読み取る。	4
2	・評論「今ここにある無数の未知」 ・評論「まちの豊かさとは何か」	・評論の読解について確認し，筆者の主張を的確に読み取る。 ・社会的なテーマの読解を進めた上で「豊かさ」について考えたことについて，討論する。	3 12
3	【学年末考査】		

※学習状況により，進度・内容を変更することがあります。

国 語 科 1 年 国語総合（古典） 年間学習計画（シラバス）					
科目名	国語総合（古典）	対象	進学Ⅰ	コース	単位数 3／5 単位
教科書	精選 国語総合 出版社 東京書籍				
副教材	「新総合 図説国語」（東京書籍），「新・要説文語文法 五訂新版」（日栄社），「体系 古典文法準拠ノート 三訂版」（数研出版），「精選国語総合 学習課題ノート」（東京書籍），「ニューエイジ 古典 基礎1」（第一学習社），「完全頻度準 ベストセレクション 古文単語 325」（尚文出版），「漢文必携 四訂版」				

1 学習の到達目標

- ① 国語で適切かつ効果的に表現する能力を高める。
- ② 伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を高める。
- ③ 言語感覚を磨き、進んで表現する姿勢を身に付ける。
- ④ 表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を身に付ける。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における発言内容や態度 ノートプリント ワークシート 定期考査	感想文などの文章 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	○ガイダンス・体験学習 【基礎学力到達度テスト】	・予習・復習等，高校での学習の仕方を具体的に学習する。	1
5	○宇治拾遺物語（説話） 「児のそら寝」	・古文を読む基礎を学ぶ。 ・歴史的仮名遣いを理解する。	4
	5月連休課題		
	○今昔物語集（説話） 「検非違使忠明」 1学期中間考査	・古語辞典を用いながら、説話の面白さを味わう。 ・品詞、活用形等を理解する。	5
6	○徒然草（随筆） 「神無月のころ」	・作者の物の見方、感じ方を読み味わう。 ・用言の活用と活用の種類を理解する。	4
7	「九月二十日のころ」 ◇漢文入門 「訓読の基本」	・訓読の決まりを理解し、訓読に慣れる。 ・訓点に従って漢文を読み、漢文に慣れ親しむ。 ・返読文字・置き字・再読文字について理解する。	4
	1学期期末考査		6
8	夏期休暇課題		
	第1回学力考査		
9	○伊勢物語（歌物語） 「芥川」 ◇漢文 故事成語 「矛盾」	・歌物語の特徴を捉え、内容を的確に捉える。 ・助動詞について理解する。 ・漢文の内容を読み取り、故事成語の意味を理解する。 ・語彙に着目して口語訳する。	5
	○土佐日記 「馬のはなむけ」	・日記文学に触れ、読み味わう。 ・助動詞の知識・理解を深めると共に、助詞についても学ぶ。	4
10	2学期中間考査		4
11	◇漢文 寓話 「借虎威」	・寓話の内容や表現の仕方について理解する。 ・単語や句法等を読み取り、そこに込められた意図を捉える。	4
	11月提出課題		
	○枕草子（随筆） 「にくきもの」	・作者の観察眼と現代に通じる思いを味わう。 ・それぞれの歌集の特徴について学ぶ。	6
12	○和歌 「万葉集」「古今和歌集」 「新古今和歌集」 2学期期末考査	・和歌の修辞を踏まえて口語訳し、和歌を詠み味わう。 「古文単語 325」(P.90～109)	7
	冬期休暇課題		
1	第2回学力考査 ◇漢文 唐詩 「江雪」「送元二使安西」 「春望」	・絶句や律詩を読み、描かれた状況や心情を捉える。 ・詩のきまりを理解する。	4
2	○竹取物語（物語） 「天の羽衣」 ◇漢文 思想 「論語」	・古語や文法を踏まえて物語を味わう。 ・敬語を理解する。 ・古代中国の思想や思想家について理解する。	11
3	学年末考査		4
	春期休暇課題		

国 語 科 1 年 国語総合（現代文） 年間授業計画（シラバス）					
科目名	国語総合（現代文）	対象	進学Ⅱ	コース	単位数 2/5 単位
教科書	精選 国語総合 出版社 東京書籍				
副教材	「精選国語総合 学習課題ノート」（東京書籍），「新総合 国語図説」（東京書籍）， 「ニューエイジ 現代文 基礎1」（第一学習社），「品詞別 頻出漢字マスター 3000」（尚文出版）				

1 学習の到達目標

- ① 論理的文章を「言葉の意味」「キーワード」「段落構成」などに注意し、的確に読み取ることができる。
- ② 文学的文章を「場面・時間の流れ」「登場人物の心理」などに着目しながら、読み味わうことができる。
- ③ 語彙力・国語常識を身につけ、自分の視野を広げたり深めたりすることができる。
- ④ 自分の考えを整理し、適切に文章にまとめることや意見を述べることができる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話すことができ、また的確に聞き取りながら自分の考えをまとめ、深めている。	必要な情報等を整理して、相手や目的・課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取り、また目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりを理解し、語彙・漢字などの知識を身に付けている。
評価の 方法	学習に対する姿勢 ノート プリント 課題提出	授業中の発言・態度 ノート プリント	要約や感想文など ノート プリント 定期考査	要約や感想文など ノート プリント 定期考査	語彙力の定着度 プリント 問題集・小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の「評価の方法」によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 … 定期考査8割， 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

※ 課題は提出日を厳守のこと。

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	・ガイダンス 【基礎学力到達度テスト】 ・評論「水の東西」	・「現代文を学ぶために」を使い，高校での学習・目標について理解する。また，基礎学力到達度テストの過去問から傾向と今後の対策，テストのイメージを持つ。 ・「二項対立」を意識しつつ，評論を読み取る。 〈評論の体験学習〉	2 6
5	【1学期中間考査】		
6	・小説「羅生門」	・5W1H を押さえ，登場人物の心情を読み取る。 〈小説読解の体験学習〉	10
7	【1学期期末考査】		
8	・小説「沖縄の手記から」	・時代背景を理解しつつ，「生きる」意味を考える。	6
9	・短歌「十五の心」 〈抜粋〉 俳句「白牡丹」 〈抜粋〉	・短歌と俳句の形式やリズム，表現方法に着目し込められた心情を読み取る。	5
10	【2学期中間考査】		
11	・小説「城の崎にて」 ・評論「ものと記号」	・優れた表現を味わい，登場人物の心情を読み取る。 ・段落ごとに整理し読み進めつつ，「序論・本論・結論」の段落構成から主題を読み取る。	6 6
12	【2学期期末考査】		
1	・詩「I was born」	・散文詩の特徴を理解しつつ読み味わい，「僕」や「父」の思いを読み取る。	4
2	・評論「今ここにある無数の未知」 ・評論「まちの豊かさとは何か」	・評論の読解について確認し，筆者の主張を的確に読み取る。 ・社会的なテーマの読解を進めた上で「豊かさ」について考えたことについて，討論する。	3 12
3	【学年末考査】		

※学習状況により，進度・内容を変更することがあります。

国 語 科 1 年 国語総合（古典） 年間学習計画（シラバス）					
科目名	国語総合（古典）	対象	進学Ⅱ	コース	単位数 3／5 単位
教科書	精選 国語総合		出版社		東京書籍
副教材	「新総合 図説国語」（東京書籍），「新・要説文語文法 五訂新版」（日栄社），「体系 古典文法準拠ノート 三訂版」（数研出版），「精選国語総合 学習課題ノート」（東京書籍），「ニューエイジ 古典 基礎1」（第一学習社），「完全頻度準 ベストセレクション 古文単語 325」（尚文出版），「漢文必携 四訂版」				

1 学習の到達目標

- ① 国語で適切かつ効果的に表現する能力を高める。
- ② 伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を高める。
- ③ 言語感覚を磨き、進んで表現する姿勢を身に付ける。
- ④ 表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を身に付ける。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における発言内容や態度 ノートプリント ワークシート 定期考査	感想文などの文章 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	○ガイダンス・体験学習 【基礎学力到達度テスト】	・予習・復習等，高校での学習の仕方を具体的に学習する。	1
5	○宇治拾遺物語（説話） 「児のそら寝」	・古文を読む基礎を学ぶ。 ・歴史的仮名遣いを理解する。	4
	5月連休課題		
	○今昔物語集（説話） 「検非違使忠明」 1学期中間考査	・古語辞典を用いながら、説話の面白さを味わう。 ・品詞、活用形等を理解する。	5
6	○徒然草（随筆） 「神無月のころ」	・作者の物の見方、感じ方を読み味わう。 ・用言の活用と活用の種類を理解する。	4
7	「九月二十日のころ」 ◇漢文入門 「訓読の基本」	・訓読の決まりを理解し、訓読に慣れる。 ・訓点に従って漢文を読み、漢文に慣れ親しむ。 ・返読文字・置き字・再読文字について理解する。	4 6
	1学期期末考査		
8	夏期休暇課題		
	第1回学力考査		
9	○伊勢物語（歌物語） 「芥川」 ◇漢文 故事成語 「矛盾」	・歌物語の特徴を捉え、内容を的確に捉える。 ・助動詞について理解する。 ・漢文の内容を読み取り、故事成語の意味を理解する。 ・語彙に着目して口語訳する。	5 4
10	○土佐日記 「馬のはなむけ」 2学期中間考査	・日記文学に触れ、読み味わう。 ・助動詞の知識・理解を深めると共に、助詞についても学ぶ。	4
11	◇漢文 寓話 「借虎威」	・寓話の内容や表現の仕方について理解する。 ・単語や句法等を読み取り、そこに込められた意図を捉える。	4
	11月提出課題		
	○枕草子（随筆） 「にくきもの」	・作者の観察眼と現代に通じる思いを味わう。 ・それぞれの歌集の特徴について学ぶ。	6
12	○和歌 「万葉集」「古今和歌集」 「新古今和歌集」 2学期期末考査	・和歌の修辞を踏まえて口語訳し、和歌を詠み味わう。 「古文単語 325」(P.90～109)	7
	冬期休暇課題		
1	第2回学力考査 ◇漢文 唐詩 「江雪」「送元二使安西」 「春望」	・絶句や律詩を読み、描かれた状況や心情を捉える。 ・詩のきまりを理解する。	4
2	○竹取物語（物語） 「天の羽衣」 ◇漢文 思想 「論語」	・古語や文法を踏まえて物語を味わう。 ・敬語を理解する。 ・古代中国の思想や思想家について理解する。	11 4
3	学年末考査		
	春期休暇課題		

国語科 1年 国語総合（現代文） 年間学習計画（シラバス）					
科目名	国語総合	対象	特進 コース	単位数	3／6 単位
教科書	国語総合 現代文編			出版社	東京書籍
副教材	「新総合図説国語」（東京書籍）・「国語総合 学習課題ノート 現代文編」（東京書籍）・「基礎現代文1 プラス」（尚文出版）・「大学入試漢字TOP2000」（いっずな書店）				

1 学習の到達目標

① 国語で適切かつ効果的に表現する能力を高める。
② 伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし高める。
③ 言語感覚を磨き、進んで表現する姿勢を身に着ける。
④ 表現することによって国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観 点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内 容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の 方 法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における 発言内容や態度 ノートプリント ワークシート	感想文などの文章 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における 発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における 発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法に基づいて、学年末に評定にまとめる。

評価の内容は定期考査8割・平常点2割（学習態度・小テスト・ノート・課題など）とする。

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	○ガイダンス・体験学習 【日本大学基礎学力到達度テスト】	・現代文の予習・復習について具体的に学習する。	2
	○評論1 「技術が道徳を代行する時」	・本文を読み、現代の文化や技術の特徴を学ぶ。	4
	「水の東西」	・日本と西欧の伝統的文化や感性の違いについて学ぶ。	4
5	連休課題		
	【1学期中間考査】		
	○小説1 「羅生門」	・情景、登場人物等を表現に即して読み解き、登場人物の心情の変化を場面に即して考える。	10
6	○評論2 「客観的と抽象的」	・抽象的な表現を的確に読み取り、抽象・客観と具体とについて考える。	4
7	【1学期期末考査】		
8	夏期休暇課題		
	【第1回学力考査】		
9	○評論2 「言葉は『ものの名前』ではない」	・言語と認識の関係についての評論を読み、言葉の働きについて考える。	8
10	○小説2 「城の崎にて」	・主人公の死生観について、表現に即して読み取る。	8
	【2学期中間考査】		
	秋期課題 「基礎現代文プラス1」 18～23 (P.42～P.57)		
11	○評論3 「広告の形而上学」	・広告の奇妙さについての評論を読み、現代社会の特質について考える。	6
12	「映像文化の変貌」	・映像文化についての問題点を指摘した文章を読み、自分の考えを深める。	8
	【2学期期末考査】		
	○詩歌(予備単元) 「十五の心」 — 短歌抄	・短歌の形式やリズム、表現方法に注意し、鑑賞する。	3
1	冬期休暇課題 「1プラス基礎現代文」 24～最後(P.58～P.79)		
	【第1回学力考査】		
	○評論4 「メディアがつくる身体」	・メディアと人、社会との関係について考えを深める。	5
2	「私の時代のデモクラシー」	・「私」が尊重される現代社会が抱える課題について理解し、視野を深める	7
3	「テルミヌスの変身」	・空間、時間的な距離が消滅した現代社会の状況について考えを深める。	5
	【学年末考査】		

国 語 科 1 年 国語総合（古典） 年間授業計画（シラバス）					
科目名	国語総合（古典）	対象	特進	コース	単位数 3／6 単位
教科書	国語総合（古典編） 出版社 東京書籍				
副教材	「国語総合学習課題ノート古典編」（東京書籍），「新総合 図説国語」（東京書籍）， 「新要説文語文法五訂版」（日栄社），「体系古典文法準拠ノート三訂版」（数研出版）， 「完全頻度順ベストセクション古文単語 325」（尚文出版），「漢文必携四訂版」（桐原書店）， 「プログレス古文基本編」（いっずな書店），「プログレス漢文基本編」（いっずな書店）				

1 学習の到達目標

- ① 国語で適切かつ効果的に表現する能力を養う。
- ② 伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばす。
- ③ 言語感覚を磨き，進んで表現する姿勢を養う。
- ④ 表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり，話し合ったりして，自分の考えをまとめ，深めている。	相手や目的，意図に応じた適切な表現による文章を書き，自分の考えをまとめ，深めている。	文章を的確に読み取ったり，目的に応じて幅広く読みだりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり，漢字などについて理解し，知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における 発言内容や態度 ノート プリント ワークシート	ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における 発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における 発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 ： 定期考査 8 割

平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 2 割

※課題は週末課題として取り組み，提出日を厳守のこと。

3 学習計画

月	学 習 単 元 (○古文 ◆漢文)	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイドランス・予習復習体験学習 ○ 1 古文入門『今昔物語集』 「検非違使忠明」	・予習、復習等、高校での学習の仕方を具体的に学習する。 ・古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎を学ぶ。 ・歴史的仮名遣い、品詞、活用形等の古文の基礎を理解する。	2 4
5	○ 1 古文入門『十訓抄』 「大江山の歌」	・説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。 ・動詞の活用と活用の種類を理解する。	5
☆1学期中間考査			
6	○ 2 随筆『徒然草』 「丹波に出雲といふ所あり」 「九月二十日のころ」 ◆ 1 漢文入門「訓読の基本」 「訓読」「格言」	・人間や自然に対する作者のものの見方、感じ方を味わう。 ・形容詞、形容動詞について理解する。 ・用言の理解を確実なものにする。 ・訓点のきまりを理解し、訓読に慣れる。 ・訓点に従って漢文を読み、漢文に慣れ親しむ。 ・返読文字、再読文字、置き字について理解する。	10 8
7			
☆1学期期末考査			
8	○ 3 物語『伊勢物語』 「芥川」「東下り」	・古文に描かれた内容を的確に読み取る。 ・歌物語について学ぶとともに、助動詞、助詞を理解する。	12
9	◆ 1 漢文入門「故事成語 ― 三編」 「助長」(『孟子』)「推敲」(『唐詩紀事』)	・漢文の内容を読み取り、故事成語の意味を理解する。	8
10			
☆2学期中間考査			
11	○ 7 和歌『万葉集』『古今和歌集』 『新古今和歌集』 ◆ 2 寓話「寓話 ― 三編」 「朝三暮四」「苛政猛於虎也」	・それぞれの歌集の特徴を理解する。 ・和歌の修辞について知り、表現の特色を学ぶ。 ・和歌に表れた日本人のものの見方、感じ方にふれる。 ・構成を考えながら漢文の内容を読み取り、寓話に込められた意図を捉える。	8 8
12	○ 4 日記『土佐日記』 「馬のはなむけ」「帰京」	・句形を理解する。 ・日記文学の内容を知り、内容を的確に読み取る。 ・副詞等を理解する。	8
☆2学期期末考査			
1	◆ 3 唐代の詩文「唐詩 ― 九首」 「望廬山瀑布(李白)」「春望(杜甫)」	・漢詩のきまりを理解する。 ・絶句や律詩を読み、描かれた状況や心情を考えながら、唐詩の世界を鑑賞する。	8
2	○ 3 物語『竹取物語』 「天の羽衣」	・想像力をはたらかせながら、物語の内容を読み取る。 ・敬語を理解する。	9
3	◆ 5 思想『論語』 「論語 ― 十三章」	・古代中国の思想や思想家(諸子百家)について理解を深め、ものの見方、考え方を豊かにする。 ・孔子が理想としたものは何かを考える。	5
☆学年末考査			

国 語 科 2 年 現代文 B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	現代文 B	対象	スポーツ	コース	単位数 3 単位
教科書	精選現代文 B			出版社	東京書籍
副教材	図説国語（東京書籍）				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における発言内容や態度 ノートプリント ワークシート	感想文などの文章 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	春期休暇課題		
	ガイダンス・予習復習体験学習	・予習、復習等、高校での学習の仕方を具体的に学習する。	1
5	○日本大学基礎学力到達度テスト		
	評論 「ミロのヴィーナス」	・表現技巧（逆説・比喩）や一つひとつの言葉に注意した丁寧な読解を目指す。 ・評論文を読み、要旨を的確にとらえる。	8
	短歌 「牡丹花は一短歌抄」	・短歌を味わうとともに、修辞法を学ぶ。	3

6 7	5月連休課題		
	○1学期中間考查		
	評論 「相手依存の自己規定」	・評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。 ・言語と自我の構造の関係、事実とその解釈の問題について考えを深める。・コミュニケーションのあり方について考えを持つ。	8
	俳句 「プラタナス―俳句抄」	・俳句を通して、詠者の思いを読み味わう。	2
	○1学期期末考查		
	夏期休暇課題 日本大学文芸作品コンクール作品		
8 9 10 11 12	○第1回学力考查		
	小説 「山月記」	・小説を読み、そこに描かれた場面や登場人物についての的確に捉える。 ・小説の虚構性をとおして、人間とは何かについて考える。	10
	詩 「永訣の朝」	・音読を通じてリズムや独特な表現を感じ取り、作者の思い・人生観を読み味わう。	3
	○2学期中間考查		
	評論 「日本人の美意識」	・日本人の美意識についての的確に理解し、様々な考え方があることを知る。	7
	評論 「おじいさんのランプ」	・筆者の考えを的確に読み取り、そこに提示された問題について、自分の意見を表現する。	7
	○2学期期末考查		
	冬期休暇課題		
1 2 3	○第2回学力考查		
	小説 「こころ」	・長編小説における登場人物の性格や心理を、段階的にメリハリをつけて読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。	13
	○学年末考查		
	春期休暇課題		

国 語 科 2 年 古典B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	古典B	対象	スポーツ	コース	単位数 3 単位
教科書	精選古典B（古文編・漢文編）				出版社 東京書籍
副教材	「精選古典B学習課題ノート 古文編」（東京書籍），「精選古典B学習課題ノート 漢文編」（東京書籍），「新総合 図説国語」（東京書籍），「新明説総合古典文法」（尚文出版），「漢文必携 四訂版」（桐原書店），「完成古文単語321」（尚文出版）				

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の内容	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり，その価値を考察したりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め，知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出			学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。
 評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元 (○古文 ◆漢文)	主な学習内容と到達目標	時間数
4	春休み課題		
	ガイダンス・予習復習体験学習 【基礎学力到達度テスト】 ○説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」	・年間計画, 日々の学習について ・和歌に着目しながら, 登場人物の言動や心情をとらえる。	1 5
5	5月連休課題 ◆小話『十八史略』 「先従隗始」	・『国語総合』で学習した「故事成語」や「寓話」について再確認する。 ・脚注・辞書等を参照し, 語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し, 内容を理解する。	5
☆1学期中間考査 「古文単語 321」 P.8～32 (試験範囲に含む)			
6	○随筆『枕草子』 「中納言参り給ひて」 「雪のいと高う降りたるを」	・この作品の内容と作者について, 今までの学習で得ていた知識とともに, 簡単に整理し, 理解する。 ・作者の当意即妙な言葉と, 隆家との間柄について読み取る。	4 4
7	◆思想『孟子』 「性之善也, 猶水之就下」	・諸子百家について理解する。 ・性善説, 性悪説の思想を理解しながら内容や既習の句法を確認する。	4
☆1学期期末考査 「古文単語 321」 P.33～55 (試験範囲に含む)			
夏休み	課題 日本文芸コンクール作品		
8	【第1回学力考査】	「古文単語 321」 P.56～81 (試験範囲に含む)	
9	○随筆『徒然草』 「悲田院の堯蓮上人は」	・話題の内容と, それを受けての作者の感懷を読み取る。	5
10	◆史記『史記』 「鴻門之会」 (前半)	・登場人物の性格をとらえ, 史伝の力強さや面白さを味わう。 ・歴史上の人物の行動や心情について考える。	5
☆2学期中間考査 「古文単語 321」 P.82～105 (試験範囲に含む)			
	◆史記『史記』 「鴻門之会」 (後半)		7
	○物語『大鏡』 「道長, 伊周の競射」	・歴史物語としての『大鏡』の特色を理解する。 ・道長と伊周の言動から, 二人の人物像を読み取る。	7
☆2学期期末考査 「古文単語 321」 P.106～127 (試験範囲に含む)			
冬休み	課題		
1	【第2回学力考査】	「古文単語 321」 P.128～149 (試験範囲に含む)	
2	○物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」	・『源氏物語』の概要とともに登場人物の心情を深く考えながら, 内容を読み味わう。	8
	◆小説『世説新語』 「小時了了」	・2年間の既習文法事項の総復習を意識して取り組む。 ・孔文挙の発言の意図を読み取る。	7
3	◆詩『詩経』 「桃夭」	・漢詩の基本事項の復習 ・作者の心情を理解する。	2
☆学年末考査 「古文単語 321」 P.150～175 (試験範囲に含む)			
春休み	課題		

国語科 2 年							現代文 B		年間授業計画（シラバス）		
科目名	現代文B		対象	進学Ⅰ（文系）		コース		単位数	3 単位		
教科書	精選現代文 B					出版社		東京書籍			
副教材	図説国語（東京書籍）										

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における発言内容や態度 ノートプリント ワークシート	感想文などの文章 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	春期休暇課題		
	ガイダンス・予習復習体験学習	・予習、復習等、高校での学習の仕方を具体的に学習する。	1
5	○日本大学基礎学力到達度テスト		
	評論 「ミロのヴィーナス」	・表現技巧（逆説・比喩）や一つひとつの言葉に注意した丁寧な読解を目指す。 ・評論文を読み、要旨を的確にとらえる。	8
	短歌 「牡丹花は一短歌抄」	・短歌を味わうとともに、修辞法を学ぶ。	3

6 7	5月連休課題		
	○1学期中間考查		
	評論 「相手依存の自己規定」	・評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。 ・言語と自我の構造の関係、事実とその解釈の問題について考えを深める。 ・コミュニケーションのあり方について考えを持つ。	8
	俳句 「プラタナス―俳句抄」	・俳句を通して、詠者の思いを読み味わう。	2
	○1学期期末考查		
	夏期休暇課題 日本大学文芸作品コンクール作品		
8	○第1回学力考查		
9	小説 「山月記」	・小説を読み、そこに描かれた場面や登場人物についての的確に捉える。 ・小説の虚構性をとおして、人間とは何かについて考える。	10
10	詩 「永訣の朝」	・音読を通じてリズムや独特な表現を感じ取り、作者の思い・人生観を読み味わう。	3
11	○2学期中間考查		
12	評論 「日本人の美意識」	・日本人の美意識についての的確に理解し、様々な考え方があることを知る。	7
	評論 「おじいさんのランプ」	・筆者の考えを的確に読み取り、そこに提示された問題について、自分の意見を表現する。	7
	○2学期期末考查		
	冬期休暇課題		
1 2 3	○第2回学力考查		
	小説 「こころ」	・長編小説における登場人物の性格や心理を、段階的にメリハリをつけて読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。	13
	○学年末考查		
	春期休暇課題		

国 語 科 2 年						古典B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	古典B	対象	進学Ⅰ（文系）		コース	単位数	3 単位		
教科書	精選古典B（古文編・漢文編）					出版社	東京書籍		
副教材	「精選古典B学習課題ノート 古文編」（東京書籍），「精選古典B学習課題ノート 漢文編」（東京書籍），「新総合 図説国語」（東京書籍），「新明説総合古典文法」（尚文出版），「漢文必携 四訂版」（桐原書店），「完成古文単語3 2 1」（尚文出版），								

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の内容	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり，その価値を考察したりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め，知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出			学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。
 評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元 (○古文 ◆漢文)	主な学習内容と到達目標	時間数
4	春休み課題		
	ガイダンス・予習復習体験学習 【基礎学力到達度テスト】 ○説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」	・年間計画, 日々の学習について ・和歌に着目しながら, 登場人物の言動や心情をとらえる。	1 5
5	5月連休課題 ◆小話『十八史略』 「先従隗始」	・『国語総合』で学習した「故事成語」や「寓話」について再確認する。 ・脚注・辞書等を参照し, 語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し, 内容を理解する。	5
☆1学期中間考査 「古文単語 321」 P.8～32 (試験範囲に含む)			
6	○随筆『枕草子』 「中納言参り給ひて」 「雪のいと高う降りたるを」	・この作品の内容と作者について, 今までの学習で得ていた知識とともに, 簡単に整理し, 理解する。 ・作者の当意即妙な言葉と, 隆家との間柄について読み取る。	4 4
7	◆思想『孟子』 「性之善也, 猶水之就下」	・諸子百家について理解する。 ・性善説, 性悪説の思想を理解しながら内容や既習の句法を確認する。	4
☆1学期期末考査 「古文単語 321」 P.33～55 (試験範囲に含む)			
夏休み	課題 日本文芸作品		
8	【第1回学力考査】	「古文単語 321」 P.56～81 (試験範囲に含む)	
9	○随筆『徒然草』 「悲田院の堯蓮上人は」	・話題の内容と, それを受けての作者の感懷を読み取る。	5
10	◆史記『史記』 「鴻門之会」 (前半)	・登場人物の性格をとらえ, 史伝の力強さや面白さを味わう。 ・歴史上の人物の行動や心情について考える。	5
☆2学期中間考査 「古文単語 321」 P.82～105 (試験範囲に含む)			
	10月下旬提出課題		
11	◆史記『史記』 「鴻門之会」 (後半)		7
	○物語『大鏡』	・歴史物語としての『大鏡』の特色を理解する。	7
12	「道長, 伊周の競射」	・道長と伊周の言動から, 二人の人物像を読み取る。	
☆2学期期末考査 「古文単語 321」 P.106～127 (試験範囲に含む)			
冬休み	課題		
1	【第2回学力考査】	「古文単語 321」 P.128～149 (試験範囲に含む)	
2	○物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」	・『源氏物語』の概要とともに登場人物の心情を深く考えながら, 内容を読み味わう。	8
	◆小説『世説新語』 「小時了了」	・2年間の既習文法事項の総復習を意識して取り組む。 ・孔文挙の発言の意図を読み取る。	7
3	◆詩『詩経』 「桃夭」	・漢詩の基本事項の復習 ・作者の心情を理解する。	2
☆学年末考査 「古文単語 321」 P.150～175 (試験範囲に含む)			
春休み	課題		

国語科 2 年 現代文 B 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	現代文B	対象	進学Ⅱ (文系)	コース	単位数	3 単位
教科書	精選現代文 B			出版社	東京書籍	
副教材	図説国語 (東京書籍)					

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における発言内容や態度 ノートプリント ワークシート	感想文などの文章 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	春期休暇課題		
	ガイダンス・予習復習体験学習	・予習、復習等、高校での学習の仕方を具体的に学習する。	1
5	○日本大学基礎学力到達度テスト		
	評論 「ミロのヴィーナス」	・表現技巧（逆説・比喩）や一つひとつの言葉に注意した丁寧な読解を目指す。 ・評論文を読み、要旨を的確にとらえる。	8
	短歌 「牡丹花は一短歌抄」	・短歌を味わうとともに、修辞法を学ぶ。	3
	5月連休課題		
6	○1学期中間考查		
7	評論 「相手依存の自己規定」	・評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。 ・言語と自我の構造の関係、事実とその解釈の問題について考えを深める。・コミュニケーションのあり方について考えを持つ。	8
	俳句 「プラタナス―俳句抄」	・俳句を通して、詠者の思いを読み味わう。	2
	○1学期期末考查		
	夏期休暇課題		
	日本大学文芸作品コンクール作品		
8	○第1回学力考查		
9	小説 「山月記」	・小説を読み、そこに描かれた場面や登場人物についての的確に捉える。 ・小説の虚構性をとおして、人間とは何かについて考える。	10
10	詩 「永訣の朝」	・音読を通じてリズムや独特な表現を感じ取り、作者の思い・人生観を読み味わう。	3
	○2学期中間考查		
11	評論 「日本人の美意識」	・日本人の美意識についての的確に理解し、様々な考え方があることを知る。	7
	評論 「おじいさんのランプ」	・筆者の考えを的確に読み取り、そこに提示された問題について、自分の意見を表現する。	7
12	○2学期期末考查		
	冬期休暇課題		
1	○第2回学力考查		
2	小説 「こころ」	・長編小説における登場人物の性格や心理を、段階的にメリハリをつけて読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。	13
3	○学年末考查		
	春期休暇課題		

国 語 科 2 年 古典B 年間授業計画（シラバス）						
科目名	古典B	対象	進学Ⅱ（文系）	コース	単位数	3 単位
教科書	精選古典B（古文編・漢文編）			出版社	東京書籍	
副教材	「精選古典B学習課題ノート 古文編」（東京書籍），「精選古典B学習課題ノート 漢文編」（東京書籍）， 「新総合 図説国語」（東京書籍），「新明説総合古典文法」（尚文出版），「漢文必携 四訂版」（桐原書店）， 「完成古文単語321」（尚文出版）					

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の内容	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり，その価値を考察したりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め，知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出			学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。
 評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元 (○古文 ◆漢文)	主な学習内容と到達目標	時間数
4	春休み課題		
	ガイダンス・予習復習体験学習 【基礎学力到達度テスト】 ○説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」	・年間計画, 日々の学習について ・和歌に着目しながら, 登場人物の言動や心情をとらえる。	1 5
5	5月連休課題		
	◆小話『十八史略』 「先従隗始」	・『国語総合』で学習した「故事成語」や「寓話」について再確認する。 ・脚注・辞書等を参照し, 語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し, 内容を理解する。	5
☆1学期中間考査 「古文単語 321」 P.8～32 (試験範囲に含む)			
6	○随筆『枕草子』 「中納言参り給ひて」 「雪のいと高う降りたるを」	・この作品の内容と作者について, 今までの学習で得ていた知識とともに, 簡単に整理し, 理解する。 ・作者の当意即妙な言葉と, 隆家との間柄について読み取る。	4 4
7	◆思想『孟子』 「性之善也, 猶水之就下」	・諸子百家について理解する。 ・性善説, 性悪説の思想を理解しながら内容や既習の句法を確認する。	4
☆1学期期末考査 「古文単語 321」 P.33～55 (試験範囲に含む)			
夏休み	課題 日大文芸作品		
8	【第1回学力考査】	「古文単語 321」 P.56～81 (試験範囲に含む)	
9	○随筆『徒然草』 「悲田院の堯蓮上人は」	・話題の内容と, それを受けての作者の感懷を読み取る。	5
10	◆史記『史記』 「鴻門之会」 (前半)	・登場人物の性格をとらえ, 史伝の力強さや面白さを味わう。 ・歴史上の人物の行動や心情について考える。	5
☆2学期中間考査 「古文単語 321」 P.82～105 (試験範囲に含む)			
	10月下旬提出課題		
11	◆史記『史記』 「鴻門之会」 (後半)		7
	○物語『大鏡』	・歴史物語としての『大鏡』の特色を理解する。	7
12	「道長, 伊周の競射」	・道長と伊周の言動から, 二人の人物像を読み取る。	
☆2学期期末考査 「古文単語 321」 P.106～127 (試験範囲に含む)			
冬休み	課題		
1	【第2回学力考査】	「古文単語 321」 P.128～149 (試験範囲に含む)	
2	○物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」	・『源氏物語』の概要とともに登場人物の心情を深く考えながら, 内容を読み味わう。	8
	◆小説『世説新語』 「小時了了」	・2年間の既習文法事項の総復習を意識して取り組む。 ・孔文挙の発言の意図を読み取る。	7
3	◆詩『詩経』 「桃夭」	・漢詩の基本事項の復習 ・作者の心情を理解する。	2
☆学年末考査 「古文単語 321」 P.150～175 (試験範囲に含む)			
春休み	課題		

国 語 科 2 年 現代文 B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	現代文 B	対象	進学 I (理系)	コース	単位数 2 単位
教科書	精選現代文 B			出版社	東京書籍
副教材	図説国語 (東京書籍)				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における発言内容や態度 ノートプリント ワークシート	感想文などの文章 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	春期休暇課題		
	ガイダンス・予習復習体験学習	・予習、復習等、高校での学習の仕方を具体的に学習する。	1
5	○日本大学基礎学力到達度テスト		
	評論 「ミロのヴィーナス」	・表現技巧（逆説・比喩）や一つひとつの言葉に注意した丁寧な読解を目指す。 ・評論文を読み、要旨を的確にとらえる。	8
	短歌 「牡丹花は一短歌抄」	・短歌を味わうとともに、修辞法を学ぶ。	3
	5月連休課題		
6	○1学期中間考査		
7	評論 「相手依存の自己規定」	・評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。 ・言語と自我の構造の関係、事実とその解釈の問題について考えを深める。・コミュニケーションのあり方について考えを持つ。	8
	俳句 「プラタナス―俳句抄」	・俳句を通して、詠者の思いを読み味わう。	2
	○1学期期末考査		
	夏期休暇課題		
	日本大学文芸作品コンクール作品		
8	○第1回学力考査		
9	小説 「山月記」	・小説を読み、そこに描かれた場面や登場人物についての的確に捉える。 ・小説の虚構性をとおして、人間とは何かについて考える。	10
10	詩 「永訣の朝」	・音読を通じてリズムや独特な表現を感じ取り、作者の思い・人生観を読み味わう。	3
	○2学期中間考査		
11	評論 「日本人の美意識」	・日本人の美意識についての的確に理解し、様々な考え方があることを知る。	7
	評論 「おじいさんのランプ」	・筆者の考えを的確に読み取り、そこに提示された問題について、自分の意見を表現する。	7
12	○2学期期末考査		
	冬期休暇課題		
1	○第2回学力考査		
2	小説 「こころ」	・長編小説における登場人物の性格や心理を、段階的にメリハリをつけて読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。	13
3	○学年末考査		
	春期休暇課題		

国 語 科 2 年 古典B 年間授業計画（シラバス）						
科目名	古典B	対象	進学Ⅰ（理系）	コース	単位数	3 単位
教科書	精選古典B（古文編・漢文編）			出版社	東京書籍	
副教材	「精選古典B学習課題ノート 古文編」（東京書籍），「精選古典B学習課題ノート 漢文編」（東京書籍）， 「新総合 図説国語」（東京書籍），「新明説総合古典文法」（尚文出版），「漢文必携 四訂版」（桐原書店）， 「完成古文単語321」（尚文出版）					

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり，その価値を考察したりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め，知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出			学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。
 評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元 (○古文 ◆漢文)	主な学習内容と到達目標	時間数
4	春休み課題		
	ガイダンス・予習復習体験学習 【基礎学力到達度テスト】 ○説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」	・年間計画, 日々の学習について ・和歌に着目しながら, 登場人物の言動や心情をとらえる。	1 5
5	5月連休課題		
	◆小話『十八史略』 「先従隗始」	・『国語総合』で学習した「故事成語」や「寓話」について再確認する。 ・脚注・辞書等を参照し, 語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し, 内容を理解する。	5
☆1学期中間考査 「古文単語 321」 P.8～32 (試験範囲に含む)			
6	○随筆『枕草子』 「中納言参り給ひて」 「雪のいと高う降りたるを」	・この作品の内容と作者について, 今までの学習で得ていた知識とともに, 簡単に整理し, 理解する。 ・作者の当意即妙な言葉と, 隆家との間柄について読み取る。	4 4
7	◆思想『孟子』 「性之善也, 猶水之就下」	・諸子百家について理解する。 ・性善説, 性悪説の思想を理解しながら内容や既習の句法を確認する。	4
☆1学期期末考査 「古文単語 321」 P.33～55 (試験範囲に含む)			
夏休み	課題 日本文芸作品		
8	【第1回学力考査】	「古文単語 321」 P.56～81 (試験範囲に含む)	
9	○随筆『徒然草』 「悲田院の堯蓮上人は」	・話題の内容と, それを受けての作者の感懷を読み取る。	5
10	◆史記『史記』 「鴻門之会」 (前半)	・登場人物の性格をとらえ, 史伝の力強さや面白さを味わう。 ・歴史上の人物の行動や心情について考える。	5
☆2学期中間考査 「古文単語 321」 P.82～105 (試験範囲に含む)			
	10月下旬提出課題		
11	◆史記『史記』 「鴻門之会」 (後半)		7
	○物語『大鏡』	・歴史物語としての『大鏡』の特色を理解する。	7
12	「道長, 伊周の競射」	・道長と伊周の言動から, 二人の人物像を読み取る。	
☆2学期期末考査 「古文単語 321」 P.106～127 (試験範囲に含む)			
冬休み	課題		
1	【第2回学力考査】	「古文単語 321」 P.128～149 (試験範囲に含む)	
2	○物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」	・『源氏物語』の概要とともに登場人物の心情を深く考えながら, 内容を読み味わう。	8
	◆小説『世説新語』 「小時了了」	・2年間の既習文法事項の総復習を意識して取り組む。 ・孔文挙の発言の意図を読み取る。	7
3	◆詩『詩経』 「桃夭」	・漢詩の基本事項の復習 ・作者の心情を理解する。	2
☆学年末考査 「古文単語 321」 P.150～175 (試験範囲に含む)			
春休み	課題		

国 語 科 2 年 現代文 B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	現代文 B	対象	進学Ⅱ (理系)	コース	単位数 2 単位
教科書	精選現代文 B 出版社 東京書籍				
副教材	図説国語 (東京書籍)				

1 学習の到達目標

① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める
④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における発言内容や態度 ノートプリント ワークシート	感想文などの文章 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	春期休暇課題		
	ガイダンス・予習復習体験学習	・予習、復習等、高校での学習の仕方を具体的に学習する。	1
5	○日本大学基礎学力到達度テスト		
	評論 「ミロのヴィーナス」	・表現技巧（逆説・比喩）や一つひとつの言葉に注意した丁寧な読解を目指す。 ・評論文を読み、要旨を的確にとらえる。	8
	短歌 「牡丹花は一短歌抄」	・短歌を味わうとともに、修辞法を学ぶ。	3
	5月連休課題		
6	○1学期中間考査		
7	評論 「相手依存の自己規定」	・評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。 ・言語と自我の構造の関係、事実とその解釈の問題について考えを深める。・コミュニケーションのあり方について考えを持つ。	8
	俳句 「プラタナス―俳句抄」	・俳句を通して、詠者の思いを読み味わう。	2
	○1学期期末考査		
	夏期休暇課題		
	日本大学文芸作品コンクール作品		
8	○第1回学力考査		
9	小説 「山月記」	・小説を読み、そこに描かれた場面や登場人物についての的確に捉える。 ・小説の虚構性をとおして、人間とは何かについて考える。	10
10	詩 「永訣の朝」	・音読を通じてリズムや独特な表現を感じ取り、作者の思い・人生観を読み味わう。	3
	○2学期中間考査		
11	評論 「日本人の美意識」	・日本人の美意識についての的確に理解し、様々な考え方があることを知る。	7
	評論 「おじいさんのランプ」	・筆者の考えを的確に読み取り、そこに提示された問題について、自分の意見を表現する。	7
12	○2学期期末考査		
	冬期休暇課題		
1	○第2回学力考査		
2	小説 「こころ」	・長編小説における登場人物の性格や心理を、段階的にメリハリをつけて読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。	13
3	○学年末考査		
	春期休暇課題		

国 語 科 2 年						古典B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	古典B	対象	進学Ⅱ（理系）		コース	単位数	3 単位		
教科書	精選古典B（古文編・漢文編）					出版社	東京書籍		
副教材	「精選古典B学習課題ノート 古文編」（東京書籍），「精選古典B学習課題ノート 漢文編」（東京書籍），「新総合 図説国語」（東京書籍），「新明説総合古典文法」（尚文出版），「漢文必携 四訂版」（桐原書店），「完成古文単語3 2 1」（尚文出版）								

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の内容	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり，その価値を考察したりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め，知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出			学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。
 評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元 (○古文 ◆漢文)	主な学習内容と到達目標	時間数
4	春休み課題		
	ガイダンス・予習復習体験学習 【基礎学力到達度テスト】 ○説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」	・年間計画、日々の学習について ・和歌に着目しながら、登場人物の言動や心情をとらえる。	1 5
5	5月連休課題 ◆小話『十八史略』 「先從隗始」	・『国語総合』で学習した「故事成語」や「寓話」について再確認する。 ・脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を理解する。	5
☆1学期中間考査 「古文単語 321」 P.8～32 (試験範囲に含む)			
6	○随筆『枕草子』 「中納言参り給ひて」 「雪のいと高う降りたるを」	・この作品の内容と作者について、今までの学習で得ていた知識とともに、簡単に整理し、理解する。 ・作者の当意即妙な言葉と、隆家との間柄について読み取る。	4 4
7	◆思想『孟子』 「性之善也、猶水之就下」	・諸子百家について理解する。 ・性善説、性悪説の思想を理解しながら内容や既習の句法を確認する。	4
☆1学期期末考査 「古文単語 321」 P.33～55 (試験範囲に含む)			
夏休み	課題 日本文芸作品		
8	【第1回学力考査】	「古文単語 321」 P.56～81 (試験範囲に含む)	
9	○随筆『徒然草』 「悲田院の堯蓮上人は」	・話題の内容と、それを受けての作者の感懷を読み取る。	5
10	◆史記『史記』 「鴻門之会」 (前半)	・登場人物の性格をとらえ、史伝の力強さや面白さを味わう。 ・歴史上の人物の行動や心情について考える。	5
☆2学期中間考査 「古文単語 321」 P.82～105 (試験範囲に含む)			
	10月下旬提出課題		
11	◆史記『史記』 「鴻門之会」 (後半)		7
	○物語『大鏡』	・歴史物語としての『大鏡』の特色を理解する。	7
12	「道長、伊周の競射」	・道長と伊周の言動から、二人の人物像を読み取る。	
☆2学期期末考査 「古文単語 321」 P.106～127 (試験範囲に含む)			
冬休み	課題		
1	【第2回学力考査】	「古文単語 321」 P.128～149 (試験範囲に含む)	
2	○物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」	・『源氏物語』の概要とともに登場人物の心情を深く考えながら、内容を読み味わう。	8
	◆小説『世説新語』 「小時了了」	・2年間の既習文法事項の総復習を意識して取り組む。 ・孔文挙の発言の意図を読み取る。	7
3	◆詩『詩経』 「桃夭」	・漢詩の基本事項の復習 ・作者の心情を理解する。	2
☆学年末考査 「古文単語 321」 P.150～175 (試験範囲に含む)			
春休み	課題		

国 語 科 2 年 現代文 B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	現代文 B	対象コース	特進文系 コース	単位数	3 単位
教科書	「精選現代文 B」			出版社	東京書籍
副教材	「精選現代文 B 学習課題ノート」 (東京書籍) ・ 「新総合図説国語」 (東京書籍) ・ 「入試頻出漢字・現代文重要語集 TOP2500」 (いっずな書店) ・				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート 教科書準拠問題集 プリント 課題提出 小テスト	学習活動における 発言内容や態度 プリント ワークシート	感想文などの文章 ノート 定期考査 小テスト プリント	学習活動における 発言内容や態度 定期考査 小テスト ノート プリント	学習活動における 発言内容 定期考査 小テスト ノート プリント

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容：定期考査8割・平常点（学習状況・小テスト・ノート・課題提出など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイドダンス	・「シラバス」、「日々の学習」	2
5	評論 「世界をつくり替えるために」	・学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	7
6	評論 「ミロのヴィーナス」	・表現技巧（逆説・比喩）や一つひとつの言葉に注意した丁寧な読解を目指す。	7
1学期中間考査			
7	小説 「山月記」	・小説の虚構性をとおして、人間とは何かについて考える。	8
	詩歌 「永訣の朝」	・詩歌を読み、そこに描かれている世界を味わう。	5
1学期末試験			
8	第1回学力考査		
9	評論 「相手依存の自己規定」	・評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。	8
	評論 「人間の運命と科学」	・言語と自我の構造の関係、事実とその解釈の問題について考えを深める。	8
10		・社会と人間の在り方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。	8
2学期中間考査			
	評論 「日本人の美意識」	・評論を読み、そこに提示された問題について、自分の意見を表現する。	10
11	評論 「地図の想像力」	・日本と西洋の美意識の違い、について考える。	8
		・提示されている地図に注目して論の展開を押さえ、地図に対する筆者の考えを読み取る。	
12	2学期期末試験		
1	第2回学力考査 「		
2	小説 「こころ」	・長編小説における登場人物の性格や心理を、段階的に読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。	15
3	学年末試験		

学習の状況によって進度・内容を変更することがあります。

国 語 科 2 年 古典B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	古典B	対象	特進（文系）	コース	単位数 3 単位
教科書	精選古典B（古文編・漢文編） 出版社 東京書籍				
副教材	「精選古典B学習課題ノート 古文編」（東京書籍），「精選古典B学習課題ノート 漢文編」（東京書籍），「新総合 図説国語」（東京書籍），「新明説総合古典文法」（尚文出版），「漢文必携 四訂版」（桐原書店），「完全頻度順 入試対策ベストセクション古文単語 325」（尚文出版），				

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の内容	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり，その価値を考察したりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め，知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出			学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。
 評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元 (○古文 ◆漢文)	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイドダンス・予習復習体験学習 【基礎学力到達度テスト】 ○2物語1『伊勢物語』 「渚の院」	・年間計画, 日々の学習について ・和歌に着目しながら, 登場人物の言動や心情をとらえる。 ・歌物語の特徴や敬語を復習する。	2 5
	◆6詩2『古詩一五首』 「桃夭」(『詩経』)「飲酒」(陶潜) ◆2詩1『近体詩一八首』 「鹿柴」(王維) 「黄鶴楼」(張継)	・古体詩を読み, その特色を理解する。 ・詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。 ・それぞれに表現された唐詩の世界を鑑賞する。 ・唐詩の鑑賞を通して, 言語感覚や想像力を豊かにする。	4 4
☆1学期中間考査			
6	○6日記1『更級日記』 「門出」 「物語」	・名文の冒頭であることも意識し, 描かれた少女の心理を味わう。 ・物語世界に憧れる少女時代と, それを振り返る気持ちを味わう。	5 6
7	◆1小話『小話一六編』 「先従隗始」	・たとえ話から主題を読み取りながら, 内容の面白さを味わう。 ・句法を意識した口語訳を目指す。	4
☆1学期期末考査			
夏休み			
8	【第1回学力考査】		
9	○7物語2『大鏡』 「花山天皇の出家」 「道長, 伊周の競射」	・歴史物語を読み, 登場人物の心理描写などを味わう。 ・敬語の学習の完成を目指す。	6 5
10	◆4思想1『儒家と道家』 「性之善也, 猶水之就下」(孟子) 「人之性悪」(荀子)	・諸子百家について理解する。 ・性善説, 性悪説の思想を理解しながら内容や既習の句法を確認する。	3 3
☆2学期中間考査			
11	○3随筆1『枕草子』 「中納言参り給ひて」 ◆3史記1『項羽』 「鴻門之会」	・自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。 ・登場人物の性格をとらえ, 史伝の力強さや面白さを味わう。 ・歴史上の人物の行動や心情について考える。	5 10
冬休み			
1	【第2回学力考査】		
2	○7物語2『源氏物語』 「光源氏の誕生」 「若紫」 ◆7文1『文一三篇』 「漁父辞」	・『源氏物語』の概要とともに登場人物の心情を深く考えながら, 内容を読み味わう。 ・2年間の既習文法事項の総復習を意識して取り組む。 ・文章の構成や展開を理解し, 論旨を的確にとらえる。 ・論旨を理解し, ものの見方や考え方を深める。	6 7 7
☆学年末考査			
春休み			

学習の状況によって進度・内容を変更することがあります。

国 語 科 2 年 現代文B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	現代文B	対象コース	特進理系 コース	単位数	2 単位
教科書	「精選現代文B」			出版社	東京書籍
副教材	「精選現代文B学習課題ノート」（東京書籍）・「新総合図説国語」（東京書籍）・「入試頻出漢字・現代文重要語集 TOP2500」（いっずな書店）・				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート 教科書準拠問題集 プリント 課題提出 小テスト	学習活動における 発言内容や態度 プリント ワークシート	感想文などの文章 ノート 定期考査 小テスト プリント	学習活動における 発言内容や態度 定期考査 小テスト ノート プリント	学習活動における 発言内容 定期考査 小テスト ノート プリント

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容：定期考査8割・平常点（学習状況・小テスト・ノート・課題提出など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイドンス	・「シラバス」、「日々の学習」	2
5	評論 「世界をつくり替えるために」	・学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	5
6	評論 「ミロのヴィーナス」	・表現技巧（逆説・比喩）や一つひとつの言葉に注意した丁寧な読解を目指す。	6
1学期中間考査			
7	小説 「山月記」	・小説の虚構性をとおして、人間とは何かについて考える。	6
	詩歌 「永訣の朝」	・詩歌を読み、そこに描かれている世界を味わう。	3
1学期末試験			
8	第1回学力考査		
9	評論 「相手依存の自己規定」	・評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。	6
	評論 「人間の運命と科学」	・言語と自我の構造の関係、事実とその解釈の問題について考えを深める。	6
10		・社会と人間の在り方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。	
2学期中間考査			
	評論 「日本人の美意識」	・評論を読み、そこに提示された問題について、自分の意見を表現する。	7
11	評論 「地図の想像力」	・日本と西洋の美意識の違い、について考える。	6
		・提示されている地図に注目して論の展開を押さえ、地図に対する筆者の考えを読み取る。	
12	2学期期末試験		
1	第2回学力考査 「		
2	小説 「こころ」	・長編小説における登場人物の性格や心理を、段階的に読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。	10
3	学年末試験		

学習の状況によって進度・内容を変更することがあります。

国 語 科 2 年							古典B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	古典B		対象	特進（理系）		コース	単位数	3		単位
教科書	精選古典B（古文編・漢文編）						出版社		東京書籍	
副教材	「精選古典B学習課題ノート 古文編」（東京書籍），「精選古典B学習課題ノート 漢文編」（東京書籍）， 「新総合 図説国語」（東京書籍），「新明説総合古典文法」（尚文出版），「漢文必携 四訂版」（桐原書店）， 「完全頻度順 入試対策ベストセクション古文単語 325」（尚文出版），									

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を身に着ける。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

② 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の内容	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり，その価値を考察したりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め，知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出			学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。
 評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元 (○古文 ◆漢文)	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイドダンス・予習復習体験学習 【基礎学力到達度テスト】 ○2物語1『伊勢物語』 「渚の院」	・年間計画, 日々の学習について ・和歌に着目しながら, 登場人物の言動や心情をとらえる。 ・歌物語の特徴や敬語を復習する。	2 5
	◆6詩2『古詩一五首』 「桃夭」(『詩経』)「飲酒」(陶潜) ◆2詩1『近体詩一八首』 「鹿柴」(王維) 「黄鶴楼」(張継)	・古体詩を読み, その特色を理解する。 ・詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。 ・それぞれに表現された唐詩の世界を鑑賞する。 ・唐詩の鑑賞を通して, 言語感覚や想像力を豊かにする。	4 4
☆1学期中間考査			
6	○6日記1『更級日記』 「門出」 「物語」	・名文の冒頭であることも意識し, 描かれた少女の心理を味わう。 ・物語世界に憧れる少女時代と, それを振り返る気持ちを味わう。	5 6
7	◆1小話『小話一六編』 「先従隗始」	・たとえ話から主題を読み取りながら, 内容の面白さを味わう。 ・句法を意識した口語訳を目指す。	4
☆1学期期末考査			
夏休み			
8	【第1回学力考査】		
9	○7物語2『大鏡』 「花山天皇の出家」 「道長, 伊周の競射」	・歴史物語を読み, 登場人物の心理描写などを味わう。 ・敬語の学習の完成を目指す。	6 5
10	◆4思想1『儒家と道家』 「性之善也, 猶水之就下」(孟子) 「人之性悪」(荀子)	・諸子百家について理解する。 ・性善説, 性悪説の思想を理解しながら内容や既習の句法を確認する。	3 3
☆2学期中間考査			
11	○3随筆1『枕草子』 「中納言参り給ひて」 ◆3史記1『項羽』 「鴻門之会」	・自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。 ・登場人物の性格をとらえ, 史伝の力強さや面白さを味わう。 ・歴史上の人物の行動や心情について考える。	5 10
冬休み			
1	【第2回学力考査】		
2	○7物語2『源氏物語』 「光源氏の誕生」 「若紫」 ◆7文1『文一三篇』 「漁父辞」	・『源氏物語』の概要とともに登場人物の心情を深く考えながら, 内容を読み味わう。 ・2年間の既習文法事項の総復習を意識して取り組む。 ・文章の構成や展開を理解し, 論旨を的確にとらえる。 ・論旨を理解し, ものの見方や考え方を深める。	6 7 7
☆学年末考査			
春休み			

学習の状況によって進度・内容を変更することがあります。

国 語 科 3 年 現代文B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	現代文B	対象	スポーツ コース	単位数	3 単位
教科書	「精選現代文B」 出版社 東京書籍				
副教材	「精選現代文B学習課題ノート」（東京書籍）・「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2 新訂版」（第一学習社）・「新総合図説国語」（東京書籍）				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出	学習活動における 発言内容や態度 ノートプリント ワークシート	感想文などの文章 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における 発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における 発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイダンス	3年次の学習の流れと年間計画について 日大基礎学力到達度テスト演習問題 春期休暇課題提出「1プラス 基礎 現代文」(P.58~P.77)	1
5	日本大学基礎到達度テスト(4月18日)		
	評論 「言語と記号」	論旨を的確に理解し、言語についての認識を深める。	6
	「平気—正岡子規」	正岡子規の生き方に触れながら、短歌や俳句に作者の心情や情景がどのように表現されているかを的確に読み取る。	5
6	GW課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」1~5 (P.4~P.13)		
	1学期中間考査		
	小説 「檸檬」	作品の主題をとらえ、人間存在についての考えを深める。	7
7	第1回学力考査		
	6月課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」6~10(P.14~P.23)		
	評論 「鏡の中の現代社会」	筆者の述べる人間・社会について、的確に理解するとともに、他者や異文化世界についてのさまざまな見方があることを知る。	5
8	1学期期末考査		
	夏期休暇課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」11~20(P.24~P.43) 日本大学文芸コンクール作品(読書感想文 任意)		
	第2回学力考査		
9	小説 「トランジット」	小説を読み、人間存在のあり方を探る。	5
	演習問題	基礎学力到達度テストに備える。 日大基礎学力到達度テスト演習問題 等	4
	日本大学基礎学力到達度テスト(9月26日)		
10	評論 「社会の壊れる時」	評論を読み、語句の意味や表現上の特色をとらえ、自分の表現に役立てる。	5
	2学期中間考査		
	随想 「言葉を生きる」 評論 「抗争する人間」	随想を読み、そこに描かれた内容を的確にとらえる。 筆者の述べる現代社会の姿についての的確に読み取り、筆者の主張について自分の考えを的確に文章にまとめる力を高める。	4 6
11	演習問題	「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」21~最後(P.44~P.56)	2
	2学期期末考査		
	日本大学卒業前教育	テキスト1~6	6
12	冬期休暇		

国語科 3 学年 古典B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	古典B	対象コース	スポーツコース	単位数	3 単位
教科書	「精選古典B（古文編）」 「精選古典B（漢文編）」		出版社	東京書籍	
副教材	「精選 古典B 学習課題ノート（古文編・漢文編）」（東京書籍）， 「新・要説文語文法」（日栄社），「新総合図説国語」（東京書籍）， 「読み解く古典1」（浜島書店）				

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	古典を読む力を 進んで高めながら， 古典についての 理解や関心を深め ようとしている。			古典作品を読み 思想や感情などを 的確に捉え，また その価値を考察し， 自分の考えを深め ながら発展させて いる。	伝統的な 言語を 用いた文化，および 言葉の特徴・きまり などの理解を深め， 知識を身に付けて いる。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント 課題提出			学習活動における 発言内容や態度 ノート プリント 定期考査	学習活動における 発言内容 ノート プリント 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 2割

3 学習計画 ※学習の状況により、進度・内容を変更することがあります。

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイダンス 予習復習体験学習	・ 3年次の学習の流れと年間計画について	1
		・ 春期休暇課題提出（「ニューエイジ古典 必修2」 古文編 13 ～ 16（P.28～35），漢文編 25 ～ 付録（P.60～64）	2
5	日本大学基礎学力到達度テスト（4月18日）		
	○古文 紫式部日記 「日本紀の御局」	・ 女性にとって「漢学の才」がどのような位置づけだったかを理解し、 それに対する〈左衛門の内侍〉の言動と作者の心情を読み取る。	6
	5月連休課題 「読み解く古典1」 古文編（P.4～9）・漢文編（P.34～39）		
	●漢文 漢詩、思想 「月下独酌」	・ 基本的な漢詩の知識を踏まえ、発想の面白さと巧みな表現を味わう。	2
	「侵官之害」	・ 『韓非子』に述べられている国家や政治のあり方を読み取る。	2
6	1学期中間考査		
	○古文 和泉式部日記 「夢よりもはかなき世の中を」	・ 古典常識を踏まえつつ描かれた、「作者と帥宮の想い」を贈答歌を読み 解きながら理解する。	7
	第1回学力考査		
	6月課題 「読み解く古典1」 古文編（P.10～15）・漢文編（P.40～45）		
	●漢文 史記 「風蕭蕭兮易水寒」（荊軻伝）	・ 句法や語句に注意しながら正確に訓読・現代語訳し、段落を踏まえて、 場面展開を読み取り、荊軻の心情を考える。	7
7	1学期期末考査		
	夏期休暇課題		
8	「読み解く古典1」 古文編（P.16～29）・漢文編（P.46～55） 日本大学文芸コンクール作品（詩・短歌・俳句・小説）必須課題		
	第2回学力考査		
9	○古文 源氏物語 「萩の上露」	・ 和歌や登場人物の様子から、登場人物の心情を読み取るとともに、 物語全体を踏まえて〈光源氏〉と〈紫の上〉について鑑賞する。	6
	○問題演習	・ 「基礎学力到達度テスト」にむけて、過去問等を解く。	3
10	日本大学基礎学力到達度テスト（9月26日）		
	●漢文 文 「捕蛇者説」	・ 捕蛇者の境遇に対する柳宗元の提案、またそれに対する蔣氏の考えを 読み取り、作者がこの文を著わした意図について考える。	5
	2学期中間テスト		
11	○古文 風姿花伝 「年来稽古条々」	・ 評論としての展開を押さえながら読み、作者の芸に対する考え方が 人生論としての深さや普遍性を持っていることを読み取る。	7
	●漢文 小説 「桃花源記」	・ 句法や語句に注意しながら正確に訓読・現代語訳し、作品に描かれた 〈桃源郷〉への理解を深め、味わう。	7
12	11月課題 「読み解く古典1」 古文編（P.30～33）・漢文編（P.58～65）		
	2学期期末テスト		
	☆日大卒業教育		
	冬期休暇		

国語科 3 学年 現代文B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	現代文B	対象コース	進学Ⅰ（文系）コース	単位数	4 単位
教科書	「精選現代文B」			出版社	東京書籍
副教材	「精選現代文B学習課題ノート」（東京書籍）・「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2 新訂版」（第一学習社）・「新総合図説国語」（東京書籍）				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート 教科書準拠問題集 プリント 課題提出 小テスト	学習活動における 発言内容や態度 プリント ワークシート	感想文などの文章 ノート 定期考査 小テスト プリント	学習活動における 発言内容や態度 定期考査 小テスト ノート プリント	学習活動における 発言内容 定期考査 小テスト ノート プリント

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容：定期考査8割・平常点（学習状況・小テスト・ノート・課題提出など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイダンス	3年次の学習の流れと年間計画について 日大基礎学力到達度テスト演習問題 春期休暇課題提出「1プラス 基礎 現代文」(P.58～P.77)	1
5	日本大学基礎学力到達度テスト (4月18日)		
	評論 「言語と記号」 「平気—正岡子規」	論旨を的確に理解し、言語についての認識を深める。 正岡子規の生き方に触れながら、短歌や俳句に作者の心情や情景がどのように表現されているかを的確に読み取る。	6 4
	演習問題	基礎学力到達度テストに備える。	3
	GW課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ①～⑤ (P.4～13)		
	1学期中間考査		
6	小説 「檸檬」 演習問題	作品の主題をとらえ、人間存在についての考えを深める。 基礎学力到達度テストに備える。	6 2
	第1回学力考査		
7	6月課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ⑥～⑩ (P.14～23)		
8	評論 「鏡の中の現代社会」	筆者の述べる人間・社会について、的確に理解するとともに、他者や異文化世界についてのさまざまな見方があることを知る。	5
	演習問題	基礎学力到達度テストに備える。	1
9	1学期期末考査		
	夏期休暇課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ⑪～⑳ (P.24～43) 日本大学文芸コンクール作品 (読書感想文 任意)		
	第2回学力考査		
	小説 「トランジット」	小説を読み、人間存在のあり方を探る。	5
	演習問題	基礎学力到達度テストに備える。 日大基礎学力到達度テスト演習問題 等	7
10	日本大学基礎学力到達度テスト (9月26日)		
	評論 「社会の壊れる時」	評論を読み、語句の意味や表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てる。	6
	2学期中間考査		
	随想 「言葉を生きる」 評論 「抗争する人間」	随想を読み、そこに描かれた内容を的確にとらえる。 筆者の述べる現代社会の姿についての的確に読み取り、筆者の主張について自分の考えを的確に文章にまとめる力を高める。	5 7
	演習問題	「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ㉑～最後 (P.44～56)	4
	2学期期末考査		
	日本大学卒業前教育	テキスト①～⑥	6
	冬期休暇		

※学習の状況により、進度・内容を変更することがあります。

国語科 3 学年 古典B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	古典B	対象コース	進学Ⅰコース（文系）	単位数	3 単位
教科書	「精選古典B（古文編）」 「精選古典B（漢文編）」		出版社	東京書籍	
副教材	「精選 古典B 学習課題ノート（古文編・漢文編）」（東京書籍）， 「新・要説文語文法」（日栄社），「漢文必携 四訂版」（桐原書店），「新総合図説国語」（東京書籍）， 「ニューエイジ 古典 達成＋2 新版二訂」（第一学習社）				

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	古典を読む力を 進んで高めながら， 古典についての 理解や関心を深め ようとしている。			古典作品を読み 思想や感情などを 的確に捉え，また その価値を考察し， 自分の考えを深め ながら発展させて いる。	伝統的な 言語を 用いた文化，および 言葉の特徴・きまり などの理解を深め， 知識を身に付けて いる。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント 課題提出			学習活動における 発言内容や態度 ノート プリント 定期考査	学習活動における 発言内容 ノート プリント 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイダンス 予習復習体験学習	・3年次の学習の流れと年間計画について	1
		・春期休暇課題提出（「ニューエイジ古典 必修2」 古文編 13 ～ 16 (P.28～35), 漢文編 25 ～ 付録 (P.60～64) ・日大基礎学力到達度テスト演習問題	2
5	日本大学基礎学力到達度テスト（4月18日）		
	○古文 紫式部日記 「日本紀の御局」	・女性にとって「漢学の才」がどのような位置づけだったかを理解し、 それに対する（左衛門の内侍）の言動と作者の心情を読み取る。	6
	5月連休課題 「ニューエイジ」古典 達成+2 古文編1～3 (P.4～9)・漢文編17～18 (P.36～39)		
	●漢文 漢詩, 思想 「月下独酌」 「侵官之害」	・基本的な漢詩の知識を踏まえ、発想の面白さと巧みな表現を味わう。 ・『韓非子』に述べられている国家や政治のあり方を読み取る。	2 2
	1学期中間考査		
6	○古文 和泉式部日記 「夢よりもはかなき世の中を」	・古典常識を踏まえつつ描かれた、「作者と帥宮の想い」を贈答歌を読み 解きながら理解する。	7
	第1回学力考査		
	6月課題 「ニューエイジ」古典 達成+2 古文編4～6 (P.10～15)・漢文編19～20 (P.40～43)		
7	●漢文 史記 「風蕭蕭兮易水寒」(荊軻伝)	・句法や語句に注意しながら正確に訓読・現代語訳し、段落を踏まえて、 場面展開を読み取り、荊軻の心情を考える。	7
	1学期期末考査		
	夏期休暇課題 「ニューエイジ」古典 達成+2 古文編7～13 (P.16～29)・漢文編21～23 (P.44～49), 27・28 (P.56～59) 日本大学文芸コンクール作品（詩・短歌・俳句・小説）必須課題		
	第2回学力考査		
9	○古文 源氏物語 「萩の上露」	・和歌や登場人物の様子から、登場人物の心情を読み取るとともに、 物語全体を踏まえて〈光源氏〉と〈紫の上〉について鑑賞する。	6
	○問題演習	・「基礎学力到達度テスト」にむけて、過去問等を解く。	3
10	日本大学基礎学力到達度テスト（9月26日）		
	●漢文 文 「捕蛇者説」	・捕蛇者の境遇に対する柳宗元の提案、またそれに対する蔣氏の考えを 読み取り、作者がこの文を著わした意図について考える。	5
	2学期中間テスト		
	○古文 風姿花伝 「年来稽古条々」 ●漢文 小説 「桃花源記」	・評論としての展開を押さえながら読み、作者の芸に対する考え方が 人生論としての深さや普遍性を持っていることを読み取る。 ・句法や語句に注意しながら正確に訓読・現代語訳し、作品に描かれた 〈桃源郷〉への理解を深め、味わう。	7 7
11	11月課題 「ニューエイジ」古典 達成+2 古文編14～16 (P.30～35)・漢文編24～26 (P.50～55)		
	2学期期末テスト		
	☆日大卒業教育		
	冬期休暇		
12			

国語科 3 学年		現代文B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	現代文B	対象コース	進学Ⅱ（文系）コース	単位数	4 単位
教科書	「精選現代文B」			出版社	東京書籍
副教材	「精選現代文B 学習課題ノート」（東京書籍）・「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2 新訂版」（第一学習社）・「新総合図説国語」（東京書籍）				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート 教科書準拠問題集 プリント 課題提出 小テスト	学習活動における 発言内容や態度 プリント ワークシート	感想文などの文章 ノート 定期考査 小テスト プリント	学習活動における 発言内容や態度 定期考査 小テスト ノート プリント	学習活動における 発言内容 定期考査 小テスト ノート プリント

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容：定期考査8割・平常点（学習状況・小テスト・ノート・課題提出など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイダンス	3年次の学習の流れと年間計画について 日大基礎学力到達度テスト演習問題 春期休暇課題提出「1プラス 基礎 現代文」(P.58～P.77)	1
5	日本大学基礎学力到達度テスト (4月18日)		
	評論 「言語と記号」 「平気—正岡子規」	論旨を的確に理解し、言語についての認識を深める。 正岡子規の生き方に触れながら、短歌や俳句に作者の心情や情景がどのように表現されているかを的確に読み取る。	6 4
	演習問題	基礎学力到達度テストに備える。	3
	GW課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ①～⑤ (P.4～13)		
	1学期中間考査		
6	小説 「檸檬」 演習問題	作品の主題をとらえ、人間存在についての考えを深める。 基礎学力到達度テストに備える。	6 2
	第1回学力考査		
7	6月課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ⑥～⑩ (P.14～23)		
8	評論 「鏡の中の現代社会」	筆者の述べる人間・社会について、的確に理解するとともに、他者や異文化世界についてのさまざまな見方があることを知る。	5
	演習問題	基礎学力到達度テストに備える。	1
9	1学期期末考査		
	夏期休暇課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ⑪～⑳ (P.24～43) 日本大学文芸コンクール作品 (読書感想文 任意)		
	第2回学力考査		
	小説 「トランジット」	小説を読み、人間存在のあり方を探る。	5
	演習問題	基礎学力到達度テストに備える。 日大基礎学力到達度テスト演習問題 等	7
10	日本大学基礎学力到達度テスト (9月26日)		
11	評論 「社会の壊れる時」	評論を読み、語句の意味や表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てる。	6
	2学期中間考査		
12	随想 「言葉を生きる」 評論 「抗争する人間」	随想を読み、そこに描かれた内容を的確にとらえる。 筆者の述べる現代社会の姿についての的確に読み取り、筆者の主張について自分の考えを的確に文章にまとめる力を高める。	5 7
	演習問題	「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ㉑～最後 (P.44～56)	4
12	2学期期末考査		
	日本大学卒業前教育	テキスト①～⑥	6
	冬期休暇		

※学習の状況により、進度・内容を変更することがあります。

国語科 3 学年 古典B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	古典B	対象コース	進学Ⅱコース（文系）	単位数	3 単位
教科書	「精選古典B（古文編）」 「精選古典B（漢文編）」		出版社	東京書籍	
副教材	「精選 古典B 学習課題ノート（古文編・漢文編）」（東京書籍）， 「新・要説文語文法」（日栄社），「漢文必携 四訂版」（桐原書店），「新総合図説国語」（東京書籍）， 「ニューエイジ 古典 達成＋2 新版二訂」（第一学習社）				

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	古典を読む力を 進んで高めながら， 古典についての 理解や関心を深め ようとしている。			古典作品を読み 思想や感情などを 的確に捉え，また その価値を考察し， 自分の考えを深め ながら発展させて いる。	伝統的な 言語を 用いた文化，および 言葉の特徴・きまり などの理解を深め， 知識を身に付けて いる。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント 課題提出			学習活動における 発言内容や態度 ノート プリント 定期考査	学習活動における 発言内容 ノート プリント 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイダンス 予習復習体験学習	・ 3年次の学習の流れと年間計画について ・ 春期休暇課題提出（「ニューエイジ古典 必修2」 古文編 13 ～ 16 (P.28～35), 漢文編 25 ～ 付録 (P.60～64) ・ 日大基礎学力到達度テスト演習問題	1 2
	日本大学基礎学力到達度テスト（4月18日）		
5	○古文 紫式部日記 「日本紀の御局」	・ 女性にとって「漢学の才」がどのような位置づけだったかを理解し、 それに対する〈左衛門の内侍〉の言動と作者の心情を読み取る。	6
	5月連休課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編1～3 (P.4～9)・漢文編17～18 (P.36～39)		
	●漢文 漢詩, 思想 「月下独酌」 「侵官之害」	・ 基本的な漢詩の知識を踏まえ、発想の面白さと巧みな表現を味わう。 ・ 『韓非子』に述べられている国家や政治のあり方を読み取る。	2 2
6	1学期中間考査		
	○古文 和泉式部日記 「夢よりもはかなき世の中を」	・ 古典常識を踏まえつつ描かれた、「作者と帥宮の想い」を贈答歌を読み 解きながら理解する。	7
	第1回学力考査		
	6月課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編4～6 (P.10～15)・漢文編19～20 (P.40～43)		
7	●漢文 史記 「風蕭蕭兮易水寒」(荊軻伝)	・ 句法や語句に注意しながら正確に訓読・現代語訳し、段落を踏まえて、 場面展開を読み取り、荊軻の心情を考える。	7
	1学期期末考査		
	夏期休暇課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編7～13 (P.16～29)・漢文編21～23 (P.44～49), 27・28 (P.56～59) 日本大学文芸コンクール作品(詩・短歌・俳句・小説)必須課題		
8	第2回学力考査		
	○古文 源氏物語 「萩の上露」 ○問題演習	・ 和歌や登場人物の様子から、登場人物の心情を読み取るとともに、 物語全体を踏まえて〈光源氏〉と〈紫の上〉について鑑賞する。 ・ 「基礎学力到達度テスト」にむけて、過去問等を解く。	6 3
9	日本大学基礎学力到達度テスト（9月26日）		
	●漢文 文 「捕蛇者説」	・ 捕蛇者の境遇に対する柳宗元の提案、またそれに対する蔣氏の考えを 読み取り、作者がこの文を著わした意図について考える。	5
	2学期中間テスト		
	○古文 風姿花伝 「年来稽古条々」 ●漢文 小説 「桃花源記」	・ 評論としての展開を押さえながら読み、作者の芸に対する考え方が 人生論としての深さや普遍性を持っていることを読み取る。 ・ 句法や語句に注意しながら正確に訓読・現代語訳し、作品に描かれた 〈桃源郷〉への理解を深め、味わう。	7 7
10	11月課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編14～16 (P.30～35)・漢文編24～26 (P.50～55)		
	2学期期末テスト		
	☆日大卒業教育		
	冬期休暇		
11			
12			

国語科 3 学年 現代文B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	現代文B	対象コース	進学Ⅰ（理系）コース	単位数	3 単位
教科書	「精選現代文B」			出版社	東京書籍
副教材	「精選現代文B学習課題ノート」（東京書籍）・「新総合図説国語」（東京書籍）・ 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2 新訂版」（第一学習社）				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり、的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート 教科書準拠問題集 プリント 課題提出 小テスト	学習活動における 発言内容や態度 プリント ワークシート	感想文などの文章 ノート 定期考査 小テスト プリント	学習活動における 発言内容や態度 定期考査 小テスト ノート プリント	学習活動における 発言内容 定期考査 小テスト ノート プリント

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容：定期考査8割・平常点（学習状況・小テスト・ノート・課題提出など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイダンス	3年次の学習の流れと年間計画について 日大基礎学力到達度テスト演習問題 春期休暇課題提出「1プラス 基礎 現代文」(P.58～P.77)	1
5	日本大学基礎学力到達度テスト (4月18日)		
	評論 「言語と記号」 「平気—正岡子規」	論旨を的確に理解し、言語についての認識を深める。 正岡子規の生き方に触れながら、短歌や俳句に作者の心情や情景がどのように表現されているかを的確に読み取る。	6 4
	GW課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ①～⑤ (P.4～13)		
	1学期中間考査		
6	小説 「檸檬」	作品の主題をとらえ、人間存在についての考えを深める。	6
7	第1回学力考査		
	6月課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ⑥～⑩ (P.14～23)		
	評論 「鏡の中の現代社会」	筆者の述べる人間・社会について、的確に理解するとともに、他者や異文化世界についてのさまざまな見方があることを知る。	5
	1学期期末考査		
8	夏期休暇課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ⑪～⑳ (P.24～43) 日本大学文芸コンクール作品 (読書感想文 任意)		
9	第2回学力考査		
	小説 「トランジット」	小説を読み、人間存在のあり方を探る。	5
	演習問題	基礎学力到達度テストに備える。 日大基礎学力到達度テスト演習問題 等	4
10	日本大学基礎学力到達度テスト (9月26日)		
	評論 「社会の壊れる時」	評論を読み、語句の意味や表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てる。	5
	2学期中間考査		
	随想 「言葉を生きる」 評論 「抗争する人間」	随想を読み、そこに描かれた内容を的確にとらえる。 筆者の述べる現代社会の姿についての的確に読み取り、筆者の主張について自分の考えを的確に文章にまとめる力を高める。	4 7
11	演習問題	「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ㉑～最後 (P.44～56)	3
12	2学期期末考査		
	日本大学卒業前教育	テキスト①～⑥	6
	冬期休暇		

※学習の状況により、進度・内容を変更することがあります。

国語科 3 学年 古典B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	古典B	対象コース	進学Ⅰコース（理系）	単位数	3 単位
教科書	「精選古典B（古文編）」 「精選古典B（漢文編）」		出版社	東京書籍	
副教材	「精選 古典B 学習課題ノート（古文編・漢文編）」（東京書籍）， 「新・要説文語文法」（日栄社），「漢文必携 四訂版」（桐原書店），「新総合図説国語」（東京書籍）， 「ニューエイジ 古典 達成＋2 新版二訂」（第一学習社）				

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	古典を読む力を 進んで高めながら， 古典についての 理解や関心を深め ようとしている。			古典作品を読み 思想や感情などを 的確に捉え，また その価値を考察し， 自分の考えを深め ながら発展させて いる。	伝統的な 言語を 用いた文化，および 言葉の特徴・きまり などの理解を深め， 知識を身に付けて いる。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント 課題提出			学習活動における 発言内容や態度 ノート プリント 定期考査	学習活動における 発言内容 ノート プリント 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイダンス 予習復習体験学習	・3年次の学習の流れと年間計画について ・春期休暇課題提出（「ニューエイジ古典 必修2」 古文編 13 ～ 16 (P.28～35), 漢文編 25 ～ 付録 (P.60～64) ・日大基礎学力到達度テスト演習問題	1 2
	日本大学基礎学力到達度テスト（4月18日）		
5	○古文 紫式部日記 「日本紀の御局」	・女性にとって「漢学の才」がどのような位置づけだったかを理解し、それに対する（左衛門の内侍）の言動と作者の心情を読み取る。	6
	5月連休課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編1～3 (P.4～9)・漢文編17～18 (P.36～39)		
	●漢文 漢詩, 思想 「月下独酌」 「侵官之害」	・基本的な漢詩の知識を踏まえ、発想の面白さと巧みな表現を味わう。 ・『韓非子』に述べられている国家や政治のあり方を読み取る。	2 2
6	1学期中間考査		
	○古文 和泉式部日記 「夢よりもはかなき世の中を」	・古典常識を踏まえつつ描かれた、「作者と帥宮の想い」を贈答歌を読み解きながら理解する。	7
	第1回学力考査		
7	6月課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編4～6 (P.10～15)・漢文編19～20 (P.40～43)		
	●漢文 史記 「風蕭蕭兮易水寒」(荊軻伝)	・句法や語句に注意しながら正確に訓読・現代語訳し、段落を踏まえて、場面展開を読み取り、荊軻の心情を考える。	7
	1学期期末考査		
8	夏期休暇課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編7～13 (P.16～29)・漢文編21～23 (P.44～49), 27・28 (P.56～59) 日本大学文芸コンクール作品（詩・短歌・俳句・小説）必須課題		
	第2回学力考査		
	○古文 源氏物語 「萩の上露」 ○問題演習	・和歌や登場人物の様子から、登場人物の心情を読み取るとともに、物語全体を踏まえて（光源氏）と（紫の上）について鑑賞する。 ・「基礎学力到達度テスト」にむけて、過去問等を解く。	6 3
10	日本大学基礎学力到達度テスト（9月26日）		
	●漢文 文 「捕蛇者説」	・捕蛇者の境遇に対する柳宗元の提案、またそれに対する蔣氏の考えを読み取り、作者がこの文を著わした意図について考える。	5
	2学期中間テスト		
11	○古文 風姿花伝 「年来稽古条々」 ●漢文 小説 「桃花源記」	・評論としての展開を押さえながら読み、作者の芸に対する考え方が人生論としての深さや普遍性を持っていることを読み取る。 ・句法や語句に注意しながら正確に訓読・現代語訳し、作品に描かれた〈桃源郷〉への理解を深め、味わう。	7 7
	11月課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編14～16 (P.30～35)・漢文編24～26 (P.50～55)		
	2学期期末テスト		
12	☆日大卒業教育		
	冬期休暇		

国語科 3 学年 現代文B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	現代文B	対象コース	進学Ⅱ（理系）コース	単位数	3 単位
教科書	「精選現代文B」			出版社	東京書籍
副教材	「精選現代文B学習課題ノート」（東京書籍）・「新総合図説国語」（東京書籍）・ 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2 新訂版」（第一学習社）				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり、的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート 教科書準拠問題集 プリント 課題提出 小テスト	学習活動における 発言内容や態度 プリント ワークシート	感想文などの文章 ノート 定期考査 小テスト プリント	学習活動における 発言内容や態度 定期考査 小テスト ノート プリント	学習活動における 発言内容 定期考査 小テスト ノート プリント

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容：定期考査8割・平常点（学習状況・小テスト・ノート・課題提出など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイダンス	3年次の学習の流れと年間計画について 日大基礎学力到達度テスト演習問題 春期休暇課題提出「1プラス 基礎 現代文」(P.58～P.77)	1
5	日本大学基礎学力到達度テスト (4月18日)		
	評論 「言語と記号」 「平気—正岡子規」	論旨を的確に理解し、言語についての認識を深める。 正岡子規の生き方に触れながら、短歌や俳句に作者の心情や情景がどのように表現されているかを的確に読み取る。	6 4
	GW課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ①～⑤ (P.4～13)		
	1学期中間考査		
6	小説 「檸檬」	作品の主題をとらえ、人間存在についての考えを深める。	6
7	第1回学力考査		
	6月課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ⑥～⑩ (P.14～23)		
	評論 「鏡の中の現代社会」	筆者の述べる人間・社会について、的確に理解するとともに、他者や異文化世界についてのさまざまな見方があることを知る。	5
	1学期期末考査		
8	夏期休暇課題 「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ⑪～⑳ (P.24～43) 日本大学文芸コンクール作品 (読書感想文 任意)		
9	第2回学力考査		
	小説 「トランジット」	小説を読み、人間存在のあり方を探る。	5
	演習問題	基礎学力到達度テストに備える。 日大基礎学力到達度テスト演習問題 等	4
	日本大学基礎学力到達度テスト (9月26日)		
10	評論 「社会の壊れる時」	評論を読み、語句の意味や表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てる。	5
11	2学期中間考査		
	随想 「言葉を生きる」 評論 「抗争する人間」	随想を読み、そこに描かれた内容を的確にとらえる。 筆者の述べる現代社会の姿についての的確に読み取り、筆者の主張について自分の考えを的確に文章にまとめる力を高める。	4 7
	演習問題	「みるみる実力アップ 現代文 ステージ2」 ㉑～最後 (P.44～56)	3
	2学期期末考査		
12	日本大学卒業前教育	テキスト①～⑥	6
	冬期休暇		

※学習の状況により、進度・内容を変更することがあります。

国語科 3 学年 古典B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	古典B	対象コース	進学Ⅱコース（理系）	単位数	3 単位
教科書	「精選古典B（古文編）」 「精選古典B（漢文編）」		出版社	東京書籍	
副教材	「精選 古典B 学習課題ノート（古文編・漢文編）」（東京書籍）， 「新・要説文語文法」（日栄社），「漢文必携 四訂版」（桐原書店），「新総合図説国語」（東京書籍）， 「ニューエイジ 古典 達成+2 新版二訂」（第一学習社）				

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
 ②ものの見方，感じ方，考え方を広くし，日本の言語文化について理解する。
 ③古典についての理解や関心を深めることによって，人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法，成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	古典を読む力を 進んで高めながら， 古典についての 理解や関心を深め ようとしている。			古典作品を読み 思想や感情などを 的確に捉え，また その価値を考察し， 自分の考えを深め ながら発展させて いる。	伝統的な 言語を 用いた文化，および 言葉の特徴・きまり などの理解を深め， 知識を身に付けて いる。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント 課題提出			学習活動における 発言内容や態度 ノート プリント 定期考査	学習活動における 発言内容 ノート プリント 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	ガイダンス 予習復習体験学習	・3年次の学習の流れと年間計画について ・春期休暇課題提出（「ニューエイジ古典 必修2」 古文編 13 ～ 16 (P.28～35), 漢文編 25 ～ 付録 (P.60～64) ・日大基礎学力到達度テスト演習問題	1 2
	日本大学基礎学力到達度テスト（4月18日）		
5	○古文 紫式部日記 「日本紀の御局」	・女性にとって「漢学の才」がどのような位置づけだったかを理解し、 それに対する（左衛門の内侍）の言動と作者の心情を読み取る。	6
	5月連休課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編1～3 (P.4～9)・漢文編17～18 (P.36～39)		
	●漢文 漢詩, 思想 「月下独酌」 「侵官之害」	・基本的な漢詩の知識を踏まえ、発想の面白さと巧みな表現を味わう。 ・『韓非子』に述べられている国家や政治のあり方を読み取る。	2 2
6	1学期中間考査		
	○古文 和泉式部日記 「夢よりもはかなき世の中を」	・古典常識を踏まえつつ描かれた、「作者と帥宮の想い」を贈答歌を読み 解きながら理解する。	7
	第1回学力考査		
7	6月課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編4～6 (P.10～15)・漢文編19～20 (P.40～43)		
	●漢文 史記 「風蕭蕭兮易水寒」(荊軻伝)	・句法や語句に注意しながら正確に訓読・現代語訳し、段落を踏まえて、 場面展開を読み取り、荊軻の心情を考える。	7
	1学期期末考査		
8	夏期休暇課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編7～13 (P.16～29)・漢文編21～23 (P.44～49), 27・28 (P.56～59) 日本大学文芸コンクール作品（詩・短歌・俳句・小説）必須課題		
	第2回学力考査		
	○古文 源氏物語 「萩の上露」 ○問題演習	・和歌や登場人物の様子から、登場人物の心情を読み取るとともに、 物語全体を踏まえて（光源氏）と（紫の上）について鑑賞する。 ・「基礎学力到達度テスト」にむけて、過去問等を解く。	6 3
10	日本大学基礎学力到達度テスト（9月26日）		
	●漢文 文 「捕蛇者説」	・捕蛇者の境遇に対する柳宗元の提案、またそれに対する蔣氏の考えを 読み取り、作者がこの文を著わした意図について考える。	5
	2学期中間テスト		
11	○古文 風姿花伝 「年来稽古条々」 ●漢文 小説 「桃花源記」	・評論としての展開を押さえながら読み、作者の芸に対する考え方が 人生論としての深さや普遍性を持っていることを読み取る。 ・句法や語句に注意しながら正確に訓読・現代語訳し、作品に描かれた 〈桃源郷〉への理解を深め、味わう。	7 7
	11月課題 「ニューエイジ 古典 達成+2」古文編14～16 (P.30～35)・漢文編24～26 (P.50～55)		
	2学期期末テスト		
12	☆日大卒業教育		
	冬期休暇		

国語科 3 学年 現代文B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	現代文B	対象コース	特進文系 コース	単位数	3 単位
教科書	「精選現代文B」			出版社	東京書籍
副教材	「精選現代文B 学習課題ノート」（東京書籍）・「新演習現代文アチーブ3 三訂版」（桐原書店） 「現代文マーク完答 24 三訂版」（尚文出版）・センター対策問題集（購入予定）・「新総合図説国語」（東京書籍）				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート 教科書準拠問題集 プリント 課題提出 小テスト	学習活動における 発言内容や態度 プリント ワークシート	感想文などの文章 ノート 定期考査 小テスト プリント	学習活動における 発言内容や態度 定期考査 小テスト ノート プリント	学習活動における 発言内容 定期考査 小テスト ノート プリント

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容：定期考査8割・平常点（学習状況・小テスト・ノート・課題提出など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4 5	ガイダンス	3年次の学習の流れと年間計画について 日大基礎学力到達度テスト演習問題 春期休暇課題提出「新演習現代文アチーブ3 三訂版」 (P.4～19)	1
8 日本大学基礎学力到達度テスト (4月18日)			
	評論 「文学の未来」 「言語と記号」	評論を読み、その構成・展開・要旨等を的確に読み取る。 論旨を的確に理解し、言語についての認識を深める。	5 6
GW課題 「新演習現代文アチーブ3 三訂版」 (P.20～31)			
1学期中間考査			
6	小説 「檸檬」	作品の主題をとらえ、人間存在についての考えを深める。	7
第1回学力考査			
6月課題 「新演習現代文アチーブ3 三訂版」 (P.32～52)			
7	評論 「鏡の中の現代社会」	評論を読み、語句の意味や表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てる。	6
8	1学期期末考査		
夏期休暇課題 「新演習現代文アチーブ3 三訂版」 (P.53～79) 「現代文マーク完答24」 評論・小説 各1～8 日本大学文芸コンクール作品 (読書感想文 任意)			
9	第2回学力考査		
	評論 「他者の声 実在の声」	他者と自己についての文章を読み、様々な見方があることを知る。	5
日本大学基礎学力到達度テスト (9月26日)			
	小説 「赤い繭」	小説を読み、人間存在のあり方を探る。	5
	評論 「原始社会像の真実」	評論を読み、筆者の述べる人間・社会についての的確に理解する。	5
10	10月課題 「現代文マーク完答24」 評論・小説 各9～12		
2学期中間考査			
11	演習	センター試験対策の問題集に取り組む。	15
12	2学期期末考査		
冬期休暇			
1	日本大学卒業前教育	テキスト1～6 (日大進学者のみ)	

国語 科 3 年 古典B 年間授業計画（シラバス）						
科目名	古典B	対象	特進（文系）	コース	単位数	3 単位
教科書	精選古典B（古文編・漢文編）			出版社	東京書籍	
副教材	「精選古典B学習課題ノート 古文編」「精選古典B学習課題ノート 漢文編」（東京書籍）,「新総合 図説国語」（東京書籍）,「新・要説文語文法 五訂新版」（日栄社）,「漢文必携 四訂版」（桐原書店）,「完全頻度順 入試対策ベストセクション古文単語 325」（尚文出版）,「新演習 古典アチーブ3 三訂版」（桐原書店）,「古典マーク完答 24 三訂版」（尚文出版）,「入試頻出 新国語問題総演習」（桐原書店）					

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
- ②ものの見方、感じ方、考え方を広くし、日本の言語文化について理解する。
- ③古典についての理解や関心を深めることによって、人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の内容	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉え、また、その価値を考察し、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出			学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元 (○古文 ●漢文)	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	春休み課題 「プロGRESS古文」「プロGRESS漢文」 各25 ～ 30		
5	ガイダンス・予習復習体験学習 【基礎学力到達度テスト】	・3年次の学習内容、年間計画、日々の学習について	1
	○日記 『紫式部日記』 「日本紀の御局」	・「漢学の才」が女性にとってどのような位置づけであったかを理解し、それに対する左衛門の内侍の言動と、作者の心情を読み取る。	4
	●漢詩、思想 「月下独酌」 「侵官之害」	・基本的な漢詩知識を踏まえ、発想の面白さと表現の巧みさを味わう。 ・『韓非子』に述べられている、国家や政治の在り方を読み取る。	4
	5月連休課題 「古典アチーブ3」古文編・漢文編 各1 ～ 4		
	○評論 『無名抄』 「おもて歌のこと」	・歌論を読み、その論旨を読み取る。また、和歌に対する古人のものの見方や感じ方、考え方について理解する。	4
☆1学期中間考査 「入試頻出 新国語問題総演習」(試験範囲に含む、範囲に関しては別紙にて提示)			
6	【第一回学力考査】 ○日記 『和泉式部日記』 「夢よりもはかなき世の中を」	・敬語に留意しながら物語を読み、作者の生活の様子や心情について理解する。	5
7	6月課題 「古典アチーブ3」古文編・漢文編 各5 ～ 8 (期末考査時にまとめて提出)		
	●史記 『荊軻伝』 「風蕭蕭兮易水寒」	・登場人物の生き方や考え方を通して、人間の在り方について考える。	5
☆1学期期末考査 「入試頻出 新国語問題総演習」(試験範囲に含む、範囲に関しては別紙にて提示)			
夏休み	夏期休暇課題 「古典アチーブ3」古文編・漢文編 各9 ～ 最後まで (p.73) 「古典マーク完答24」古文・漢文 各1 ～ 7 「日大文芸作品・読書感想文より いずれか1つを選んで提出」		
8	【第二回学力考査】		
9	【基礎学力到達度テスト】		
10	○物語 源氏物語 「萩の上露」	・和歌や登場人物の様子から、登場人物の心情を読み取るとともに、物語全体を踏まえて、光源氏と紫の上について鑑賞する。	6
	9・10月課題 「古典マーク完答24」古文・漢文 各8 ～ 12 10月末に提出)		
	●文 唐宋八大家の文章 「与孟東野書」 「捕蛇者説」	・文脈に即し、内容や人物について理解し、人間のあり方の問題、悩みや願いなどについて考察を深める。 ・捕蛇者の境遇に対する柳宗元の提案、またそれに対する蔣氏の考えを読み取り、この文を著した作者の意図について考える。	4 4
☆2学期中間考査 「入試頻出 新国語問題総演習」(試験範囲に含む、範囲に関しては別紙にて提示)			
11	☆センター試験演習	・過去問題集に取り組む。	15
☆2学期期末考査 「入試頻出 新国語問題総演習」(試験範囲に含む、範囲に関しては別紙にて提示)			
12	☆センター対策直前演習	・河合塾『黒本』、駿台『青本』、志望校『赤本』で演習に取り組む。	特別 時間割

※学習状況により、進路・内容を変更することがあります。

国語科 3年 現代文B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	現代文B	対象コース	特進理系 コース	単位数	3 単位
教科書	「精選現代文B」			出版社	東京書籍
副教材	「精選現代文B学習課題ノート」（東京書籍）・「新演習現代文アチーブ3 三訂版」（桐原書店） 「現代文マーク完答 24 三訂版」（尚文出版）・センター対策問題集（購入予定）・「新総合図説国語」（東京書籍）				

1 学習の到達目標

- ① 様々な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
- ② 様々な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる。
- ③ 様々な文章を読んで、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める
- ④ 進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート 教科書準拠問題集 プリント 課題提出 小テスト	学習活動における 発言内容や態度 プリント ワークシート	感想文などの文章 ノート 定期考査 小テスト プリント	学習活動における 発言内容や態度 定期考査 小テスト ノート プリント	学習活動における 発言内容 定期考査 小テスト ノート プリント

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容：定期考査8割・平常点（学習状況・小テスト・ノート・課題提出など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4 5	ガイダンス	3年次の学習の流れと年間計画について 日大基礎学力到達度テスト演習問題 春期休暇課題提出「新演習現代文アチーブ3 三訂版」(P.4～19)	1
日本大学基礎学力到達度テスト(4月18日)			
	評論 「文学の未来」 「言語と記号」	評論を読み、その構成・展開・要旨等を的確に読み取る。 論旨を的確に理解し、言語についての認識を深める。	5 6
GW課題 「新演習現代文アチーブ3 三訂版」(P.20～31)			
1学期中間考査			
6	小説 「檸檬」	作品の主題をとらえ、人間存在についての考えを深める。	7
第1回学力考査			
6月課題 「新演習現代文アチーブ3 三訂版」(P.32～52)			
7	評論 「鏡の中の現代社会」	評論を読み、語句の意味や表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てる。	6
8	1学期期末考査		
夏期休暇課題 「新演習現代文アチーブ3 三訂版」(P.53～79) 「現代文マーク完答24」評論・小説 各1～8 日本大学文芸コンクール作品(読書感想文 任意)			
9	第2回学力考査		
	評論 「他者の声 実在の声」	他者と自己についての文章を読み、様々な見方があることを知る。	5
日本大学基礎学力到達度テスト(9月26日)			
	小説 「赤い繭」	小説を読み、人間存在のあり方を探る。	5
	評論 「原始社会像の真実」	評論を読み、筆者の述べる人間・社会についての的確に理解する。	5
10	10月課題 「現代文マーク完答24」評論・小説 各9～12		
2学期中間考査			
11	演習	センター試験対策問題集に取り組む。	15
12	2学期期末考査		
冬期休暇			
1	日本大学卒業前教育	テキスト1～6(日大進学者のみ)	

国語 科 3 年 古典B 年間授業計画（シラバス）						
科目名	古典B	対象	特進（理系）	コース	単位数	2 単位
教科書	精選古典B（古文編・漢文編） 出版社 東京書籍					
副教材	「精選古典B学習課題ノート 古文編」「精選古典B学習課題ノート 漢文編」（東京書籍）、「新総合 図説国語」（東京書籍）、「新・要説文語文法 五訂新版」（日栄社）、「漢文必携 四訂版」（桐原書店）、「完全頻度順 入試対策ベストセクション古文単語 325」（尚文出版）、「新演習 古典アチーブ3 三訂版」（桐原書店）、「古典マーク完答 24 三訂版」（尚文出版）、「入試頻出 新国語問題総演習」（桐原書店）					

1 学習の到達目標

- ①古典としての古文と漢文を読む能力を養う。
- ②ものの見方、感じ方、考え方を広くし、日本の言語文化について理解する。
- ③古典についての理解や関心を深めることによって、人生を豊かにする態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の 内容	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉え、また、その価値を考察し、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート プリント ワークシート 課題提出			学習活動における発言内容や態度 ノート プリント ワークシート 定期考査	学習活動における発言内容 ノート プリント ワークシート 小テスト 定期考査

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元 (○古文 ●漢文)	主 な 学 習 内 容 と到達目標	時間数
4	春休み課題 「プロGRESS古文」「プロGRESS漢文」 各25 ～ 30		
5	ガイダンス・予習復習体験学習 【基礎学力到達度テスト】	・3年次の学習内容、年間計画、日々の学習について	1
	○日記 『紫式部日記』 「日本紀の御局」	・「漢学の才」が女性にとってどのような位置づけであったかを理解し、それに対する左衛門の内侍の言動と、作者の心情を読み取る。	3
	●漢詩、思想 「月下独酌」 「侵官之害」	・基本的な漢詩知識を踏まえ、発想の面白さと表現の巧みさを味わう。 ・『韓非子』に述べられている、国家や政治の在り方を読み取る。	3
	5月連休課題 「古典アチーブ3」 古文編・漢文編 各1 ～ 4		
	○評論 『無名抄』 「おもて歌のこと」	・歌論を読み、その論旨を読み取る。また、和歌に対する古人のものの見方や感じ方、考え方について理解する。	3
☆1学期中間考査 「入試頻出 新国語問題総演習」(試験範囲に含む、範囲に関しては別紙にて提示)			
6	【第一回学力考査】 ○日記 『和泉式部日記』 「夢よりもはかなき世の中を」	・敬語に留意しながら物語を読み、作者の生活の様子や心情について理解する。	4
7	6月課題 「古典アチーブ3」 古文編・漢文編 各5 ～ 8 (期末考査時にまとめて提出)		
	●史記 『荊軻伝』 「風蕭蕭兮易水寒」	・登場人物の生き方や考え方を通して、人間の在り方について考える。	4
☆1学期期末考査 「入試頻出 新国語問題総演習」(試験範囲に含む、範囲に関しては別紙にて提示)			
夏休み	夏期休暇課題 「古典アチーブ3」 古文編・漢文編 各9 ～ 最後まで (p.73)		
	「古典マーク完答24」 古文・漢文 各1 ～ 7		
	「日大文芸作品・読書感想文より いずれか1つを選んで提出」		
8	【第二回学力考査】	・和歌や登場人物の様子から、登場人物の心情を読み取るとともに、物語全体を踏まえて、光源氏と紫の上について鑑賞する。	5
9	【基礎学力到達度テスト】 ○物語 源氏物語 「萩の上露」		
10	9・10月課題 「古典マーク完答24」 古文・漢文 各8 ～ 12 10月末に提出)		
	●文 唐宋八大家の文章 「与孟東野書」	・文脈に即し、内容や人物について理解し、人間のあり方の問題、悩みや願いなどについて考察を深める。	3
	「捕蛇者説」	・捕蛇者の境遇に対する柳宗元の提案、またそれに対する蔣氏の考えを読み取り、この文を著した作者の意図について考える。	3
☆2学期中間考査 「入試頻出 新国語問題総演習」(試験範囲に含む、範囲に関しては別紙にて提示)			
11	☆センター試験演習	・過去問題集に取り組む。	10
☆2学期期末考査 「入試頻出 新国語問題総演習」(試験範囲に含む、範囲に関しては別紙にて提示)			
12	☆センター対策直前演習	・河合塾『黒本』、駿台『青本』、志望校『赤本』で演習に取り組む。	特別 時間割

※学習状況により、進路・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 1 年 世界史 A 年間授業計画（シラバス）						
科目名	世界史 A	対象	スポーツ	コース	単位数	2 単位
教科書	要説 世界史〔改訂版〕			出版社	山川出版社	
副教材	最新世界史図説エスカリエ〔十一訂版〕（帝国書院）					

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史と関連付けて理解する。
- ③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代の人類が直面する課題を様々な観点から考察する能力を育成する。
- ④ 世界の歴史の理解を踏まえて、日本やアジア地域への理解の上に、他国、他地域との協調関係を築いていく態度を育成する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 ノート提出	定期考査 課題プリント提出	定期考査 課題プリント提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・ノート提出・課題提出など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明する。	1
5	学習方法習得体験学習	・世界史の学習方法を体得する。	1
	〔第5章〕 世界戦争と平和	・19世紀から20世紀にかけての世界の歴史に触れ、戦争の発生と平和への試みを学習することを通して、世界が一体化していく様子を理解する。	
	【1学期中間考査】 帝国主義の成立と大衆社会の成立	・帝国主義の特色と欧米社会の変容について理解する。	4

6	列強の国内情勢	・イギリス,フランス,ドイツ,ロシア,アメリカの国内情勢を理解する。	4
7	列強による世界分割	・ヨーロッパ諸国によるアフリカ,太平洋地域,中国への進出の様子を理解する。	4
8	諸民族の抵抗運動 【1学期期末考査】	・ヨーロッパ諸国の進出を受けたアジア地域の民族運動,及び改革の動きを,日本の動向を踏まえて理解する。	6
9	第一次世界大戦と世界	・第一次世界大戦の原因や性格,戦争がもたらした世界の変化や,大戦中にロシアで社会主義革命がおこったことを理解する。 ・第一次世界大戦後の国際社会の枠組みの特色,アジア諸地域の民族主義運動の高まりを理解する。	9
10	第二次世界大戦と世界 【2学期中間考査】	・世界恐慌が国際秩序に与えた影響と各国の対応,大衆社会化現象と関連したファシズムの台頭,及び中国をめぐる国際情勢と関連した日本の動向を理解する。 ・第二次世界大戦について,関係諸国の動向や被害の甚大さ,戦争がのちの国際政治や日本に与えた影響を理解する。	10
11	[第6章] 三つの世界の形成	・20世紀中頃以降の世界の歴史に触れ,米ソ二陣営の形成と第三世界諸国の様子といった,現在の世界に影響を与えてきた国際関係を理解する。	
12	東西対立と両陣営の形成 【2学期期末考査】	・国際連合の理念と組織を理解する。 ・米ソ二陣営の形成,中華人民共和国の成立,及び朝鮮戦争の展開,及び冷戦構造の特色を理解する。	5
1	ヨーロッパ・日本の復興	・ヨーロッパの経済復興と日本の高度経済成長を理解する。	3
2	アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題	・第二次世界大戦後に独立したアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の動向を理解する。	4
3	米ソ両大国の動揺 【学年末考査】	・キューバ危機や中国とソ連の対立,ベトナム戦争などを背景にしたアメリカとソ連の関係の変化を理解する。	5

公民 科 1 年		現代社会		年間授業計画（シラバス）	
科目名	現代社会	対象	スポーツ	コース	単位数 2 単位
教科書	『現代社会』 出版社 東京書籍				
副教材	『ライブ！現代社会 2019』（帝国書院） 『要点マスター現代社会演習ノート』（東京書籍）				

1 学習の到達目標

- ①人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する力を養う。
- ②自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を理解し、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代社会の基本的問題と人間に関わる事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深める。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4 月	ガイダンス (学習方法習得体験学習) 第2章 日本国憲法と民主政治	・年間進捗を確認し、・体験学習を通じて学習方法を学ぶ。	1 学期 20 時間
5 月	1 民主政治とは 〈1学期中間テスト〉	①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制 民主政治が生まれた経緯や背景、権力分立、議会制民主主義について理解し、基本的人権と法の支配の意義、人権の歴史的展開や国際化について理解する。また世界の政治体制について学び、諸問題について考察する。	
6 月	2 日本国憲法の 基本原理	①日本国憲法と三つの原理 ②基本的人権の保障 (1) (2) ③新しい人権と人権保障の進展 ④平和主義と安全保障 大日本帝国憲法と日本国憲法を比較し、日本国憲法の三大原理について理解する。様々な基本的人権の意義と内容について理解し、新しい人権について考え、人権保障の進展と課題について考察する。また平和主義、安全保障の関係についてさまざまな角度から考察する。	
7 月	〈1学期期末テスト〉		
8 月		①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治 三権の相互関係について理解し、さらに国会、内閣、裁判所が持つ役割と権限について学び、行政にかかわる課題について考察する。また司法権の意義と裁判員制度などの司法制度改革について理解する。地方自治の意義と役割、権限について理解し、住民の政治参加の意義について考察する。	
9 月	3 日本政治機構		
10 月	〈2学期中間テスト〉		
11 月	4 現代政治の 特質と課題	①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加 近代選挙の四原則や日本の選挙制度の仕組み、政党や利益集団の意義と役割、政治資金について理解し、世論のもつ意義や、大衆の政治意識について考え、政治参加に対する姿勢を養う。	
12 月	〈2 期期末テスト〉		
1 月	第5章 国際社会と人類の課題	①国際社会の特質 ②国際紛争を避ける仕組み ③国際連合と安全保障 ④国際連合の役割と課題 ⑤冷戦とその後の世界 ⑥軍縮への取り組み 国際社会の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義や人種・民族問題について考察する。核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛について理解し、国際平和や国際協力の必要性和国際組織の役割について考え、国際社会における日本の果たすべき役割について考える。	2 学期 25 時間
2 月	1 国際政治の 仕組みと動向		
3 月	〈3 学期期末テスト〉		3 学期 20 時間

地理歴史 科 1 年 世界史 A 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	世界史 A	対象	進学 I・II	コース	単位数 2 単位
教科書	要説 世界史 (改訂版) 出版社 山川出版社				
副教材	世界史 A 副読本 (山川出版社) 最新世界史図説タペストリー (十七訂版) (帝国書院) ゼミナール世界史 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史と関連付けて理解する。
- ③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代の人類が直面する課題を様々な観点から考察する。
- ④ 世界の歴史の理解を踏まえて、日本やアジア地域への理解の上に、他国、他地域との協調関係を築いていく態度を育成する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たす。	世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめる。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 ノート提出	定期考査 課題提出	定期考査 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査 8割 平常点 (学習態度・ノート提出・課題提出など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明する。	1
	学習方法習得体験学習	・世界史の学習方法を体得する。	1
	[序章] 先史の世界	・人類が自然環境に適応しながら進化したこと、及びその過程を理解する。	2
5	[第 1 章] オリエントと地中海世界	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きなオリエント・地中海世界を形成したことを理解する。	

6	古代オリエント世界	・西アジア世界の地理的特質,オリエント文明,及びイラン人の活動に触れ,西アジア世界の形成過程を理解する。	8
	【一学期中間考査】		
7	ギリシア世界	・地中海一帯の地理的特質,エーゲ文明,ギリシア文明（アテネを中心とするポリスの政治と文化）,及びヘレニズム時代に触れ,地中海世界の形成過程を理解する。	9
	【一学期期末考査】		
8 9	ローマ世界	・都市国家ローマの形成と,地中海の周辺諸地域を征服し大帝国を建設した過程,及びローマ文化を理解する。 ・キリスト教の成立とその拡大について理解する。	9
10			
	【二学期中間考査】		
11	[第2章] アジア・アメリカの古代文明	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ,やがてそれらを基により大きな南アジア・東南アジア・東アジア世界を形成したことを理解する。	
12	インドの古典文明	・南アジアの地理的特質,インダス文明,アーリヤ人の進出以後の南アジアの文化,社会,国家の発展に触れ,南アジア世界の形成過程を理解する。	7
12	東南アジアの諸文明	・東南アジアの地理的特質,国家形成に触れ,東南アジア世界の形成過程を理解する。	3
	【二学期期末考査】		
1 2	中国の古典文明	・東アジアの地理的特質,中華文明の起源と秦・漢帝国に触れ,日本を含む東アジア世界の形成過程を理解する。	9
3	南北アメリカ文明	・先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	
3	[第3章] 内陸アジアと東アジア世界の形成	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ,やがてそれらを基により大きな内陸アジア・東アジア世界を形成したことを理解する。	
3	遊牧民の社会と国家	・内陸アジアの地理的特質,ここに出現した遊牧民とその文化の動向を,オアシス民の活動とともに理解する。	2
3	北方民族の活動と中国の分裂	・遊牧民の華北進出と華北住民の江南への移住,中国の魏晋南北朝時代,朝鮮と日本の国家形成に触れ,日本を含む内陸アジア・東アジア世界の形成過程を理解する。	5
	【三学期期末考査】		

公民 科 1 年		現代社会		年間授業計画（シラバス）	
科目名	現代社会	対象	進 学 I・II コース	単位数	2 単位
教科書	『現代社会』 出版社 東京書籍				
副教材	『ライブ！現代社会 2019』（帝国書院） 『要点マスター現代社会演習ノート』（東京書籍）				

1 学習の到達目標

- ①人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する力を養う。
- ②自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	現代社会の基本的問題と人間に関わる事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深める。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付ける。
評価の 方法	・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4 月	ガイダンス (学習方法習得体験学習) 第2章 日本国憲法と民主政治	・年間進捗を確認し、・体験学習を通じて学習方法を学ぶ。	1 学期 20 時間
5 月	1 民主政治とは 〈1学期中間テスト〉	①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制 民主政治が生まれた経緯や背景、権力分立、議会制民主主義について理解し、基本的人権と法の支配の意義、人権の歴史的展開や国際化について理解する。また世界の政治体制について学び、諸問題について考察する。	
6 月	2 日本国憲法の 基本原理	①日本国憲法と三つの原理 ②基本的人権の保障 (1) (2) ③新しい人権と人権保障の進展 ④平和主義と安全保障 大日本帝国憲法と日本国憲法を比較し、日本国憲法の三大原理について理解する。様々な基本的人権の意義と内容について理解し、新しい人権について考え、人権保障の進展と課題について考察する。また平和主義、安全保障の関係についてさまざまな角度から考察する。	
7 月	〈1学期期末テスト〉		
8 月		①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治 三権の相互関係について理解し、さらに国会、内閣、裁判所が持つ役割と権限について学び、行政にかかわる課題について考察する。また司法権の意義と裁判員制度などの司法制度改革について理解する。地方自治の意義と役割、権限について理解し、住民の政治参加の意義について考察する。	
9 月	3 日本政治機構		
10 月	〈2学期中間テスト〉		
11 月	4 現代政治の 特質と課題	①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加 近代選挙の四原則や日本の選挙制度の仕組み、政党や利益集団の意義と役割、政治資金について理解し、世論のもつ意義や、大衆の政治意識について考え、政治参加に対する姿勢を養う。	
12 月	〈2 期期末テスト〉		
1 月	第5章 国際社会と人類の課題	①国際社会の特質 ②国際紛争を避ける仕組み ③国際連合と安全保障 ④国際連合の役割と課題 ⑤冷戦とその後の世界 ⑥軍縮への取り組み 国際社会の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義や人種・民族問題について考察する。核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛について理解し、国際平和や国際協力の必要性和国際組織の役割について考え、国際社会における日本の果たすべき役割について考察する。	2 学期 23 時間
2 月	1 国際政治の 仕組みと動向		
3 月	〈3 学期期末テスト〉		
			3 学期 20 時間

地理歴史 科 1 年		世界史 A		年間授業計画（シラバス）	
科目名	世界史 A	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	要説 世界史〔改訂版〕		出版社 山川出版社		
副教材	世界史 A 副読本（山川出版社） ゼミナール世界史（浜島書店）		最新世界史図説タペストリー〔十七訂版〕（帝国書院）		

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史と関連付けて理解する。
- ③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代の人類が直面する課題を様々な観点から考察する能力を育成する。
- ④ 世界の歴史の理解を踏まえて、日本やアジア地域への理解の上に、他国、他地域との協調関係を築いていく態度を育成する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
評価の 内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たす。	世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめる。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付ける。
評価の 方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 ノート提出	定期考査 課題提出	定期考査 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・ノート提出・課題提出など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明する。	1
	学習方法習得体験学習	・世界史の学習方法を体得する。	1
	[序章] 先史の世界	・人類が自然環境に適応しながら進化したこと、及びその過程を理解する。	2
5	[第1章] オリエントと地中海世界	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きなオリエント・地中海世界を形成したことを理解する。	

6	古代オリエント世界	・西アジア世界の地理的特質,オリエント文明,及びイラン人の活動に触れ,西アジア世界の形成過程を理解する。	8
	【一学期中間考査】		
7	ギリシア世界	・地中海一帯の地理的特質,エーゲ文明,ギリシア文明（アテネを中心とするポリスの政治と文化）,及びヘレニズム時代に触れ,地中海世界の形成過程を理解する。	9
	【一学期期末考査】		
8 9	ローマ世界	・都市国家ローマの形成と,地中海の周辺諸地域を征服し大帝国を建設した過程,及びローマ文化を理解する。 ・キリスト教の成立とその拡大について理解する。	9
10			
	【二学期中間考査】		
11	[第2章] アジア・アメリカの古代文明	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ,やがてそれらを基により大きな南アジア・東南アジア・東アジア世界を形成したことを理解する。	
12	インドの古典文明	・南アジアの地理的特質,インダス文明,アーリヤ人の進出以後の南アジアの文化,社会,国家の発展に触れ,南アジア世界の形成過程を理解する。	7
12	東南アジアの諸文明	・東南アジアの地理的特質,国家形成に触れ,東南アジア世界の形成過程を理解する。	3
	【二学期期末考査】		
1 2	中国の古典文明	・東アジアの地理的特質,中華文明の起源と秦・漢帝国に触れ,日本を含む東アジア世界の形成過程を理解する。	9
3	南北アメリカ文明	・先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	
3	[第3章] 内陸アジアと東アジア世界の形成	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ,やがてそれらを基により大きな内陸アジア・東アジア世界を形成したことを理解する。	
3	遊牧民の社会と国家	・内陸アジアの地理的特質,ここに出現した遊牧民とその文化の動向を,オアシス民の活動とともに理解する。	2
3	北方民族の活動と中国の分裂	・遊牧民の華北進出と華北住民の江南への移住,中国の魏晋南北朝時代,朝鮮と日本の国家形成に触れ,日本を含む内陸アジア・東アジア世界の形成過程を理解する。	5
	【三学期期末考査】		

公民 科 1 年 現代社会 年間授業計画（シラバス）					
科目名	現代社会	対象	特 進	コース	単位数 2 単位
教科書	『高等学校 新現代社会 新訂版』			出版社	清水書院
副教材	『政治・経済資料 2019』（とうほう） 『高等学校 新現代社会 新訂版 ワークノート』（清水書院）				

1 学習の到達目標

- ①人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する力を養う。
- ②自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代社会の基本的問題と人間に関わる事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方や生き方についての自覚を深める。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4 月	ガイダンス（学習方法習得 体験学習） 第2 編 現代の民主政治と法	・年間進捗を確認する。体験学習を通して、学習方法を学ぶ。	1 学期 20 時間
5 月	第1 章 民主社会の成立と憲法 ＜1 学期中間テスト＞	1 政治とは何か 2 現代民主政治の発展 3 世界の政治制度 民主社会の成立の過程を理解し、民主社会に主体的に生きる人間としての在り方・生き方について、個人と国家を中心に考察する。さらに、民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解する。	
6 月	第2 章 日本国憲法の成立と 基本的人権の保障	1 日本国憲法の成立と三大原理 2 基本的人権の尊重と平等権の保障 3 自由権的基本権の保障 4 社会権的基本権の保障 5 参政権の保障と国務請求権 6 広がる人権、新しい人権 近代民主主義国家の基本的な原理、憲法の基本的な原理を理解し、社会の諸問題を考察させる。また人権の国際化と新しい人権について学び、社会の諸問題について、人権の拡大と新しい人権という観点から考察する。	
7 月	第3 章 憲法と平和主義 ＜1 学期期末テスト＞	1 日本の平和主義と安全保障 2 日米安全保障条約と日本 日本国憲法の平和主義と日本をめぐる安全保障に関する情勢を理解し、平和主義と国際協調の立場から、日本の安全保障について考察する。	
8 月	第4 章 現代日本の政治機構と	1 国会の役割と仕組み 2 内閣と行政機関 3 裁判所の役割 4 裁判と裁判員制度	
9 月	政治参加	5 地方自治と住民生活 6 政党・選挙と政治参加 国民主権を中心とした立法、行政、司法の仕組みを理解し、三権の課題と国民主権の発展のための改革について学び、より良い制度について考察する。また地方自治や選挙についての知識を身につけ、政治参加の意識を高める。	
10 月	＜2 学期中間テスト＞		
11 月	第5 章 国際政治とその仕組み	1 国際社会の成立と国際法 2 国際連合の役割と仕組み 3 国際社会における人権保障 国際法、国際連合、人権諸条約について理解し、国際連合の活動とその課題について考察する。	
12 月	第6 章 現代の国際社会と日本 ＜2 学期期末テスト＞	1 第二次世界大戦後の国際政治 2 現代世界の政治動向 3 現代の紛争 4 軍縮と大量破壊兵器の廃絶 5 日本外交と国際平和の実現 戦後史についての知識を身につけ、現代の国際社会の課題、安全保障問題などについて、基本的な理解し、今後の国際政治の課題について考察する。 また国際問題の望ましい解決について、幸福、正義、公正の観点から考える。	
1 月			
2 月	第3 編 現代の経済 第1 章 経済社会とその仕組み	1 市場と経済主体 2 経済成長と景気変動 3 金融とその働き 4 財政とその働き 5 資本主義経済の仕組みとその変容 現代の市場経済、金融・財政の働きや問題について理解し、市場や金融、財政の課題について、幸福、正義、公正の観点から考察する。	
3 月	＜3 学期期末テスト＞		3 学期 20 時間

地理歴史 科 2 年 日本史B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	日本史B	対象	スポーツ	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』 出版社 山川出版社				
副教材	『日本史B用語集』（山川出版社） 『プロムナード日本史』（浜島書店） 『ゼミナール日本史』（浜島書店）				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果す。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取り、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・ノート・プリント・問題集など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス（体験学習等） 第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあゆみ 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャーする。 ・考古学的成果により日々新たな発見が訪れる可能性を意識する。 旧石器～古墳の各時代の特徴などを、資料を交えながら学ぶ。 大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。日本社会に渡来人が果たした役割が大きいことを理解する。	13
5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 1学期中間考査 3 平城京の時代 4 天平文化	聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制のしくみ、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。同時に飛鳥・白鳳文化を、資料を活用しながら学ぶ。 天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。資料を活用しながら、天平・弘仁貞観・国風文化の特色について学ぶ。荘園の発達過程・経緯・構造を学ぶ。	16

6	5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	武士の中央進出の背景を学ぶ。 藤原氏による独裁で安定を迎えたこと。遣唐使の廃止が、中国文化の影響が途絶えたことなどを理解する。	1 7
7	1学期期末考査 第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	後三条天皇の政治が院政へ発展していくこと。平氏政権の誕生、源氏と平氏二大勢力の対立と鎌倉幕府の成立過程について学ぶ。 武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。	8
8	学力テスト		1
9	3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立	北条氏による執権政治の成立と発展の過程、元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。	1 6
1 0	2学期中間考査 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	6代将軍足利義教の暗殺や8代将軍足利義政の時代の応仁の乱によって、幕府は衰退していった。その原因と背景について学ぶ。東アジアとの貿易、室町時代の農業・商工業の資料などを通して室町文化について学ぶ。幕府の衰退が、惣村の形成や一揆を引き起こしたこと、室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。 各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。その中から登場した織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について学ぶ。	1 6
1 1	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 2学期期末考査	幕府の衰退が戦国大名の出現をまねき、信長・秀吉によって戦乱の時代に終止符が打たれたことを理解する。	1 6
1 2	3 幕藩体制の成立	初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。	2
1	学力テスト 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	1 1
2	2 経済の発達 3 元禄文化	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。	1 4
3	3学期期末考査		2
			1 3 2

地理歴史 科 2 年						地理B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	地理B		対象	スポーツ コース		単位数	4 単位		
教科書	新詳地理B, 新詳高等地図					出版社	帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2019（帝国書院），チャレンジワーク地理（学研）								

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域の歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識力を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果す。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の 方法	・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
5	II-1-1 ○世界の地形	○営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し、人間生活との関わりを考察する。	9
	II-1-2 ○世界の気候	○気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し、人間生活への影響を考察する。	10
	<1学期中間テスト>		
	II-1-3 ○日本の自然の特徴や人々の生活	○日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。	6
	II-1-4 ○環境問題	○成因や特徴と対策、地域的な分布を大観し、各事例を考察する。	5

6	II-2-2 ○世界の農林水産業	○農業地域区分やその現状と課題、及び世界の中での日本の課題を考察する。	11
	II-2-3 ○世界の食糧問題 ＜1 学期期末テスト＞	○世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察する。	4
7	II-2-4 ○世界のエネルギー・鉱産資源	○エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。	7
8			
9	II-2-5 ○資源・エネルギー問題	○資源・エネルギー問題を大観し、その現状を理解するとともに、生産や消費が抱える課題を考察する。	7
	II-2-6 ○世界の工業	○工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。	7
	II-2-7 ○第3次産業	○現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察する。	4
10	II-2-8 ○世界を結ぶ交通・通信	○交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	5
	II-3-1 ○世界の人口 ＜2 学期中間テスト＞	○世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。	7
	II-3-2 ○人口問題	○世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。	5
11	II-3-3 ○村落と都市	○村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。	6
	II-3-4 ○都市・居住問題	○世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、各国の事例をもとに考え、解決策を考察する。	5
	II-4-1 ○生活文化	○衣食住を取り上げ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。	3
	III-2-11 ○オセアニア地誌 ＜2 学期末テスト＞	○オセアニアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
12			
	III-2-9 ○アングロアメリカ地誌	○アングロアメリカの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
1			
	III-2-2 ○東アジア地誌	○東アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
2			
	III-2-3 ○東南アジア地誌 ＜学年末テスト＞	○東南アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
3			

地理歴史 科 2 年		世界史B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	世界史B	対象	進学文系Ⅰ・Ⅱ	コース	単位数 3 単位
教科書	詳説世界史B 出版社 山川出版社				
副教材	世界史図説外 [※] ストーリー（帝国書院），ゼミナール世界史，世界史B用語集（山川出版） チャレンジワーク（学研）				

1 学習の到達目標

- ① 世界史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。
- ② 世界史の大きな枠組みと流れを、わが国を含み諸地域世界の歴史と関連付けながら理解する。
- ③ 学習を通して客観的で公正なものの見方を育成するとともに、広い視野から歴史を考察する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たす。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取り、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の 方法	ノート提出 問題集	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割，平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4 (4)	ガイダンス 予習復習体験学習 ・北方民族の活動と中国の分裂	・学習のねらい・世界史の授業について・評価方法についての説明をする。 ・魏晉南北朝の社会的変化と文化の特色を理解する。 ・隋・唐の統一王朝の政治と文化を理解する。	1 6
5 (11)	・東アジア文化圏の形成 第Ⅱ部 第4章 イスラーム世界の形成と発展 ・イスラーム帝国の成立 ・イスラーム世界の発展 ・インド，東南アジア，アフリカのイスラーム化	・イスラーム成立の背景とその特質を理解する。 ・アラブ人によるイスラーム帝国の発展，トルコ系民族の活動，アフリカ・南アジアのイスラーム化など，イスラーム世界の形成と拡大の過程を理解する。	7
6 (12)	・イスラーム文明の発展 【一学期中間考査】	・文明の特徴とヨーロッパ文化への影響を理解する。	
6	第5章 ヨーロッパ世界	・地中海世界が解体した後，キリスト教を基盤とするヨーロッ	

(4)	の形成と発展 ・西ヨーロッパ世界の成立	・パ世界が東西に形成され、変動していった過程と、両世界それぞれの独自の性格を理解する。	9
7 (6)	・東ヨーロッパ世界の成立 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 ・西ヨーロッパ中世文化 【一学期期末考査】	・十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。 ・キリスト教を中心とする中世文化を理解する。	
7	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 ・トルコ化とイスラーム化の進展	・トルコ系民族が中央アジアに進出していく過程と唐の滅亡後の中国の変化を理解する。 ・契丹や女真といった遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。	
9 (12)	・東アジア諸地域の自立化 ・モンゴルの大帝国	・モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界にあたえた影響の大きさを理解する。	1 2
10 (6)	第7章 アジア諸地域の繁栄	・16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解する。	
11 (9)	・東アジア世界の動向 ・清代の中国と隣接諸地域 ・トルコ、イラン世界の展開 ・ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展 【二学期中間考査】	・明・清帝国と朝鮮や日本との関係、東南アジア世界の動向を理解する。 ・ムガル帝国の皇帝権や官僚制、統治の特質について理解する。	
12 (6)	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンス ・宗教改革 ・ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 【二学期期末考査】	・大航海時代・ルネサンスと宗教改革を扱い、16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。 ・ヨーロッパ絶対王政の特色を理解し、各国の国家体制の成立過程を理解する。イギリスにおける立憲政治の発達を学ぶ一方、ヨーロッパ各国が植民活動を進めていく状況を理解する。	1 2
1 (8)	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開		7
2 (11) 3 (2)	1. 重商主義と啓蒙専制主義 2. ヨーロッパの海外進出 3. 17～18世紀のヨーロッパ文化 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1. 産業革命 2. アメリカ独立革命 3. フランス革命 【学年末考査】	・産業革命、アメリカ独立、フランス革命など18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業革命と国民国家の形成を理解する。	7

地理歴史 科 2 年 日本史A 年間授業計画（シラバス）					
科目名	日本史A	対象	進学文系	I・IIコース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A 人・くらし・未来			出版社	第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

- ① 近代化を目指した明治政府の政治を理解する。
- ② 日清戦争を契機に大陸支配を目指した日本外交を理解する。
- ③ 日露戦争と第一次世界大戦を通じて帝国主義戦争を理解する。
- ④ 第一次世界大戦後の協調外交と、中国に対する強硬外交を理解する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果す。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取り、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の 方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。。

評価の内容 3回の定期考査8割、平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	・学習のねらい・日本史の授業について・評価方法を説明する。	1
5	学習方法習得体験学習 明治維新と近代国家の形成	・ペリー艦隊の来航による開国と当時の世界情勢を理解し、その後の不平等条約締結のきっかけとなったことを理解する。	9
	明治初期の外交政策	・李氏朝鮮や琉球と明治政府の関係を通じて、その後の日本外交の基礎になったことを理解する。	
6	日本の朝鮮政策と日清戦争	・ロシアとの交渉で国境画定したことを理解する。	
7		・19世紀末の朝鮮の状況を理解し、利害関係の対立から	
8	【1学期期末考査】	・日清戦争に至った過程とその結果を理解し、日本が大陸支配に乗り出す契機となったことを理解する。	
9	日英同盟と日露戦争	・ロシアは南下政策の1つとして中国への進出をはかり、大陸	

10	日露戦争後の国際関係	に拠点を持つことを目指す日本と対立を深めていく過程を理解する。	12
11		・日本が韓国併合を強行し満州進出をしていく過程を理解し 日中戦争, 太平洋戦争へとつながることを理解する。	
12	【2学期期末考査】		8
1	第一次世界大戦と日本	・第一次世界大戦の原因と経過, 日本の参戦理由を理解し 大戦中におきたロシア革命が戦後の世界に与えた影響を理解する。	
2	第一次世界大戦後の民族運動の高まり	・パリ講和会議の決定事項を理解し, アジアでの民族運動の高まりを理解する。	
3	第一次世界大戦後の国際協調外交関係	・ワシントン会議と幣原外交の特性を理解し, 国際協調がもたらした成果を理解する。	
	【学年末考査】		

地理歴史 科 2 年 日本史B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	日本史B	対象	進学文系	I・IIコース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』 出版社 山川出版社				
副教材	『日本史B用語集』（山川出版社） 『プロムナード日本史』（浜島書店） 『ゼミナール日本史』（浜島書店） 『チャレンジワーク日本史』（学研）				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果す。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取り、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付け、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・ノート・プリント・問題集など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス（体験学習等） 第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャーを行う。 ・考古学的成果により日々新たな発見が訪れる可能性を意識する。 旧石器～古墳の各時代の特徴などを、資料を交えながら学ぶ。 大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。日本社会に渡来人が果たした役割が大きいことを理解する。	13
5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 1学期中間考査 3 平城京の時代 4 天平文化	聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制のしくみ、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。同時に飛鳥・白鳳文化を、資料を活用しながら学ぶ。 天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。資料を活用しながら、天平・弘仁貞観・国風文化の特色について学ぶ。荘園の発達過程・経緯・構造を学ぶ。	16
6	5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治	武士の中央進出の背景を学ぶ。 藤原氏による独裁で安定を迎えたこと。遣唐使の廃止が、中国文化の影響が途絶えたことなどを理解する。	17

	2 国風文化 3 地方政治の展開と武士		
7	1学期期末考査 第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	後三条天皇の政治が院政へ発展していくこと。平氏政権の誕生、源氏と平氏二大勢力の対立と鎌倉幕府の成立過程について学ぶ。 武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。	8
8	学力テスト		1
9	3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立	北条氏による執権政治の成立と発展の過程、元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。	1 6
1 0	2学期中間考査 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	6代将軍足利義教の暗殺や8代将軍足利義政の時代の応仁の乱によって、幕府は衰退していった。その原因と背景について学ぶ。東アジアとの貿易、室町時代の農業・商工業の資料などを通して室町文化について学ぶ。幕府の衰退が、惣村の形成や一揆を引き起こしたこと、室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。 各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。その中から登場した織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について学ぶ。	1 6
1 1	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 2学期期末考査	幕府の衰退が戦国大名の出現をまねき、信長・秀吉によって戦乱の時代に終止符が打たれたことを理解する。	1 6
1 2	3 幕藩体制の成立	初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。	2
1	学力テスト 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	1 1
2	2 経済の発達 3 元禄文化	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。	1 4
3	3学期期末考査		2
			1 3 2

地理歴史 科 2 年						地理B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	地理B		対象	進学文系 I・IIコース		単位数	4単位		
教科書	新詳地理B, 新詳高等地図				出版社	帝国書院			
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2019（帝国書院），チャレンジワーク地理（学研）								

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域の歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識力を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たす。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえ、結果や家庭を適切に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取り、図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に着ける。
評価の方法	・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	○一年間の進め方 予習復習について	1
	II-1-1 ○世界の地形	○営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し、人間生活との関わりを考察する。	9
5	II-1-2 ○世界の気候 ＜1 学期中間テスト＞	○気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し、人間生活への影響を考察する。	10
	II-1-3 ○日本の自然の特徴や人々の生活	○日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。	6
	II-1-4 ○環境問題	○成因や特徴と対策、地域的な分布を大観し、各事例を考察する。	5
6	II-2-2	○農業地域区分やその現状と課題、及び世界の中での日本の課	11

	○世界の農林水産業 II-2-3 ○世界の食糧問題 <1 学期期末テスト>	題を考察する。 ○世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察する。	4
7	II-2-4	○エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。	7
8	○世界のエネルギー・鉱産資源		
9	II-2-5	○資源・エネルギー問題を大観し、その現状を理解するとともに、生産や消費が抱える課題を考察する。	7
	○資源・エネルギー問題		
	II-2-6	○工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。	7
	○世界の工業		
	II-2-7	○現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察する。	4
	○第3次産業		
10	II-2-8	○交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	5
	○世界を結ぶ交通・通信		
	II-3-1	○世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。	7
	○世界の人口		
	<2 学期中間テスト>		
	II-3-2	○世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。	5
	○人口問題		
11	II-3-3	○村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。	6
	○村落と都市		
	II-3-4	○世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、各国の事例をもとに考え、解決策を考察する。	5
	○都市・居住問題		
	II-4-1	○衣食住を取り上げ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。	3
	○生活文化		
	III-2-11	○オセアニアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
	○オセアニア地誌		
	<2 学期末テスト>		
12	III-2-9	○アングロアメリカの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
1	○アングロアメリカ地誌		
	III-2-2	○東アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
2	○東アジア地誌		
	III-2-3	○東南アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
3	○東南アジア地誌		
	<学年末テスト>		

公民科 2 年倫理年間授業計画（シラバス）						
科目名	倫理	対象	進学文系	コース	単位数	2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院	
副教材	高等学校新倫理新訂版ワークノート・最新図説倫理					

1 学習の到達目標

- ① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
- ② 人格形成に努める実践的意欲を高める。
- ③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深める。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付ける。
評価の方法	・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

- A. 定期考査の点数8割
- B. 平常点20点 ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況 ・学期ごとのワーク提出、課題提出等

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	科目・年間進度及び評価について (学習方法習得体験授業)	初めて「倫理」を学ぶにあたっての説明と体験学習を行う。	1
	第1編現代に生きる自己の課題		4
	第1章人間とは何か	人間とは何か。青年期の意義や心理について考える。	
	第2章青年期の課題と自己形成	自己実現に向けた青年期の課題について考える。	
5	第2編 人間としての自覚と生き方	・単なる知識の羅列に終わることなく、「生き方」の問題を考える。	5
	第1章 人生における哲学	・神話・自然哲学・ソフィスト	
	1 神話から哲学へ	・ソクラテス・プラトン・アリストテレス・ゼノン・エピクロス	
	2 ギリシャの思想		
	1学期中間試験 (P. 6～35)		
	3ヘレニズム時代の思想	・ユダヤ教・キリスト教・イスラームの基礎的内容を学習し	4
6	第2章 人生における宗教	西洋人の宗教観を理解する。細部には立ち入らず、それぞれの宗教を生み出した背景や西洋人の考え方などを理解し正しい宗教観を身に付ける。	
	第1節 キリスト教		
	1 ユダヤ教2 キリスト教		
	3 世界宗教への展開		
	第2節 イスラーム		
	第3節 仏教	・仏教の基礎を学習し、東洋人の宗教観を理解する。	1
	1 バラモン教	・仏教の根本的な考え方を理解し西洋の宗教観との相違点についても把握する。	5
	2 仏陀の思想		
	3 仏教のその後の展開		
	1学期期末試験 (P. 35～60)	・儒家・道家の中国思想の学習を通して東洋における人間関係のあり方や道徳観の考え方を理解する。	
7	第2編 第3章 人生の知恵		
	1 孔子と儒家の思想		5
	2 儒教の展開		
	3 道家の思想		
8	第4章 人生における芸術	プリントを活用し、芸術と人生の価値や方向づけについての関連性を考える。	1
9	第3編 現代社会と倫理		
	第1章 現代の特質と倫理的課題		
	第2章 現代に生きる人間の倫理	近代についての理解を図り、二つのR(ルネサンス・宗教改革=Reformation)についての導入とする。	2
	第1節 人間の尊厳		7
	1 自己肯定の精神	・二つのR(ルネサンス・宗教改革)を経て、近代合理主義精神が芽生えたことを理解する。	
	2 宗教観の転換	・宗教戦争を背景に登場してきたモラリストを通して人言の在り方・生き方について考える。	
	3 人間の偉大と限界		
	ルネサンス 宗教改革モラリスト		
	2学期中間考査 (P. 61～89)		
	第2節 自然や科学技術とのかかわり		
10	1 自然への目と科学的なものの見方	・近代西洋における合理的・科学的精神を理解し、かつ東洋思想との相違についても考える。	6
	近代科学の誕生		
	経験論・合理論		
11	第3節 民主社会における人間の在り方	・近代西洋哲学における経験論・合理論の比較を通して思想内容の違いを理解する。	2
	社会契約説		
	第4節 自己実現と幸福		
	ドイツ観念論	・市民革命による絶対王政の打破と民主主義社会の歩みを、社	9

12 1 2 3	2学期期末考査 (P. 90～109) 功利主義 プラグマティズム 第5節 個人と社会との関わり 社会主義 実存主義 学年末考査 (P. 110～139)	会契約説を通して理解する。 ・自律としての自由カント／善意と目的の国 ・自由や人格の尊厳の意味について考えよう。自己実現と自由 - ヘーゲル／絶対精神の目的と自由／弁証法／人倫と自由の実現 ・カントとヘーゲルの思想の違いを理解する。 ・最大多数の最大幸福 ベンサム／不満足なソクラテス ミル ・社会の進歩改善を目指した思想家の幸福観を考える。 プラグマティズム／民主主義の実現と幸福デューイ 人間疎外の原因 マルクス／唯物史観 空想的社会主義・科学的社会主義・修正マルクス主義について段階的に理解を図る。 自己を見つめる キルケゴール／実存的交わりヤスパース ニヒリズムを超えて／神の死と超人 ニーチェ／死への存在 ハイデッガー ・内面的な主体性の回復を目指した思想家の思想を考える。 ・孤独な実存に目覚め、他者との連携を図る重要性を知る。 ・本来的自己を回復し、疎外を克服する大切さを知る。 自由と責任 サルトル 実践演習 (プリント)	9 2

地理歴史 科 2 年 世界史B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	世界史B	対象	特進文系	コース	単位数 4 単位
教科書	詳説世界史B 出版社 山川出版社				
副教材	①最新世界史図説タペストリー十五訂版（帝国書院），②世界史B用語集（山川出版社），③ゼミナール世界史（浜島書店），④チャレンジワーク（学研），⑤短期攻略センター世界史B改訂版（駿台文庫）				

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。
- ② 日本を含む諸地域と、世界の歴史を関連付けしながら理解する。
- ③ 世界の歴史を学習する中で、客観的で公正な歴史観を養い、広い視野で歴史を考察する力を育成する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果す。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割、平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・学習のねらい・世界史の授業内容・評価方法について説明する。 ・問題集を使用し、センター試験対策の学習方法を体得する。	1
5	第3章 東アジア文化圏の形成 ・隋・唐の成立 ・五代の分裂時代	・隋・唐の統一王朝の政治と文化を理解する。 ・隋の成立とその制度、唐の成立とその制度が周辺地域に与えた影響を理解しながら、唐の文化の特徴を理解する。	5
6	第4章 イスラーム世界の形成と発展 ・イスラーム世界の形成	・イスラーム成立の背景とその特質を理解する。 ・アラブ人によるイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化など、イスラーム世界の形成と拡大の過程を理解する。	5

	・イスラーム世界の発展 ・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 【一学期中間考査】	・イスラーム文明の特質とその影響、イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。 ・商業活動などを通じて、イスラーム世界が世界各地に広がっていく様子を理解する。	4
	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 ・西ヨーロッパ世界の成立 ・東ヨーロッパ世界の成立 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化 【一学期期末考査】	・地中海世界が解体した後、キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界が東西に形成され、変動していった過程と、それぞれの世界に特徴的な性格を理解する。 ・ビザンツ帝国を中心とする東ヨーロッパ世界が、独自の文化や社会制度をはぐくんだことを理解する。 ・十字軍の失敗がもたらした影響と、その後の封建社会の衰退を考察する。 ・キリスト教を中心とした、西ヨーロッパの中世文化を理解する。	4
	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界 ・トルコ化とイスラーム化の進展 ・東アジア諸地域の自立化 ・モンゴル帝国 【二学期中間考査】	・トルコ系民族が中央アジアに進出していく過程と、唐の滅亡後の中国の変化を理解する。 ・契丹、金、西夏の建国と（北）宋の弱体化を理解し、宋全体の政治社会を考察する。 ・ユーラシア全土に及ぶ大帝国を建国した、モンゴル民族の台頭と衰退の過程を理解する。	10
7			1
8			2
9	第7章 アジア諸地域の繁栄 ・東アジア世界の動向 ・清代の中国と隣接諸国 ・トルコ・イラン世界の展開 ・ムガル帝国 【二学期期末考査】	・16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解する。 ・明・清帝国と朝鮮や日本の関係、東南アジア世界の動向を理解し、清代の文化と社会を理解する。 ・トルコ・イラン、及びインドに成立したムガル帝国の動向をする。 ・ムガル帝国の皇帝権や官僚制、統治の特質について理解する。	6
10			4
	第8章 近代ヨーロッパ世界の形成 ・ルネサンス、大航海、宗教改革 ・主権国家体制の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 ・重商主義と啓蒙専制主義 ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・17～18世紀ヨーロッパ文化と社会	・16世紀以降のヨーロッパ世界の拡大と、変革の過程を理解する。 ・主権国家体制が確立されていくヨーロッパ諸国間の動向を理解する。 ・市民革命を経てイギリスに立憲王政が確立する過程と、フランスなどの諸国が絶対王政を確立する過程を理解する。 ・ヨーロッパ諸国のアジア、新大陸進出と奴隷貿易の現状を理解する。 ・科学革命と近代的世界観の成長と啓蒙思想の広がりを理解する。 ・産業革命・アメリカ独立革命・フランス革命を通じて欧米地域の外部に対する影響力が強まったことを理解し国民国家の理念が拡大したことを理解する。	6
11			8
12			6
1			6
2	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 【学年末考査】		3
3	第11章 欧米における近代国家の発展	・19世紀のヨーロッパと南北アメリカの諸地域の動向を理解する。	10
			5

地理歴史 科 2 年 日本史A 年間授業計画（シラバス）					
科目名	日本史A	対象	特進	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A 人・くらし・未来			出版社	第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

- ① 近代化を目指した明治政府の政治を理解する。
- ② 日清戦争を契機に大陸支配を目指した日本外交を理解する。
- ③ 日露戦争と第一次世界大戦を通じて帝国主義戦争を理解する。
- ④ 第一次世界大戦後の協調外交と、中国に対する強硬外交を理解する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
評価の 内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果たす。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取り、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の 方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。。

評価の内容 3回の定期考査8割、平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	日本史Aの授業内容全般にわたり説明する。	1
	明治初期の外交政策	・明治政府（日本）と朝鮮王国、琉球との関係を理解し、これがその後の外交の基礎になったことを理解する。	2
5		・ロシアとの国境策定を通じて、千島全島が日本領になったことを理解する。	1
	日本の朝鮮政策と日清戦争	・日清戦争に至った経過と結果を理解し、日本の大陸進出の契機となったことを理解する。	2
6	日英同盟と日露戦争	・ロシアの南下政策と日本の大陸進出が対立し戦争に至る過程を理解する。	4
7	【一学期期末考査】		
9	韓国併合と日本の満州進出	・日本による朝鮮半島支配と中国東北地方への進出が、欧米列強に警戒感を与えたことを理解する。	3
10	第一次世界大戦と日本	・第一次世界大戦の背景と、日本の参戦を理解する。	3
	ロシア革命	・ロシア革命の背景と、革命が及ぼした影響を理解する。	2
11		・パリ講和会議と中国、朝鮮の民族意識の高まりを理解する。	3
12	大戦後のパリ講和会議		
	【二学期期末考査】		
1	第一次大戦後の協調外交	・ワシントン会議で軍備制限や約束され、協調外交が進展したことを理解する。	4
2	日本外交の行き詰まり	・第一次世界大戦中の日本外交が強硬姿勢に変化することと、関東軍による中国支配が進展したことを理解する。	4
	【学年末考査】		

地理歴史 科		2 年		日本史B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	日本史B	対象	特進文系	コース	単位数	5	単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』			出版社	山川出版社		
副教材	『日本史B用語集』（山川出版社） 『プロムナード日本史』（浜島書店） 『ウイニングコンパス日本史』（とうほう）						

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果たす。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取り、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・ノート・プリント・問題集など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス（体験学習等） 第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャーを行う。 考古学的成果により日々新たな発見が効める可能性を意識する。 旧石器～古墳の各時代の特徴などを、資料を交えながら学ぶ。 大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。日本社会に渡来人が果たした役割が大きいことを理解する。	15
5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 3 平城京の時代 <u>1学期中間考査</u> 4 天平文化	聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制のしくみ、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。同時に飛鳥・白鳳文化を、資料を活用しながら学ぶ。 天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。資料を活用しながら、天平・弘仁貞観・国風文化の特色について学ぶ。荘園の発達過程・経緯・構造を学ぶ。	18
6	5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化	武士の中央進出の背景を学ぶ。 藤原氏による独裁で安定を迎えたこと。遣唐使の廃止が、中国文化の影響が途絶えたことなどを理解する。	20

	3 地方政治の展開と武士 第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	後三条天皇の政治が院政へ発展していくこと。平氏政権の誕生、源氏と平氏二大勢力の対立と鎌倉幕府の成立過程について学ぶ。 武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。	
7	1学期期末考査 3 武士の社会		10
8	学力テスト		1
9	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化	北条氏による執権政治の成立と発展の過程、元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。 6代将軍足利義教の暗殺や8代将軍足利義政の時代の応仁の乱によって、幕府は衰退していった。その原因と背景について学ぶ。東アジアとの貿易、室町時代の農業・商工業の資料などを通して室町文化について学ぶ。幕府の衰退が、惣村の形成や一揆を引き起こしたこと、室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。	20
10	2学期中間考査 4 戦国大名の登場 第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化	各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。その中から登場した織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について学ぶ。 幕府の衰退が戦国大名の出現をまねき、信長・秀吉によって戦乱の時代に終止符が打たれたことを理解する。	20
11	2学期期末考査 3 幕藩体制の成立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。 4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	20
12	2 経済の発達	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。	4
1	学力テスト 3 元禄文化	貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。	15
2	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 工場制手工業の発達など軽工業における経済の発達と、藩財政の建て直しから雄藩と呼ばれ幕末に反幕勢力の中心となる藩の発生を理解する。 文学は当時の世相をあらわす鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものをうみだした。儒学や藩校・私塾・寺子屋は教育の発達を促し、多くの人材を輩出したことを理解する。	18
3	3学期期末考査		2
			163

地理歴史 科 2 年		地理B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	地理B	対象	特進理系	コース	単位数
教科書	新詳地理B，新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新編地理資料 2019（とうほう），'19 新地理の研究（啓隆社），地理統計要覧 2019（二宮書店） 地理B用語集（山川出版社）				

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に，現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し，現代世界の地理的認識力を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め，それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たす。	現代世界の地理的事象から課題を見だし，それを系統地理的に考察したり，歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし，国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断する。	地図や統計，画像など地域に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して，読み取り，図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し，その知識を身に着ける。
評価の 方法	・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
	Ⅱ-1-1 ○世界の地形	○営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し，人間生活との関わりを考察する。	7
	Ⅱ-1-2 ○世界の気候	○気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し，人間生活への影響を考察する。	8
5	Ⅱ-1-3 ○日本の自然の特徴や人々の生活	○日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに，防災のあり方を考察する。	3
	<1 学期中間テスト>		
	Ⅱ-1-4	○成因や特徴と対策，地域的な分布を大観し，各事例を考察す	3

6	○環境問題 II-2-2 ○世界の農林水産業 II-2-3 ○世界の食糧問題 <1 学期期末テスト>	る。 ○農業地域区分やその現状と課題、及び世界の中での日本の課題を考察する。 ○世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察する。	7 3
7	II-2-4	○エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。	5
8	○世界のエネルギー・鉱産資源		
9	II-2-5 ○資源・エネルギー問題 II-2-6 ○世界の工業 II-2-7 ○第3次産業	○資源・エネルギー問題を大観し、その現状を理解するとともに、生産や消費が抱える課題を考察する。 ○工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。 ○現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察する。	5 5 3
10	II-2-8 ○世界を結ぶ交通・通信 II-3-1 ○世界の人口 <2 学期中間テスト>	○交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。 ○世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。	4 3
	II-3-2 ○人口問題	○世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。	3
11	II-3-3 ○村落と都市 II-3-4 ○都市・居住問題 II-4-1 ○生活文化 III-2-11 ○オセアニア地誌 <2 学期末テスト>	○村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。 ○世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、各国の事例をもとに考え、解決策を考察する。 ○衣食住を取り上げ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。 ○オセアニアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	5 4 3 5
12	III-2-9	○アングロアメリカの自然、産業、文化などを理解・考察する。	5
1	○アングロアメリカ地誌		
	III-2-2 ○東アジア地誌	○東アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	5
2	III-2-3	○東南アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	4
	○東南アジア地誌 III-2-4 ○南アジア地誌 <学年末テスト>	○南アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	4

公民科 2 年 倫理 年間授業計画（シラバス）						
科目名	倫理	対象	特進文系	コース	単位数	2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院	
副教材	完全MASTERセンター試験倫理問題集新訂版・最新図説倫理					

1 学習の到達目標

- ① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
- ② 人格形成に努める実践的意欲を高める。
- ③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深める。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付ける。
評価の方法	・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

- A. 定期考査の点数8割
- B. 平常点20点
 - ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
 - ・学期ごとのワーク提出,課題提出等

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	科目・年間進度及び評価について (学習方法習得体験授業)	初めて「倫理」を学ぶにあたっての説明と体験学習を行う。	1
	第1編現代に生きる自己の課題	人間とは何か。青年期の意義や心理について考える。	4
	第1章人間とは何か		
	第2章青年期の課題と自己形成	自己実現に向けた青年期の課題について考える。	
5	第2編 人間としての自覚と生き方		
	第1章 人生における哲学	・単なる知識の羅列に終わることなく、「生き方」の問題を考える。	5
	1 神話から哲学へ	・神話・自然哲学・ソフィスト	
	2 ギリシャの思想	・ソクラテス・プラトン・アリストテレス	
	1学期中間試験 (P. 6～35)	・ゼノン・エピクロス	
	3ヘレニズム時代の思想		
6	第2章 人生における宗教		
	第1節 キリスト教	・ユダヤ教・キリスト教・イスラームの基礎的内容を学習し西洋人の宗教観を理解する。細部には立ち入らず、それぞれの宗教を生み出した背景や西洋人の考え方などを理解し正しい宗教観を身に付ける。	4
	1 ユダヤ教		
	2 キリスト教		
	3 世界宗教への展開		
	第2節 イスラーム		1
	第3節 仏教	・仏教の基礎を学習し、東洋人の宗教観を理解する。	5
	1 バラモン教	仏教の根本的な考え方を理解し西洋の宗教観との相違点についても把握する。	
	2 仏陀の思想		
	3 仏教のその後の展開		
7	1学期期末試験 (P. 35～60)	・儒家・道家の中国思想の学習を通して東洋における人間関係のあり方や道徳観の考え方を理解する。	5
	第2編 第3章 人生の知恵		
	1 孔子と儒家の思想		
	2 儒教の展開		
	3 道家の思想		
8	第4章 人生における芸術	プリントを活用し、芸術と人生の価値や方向づけについての関連性を考える。	1
9	第3編 現代社会と倫理		
	第1章 現代の特質と倫理的課題		2
	第2章 現代に生きる人間の倫理	近代についての理解を図り、二つのR(ルネサンス・宗教改革=Reformation)についての導入とする。	7
	第1節 人間の尊厳		
	1 自己肯定の精神		
	2 宗教観の転換	・二つのR(ルネサンス・宗教改革)を経て、近代合理主義精神が芽生えたことを理解する。	
	3 人間の偉大と限界	・宗教戦争を背景に登場してきたモラリストを通して人言の在り方・生き方について考える。	
	ルネサンス		
	宗教改革		
	モラリスト		
10	2学期中間考査 (P. 61～89)		

11	第2節 自然や科学技術とのかかわり 1 自然への目と科学的なものの見方 近代科学の誕生	・近代西洋における合理的・科学的精神を理解し、かつ東洋思想との相違についても考える。	6
	経験論・合理論 第3節 民主社会における人間の在り方 社会契約説	・近代西洋哲学における経験論・合理論の比較を通して思想内容の違いを理解する。	2
	第4節 自己実現と幸福 ドイツ観念論	・市民革命による絶対王政の打破と民主主義社会の歩みを、社会契約説を通して理解する。 ・自律としての自由カント／善意と目的の国 ・自由や人格の尊厳の意味について考えよう。自己実現と自由ヘーゲル／絶対精神の目的と自由／弁証法／人倫と自由の実現 ・カントとヘーゲルの思想の違いを理解する。	9
	2学期期末考查 (P. 90～109)		
	功利主義 プラグマティズム 第5節 個人と社会との関わり 社会主義	・最大多数の最大幸福 ベンサム／不満足なソクラテス ミル ・社会の進歩改善を目指した思想家の幸福観を考える。 プラグマティズム／民主主義の実現と幸福デューイ 人間疎外の原因 マルクス／唯物史観 空想的社会主義・科学的社会主義・修正マルクス主義について段階的に理解を図る。 自己を見つめる キルケゴール／実存的交わりヤスパース ニヒリズムを超えて／神の死と超人 ニーチェ／死への存在 ハイデッガー ・内面的な主体性の回復を目指した思想家の思想を考える。 ・孤独な実存に目覚め、他者との連携を図る重要性を知る。 ・本来的自己を回復し、疎外を克服する大切さを知る。 自由と責任 サルトル	9
12	実存主義		
1			
2			
3		実践演習 (プリント)	
	学年末考查 (P. 110～139)		2

地理歴史 科 3 年 日本史B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	日本史B	対象	スポーツ	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』 出版社 山川出版社				
副教材	『プロムナード日本史』（浜島書店） 『ゼミナール日本史』（浜島書店）				

1 学習の到達目標

- ② 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果たす。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取り、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・ノート・プリント・問題集など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス（体験学習等） 第6章 幕藩体制の確立 3 幕藩体制の成立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャー 初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。 4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	14
5	2 経済の発達 1学期中間考査 3 元禄文化 第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 元禄文化の特色である現実主義と実証主義の傾向を文学や学問の発達から学習する。享保の改革・寛政の改革・田沼政治の特色をまとめ比較し、その相違を学ぶ。	16

6	2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 1学期期末考査	大塩の乱の発生や天保の改革の失敗は幕府権力の衰退を示すことを学習する。古典研究が始まる国学が次第に反幕府の指導的理念になっていくこと、および藩校・私塾・寺子屋が教育の発達に大いに役立ったことを学習する。	1 7
7	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱	・開国問題と将軍継嗣問題が複雑に絡み合い、大名が幕府派と一橋派に分かれ争ったこと、及び松田門外の変以後、朝廷も巻き込んだ公武合体派と尊王攘夷派に分かれて争った経緯を学習する。	8
8	学力テスト		1
9	2 明治維新と富国強兵 基礎学力到達度テスト	五箇条の誓文、政本書のもつ開明性と五榜の掲示の封建制を比較することにより新政府の特質を学ぶ。 基礎学力到達度テスト対策	1 7
1 0	3 立憲国家の成立と日清戦争 2学期中間考査 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発達 6 近代文化の発達	自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を学ぶ。 大日本帝国憲法の制定過程と内容、及び日本国憲法との相違を学ぶ。 日露戦争は帝国主義国間の対立を背景に戦われたこと、日本国民は開戦論を論議し傾いていったことを学ぶ。 日本資本主義の発展とともに社会問題があらわれたことを学ぶ。 日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。	1 7
1 1	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2学期期末考査	日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。 近代国家の建設とともに西欧文化の影響を受け、文学・美術・建築様式などに新しい傾向が見られるようになったことを学ぶ。	1 7
1 2	6 第二次世界大戦	第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけて、変化する国際情勢を学ぶ。 西欧の帝国主義型発展の帰結として植民地争奪戦争が起きた。西欧社会を模範としてきた日本もその対立のなかに関わっていくことを学ぶ。	4
			1 0 9

地理歴史 科 3 年						地理B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	地理B		対象	スポーツ コース		単位数	4 単位		
教科書	新詳地理B, 新詳高等地図					出版社	帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2018（帝国書院），チャレンジワーク地理（学研）								

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域の歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識力を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たす。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取り、図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に着ける。
評価の 方法	・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
	Ⅲ-2-3 ○東南アジア地誌	○東南アジアの地誌を地域性に着目して理解する。	5
	Ⅲ-2-4 ○南アジア地誌	○南アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	5
5	Ⅲ-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	○西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	5
	Ⅲ-2-6 ○アフリカ地誌 <1 学期中間テスト>	○アフリカの地誌を地域性に着目して理解する。	5

6	III-2-7 ○ヨーロッパ地誌	○ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する。	5
	III-2-8 ○ロシア地誌	○ロシアの地誌を地域性に着目して理解する。	5
	III-2-9 ○アングロアメリカ地誌	○アングロアメリカの地誌を多様性に着目して理解する。	5
	III-2-10 ○ラテンアメリカ地誌	○ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する。	5
7	<1 学期期末テスト>		
8			
9	*基礎学力到達度テスト問題演習	○基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う。	14
10	*諸地域の抱える課題について <2 学期中間テスト>	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察する。	14
11	*諸地域の抱える課題について <2 学期期末テスト>	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察する。	14
12	*諸地域の抱える課題について	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察する。	8

公民 科 3 年		現代社会		年間授業計画（シラバス）	
科目名	現代社会	対象	スポーツ	コース	単位数
教科書	『現代社会』 出版社 東京書籍				
副教材	ライブ！現代社会 2017（帝国書院），要点マスター現代社会演習ノート（東京書籍）				

1 学習の到達目標

- ①人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する力を養う。
- ②自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代社会の基本的問題と人間に関わる事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深める。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4 月	ガイダンス 学習方法習得体験学習 第4章 現代の経済と国民福祉	・学習方法, 年間進度を確認する。 ・体験学習を通じて学習方法を学ぶ。	1 学期 23 時間
5 月	1 経済のしくみ 〈1 学期中間テスト〉	①経済社会の変容 ②現代の企業 ③市場経済のしくみ ④国民所得と経済成長 「産業革命」による技術革新に伴う社会の様々な変化や, 企業, 市場経済の仕組みについて理解する。価格の働き働きを理解し, 独占や寡占, 市場の失敗について考察する。経済指標, 経済成長について理解し, 景気変動について考察する。	
6 月	2, 変化する日本経済	⑤金融のしくみと働き ⑥中央銀行の役割と金融の自由化 ⑦政府の役割と財政 金融政策, 財政制度について理解し, 市場や金融, 財政の課題について, 幸福, 正義, 公正の観点から考察する。金融政策, 財政制度について理解し, 日本の財政をめぐる諸課題を考察する。	
7 月	〈1 学期期末テスト〉	①戦後復興と高度経済成長 戦後の日本経済と高度経済成長の要因について理解する。	
8 月		②産業構造の転換と国際経済環境の変化 ③経済のバブル化とその後 ④日本経済の現在 ⑤中小企業と農家	
9 月	2, 変化する日本経済	戦後の日本経済と高度経済成長の要因について理解する。石油危機を契機とした, 産業構造の転換, プラザ合意について理解し, バブル景気発生から崩壊まで, そのしくみや要因, 影響, 対応について理解する。バブル景気崩壊後の日本経済について考え, 日本経済が直面する現状と課題について考察する。	
10 月	〈2 学期中間テスト〉	日本の中小企業が抱える問題, 農業問題, バブル景気崩壊後の日本経済について学び, 日本経済が直面する現状と課題について考える。	
11 月	3, 豊かな生活の実現	①自立した消費者への道 ②労働者の権利 ③現代の雇用・労働問題 ④社会保障の役割 ⑤環境保全と循環型社会 消費者の権利と問題点, 労働者の権利と問題点について理解し, 雇用形態の実態と問題点について理解する。社会保障の意義を考え, 日本の社会保障制度と抱える問題点について理解する。日本の公害の歴史, その変遷や対策について考える。	
12 月	〈2 学期期末テスト〉	国際経済の仕組みと動向や現代の諸課題について視聴覚教材やグループ学習を通じて主体的に学ぶ。	
	視覚教材・グループ学習等		

地理歴史 科 3 年 世界史B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	世界史B	対象	進学Ⅰ・Ⅱ	コース	単位数 4 単位
教科書	詳説世界史B 出版社 山川出版社				
副教材	世界史図説4冊（帝国書院），ゼミナール世界史（浜島書店），世界史B用語集（山川出版），チャレンジワーク（学研）				

1 学習の到達目標

① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けなどから理解する。
② 文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる国民としての自覚と資質を養う。
② 世界の歴史の学習を通して客観的で公正なものの見方を育成するとともに、広い視野から歴史を考察する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果たす。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割，平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ヨーロッパ主権国家体制の展開 予習復習体験学習 1. 主権国家体制 2. ヨーロッパ諸国の海外進出	・学習のねらい・世界史の授業について・評価方法について説明 ・ヨーロッパ絶対王政の特色を理解し、各国の国家体制の成立過程を理解する。イギリスにおける立憲政治の発達を学ぶ一方、ヨーロッパ各国が植民活動を進めていく状況を理解する。	1
5	3. 17～18世紀のヨーロッパ文化	・産業革命、アメリカ独立など18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業革命と国民国家の形成を理解する。	18

6	近代ヨーロッパ・アメリカ 世界の成立 1. 産業革命 2. アメリカ独立革命 1 学期中期考査 3. フランス革命	範囲・・ユグノー戦争～フランス革命 ・フランス革命とナポレオンの政治を通じて、近代思想が確立したことを理解する。	20
7	欧米における近代国民国 家の発展 1・ウィーン体制の成立 2. ヨーロッパの再編と列 強体制の緩和	・ウィーン体制の成立とヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。	20
9	3. 南北アメリカの発展 4. 19 世紀の欧米文化 1 学期期末考査	・アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展とラテン＝アメリカの独立を理解する。	
10	アジア諸地域の動揺 1・オスマン帝国支配の動 揺とアラブのめざめ 2・南アジア・東南アジア の植民地化 3・東アジアの激動	・西アジアにおけるオスマン帝国の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン・アフガニスタンの動向を理解する。 ・東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。 ・ヨーロッパ諸国の干渉による清王朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。	19
11	帝国主義とアジアの民族 運動 1・帝国主義と列強の展開 2・世界分割と列強の対立 3. アジア諸国の改革と民 族運動 2 学期中間考査 二つの世界大戦 1・第一次世界大戦とロシ ア革命 2・ヴェルサイユ体制下の 欧米諸国 3. アジア、アフリカ民族 主義の進展 4・世界恐慌とファシズム 諸国の侵略 5・第二次世界大戦 冷戦と第三世界の自立 2 学期期末考査	範囲・・オスマン帝国の動揺～西アジアの民族運動 ・帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。 ・欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。 範囲・・オスマン帝国の動揺～西アジアの民族運動 ・第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20世紀の変動の基点となったことを理解する。 ・国際協調を基調としたヴェルサイユ体制を理解する。 ・中国や東南アジア諸国、西アジア諸国、アフリカの民族運動の展開を理解する。 ・世界恐慌後、国際的な緊張が高まる時代を理解する。 ・大戦に至る過程と戦争規模の拡大、米ソ国際的地位の高まりを理解する。 ・戦後、米ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。	

地理歴史 科 3 年 日本史A 年間授業計画（シラバス）					
科目名	日本史A	対象	進学	I・IIコース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A 人・くらし・未来			出版社	第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
評価の 内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果たす。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の 方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 3回の定期考査8割、平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンスおよび満州事変と軍部の台頭	・ 関東軍による中国東北地方の支配の背景と過程を学び、日本の国際的孤立化と太平洋戦争への道を理解する	4
5	三国防共協定と日中戦争	・ イタリア、ドイツに接近し三国防共協定を締結し、国際的孤立化の過程を理解する。	3
6		・ 盧溝橋事件をきっかけに第2次国共合作が成立し宣戦布告なきに日中戦争に突入していく過程を理解する。	3
7	【一学期期末考査】	・ 日米交渉の破たん太平洋戦争への過程を理解する	
8	アメリカとの開戦	・ 日本、ドイツ、イタリアの敗色の強まりと連合軍による	
9	ヨーロッパと太平洋上の	戦後構想の構築の過程を理解する。	3
10	戦線拡大	・ ポツダム宣言の受諾によって無条件降伏した日本の戦後	3
11	日本の敗戦 【二学期期末考査】	を理解する	3

地理歴史 科 3 年 日本史B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	日本史B	対象	進学Ⅰ・Ⅱ	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』 出版社 山川出版社				
副教材	『日本史B用語集』（山川出版社） 『プロムナード日本史』（浜島書店） 『チャレンジワーク日本史』（学研）				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果たす。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・ノート・プリント・問題集など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス（体験学習等） 第6章 幕藩体制の確立 3 幕藩体制の成立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャーを行う。 初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。 4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	14
5	2 経済の発達 1学期中間考査 3 元禄文化 第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 元禄文化の特色である現実主義と実証主義の傾向を文学や学問の発達から学習する。享保の改革・寛政の改革・田沼政治の特色をまとめ比較し、その相違を学ぶ。	16

6	2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 1学期期末考査	大塩の乱の発生や天保の改革の失敗は幕府権力の衰退を示すことを学習する。古典研究が始まる国学が次第に反幕府の指導的理念になっていくこと、および藩校・私塾・寺子屋が教育の発達に大いに役立ったことを学習する。	1 7
7	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱	・開国問題と将軍継嗣問題が複雑に絡み合い、大名が幕府派と一橋派に分かれ争ったこと、及び松田門外の変以後、朝廷も巻き込んだ公武合体派と尊王攘夷派に分かれて争った経緯を学習する。	8
8	学力テスト		1
9	2 明治維新と富国強兵 基礎学力到達度テスト	五箇条の誓文、政本書のもつ開明性と五榜の掲示の封建制を比較することにより新政府の特質を学ぶ。 基礎学力到達度テスト対策	1 7
10	3 立憲国家の成立と日清戦争 2学期中間考査 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発達 6 近代文化の発達	自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を学ぶ。 大日本帝国憲法の制定過程と内容、及び日本国憲法との相違を学ぶ。 日露戦争は帝国主義国間の対立を背景に戦われたこと、日本国民は開戦論を論議に傾いていったことを学ぶ。 日本資本主義の発展とともに社会問題があらわれたことを学ぶ。 日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。	1 7
11	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2学期期末考査	日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。 近代国家の建設とともに西欧文化の影響を受け、文学・美術・建築様式などに新しい傾向が見られるようになったことを学ぶ。	1 7
12	6 第二次世界大戦	第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけて、変化する国際情勢を学ぶ。 西欧の帝国主義型発展の帰結として植民地争奪戦争が起きた。西欧社会を模範としてきた日本もその対立のなかに関わっていくことを学ぶ。	4
			109

地理歴史 科 3 年						地理B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	地理B		対象	進学文系 I・IIコース		単位数	5単位		
教科書	新詳地理B, 新詳高等地図					出版社	帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2018（帝国書院），チャレンジワーク地理（学研）								

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識力を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果す。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取り、図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に着ける。
評価の方法	・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
	III-2-2 ○東アジア地誌	○東南アジアの地誌を地域性に着目して理解する。	6
	III-2-4 ○南アジア地誌	○南アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	6
5	III-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	○西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	5
	III-2-6 ○アフリカ地誌 <1学期中間テスト>	○アフリカの地誌を地域性に着目して理解する。	6

6	III-2-7 ○ヨーロッパ地誌	○ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する。	7
	III-2-8 ○ロシア地誌	○ロシアの地誌を地域性に着目して理解する。	6
	III-2-9 ○アングロアメリカ地誌	○アングロアメリカの地誌を多様性に着目して理解する。	6
	III-2-10 ○ラテンアメリカ地誌	○ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する。	7
7	<1 学期期末テスト>		
8			
9	*基礎学力到達度テスト問題演習	○基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う。	18
10	*諸地域の抱える課題について <2 学期中間テスト>	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察する。	18
11	*諸地域の抱える課題について <2 学期期末テスト>	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察する。	18
12	*諸地域の抱える課題について	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察する。	10

地理歴史 科 3 年		地理A		年間授業計画（シラバス）	
科目名	地理A	対象	進学理系 I・IIコース	単位数	2単位
教科書	高等学校 新地理A, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2019 (帝国書院)				

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識力を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たす。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に着ける。
評価の 方法	・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス 1-1-1 ○地球上の位置と国家	○1年間の進め方 予習復習について [学習内容] 地図と地球儀 図法 時差 領域 国家 [ねらい] 地球に関する基礎事項を学ぶ。	1 7
5	1-1-2 ○グローバル化が進む世界 <1学期中間テスト>	[学習内容] 貿易 交通と通信 観光 [ねらい] グローバル化を貿易、交通や通信などから捉える。	6
6	1-2-1 ○人々の生活と地形	[学習内容] プレートテクトニクス 大地形 小地形 [ねらい] 大地形、小地形の形成要因を理論的に学習する。	7
	1-2-2 ○人々の生活と気候	[学習内容] 気候区分 地域特性 植生 土壌 人々の生活 [ねらい] 気候要素など、気候に関する基礎事項を理解する。	7

7	<1 学期期末テスト>		
8	1-2-3	[学習内容] 農業 工業 生活と文化のかかわり	7
9	○人々の生活と産業・文化	[ねらい] 生活と文化のかかわりを産業面から捉える。	
10	<2 学期中間テスト>		
	1-3-11	[学習内容] オーストラリアの自然, 産業, 文化	6
	○オーストラリアの生活・文化	[ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。	
11	1-3-9	[学習内容] アングロアメリカの自然, 産業, 文化	6
	○アングロアメリカの生活・文化	[ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。	
	<2 学期期末テスト>		
12	1-3-3	[学習内容] 東南アジアの自然, 産業, 文化	6
	○東南アジアの生活・文化	[ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。	

公民 科 3 年 倫理 年間授業計画（シラバス）						
科目名	倫理	対象	進学文系	コース	単位数	2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院	
副教材	高等学校新倫理新訂版ワーク・3ステップス倫理研究ノート問題集・最新図説資料集					

1 学習の到達目標

- ① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
- ② 人格形成に努める実践的意欲を高める。
- ③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深める。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付ける。
評価の方法	・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

A. 定期考査の点数8割

B. 平常点20点

- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
- ・学期ごとのワーク提出
- ・夏・冬の課題提出など

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ドイツ観念論 功利主義 プラグマティズム 第5節 個人と社会との関わり 社会主義	・カントとヘーゲルの思想の違いを理解する。 ・最大多数の最大幸福 ベンサム／不満足なソクラテス ミル ・社会の進歩改善を目指した思想家の幸福観を考える。 プラグマティズム／民主主義の実現と幸福デューイ 人間疎外の原因 マルクス／唯物史観	6
5	実存主義 第4編 第1章 日本の風土と外来思想の受容 1 学期中間考査 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入 2 仏教の土着化	自己を見つめる キルケゴール／実存的交わりヤスパース ニヒリズムを超えて／神の死と超人 ニーチェ／死への存在 ハイ デッガー／自由と責任 サルトル ・古代日本人の信仰や風土について理解を深め、江戸時代の国学につ いても復習という観点で触れる。 ・仏教と日本人の思想形成 ・奈良・平安・鎌倉仏教についてそれぞれ学習し、これを通して日本 人の宗教観・思想形成がどのようになされたかを理解する。 ・江戸時代に儒教がどのように解釈されたか、また日本古来の思想が どのように説かれたかを理解する。	7
6	第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学 第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触	・江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解させる。 ・「幽玄」「わび」「さび」について、能・茶の湯・俳諧と具体的な 作品を通してその理念を理解する。 ・本居宣長を中心として国学について理解する。 ・石田梅岩の石門心学を通じて営利活動の肯定と経済活動の発達に ついて考える。 ・安藤昌益、二宮尊徳 ・時代が大きく動いた幕末から明治にかけて、先人がいかに考え、行 動したかを理解する。 ・近代国家成立の過程において、先人が個人と国家の関係をどのよう にとらえたかを理解する。	8
7	1 学期期末考査 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省 第2章 現代日本と日本人としての 自覚	・西洋近代思想をささえる精神としてのキリスト教を受け入れた先 人の信仰と考え方を理解する。 ・近代化をすすめる明治期の日本のあり方について、国家主義や国粹 主義そして社会主義の立場で模索した先人の考え方を理解する。 ・文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の近代的自 我へのめざめの動きを把握する。 ・西欧に範を取った日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求めて 苦闘した思想家のあゆみを理解する。	6
8	新たな価値観の模索 現代日本と私たちの課題 第3編 5・6節 主体性の確立（P. 120～）	・坂口安吾や丸山真男の著作や活動を通して、第二次世界大戦後の日 本の新たな価値観の模索について把握する。 他者への共感／マザー＝テレサとボランティア 生命への畏敬 無意識の領域	3
9	他者への奉仕 第6節 現代における理性の問題 現代における理性の見直し 科学観の変換	・経験的事実に基づく知識が、確実な学問的知識であることを知る。 ・「生命への畏敬」とはどのような考えか、また社会福祉とは何かを考え、今 の民主社会の諸課題を探る。 近代の理性主義に対する見直しや科学観の転換がどのように為されて現代 哲学が展開したのかを探る。実践演習（プリント）	8

10	日本大学基礎学力到達度テスト対策 演習	それぞれのテーマについて,倫理の総復習として位置付け,プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ,多角的に取り組ませ,理解の深化を図る。 出題範囲である第1編から第4編までの総復習と問題演習に取り組み,到達度テスト対策を行う。 『3ステップス倫理研究ノート問題集』を活用させながら2年次より履修した全範囲の演習をおこなう。(2年次以降3年次7月までの履修完了範囲は夏季休暇中の課題とする)	7
11	2学期中間考査 第5編 現代の諸課題と倫理 演習	それぞれのテーマについて,倫理の総復習として位置付け,プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ,多角的に取り組ませ,理解の深化を図る。 『3ステップス倫理研究ノート問題集』を活用させながら履修した全範囲の演習をおこなう。	8
12	2学期期末考査		

公民 科 3 年						政治経済		年間授業計画（シラバス）	
科目名	政治経済		対象	進 学		コース	単位数	3 単位	
教科書	『高等学校 新政治・経済 新訂版』					出版社	清水書院		
副教材	『3ステップス 政治・経済研究ノート』（東京書籍）								

1 学習の到達目標

- ① 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。
- ② 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。
- ③ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について主体的に考察する。
- ④ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について公正に判断できる力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察する。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付ける。
評価の 方法	・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・課題など）2割

学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
5	・ガイダンス 第2編現代の経済 第1章 現代経済の特質	・今年度の学習の仕方等を確認する。また、受験に向けての心構えについて考える 1年次に学習した内容の総復習（経済分野） 経済活動の意義／経済思想／経済主体／価格と市場／市場機構の限界 41 現代の企業 42 物価変動と国民生活 43 経済成長と景気変動 44 政府の経済的役割 45 租税と国際 46 日本財政の課題 47 貨幣の役割と金融 48 金融市場と金融政策 49 金融環境の変化 現代企業の主要な形態や構造、諸問題について考察する。物価変動が暮らしに与える影響や、景気の安定に向けた、政府や中央銀行の政策について理解し、現代の財政政策、金融政策について考察する。 貨幣にはどのような役割があるか、具体的に理解させ金融について考える。また金融の自由化とは何か、金融の自由化によって何が変わったか、理解する。	1 学期 35 時間
6	〈一学期中間考査〉	50 戦後の日本経済のあゆみ 51 農業と食糧問題 52 中小企業 53 情報化の進展・サービス産業 54 公害・環境問題 55 消費者問題 56・57 労働問題 58・59 社会保障制度 日本の経済史について理解した上で、日本が抱える諸問題について考える。第二次世界大戦後の農業政策の変遷、中小企業が日本経済の中で占めている地位と期待されている役割、情報化の進展とサービス産業の進展について考える。 公害問題や環境問題についてその原因について理解しその対策について考察する。 現代社会が抱える消費者問題、労働問題について理解し、その解決方法について考える。 世界の社会保障制度と日本の社会保障制度を比較しその概要を理解し、日本の社会保障制度はどのような課題に直面しているか、財源と医療・介護・福祉サービスの質と量の確保の観点から、考察する。	
7	第2章 現代の日本経済	〈一学期期末考査〉	
8	第1編 現代の政治	28 国際社会の形成 29 国際法の進展 30 国際連盟／国際連合 31 国際連合の機能と課題 32 冷戦期の国際政治 33 現代の国際政治 34 核兵器と軍縮の動き 35 国際社会における日本の役割 国際社会形成の歴史や国際法の概念、国際政治における国際連合の役割について理解する。また、冷戦を経ての刻社債社会が抱える問題を理解しと、日本の役割について考察する。	
9	国際政治と日本 〈二学期中間考査〉	60 貿易と国際経済 61 貿易の意義と課題 62 国際収支の仕組みと現状 63 為替相場の仕組みと意義 64 戦後の国際経済 65 IMF・WTO 66 国際的な経済格差 67 地球環境問題 68 エネルギー問題 69 地域的経済統合 70 国際経済における日本の役割 グローバリゼーションの進展により各国経済間の相互依存と一体化が深まっている状況を、具体的な事例を通して理解させる。国際分業について理解し貿易の意義について考える。国際収支について理解する。第二次世界大戦後の国際通貨体制とIMFWTOについて理解するとともに、南南問題、南北問題、地域的経済統合について考察する。 現代社会が抱える地球規模の諸問題について考え、その解決方法について考察するとともに、日本の役割について考える。	
10	第2編 現代の経済 第3章 国際経済と日本	〈二学期期末考査〉	2 学期 45 時間
11	第3編 現代の政治・経済の諸課題	現代の諸課題について、グループワーク、レポート作成によって理解を深め、その解決方法について考察する。	
12			

地理歴史 科 3 年 世界史 B 年間授業計画（シラバス）						
科目名	世界史 B	対象	特進文系	コース	単位数	3 単位
教科書	詳説世界史 B〔改訂版〕 出版社 山川出版社					
副教材	最新世界史図説タペストリー〔十五訂版〕（帝国書院） ゼミナール世界史（浜島書店） 短期攻略センター世界史 B〔改訂版〕（駿台文庫） 世界史 B用語集（山川出版社）					

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けて構造的に理解する。
- ② 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性を、諸地域世界の接触や交流に着目して考察する。
- ③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代社会の特質を様々な要素の関連の中で考察する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に課題を考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取り、図表などにまとめる。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 単元テスト ノート提出	定期考査 単元テスト	定期考査 単元テスト 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・単元テスト・ノート提出・課題提出） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習 [第 10 章] フランス革命とナポレオン	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明する。 ・大学入試センター試験、及び個別学力試験を念頭に置き、世界史の学習方法を体得する。 ・フランス革命の展開とナポレオンの事績に触れ、革命とナポレオン帝政の特色、及びそれらがもたらした国民国家の理念について理解する。	1 1 4

5	[第 11 章] 欧米における近代国家の発展 【一学期中間考査】	・19 世紀における欧米世界の歴史の大きな枠組みと展開に触れ,ウィーン体制下の各地における国民統一国家の形成,アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争の特色,ラテンアメリカ諸国の独立,及び 19 世紀の欧米文化について理解する。	1 2
6	[第 12 章] アジア諸地域の動揺	・西アジア（オスマン帝国・アラブ世界）,南アジア（インド）,東アジア（清・朝鮮・日本）などの動向に触れ,ヨーロッパ諸国のアジアへの進出と,それに端を発したアジア諸地域の政治・社会・文化の変容について理解する。	1 2
7	[第 13 章] 帝国主義とアジアの民族運動 【一学期期末考査】	・ヨーロッパ諸国によるアフリカ・アジア・太平洋・カリブ海地域への進出とイスラーム世界やインド・中国,ラテンアメリカ地域の動向に触れ,帝国主義の背景・展開・国内政治の様子,及びアジア・アフリカでの民族運動について理解する。	1 2
8	[第 14 章]		
9	二つの世界大戦	・総力戦としての二つの世界大戦を中心に,ロシア革命とソヴィエト連邦の成立,大衆社会の出現とファシズム,世界恐慌と資本主義の変容,アジア（中国・インド・イスラーム世界）・アフリカの民族運動に触れ,20 世紀前半の世界の動向と社会の特質について理解する。	1 2
10	【二学期中間考査】		
	[第 15 章] 冷戦と第三世界の自立	・米ソ両陣営による冷戦の展開,戦後の復興と経済発展,アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題,平和共存の模索などに触れ,第二次世界大戦後から 1960 年代までの世界の動向について理解する。	9
11	[第 16 章] 現代の世界 【2 学期期末考査】	・市場経済のグローバル化とアジア経済の成長,冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体,地域統合の進展,知識基盤社会への移行,地域紛争の頻発,環境や資源・エネルギーを巡る問題などに触れ,1970 年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について理解する。	9
12	[センター試験対策]	・センター試験過去問題集・実践問題集を活用し,センター試験対策学習会をおこなう（適宜復習を並行する）。	
1			
2	[個別学力試験対策]	・二次試験受験者を対象に,受験指導をおこなう。	

地理歴史 科 3 年 日本史A 年間授業計画（シラバス）					
科目名	日本史A	対象	特進文系	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A 人・くらし・未来			出版社	第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
評価の 内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果たす。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の 方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 3回の定期考査8割、平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンスおよび満州事変と軍部の台頭	・ 関東軍による中国東北地方の支配の背景と過程を学び、日本の国際的孤立化と太平洋戦争への道を理解する	4
5	三国防共協定と日中戦争	・ イタリア、ドイツに接近し三国防共協定を締結し、国際的孤立化の過程を理解する。	3
6		・ 盧溝橋事件をきっかけに第2次国共合作が成立し宣戦布告なきに日中戦争に突入していく過程を理解する。	3
7	【一学期期末考査】		
8	アメリカとの開戦	・ 日米交渉の破たん太平洋戦争への過程を理解する	3
9	ヨーロッパと太平洋上の	・ 日本、ドイツ、イタリアの敗色の強まりと連合軍による	3
10	戦線拡大	戦後構想の構築の過程を理解する。	
	日本の敗戦	・ ポツダム宣言の受諾によって無条件降伏した日本の戦後	
11	【二学期期末考査】	を理解する	3

地理歴史 科 3 年 日本史B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	日本史B	対象	特進文系	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』 出版社 山川出版社				
副教材	日本史の整理と演習（とうほう） プロムナード日本史（浜島書店） 日本史B用語集（山川出版社） 短期攻略 センター日本史B 改訂版（駿台文庫）				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果たす。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取り、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・ノート・プリント・問題集など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス（体験学習等） 第7章 幕藩体制の展開 3 元禄文化 第8章幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャーを行う。 江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 工場制手工業（マニュファクチュア）の発達など軽工業の分野における経済の発達と、藩財政の建て直しから雄藩と呼ばれ幕末に反幕勢力の中心となる藩の発生について理解する。 化政文化の多様性について学ぶ。 文学は当時の世相をあらわす鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものをうみだした。儒学や藩校・私塾・寺子屋は教育の発達を促し、多くの人材を輩出したことを理解する。	14
5	第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 1学期中間考査 2 明治維新と富国強兵	長州藩と薩摩藩の行動を対比させながら、尊攘運動を考察する。また、尊攘派志士の背後に豪農豪商層がいたことを理解する。 五箇条の御誓文、政体書のもつ開明性と五榜の揭示の封建性の矛盾を検討することによって新政府の性格を理解する。	16

6	3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展	自由民権運動の思想的背景及びその階級性格、意義を考察する。 日露戦争は帝国主義国間の対立を背景にして戦われたこと、及び日本国民の大多数は支配層の開戦強硬論に動かされていたことを理解する。日本資本主義の発展とともに社会問題が現れたことを理解する。	17
7	1 学期期末考査 6 近代文化の発達	日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを理解する。	8
8	学力テスト		1
9	第10章 近代日本とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民文化	政党・ジャーナリストは民衆の政治的成長を背景に護憲運動を起こし、閥族支配を動揺させたことを理解する。 第2次護憲運動の結果、護憲三派内閣が成立し、普通選挙法が成立したが、無産階級の台頭を恐れる政党は治安維持法を制定して社会運動に弾圧を加えたことを理解する。 民衆勢力の台頭によって文化が少数の特権階級の独占物ではなくなり、いわゆる大衆文化が成立した点に留意する。	17
10	4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2 学期中間考査 6 第二次世界大戦	戦後恐慌・金融恐慌・世界恐慌と次々に恐慌に見まわれ、ついに深刻な昭和恐慌に突入し、日本は対外侵略の道を歩むことになることを理解する。 満州事変に始まる日本の大陸進出の過程を通じて、世界の中における日本の立場が孤立していったことを理解する。 日本の中国進出政策がさらに南方進出政策へと拡大され、日中戦争から太平洋戦争へと展開していった過程について理解する。	17
11	第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺 2 学期期末考査	財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解する。 朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期には民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも注目する。 保守党優位の政治体制がもたらしたものを考える。 経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討する。 日中共同声明の意義について検討する。 我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることをはっきりと理解する。	17
12			107
	演習		

地理歴史 科 3 年		地理B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	地理B	対象	特進理系 コース	単位数	3 単位
教科書	新詳地理B，新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新編地理資料 2018（とうほう），'18 新地理の研究（啓隆社），地理統計要覧 2018（二宮書店） 地理B用語集（山川出版社），ウィニングコンパス地理（とうほう）				

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に，現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し，現代世界の地理的認識力を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め，それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たす。	現代世界の地理的事象から課題を見だし，それを系統地理的に考察したり，歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし，国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断する。	地図や統計，画像など地域に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して，読み取ったり図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し，その知識を身に着ける。
評価の 方法	・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
	Ⅲ-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	○西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	4
5	Ⅲ-2-6 ○アフリカ地誌 <1学期中間テスト>	○アフリカの地誌を地域性に着目して理解する。	5
6	Ⅲ-2-7 ○ヨーロッパ地誌	○ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する。	8

7	III-2-8 ○ロシア地誌	○ロシアの地誌を地域性に着目して理解する。	4
	III-2-10 ○ラテンアメリカ地誌 ＜1 学期期末テスト＞	○ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する。	6
8	II-4-2	○世界の民族・領土問題について、その原因や解決に向けた取り組みなどを理解する。	6
9	○民族・領土問題	○現代の地図や身近な地図について理解する。	6
10	I-1-1 ○地理情報と地図 ・現代世界の地図	○地図と地球儀の違いを理解し、地図の描画法を理解する。	3
	I-1-2 ・地図の種類と利用	○地形図の読図について理解し、読図力を身に付ける。	8
11	I-2 ○地図の活用と地域調査 *センター試験対策問題演習 ＜2 学期中間テスト＞	○センター試験に向けての問題演習を行う。	5
	*センター試験対策問題演習 ＜2 学期期末テスト＞	○センター試験に向けての問題演習を行う。	23
12			

公民 科 3 年						政治経済		年間授業計画（シラバス）	
科目名	政治経済		対象	特 進		コース		単位数	3 単位
教科書	『高等学校 新政治・経済 新訂版』					出版社	清水書院		
副教材	政治経済資料集（とうほう）					センター政治・経済	センター試験完全対応（啓隆社）		

1 学習の到達目標

- ① 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。
- ② 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。
- ③ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について主体的に考察する。
- ④ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について公正に判断できる力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養育する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で主体的な社会生活の実現と推進について客観的に考察する。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付ける。
評価の 方法	・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	・ガイダンス	・今年度の学習の仕方等を確認する。また、受験に向けての心構えについて考える。	1 学期 35 時間
5	第2編現代の経済 第1章 現代経済の特質	1 年次に学習した内容の総復習（経済分野） 経済活動の意義／経済思想／経済主体／価格と市場／市場機構の限界 現代の企業／物価変動と国民生活／経済成長と景気変動 政府の経済的役割／租税と国際／日本財政の課題 貨幣の役割と金融／金融市場と金融政策／金融環境の変化	
6		50 日本経済のあゆみ 51 農業と食糧問題 52 中小企業 53 情報化の進展・サービス産業 54 公害・環境問題 55 消費者問題 56・57 労働問題 58・59 社会保障制度 日本の経済史について理解した上で、日本が抱える諸問題について考える。第二次世界大戦後の農業政策の変遷、中小企業が日本経済の中で占めている地位と期待されている役割、情報化の進展とサービス産業の進展について考える。	
7	〈一学期中間考査〉	公害問題や環境問題についてその原因について理解しその対策について考察する。 現代社会が抱える消費者問題、労働問題について理解し、その解決方法について考える。 世界の社会保障制度と日本の社会保障制度を比較しその概要を理解し、日本の社会保障制度はどのような課題に直面しているか、財源と医療・介護・福祉サービスの質と量の確保の観点から、考察する。	
8	第2章 現代の日本経済	60 貿易と国際経済 61 貿易の意義と課題 62 国際収支の仕組みと現状 63 為替相場の仕組みと意義 64 戦後の国際経済 65 IMF・WTO 66 国際的な経済格差 67 地球環境問題 68 エネルギー問題 69 地域的経済統合 70 国際経済における日本の役割	
9	〈一学期期末考査〉	グローバリゼーションの進展により各国経済間の相互依存と一体化が深まっている状況を、具体的な事例を通して理解させる。国際分業について理解し貿易の意義について考える。国際収支について理解する。第二次世界大戦後の国際通貨体制とIMFWTOについて理解するとともに、南南問題、南北問題、地域的経済統合について考察する。	
10	第1編 現代の政治	現代社会が抱える地球規模の諸問題について考え、その解決方法について考察するとともに、日本の役割について考える。	
11	第3編 現代の政治・経済の諸課題 問題演習	第1章 民主政治の基本原則 第2章 日本国憲法と基本的人権 第3章 日本の平和主義と安全保障 第4章 日本の政治機構 第5章 現代日本の政治 第6章 国際政治と日本 1 年時に学習した「政治分野」について問題演習を通して総復習をする。	
12	〈二学期中間考査〉	現代の諸課題について、グループワーク、レポート作成によって理解を深め、その解決方法について考察する。	
	〈二学期期末考査〉	問題演習を通して知識の定着をはかる。	2 学期 45 時間

公民 科 3 年 倫理 年間授業計画（シラバス）						
科目名	倫理	対象	特進文系	コース	単位数	2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院	
副教材	高等学校新倫理新訂版ワーク・完全 MASTER センター試験倫理問題集・最新図説資料集					

1 学習の到達目標

- ① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
- ② 人格形成に努める実践的意欲を高める。
- ③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深める。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付ける。
評価の方法	・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など	・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

A. 定期考查の点数8割

B. 平常点20点

- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
- ・学期ごとのワーク提出
- ・夏・冬の課題提出など

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	功利主義 プラグマティズム 第5節 個人と社会との関わり 社会主義 実存主義	・最大多数の最大幸福 ベンサム／不満足なソクラテス ミル ・社会の進歩改善を目指した思想家の幸福感を考える。 プラグマティズム／民主主義の実現と幸福デューイ 人間疎外の原因 マルクス／唯物史観 自己を見つめる キルケゴール／実存的交わりヤスパース	3
5	第4編 第1章 日本の風土と外来思想の受容 <u>1 学期中間考査</u> 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入 2 仏教の土着化	ニヒリズムを超えて／神の死と超人 ニーチェ／死への存在 ハイ デッガー／自由と責任 サルトル ・古代日本人の信仰や風土について理解を深め、江戸時代の国学につ いても復習という観点で触れる。 ・仏教と日本人の思想形成 ・奈良・平安・鎌倉仏教についてそれぞれ学習し、これを通して日本 人の宗教観・思想形成がどのようになされたかを理解する。 ・江戸時代に儒教がどのように解釈されたか、また日本古来の思想が どのように説かれたかを理解する。	9
6	第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学 第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触 1 学期期末考査	・江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解させる。 ・「幽玄」「わび」「さび」について、能・茶の湯・俳諧と具体的な 作品を通してその理念を理解する。 ・本居宣長を中心として国学について理解する。 ・石田梅岩の石門心学を通じて営利活動の肯定と経済活動の発達に ついて考える。 ・安藤昌益、二宮尊徳 ・時代が大きく動いた幕末から明治にかけて、先人がいかに考え、行 動したかを理解する。 ・近代国家成立の過程において、先人が個人と国家の関係をどのよう にとらえたかを考える。	9
7	2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省 第2章 現代日本と日本人としての 自覚 新たな価値観の模索	・西洋近代思想をささえる精神としてのキリスト教を受け入れた先 人の信仰と考え方を理解する。 ・近代化をすすめる明治期の日本のあり方について、国家主義や国粹 主義、そして社会主義の立場で模索した先人の考え方を理解する。 ・文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の近代的自 我へのめざめの動きを把握する。 ・西欧に範を取った日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求めて 苦闘した思想家のあゆみを理解する。 ・坂口安吾や丸山真男の著作や活動を通して、第二次世界大戦後の日 本の新たな価値観の模索について把握する。	6
8	現代日本と私たちの課題 第3編 5・6節 主体性の確立 他者への奉仕	他者への共感／マザー＝テレサとボランティア 生命への畏敬 無意識の領域	
9	第6節 現代における理性の問題 現代における理性の見直し 科学観の変換	・経験的事実に基づく知識が、確実な学問的知識であることを知る。 ・「生命への畏敬」とはどのような考えか、また、社会福祉とは何かを考え、今 の民主社会の諸問題を探る。 近代の理性主義に対する見直しや科学観の転換がどのように為されて現代 哲学が展開したのかを探索。実践演習（プリント） それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリント	3
	日本大学基礎学力到達度テスト対策 演習		8

		を活用しながら小論文対策も念頭に入れ,多角的に取り組ませ,理解の深化を図る。 出題範囲である第1編から第4編までの総復習と問題演習に取り組み,到達度テスト対策を行う。 『完全 MASTER センター試験倫理問題集』を活用させながら2年次より履修した全範囲の演習をおこなう。(2年次以降3年次7月までの履修完了範囲は夏季休暇中の課題とする)	
10	2学期中間考査 第5編 現代の諸課題と倫理	それぞれのテーマについて,倫理の総復習として位置付け,プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ,多角的に取り組ませ,理解の深化を図る。 『完全 MASTER センター試験倫理問題集』を活用させながら履修した全範囲の演習を行う。	7
11	演習		8
12	2学期期末考査		

数学 科 1 年							数学 I		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学 I		対象	スポーツ		コース		単位数	3 単位		
教科書	最新 数学 I						出版社	数研出版			
副教材	新課程 教科書傍用 パラレルノート数学 I										

1 学習の到達目標

- ① 計算処理の定着
- ② 数学 I の基本問題を理解したうえで解ける。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学 I 評価の 趣旨	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析について考え方に関心を持つとともに，数学の良さを認識し，新しい知識を活用しようとする。	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析について事象を数学的に考察したり，思考の経過を振り返り多面的に考えたりすることを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析について，数学的に表現したり処理したりすることができる。	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析について基本的な概念や原理，定理を理解している。
評価の 方法	授業観察 課題	授業観察 定期考査	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 7 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 3 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス 数学Ⅰ 第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数	予習復習の体験学習をする。 ・ 整式の加法・減法・乗法などの基本的な計算ができる。 ・ 因数分解することができる。 ・ 根号を含む計算ができる。	15
5	<中間考査> 第3節 1次不等式 第4節 集合と命題	・ 不等式の解と不等式を解くことの意味を理解する。 ・ 集合に関する記号の意味を理解し、使うことができる。	
6	第2章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	・ 平方完成ができる。 ・ グラフを書くことができる。	
7	<期末考査>		18
8			
9	第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	・ 2次関数の最大・最小について理解を深め、最大値や最小値を求めることができる。 ・ 与えられた条件から2次関数を決定できる。 ・ 2次方程式や2次不等式が解ける ・ 2次関数のグラフとx軸の位置関係の意味を理解する	
10	<中間考査>		21.
11	第3章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	・ 三角比の意味を理解し、 30° , 45° , 60° の三角比の値が求められることができる。鈍角や 0° , 90° , 180° まで拡張した三角比の定義を理解し、三角比の値が求められることができる。	18
12	<期末考査>		
1	第2節 正弦・余弦定理 第4章 データの分析	・ 正弦定理・余弦定理などを活用し、三角形の辺の長さ、角の大きさ、面積等が求められることができる。 ・ 平均値、中央値、最頻値について理解する。 ・ 偏差、分散、標準偏差を理解し、データをもとにそれらを求めることができる。	
2			24
3	<学年末考査>		

数学 科 1 年							数学A		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学A		対象	スポーツ		コース		単位数	3 単位		
教科書	最新 数学A				出版社		数研出版				
副教材	改訂版 教科書傍用 パラレルノート数学A										

1 学習の到達目標

- ① 計算処理の定着
- ② 数学Aの基本問題を理解したうえで解ける。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学A 評価の 趣旨	場合の数と確率，整数の性質，図形の性質の考え方に関心を持つとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の経過を振り返り多面的に考えたりすることを通して，場合の数と確率，整数の性質，図形の性質の数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率，整数の性質，図形の性質において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付ける。	場合の数と確率，整数の性質，図形の性質における基本的な概念，原理・原則・法則などを理解し，知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察 課題	授業観察 定期考査	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	予習復習の体験学習をする。	
5	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	・集合の、共通部分、和集合、補集合を理解し、要素の個数を求めることができる。	15
6	＜中間考査＞P29 第2節 確率 ＜期末考査＞P50	・和・積の法則を理解し、順列と組合せを求めることができる。	18
7	第2章 図形の性質	・角の二等分線と比の性質、三角形の外心、内心、重心を理解し、チェバとメネラウスの定理を利用できる。	
8	第1節 平面図形	・円周角の定理、円に内接する四角形の性質、円と接線の性質、接弦定理、方べきの定理を利用できる。	
9	第2節 空間図形	・空間における直線と平面の性質、多面体の性質を理解する。	21.
10	＜中間考査＞P98 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数	・約数と倍数を理解し、倍数の判定法、素因数分解、最大公約数と最小公倍数を求めることができる。	
11	第2節 ユークリッドの互除法	・割り算における商と余りの関係式を理解し、余りによる整数の分類ができる。	
12	＜期末考査＞P127 第3節 整数の性質の活用	・ユークリッド互除法を理解し、最大公約数と1次不定方程式を解くことができる。	18
1		・有理数を小数、分数の変換ができる。	
2	基礎学力到達度テスト対策 ＜学年末考査＞P137	・n進法の計算ができる。	
3		・1年間の成果を出せる準備をする。	24

数 学 科 1 年		数 学Ⅰ・Ⅱ		年 間 授 業 計 画 (シラバス)	
科目名	数学Ⅰ・Ⅱ	対象	進学	コース	単位数 3+1 単位
教科書	新編 数学Ⅰ 新編 数学Ⅱ		出版社 数研出版		
副教材	新課程 教科書傍用 3TRIAL 数学Ⅰ 新課程 教科書傍用 3TRIAL 数学Ⅱ 新課程 はぎ取り式 練習ドリル 数学Ⅰ 標準編 新課程 はぎ取り式 練習ドリル 数学Ⅱ 標準編				

1 学習の到達目標

② 基本的な計算処理の定着
② 数学的思考力を身に付け、正しく公式を使い、発展問題への対応力を養う

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学Ⅰ 評価の 趣旨	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について考え方に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、新しい知識を活用しようとする。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について事象を数学的に考察したり、思考の経過を振り返り多面的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について、数学的に表現したり処理したりすることができる。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について基本的な概念や原理、定理を理解している。
数学Ⅱ 評価の 趣旨	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分・積分の考え方に関心を持つとともに、それらの事象の考察を利用し数学的根拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の経過を振り返り多面的に考えたりすることを通して、いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分・積分の数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分・積分について、数学的に表現・処理することができる。推論の方法を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分・積分において、基本的な概念、原理、法則を体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察 課題	授業観察 定期考査	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス 数学Ⅰ 第1章 数と式 第1節 式の計算 (7) 第2節 実 数 (5)	予習復習の体験学習をする。 ・整式の加法・減法・乗法などの基本的な計算ができる。 ・因数分解することができる。	18
5	第3節 1次不等式 (6) ＜中間考査＞ 第4節 集合と命題 (8) 第2章 2次関数	・根号を含む計算ができる。 ・不等式の解と不等式を解くことの意味を理解する。 ・集合に関する記号の意味を理解し、使うことができる。 ・平方完成ができる。 ・グラフを書くことができる。	
6	第1節 2次関数とグラフ (8) 第2節 2次関数の値の変化 (7)	・2次関数の最大・最小について理解を深め、最大値や最小値を求めることができる。 ・与えられた条件から2次関数を決定できる。	
7	＜期末考査＞ 第3節 2次方程式と2次不等式 (12)	・2次方程式や2次不等式が解ける	23
8	第3章 図形と計量 第1節 三角比 (9)	・2次関数のグラフとx軸の位置関係の意味を理解する。 ・三角比の意味を理解し、 $30^\circ, 45^\circ, 60^\circ$ の三角比の値が求められることができる。鈍角や $0^\circ, 90^\circ, 180^\circ$ まで拡張した三角比の定義を理解し、三角比の値が求められることができる。	
9	＜中間考査＞		
10	第2節 三角形への応用 (9) 第4章 データの分析 (10)	・正弦定理・余弦定理などを活用し、三角形の辺の長さ、角の大きさ、面積等が求められることができる。	30
11		・平均値、中央値、最頻値について理解する。 ・偏差、分散、標準偏差を理解し、データをもとにそれらを求めることができる。	
12	＜期末考査＞		
	数学Ⅱ		29
1	第1章 式と証明 第1節 式と計算 (10) 第2節 等式・不等式の証明 (6)	・3次の乗法の公式、因数分解の公式について理解する。 ・解と係数の関係を理解する。 ・因数定理を用いて高次方程式を解くことができる。	
2	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 (9) 第2節 高次方程式 (4)	・恒等式の考え、および等式の証明方法や不等式の証明方法を理解する。また、不等式の証明で、等号の成り立つ場合について考察できる。相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる ・複素数の表記を理解し、四則計算や共役な複素数を求めることができる。負の数の平方根を理解する。	
3	＜学年末考査＞ 基礎学力試験に向けて	・2次方程式の解が虚数になる場合もあることを理解する。 ・因数定理などを用い、高次方程式が解ける。	

数学 科 1 年						数学A		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学 A		対象	進学		コース		単位数	3 単位	
教科書	新編 数学 A					出版社		数研出版		
副教材	新課程 教科書傍用 3TRIAL 数学 A					新課程 はぎ取り式 練習ドリル 数学 A 標準編				

1 学習の到達目標

- ① 基本的な計算処理の定着
- ② 数学的思考力を身に付け、正しく公式を使い、発展問題への対応力を養う

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学A 評価の 趣旨	場合の数と確率、整数の性質、図形の性質の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の経過を振り返り多面的に考えたりすることを通して、場合の数と確率、整数の性質、図形の性質の数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率、整数の性質、図形の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付ける。	場合の数と確率、整数の性質、図形の性質における基本的な概念、原理・原則・法則などを理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察 課題	授業観察 定期考査	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	予習復習の体験学習をする。	
5	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	・集合の、共通部分、和集合、補集合を理解し、要素の個数を求めることができる。	15
6	＜中間考査＞P30 第2節 確率	・和・積の法則を理解し、順列と組合せを求めることができる。	18
7	＜期末考査＞P54		
8	第2章 図形の性質	・確率の意味を知り、確率の基本性質、和事象、余事象、独立な試行、反復試行の確率や条件付き確率を理解する。	
9	第1節 平面図形	・角の二等分線と比の性質、三角形の外心、内心、重心を理解し、チェバとメネラウスの定理を利用できる。	
10	＜中間考査＞P85 第2節 空間図形	・円周角の定理、円に内接する四角形の性質、円と接線の性質、接弦定理、方べきの定理を利用できる。	21.
11	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数	・空間における直線と平面の性質、多面体の性質を理解する。	
12	＜期末考査＞P115 第2節 ユークリッドの互除法	・約数と倍数を理解し、倍数の判定法、素因数分解、最大公約数と最小公倍数を求めることができる。	18
1	第3節 整数の性質の活用	・割り算における商と余りの関係式を理解し、余りによる整数の分類ができる。	
2	基礎学力到達度テスト対策	・ユークリッド互除法を理解し、最大公約数と1次不定方程式を解くことができる。	
3	＜学年末考査＞P133	・有理数を小数、分数の変換ができる。 ・n進法の計算ができる。	24
		・1年間の成果を出せる準備をする。	

数学 科 1 年 数学Ⅰ・Ⅱ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	数学Ⅰ・Ⅱ	対象	特進	コース	単位数 3+1 単位
教科書	新編 数学Ⅰ 新編 数学Ⅱ			出版社	数研出版
副教材	チャート式解法と演習Ⅰ+A, はぎ取り式練習ドリル数学Ⅰ標準編, 3TRIAL 数学Ⅰ+A はぎ取り式練習ドリル数学Ⅱ標準編, 3TRIAL 数学Ⅱ+B				

1 学習の到達目標

① 計算処理の定着 ② 数学的思考力を身に付け、発展問題への対応力を養う ③ 模試の過去問, チャートにふれ、模試への対策を図る ④ 1年次終了時にセンター試験Ⅰ+A 60%を目標とする。

2 評価の観点・趣旨・方法, 成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学Ⅰ 評価の 趣旨	数と式, 図形と計量, 二次関数及びデータの分析について考え方に関心を持つとともに, 数学の良さを認識し, 新しい知識を活用しようとする。	数と式, 図形と計量, 二次関数及びデータの分析について事象を数学的に考察したり, 思考の経過を振り返り多面的に考えたりすることを通して, 数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式, 図形と計量, 二次関数及びデータの分析について, 数学的に表現したり処理したりすることができる。	数と式, 図形と計量, 二次関数及びデータの分析について基本的な概念や原理, 定理を理解している。
数学Ⅱ 評価の 趣旨	いろいろな式, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数及び微分・積分の考え方に関心を持つとともに, それらの事象の考察を利用し数学的根拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の経過を振り返り多面的に考えたりすることを通して, いろいろな式, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数及び微分・積分の数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数及び微分・積分について, 数学的に表現・処理することができる。推論の方法を身に付けている。	いろいろな式, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数及び微分・積分において, 基本概念, 原理, 法則を体系的に理解し, 知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察 課題	授業観察 定期考査	小テスト 定期考査	小テスト・課題 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって, 学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 7割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス(1)	予習復習の体験学習をする。	19
	数学Ⅰ 第1章 数と式	・整式の加法・減法・乗法などの基本的な計算ができる。	
	第1節 式の計算 (7)	・因数分解することができる。	
5	第2節 実数 (5)	・根号を含む計算ができる。	
	第3節 1次不等式 (6)	・不等式の解と不等式を解くことの意味を理解する。	23
	<中間考査>	・集合に関する記号の意味を理解し、使うことができる。	
	第4節 集合と命題 (8)	・平方完成ができる。	
	第2章 2次関数	・グラフを書くことができる。	
6	第1節 2次関数とグラフ (8)	・2次関数の最大・最小について理解を深め、最大値や最小値を求めることができる。	30
	第2節 2次関数の値の変化 (7)	・与えられた条件から2次関数を決定できる。	
7	<期末考査>	・2次方程式や2次不等式が解ける	
8	第3節 2次方程式と2次不等式 (12)	・2次関数のグラフとx軸の位置関係の意味を理解する。	
	第3章 図形と計量	・三角比の意味を理解し、 $30^\circ, 45^\circ, 60^\circ$ の三角比の値が求められることができる。鈍角や $0^\circ, 90^\circ, 180^\circ$ まで拡張した三角比の定義を理解し、三角比の値が求められることができる。	29
9	第1節 三角比 (9)	・正弦定理・余弦定理などを活用し、三角形の辺の長さ、角の大きさ、面積等が求められることができる。	
	第2節 三角形への応用 (9)	・平均値、中央値、最頻値について理解する。	
10	<中間考査>	・偏差、分散、標準偏差を理解し、データをもとにそれらを求めることができる。	
	第4章 データの分析 (10)	・3次の乗法の公式、因数分解の公式について理解する。	24
	数学Ⅱ	・解と係数の関係を理解する。	
11	第1章 式と証明	・因数定理を用いて高次方程式を解くことができる。	
	第1節 式と計算 (10)	・恒等式の考え、および等式の証明方法や不等式の証明方法を理解する。また、不等式の証明で、等号の成り立つ場合について考察できる。相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる	
	第2節 等式・不等式の証明 (6)	・複素数の表記を理解し、四則計算や共役な複素数を求めることができる。負の数の平方根を理解する。	29
	第2章 複素数と方程式	・2次方程式の解が虚数になる場合もあることを理解する。	
12	第1節 複素数と2次方程式の解 (9)	・因数定理などを用い、高次方程式が解ける。	
	第2節 高次方程式 (4)	・座標平面上において、2点間の距離が求められる。	
1	<期末考査>	・座標平面上において、内分点、外分点、重心の座標が求められる。	24
	第3章 図形と方程式	・座標平面を利用して、図形の性質を証明することができる。	
2	第1節 点と直線 (10)	・2直線の平行・垂直条件を理解して、それを利用できる。	
	第2節 円 (7)	・与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。	
3	第3節 軌跡と領域 (7)	・円と直線の共有点の座標を求めることができる。	24
	<学年末考査>	・円と直線の位置関係を、適切な方法で調べることができる。	
		・円の接線の公式を理解して、それを利用できる。	
		・軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。	
		・媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。	
		・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。	

数学 科 1 年						数学A		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学A		対象	特進	コース		単位数	3 単位	
教科書	新編 数学A				出版社		数研出版		
副教材	チャート式解法と演習 I +A、はぎ取り式練習ドリル 数学A 標準編, 3 TRIAL 数学 I +A								

1 学習の到達目標

① 計算処理の定着
② 数学的思考力を身に付け、発展問題への対応力を養う
③ 模試の過去問、チャートにふれ、模試への対策を図る
④ 1 年次終了時にセンター試験 I +A 60%を目標とする

2 評価の観点・趣旨・方法, 成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学A 評価の 趣旨	場合の数と確率, 整数の性質, 図形の性質の考え方に関心を持つとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の経過を振り返り多面的に考えたりすることを通して, 場合の数と確率, 整数の性質, 図形の性質の数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率, 整数の性質, 図形の性質において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付ける。	場合の数と確率, 整数の性質, 図形の性質における基本的な概念, 原理・原則・法則などを理解し, 知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察 課題	授業観察 定期考査	小テスト 定期考査	小テスト・課題 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって, 学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 7 割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 3 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス	予習復習の体験学習をする。	
5	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	・集合の、共通部分、和集合、補集合を理解し、要素の個数を求めることができる。	15
6	＜中間考査＞ 第2節 確率	・和・積の法則を理解し、順列と組合せを求めることができる。	18
7	＜期末考査＞	・確率の意味を知り、確率の基本性質、和事象、余事象、独立な試行、反復試行の確率や条件付き確率を理解する。	
8	第2章 図形の性質		
9	第1節 平面図形	・角の二等分線と比の性質、三角形の外心、内心、重心を理解し、チェバとメネラウスの定理を利用できる。	
10	第2節 空間図形 ＜中間考査＞	・円周角の定理、円に内接する四角形の性質、円と接線の性質、接弦定理、方べきの定理を利用できる。	21.
11	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数	・空間における直線と平面の性質、多面体の性質を理解する。	
12	第2節 ユークリッドの互除法	・約数と倍数を理解し、倍数の判定法、素因数分解、最大公約数と最小公倍数を求めることができる。	
1	＜期末考査＞	・割り算における商と余りの関係式を理解し、余りによる整数の分類ができる。	18
2	第3節 整数の性質の活用	・ユークリッド互除法を理解し、最大公約数と1次不定方程式を解くことができる。	
3	総復習 ＜学年末考査＞	・有理数を小数、分数の変換ができる。	
		・n進法の計算ができる。	
		・1年間の成果を出せる準備をする。	24

数 学 科 2 年		数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅱ	対象	スポーツ	コース	単位数 4 単位
教科書	最新 数学Ⅱ		出版社 数研出版		
副教材	パラレルノート 数学Ⅱ				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① 基礎の定着。
- ② 問題を読んで、正しい公式が使える。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 〔予習復習体験学習〕【1】 第1章 式と証明【14】	「日々の学習」のプリントを参考に、学習の仕方についてガイダンスをする。 3乗の展開公式から2項定理へと一般化する。 多項式の除法や分数式の処理を習得する。 恒等式と方程式の違いを理解し係数比較などの扱いを学ぶ。 簡単な式の証明の手法を学ぶ。	18
5	第2章 複素数と方程式【10】 ＜中間考査＞教科書 P6～P41	2次方程式の解なしを解消するために虚数単位 <i>i</i> と複素数を導入し、その演算を学ぶ。判別式や解と係数の関係など2次方程式の重要理論を習得する。 剰余の定理・因数定理をもとに1章で学んだ多項式の除法が	

6	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線【10】	3次方程式など高次方程式の解法に活かされることを学ぶ。 簡易な3次・4次方程式の解法を習得する。	
7	第2節 円、軌跡と領域【15】	座標平面上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点・中点・重心などが求められる。 与えられた条件を満たす直線の方程式を求められる。 2直線の平行・垂直条件を理解し方程式を求められる。 円の性質を調べ、円の方程式を導き、中心・半径から円の方程式を求める、また方程式から中心・半径を求める。 円と直線の位置関係を調べ、弦の長さや円の接線を求める。 2つの円の中心間の距離と半径から、2つの円の位置関係を把握し円の方程式を求める。	20
8	<期末考査>教科書 P42～P83	ある条件を満たす点の集合としての軌跡の考え方を理解し条件を式で表し軌跡の方程式を求められるようにする。 円や連立不等式の表す領域を求める。領域内を点が動くときの1次式の最大値・最小値の求め方を理解させる。	
9			
10	第4章 三角関数 第1節 三角関数【18】	角の概念を一般角まで拡張し、弧度法を用いて角を表す。 単位円上の点の座標による三角関数の定義を理解し、三角関数の値を求められ、相互関係の公式を学ぶ。	30
11	<中間考査>教科書 P84～P117	三角関数のグラフとその周期性を学ぶ。 三角方程式・不等式が解けるようにする。 加法定理や2倍角の公式・三角関数の合成について学び、それらを活用できるようにする。	
12	第2節 加法定理【10】		
	第5章 指数関数と対数関数【18】	指数法則を理解し、計算ができるようにする。また、累乗根の意味とその性質・有理数の指数計算を学ぶ。 指数関数のグラフ、指数方程式・不等式の解法を学ぶ。 対数の意味と定義を理解し、対数の基本性質を学ぶ。 対数関数のグラフ、対数方程式・不等式の解法を学ぶ。 常用対数を用いた桁数算出などを学ぶ。	23
	<期末考査>教科書 P118～P141		
1	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法【16】	平均変化率の極限值としての接線の傾き＝微分係数を理解し、導関数を定義から微分の計算規則を学ぶ。 微分を用いて、接線の方程式が求められるようにする。 導関数を用いて、関数の増減、極大・極小を調べる。 増減表を用いた3次関数のグラフの描き方を学ぶ。	
2	第2節 積分法【14】	関数の増減やグラフを利用して、関数の最大値・最小値を求めること、方程式の解の個数などを学ぶ。 微分の逆計算として不定積分を導入し、不定積分の計算ができるようにする。定積分の計算を学び、習熟させる。	
3	<期末考査>教科書 P142～P201	定積分の応用として、2つのグラフによって囲まれた領域の面積の計算を学ぶ。	30
			126

数 学 科 2 年		数 学 B		年 間 授 業 計 画 (シラバス)	
科目名	数 学 B	対 象	ス ポ ー ツ	コ ー ス	単 位 数 2 単 位
教科書	最 新 数 学 B		出 版 社 数 研 出 版		
副教材	改訂版パラレルノート 数 学 B				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① 基礎の定着。
- ② 問題を読んで、正しい公式が使える。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	確率分布と統計的な推測、数列又はベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、確率分布と統計的な推測、数列又はベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	確率分布と統計的な推測、数列又はベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	確率分布と統計的な推測、数列又はベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末にまとめる。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】 【1】 第1章 平面上のベクトル	・ 予習の仕方を身に付ける。 ・ 授業の受け方、ノートを取り方を学ぶ。 ・ 復習し、理解が深まることを実感させる。	1
5	第1節 ベクトルとその演算【11】	・ 有効線分の向きと大きさだけに着目し、ベクトルの概念や本質について理解させる。 ・ ベクトルの相等および、和・差・実数倍などの演算方法を学び、活用できるようにする。	11
6	<中間考査>教科書 P6～P29 第2節 ベクトルと平面図形【13】	・ ベクトルの2方向への分解を取り上げて、基本ベクトル表示・成分表示を学び、演算や表示ができるようにする。 ・ ベクトルの内積の意味を学び、計算方法を理解し、活用できるようにする。 ・ 位置ベクトルの意味を理解し、内分・外分点・重心の位	13

7		置ベクトルを求めることができるようにする。	
8	＜期末考查＞教科書 P30～P44	・直線のベクトル表示を学習し、その成分表示と x, y の	
9	第2章 空間のベクトル 【16】	1 次方程式との関係を明らかにする。	
		・位置ベクトルが平面図形を調べるのに有効であることを認識させる。	13
		・空間は3次元であることを実感させ、空間の点の座標と2点の距離を求めることができるようにする。	
10	＜中間考查＞教科書 P45～P59	・ベクトルの成分表示に慣れさせ、成分計算、成分表示ができるようにする。	
		・平面と同様、空間のベクトルの内積の定義を理解させる。	
11	第3章 数列	・平面上のベクトルの公式がそのまま成り立つことを理解させ、位置ベクトルを用いて、空間図形の性質を調べる。	
	第1節 等差数列と等比数列 【10】	・空間座標における2点間の距離、分点の座標が求められるようにする。球面の方程式では、座標平面に平行な平面との交わりに着目させる。	13
12		・数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理解させる。	
1	＜期末考查＞教科書 P60～P81	・等差数列の一般項を、初項・公差を使って表せるようにする。	
2	第2節 いろいろな数列 【6】	・等差数列の和を、 n を用いて表せるようにする。	
		・等比数列の一般項を、初項・公比を使って表せるようにする。	
		・等比数列の和を、 n を用いて表せるようにする。	13
		・和を表す記号 Σ の意味と用法を理解し、自由に使えるようにする。	
		・階差数列などいろいろな数列に親しみ、数列の和から一般項を求めることができるようにする。	
	第3節 数学的帰納法 【7】	・隣り合う2項間の関係と初項から、一般項を求めることができるようにする。	
3	＜学年末考查＞教科書 P82～P95	・自然数 n についての等式や不等式について、新しい証明法を学ぶ。	

数 学 科 2 年		数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅱ	対象	進学文系	I コース	単位数 3 単位
教科書	新編 数学Ⅱ		出版社 数研出版		
副教材	3 T R I A L 数学Ⅱ，はぎ取り式練習ドリル数学Ⅱ標準編				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度，小テスト，課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】[1] 第3章 図形と方程式 1節 点と直線【8】 2節 円【5】 3節 軌跡【3】	・「日々の学習」のプリントを参考に、学習の仕方についてガイダンスをする。 ・座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ・座標平面上において、内分点、外分点、重心の座標が求められる。 ・座標平面を利用して、図形の性質を証明することができる。 ・2直線の平行・垂直条件を理解し、それを利用できる。 ・与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解できる。 ・円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ・円と直線の位置関係を、適切な方法で調べることができる。 ・円の接線の公式を理解して、それを利用できる。	18
5	<中間考査>教科書P51～P93 3節 領域【3】	・2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係から円の方程式を求めることができる。 ・軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ・媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 ・不等式の表す領域を図示することができる。 ・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。	
6	第4章 三角関数 1節 三角関数[12] 2節 加法定理[7]	・角の概念を一般角まで拡張し、弧度法を用いて角を表すことができるようにする。 ・単位円上の点の座標を三角関数で表せ、相互関係を理解し利用できるようにする。 ・三角関数のグラフが描けるようにする。 ・三角関数の相互関係の理解を深め、関数と式との関係を理解する。 ・三角方程式・不等式が解けるようにする。 ・加法定理の公式を導き、それを活用できるようにする。	
7	<期末考査>教科書P94～P138 第5章 指数関数と対数関数	・2倍角・半角の公式を導き、それを活用できるようにする。	
8	1節 指数関数[6]	また、三角関数の合成について理解する。 ・指数法則を理解し、計算ができるようにする。また、累乗根の意味とその性質を理解する。	18
9		・指数関数のグラフが描けるようにし、指数についての方程式・不等式が解けるようにする。	
10	2節 対数関数[7] <中間考査>教科書P140～P161	・対数の意味を明らかにし、対数の基本性質を理解する。対数関数のグラフを描けるようにし、対数を含む方程式・不等式が解けるようにする。	
11	第6章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数[7] 2節 関数の値の変化[7]	・常用対数を用いて簡単な計算ができるようにする。 ・平均変化率の極限值としての微分係数を求めることができるようにする。 ・導関数を定義し、微分できるようにする。 ・微分を用いて、接線の方程式が求められるようにする。 ・導関数を用いて、関数の増減、極大・極小を調べることができるようにする。 ・関数の増減やグラフを利用して、関数の最大値・最小値を	20

12	3節 積分法[10] ＜期末考査＞教科書P166～P204	求めること、方程式の解について調べること、不等式を証明することなどができるようにする。 ・微分の逆計算として不定積分を導入し、不定積分の計算ができるようにする。 ・定積分の計算ができるようにする。 ・定積分の応用として、平面図形の面積が計算できるようにする。	
1	総復習		21
2			
3	＜学年末考査＞	・総復習しながら，理解を深めていく。	18
			95

数 学 科 2 年					

1 学習の到達目標

- ① 数列及びベクトルについて理解させる。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	数列及びベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列及びベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列及びベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数列及びベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末にまとめる。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】 【1】 第1章 平面上のベクトル	・予習の仕方を身に付ける。 ・授業の受け方、ノートを取り方を学ぶ。	1
5	第1節 ベクトルとその演算【11】	・復習し、理解が深まることを実感させる。 ・有効線分の向きと大きさだけに着目し、ベクトルの概念や本質について理解させる。	11
6	<中間考査>教科書 P6～P27 第2節 ベクトルと平面図形【13】	・ベクトルの相等および、和・差・実数倍などの演算方法を学び、活用できるようにする。 ・ベクトルの2方向への分解を取り上げて、基本ベクトル表示・成分表示を学び、演算や表示ができるようにする。 ・ベクトルの内積の意味を学び、計算方法を理解し、活用できるようにする。 ・位置ベクトルの意味を理解し、内分・外分点・重心の位置ベクトルを求めることができるようにする。	13

7			
8	＜期末考查＞教科書 P28～P43	・直線のベクトル表示を学習し、その成分表示と x, y の 1 次方程式との関係を明らかにする。	
9	第 2 章 空間のベクトル 【16】	・位置ベクトルが平面図形を調べるのに有効であることを 認識させる。	13
10	＜中間考查＞教科書 P44～P59	・空間は 3 次元であることを実感させ、空間の点の座標と 2 点の距離を求めることができるようにする。	
11	第 3 章 数列	・ベクトルの成分表示に慣れさせ、成分計算、成分表示が できるようにする。	
12	第 1 節 等差数列と等比数列 【10】	・平面と同様、空間のベクトルの内積の定義を理解させる。	13
1		・平面上のベクトルの公式がそのまま成り立つことを理解 させ、位置ベクトルを用いて、空間図形の性質を調べる。	
2	＜期末考查＞教科書 P60～P81	・空間座標における 2 点間の距離、分点の座標が求められ るようにする。球面の方程式では、座標平面に平行な平 面との交わりに着目させる。	
3	第 2 節 いろいろな数列 【6】	・数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理 解させる。	13
		・等差数列の一般項を、初項・公差を使って表せるように する。	
		・等差数列の和を、 n を用いて表せるようにする。	
		・等比数列の一般項を、初項・公比を使って表せるように する。	
		・等比数列の和を、 n を用いて表せるようにする。	
		・和を表す記号 Σ の意味と用法を理解し、自由に使えるよ うにする。	
		・階差数列などいろいろな数列に親しみ、数列の和から一 般項を求めることができるようにする。	
		・隣り合う 2 項間の関係と初項から、一般項を求めること ができるようにする。	
	第 3 節 数学的帰納法 【7】	・自然数 n についての等式や不等式について、新しい証明 法を学ぶ。	
3	＜学年末考查＞教科書 P82～P104		
			64

数 学 科		2 年		数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅱ	対象	進学文系Ⅱ	コース	単位数	3	単位
教科書	新編 数学Ⅱ			出版社	数研出版		
副教材	3 T R I A L 数学Ⅱ，はぎ取り式練習ドリル数学Ⅱ標準編						
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度，小テスト，課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】[1] 第3章 図形と方程式 1節 点と直線【8】 2節 円【5】 3節 軌跡【3】	・「日々の学習」のプリントを参考に、学習の仕方についてガイダンスをする。 ・座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ・座標平面上において、内分点、外分点、重心の座標が求められる。 ・座標平面を利用して、図形の性質を証明することができる。 ・2直線の平行・垂直条件を理解し、それを利用できる。 ・与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解できる。 ・円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ・円と直線の位置関係を、適切な方法で調べることができる。 ・円の接線の公式を理解して、それを利用できる。	18
5	＜中間考査＞教科書P51～P93 3節 領域【3】	・2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係から円の方程式を求めることができる。 ・軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ・媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 ・不等式の表す領域を図示することができる。 ・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。	
6	第4章 三角関数 1節 三角関数[12] 2節 加法定理[7]	・角の概念を一般角まで拡張し、弧度法を用いて角を表すことができるようにする。 ・単位円上の点の座標を三角関数で表せ、相互関係を理解し利用できるようにする。 ・三角関数のグラフが描けるようにする。 ・三角関数の相互関係の理解を深め、関数と式との関係を理解する。 ・三角方程式・不等式が解けるようにする。 ・加法定理の公式を導き、それを活用できるようにする。	
7	＜期末考査＞教科書P94～P138 第5章 指数関数と対数関数	・2倍角・半角の公式を導き、それを活用できるようにする。 - また、三角関数の合成について理解する。	
8	1節 指数関数[6]	・指数法則を理解し、計算ができるようにする。また、累乗根の意味とその性質を理解する。	18
9		・指数関数のグラフが描けるようにし、指数についての方程式・不等式が解けるようにする。	
10	2節 対数関数[7] ＜中間考査＞教科書P140～P161	・対数の意味を明らかにし、対数の基本性質を理解する。対数関数のグラフを描けるようにし、対数を含む方程式・不等式が解けるようにする。	
	第6章 微分法と積分法	・常用対数を用いて簡単な計算ができるようにする。 ・平均変化率の極限值としての微分係数を求めることができるようにする。	20
	1節 微分係数と導関数[7]	・導関数を定義し、微分できるようにする。 ・微分を用いて、接線の方程式が求められるようにする。 ・導関数を用いて、関数の増減、極大・極小を調べることができるようにする。	
11	2節 関数の値の変化[7]	・関数の増減やグラフを利用して、関数の最大値・最小値を	

12	3節 積分法[10] ＜期末考查＞教科書P166～P204	求めること、方程式の解について調べること、不等式を証明することなどができるようにする。 ・微分の逆計算として不定積分を導入し、不定積分の計算ができるようにする。 ・定積分の計算ができるようにする。 ・定積分の応用として、平面図形の面積が計算できるようにする。	
1	総復習		21
2		・総復習しながら，理解を深めていく。	
3	＜学年末考查＞		18
			95

数 学 科 2 年		数 学 B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学 B	対象	進学文系Ⅱ	コース	単位数 2 単位
教科書	新編 数学 B		出版社 数研出版		
副教材	3 T R I A L 数学 B		はぎ取り式練習ドリル数学 B 標準編		
担当者					

1 学習の到達目標

- ① 数列及びベクトルについて理解させる。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	数列及びベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列及びベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列及びベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数列及びベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末にまとめる。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】 【1】 第1章 平面上のベクトル	・ 予習の仕方を身に付ける。 ・ 授業の受け方、ノートを取り方を学ぶ。	1
5	第1節 ベクトルとその演算【11】	・ 復習し、理解が深まることを実感させる。 ・ 有効線分の向きと大きさだけに着目し、ベクトルの概念や本質について理解させる。	11
6	<中間考査>教科書 P6～P27 第2節 ベクトルと平面図形【13】	・ ベクトルの相等および、和・差・実数倍などの演算方法を学び、活用できるようにする。 ・ ベクトルの2方向への分解を取り上げて、基本ベクトル表示・成分表示を学び、演算や表示ができるようにする。 ・ ベクトルの内積の意味を学び、計算方法を理解し、活用できるようにする。 ・ 位置ベクトルの意味を理解し、内分・外分点・重心の位置ベクトルを求めることができるようにする。	13

7			
8	＜期末考查＞教科書 P28～P43	・直線のベクトル表示を学習し、その成分表示と x, y の 1 次方程式との関係を明らかにする。	
9	第 2 章 空間のベクトル 【16】	・位置ベクトルが平面図形を調べるのに有効であることを 認識させる。	13
10	＜中間考查＞教科書 P44～P59	・空間は 3 次元であることを実感させ、空間の点の座標と 2 点の距離を求めることができるようにする。	
11	第 3 章 数列	・ベクトルの成分表示に慣れさせ、成分計算、成分表示が できるようにする。	
12	第 1 節 等差数列と等比数列 【10】	・平面と同様、空間のベクトルの内積の定義を理解させる。	13
1		・平面上のベクトルの公式がそのまま成り立つことを理解 させ、位置ベクトルを用いて、空間図形の性質を調べる。	
2	＜期末考查＞教科書 P60～P81	・空間座標における 2 点間の距離、分点の座標が求められ るようにする。球面の方程式では、座標平面に平行な平 面との交わりに着目させる。	
3	第 2 節 いろいろな数列 【6】	・数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理 解させる。	13
		・等差数列の一般項を、初項・公差を使って表せるように する。	
		・等差数列の和を、 n を用いて表せるようにする。	
		・等比数列の一般項を、初項・公比を使って表せるように する。	
		・等比数列の和を、 n を用いて表せるようにする。	
		・和を表す記号 Σ の意味と用法を理解し、自由に使えるよ うにする。	
		・階差数列などいろいろな数列に親しみ、数列の和から一 般項を求めることができるようにする。	
		・隣り合う 2 項間の関係と初項から、一般項を求めること ができるようにする。	
	第 3 節 数学的帰納法 【7】	・自然数 n についての等式や不等式について、新しい証明 法を学ぶ。	
3	＜学年末考查＞教科書 P82～P104		
			64

数 学 科 2 年		数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅱ	対象	進学理系	I コース	単位数 4 単位
教科書	新編 数学Ⅱ		出版社 数研出版		
副教材	3 T R I A L 数学Ⅱ，はぎ取り式練習ドリル数学Ⅱ標準編				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度，小テスト，課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】[1] 第3章 図形と方程式 1節 点と直線【8】 2節 円【5】 3節 軌跡【3】	・「日々の学習」のプリントを参考に、学習の仕方についてガイダンスをする。 ・座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ・座標平面上において、内分点、外分点、重心の座標が求められる。 ・座標平面を利用して、図形の性質を証明することができる。 ・2直線の平行・垂直条件を理解し、それを利用できる。 ・与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解できる。 ・円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ・円と直線の位置関係を、適切な方法で調べることができる。 ・円の接線の公式を理解して、それを利用できる。	18
5	＜中間考査＞教科書P51～P93 3節 領域【3】	・2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係から円の方程式を求めることができる。 ・軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ・媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 ・不等式の表す領域を図示することができる。 ・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。	
6	第4章 三角関数 1節 三角関数[12] 2節 加法定理[7]	・角の概念を一般角まで拡張し、弧度法を用いて角を表すことができるようにする。 ・単位円上の点の座標を三角関数で表せ、相互関係を理解し利用できるようにする。 ・三角関数のグラフが描けるようにする。 ・三角関数の相互関係の理解を深め、関数と式との関係を理解する。 ・三角方程式・不等式が解けるようにする。 ・加法定理の公式を導き、それを活用できるようにする。	
7	＜期末考査＞教科書P94～P138 第5章 指数関数と対数関数	・2倍角・半角の公式を導き、それを活用できるようにする。 - また、三角関数の合成について理解する。	
8	1節 指数関数[6]	・指数法則を理解し、計算ができるようにする。また、累乗根の意味とその性質を理解する。	18
9		・指数関数のグラフが描けるようにし、指数についての方程式・不等式が解けるようにする。	
10	2節 対数関数[7] ＜中間考査＞教科書P140～P161	・対数の意味を明らかにし、対数の基本性質を理解する。対数関数のグラフを描けるようにし、対数を含む方程式・不等式が解けるようにする。	
	第6章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数[7]	・常用対数を用いて簡単な計算ができるようにする。 ・平均変化率の極限值としての微分係数を求めることができるようにする。	20
11	2節 関数の値の変化[7]	・導関数を定義し、微分できるようにする。 ・微分を用いて、接線の方程式が求められるようにする。 ・導関数を用いて、関数の増減、極大・極小を調べることができるようにする。 ・関数の増減やグラフを利用して、関数の最大値・最小値を	

12	3節 積分法[10] <期末考査>教科書P166～P204 数学Ⅲへ	求めること、方程式の解について調べること、不等式を証明することなどができるようにする。 ・微分の逆計算として不定積分を導入し、不定積分の計算ができるようにする。 ・定積分の計算ができるようにする。 ・定積分の応用として、平面図形の面積が計算できるようにする。	21 18
			95

数 学 科 2 年		数学Ⅲ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅲ	対象	進学理系	I コース	単位数 1 単位
教科書	新編 数学Ⅲ		出版社 数研出版		
副教材	はぎ取り式ドリル 数学Ⅲ, 3 T R I A L 数学Ⅲ				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① 平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法についての理解を深める。
- ② 知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法に関心をもつとともに，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 7 割 平常点（学習態度，小テスト，課題など） 3 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4 ～ 11 12	数学Ⅱ ガイダンス 【1】 第1章複素数平面 1節 複素数平面 【4】 1 2節 複素数の極形式 【5】 3節ド・モアブルの定理 【3】 2 4節 複素数と図形 【4】 第2章式と曲線 1節 放物線 【3】 2節 楕円 【5】 3節 双曲線 【3】 3 <学年末考査>教科書 p6~p41	「数学受験に向けて」のプリントを参考に、学習の仕方についてガイダンスをする。 複素数平面について理解し、図形的意味を理解する。また、対称な点を表す複素数や共役複素数の性質を理解する。 極形式を理解し、乗法や除法の図形的意味や商の絶対値・偏角の性質などを理解する。 定理を利用して、 n 乗や n 乗根を求めることができる。 円や直線を複素数の方程式で表せ、線分の内分・外分・重心を求められる。複素数の方程式を満たす点全体について考察できる。 軌跡を利用し、放物線の方程式を導き、標準形で表せて、概形を書き、焦点・準線を求めることができる。 軌跡を利用し、楕円の方程式を導き、概形を書き、焦点・長軸・短軸の長さを求めることができる。 軌跡を利用し、双曲線の方程式を導き、標準形で表せて、概形を書き、焦点・頂点・漸近線を求めることができる。	28
			118

数 学 科 2 年		数学 B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学 B	対象	進学理系	I コース	単位数 3 単位
教科書	新編 数学 B		出版社 数研出版		
副教材	3 T R I A L 数学 B はぎとり式練習ドリル数 B				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① 数列及びベクトルについて理解させる。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	数列及びベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列及びベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列及びベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数列及びベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末にまとめる。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】 【1】 第1章 平面上のベクトル	・ 予習の仕方を身に付ける。 ・ 授業の受け方、ノートを取り方を学ぶ。	1
5	第1節 ベクトルとその演算【11】 ＜中間考査＞教科書 P6～P27	・ 復習し、理解が深まることを実感させる。 ・ 有効線分の向きと大きさだけに着目し、ベクトルの概念や本質について理解させる。 ・ ベクトルの相等および、和・差・実数倍などの演算方法を学び、活用できるようにする。 ・ ベクトルの2方向への分解を取り上げて、基本ベクトル表示・成分表示を学び、演算や表示ができるようにする。	11
6	第2節 ベクトルと平面図形【9】	・ ベクトルの内積の意味を学び、計算方法を理解し、活用できるようにする。 ・ 位置ベクトルの意味を理解し、内分・外分点・重心の位置ベクトルを求めることができるようにする。	16

7	第2章 空間のベクトル【13】 ＜期末考查＞教科書 P27～P53	・直線のベクトル表示を学習し、その成分表示と x, y の1次方程式との関係を明らかにする。 ・位置ベクトルが平面図形を調べるのに有効であることを認識させる。 ・空間は3次元であることを実感させ、空間の点の座標と2点の距離を求めることができるようにする。 ・ベクトルの成分表示に慣れさせ、成分計算、成分表示ができるようにする。 ・平面と同様、空間のベクトルの内積の定義を理解させる。 ・平面上のベクトルの公式がそのまま成り立つことを理解させ、位置ベクトルを用いて、空間図形の性質を調べる。	20
8			
9		・空間座標における2点間の距離、分点の座標が求められるようにする。球面の方程式では、座標平面に平行な平面との交わりに着目させる。	
10	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列【10】 ＜中間考查＞教科書 P52～P81	・数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理解させる。 ・等差数列の一般項を、初項・公差を使って表せるようにする。 ・等差数列の和を、n を用いて表せるようにする。 ・等比数列の一般項を、初項・公比を使って表せるようにする。 ・等比数列の和を、n を用いて表せるようにする。	15
11	第2節 いろいろな数列【6】 第3節 数学的帰納法【7】	・和を表す記号 Σ の意味と用法を理解し、自由に使えるようにする。 ・階差数列などいろいろな数列に親しみ、数列の和から一般項を求めることができるようにする。 ・隣り合う2項間の関係と初項から、一般項を求めることができるようにする。 ・自然数 n についての等式や不等式について、新しい証明法を学ぶ。	
12	＜期末考查＞教科書 P82～P104		
1	プリント演習		24
2			
3			
	＜学年末考查＞プリント範囲		
			87

数 学 科		2 年		数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅱ	対象	進学理系	Ⅱコース	単位数	4	単位
教科書	新編 数学Ⅱ			出版社	数研出版		
副教材	3 T R I A L 数学Ⅱ，はぎ取り式練習ドリル数学Ⅱ標準編						
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度，小テスト，課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】[1] 第3章 図形と方程式 1節 点と直線【8】 2節 円【5】 3節 軌跡【3】	・「日々の学習」のプリントを参考に、学習の仕方についてガイダンスをする。 ・座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ・座標平面上において、内分点、外分点、重心の座標が求められる。 ・座標平面を利用して、図形の性質を証明することができる。 ・2直線の平行・垂直条件を理解し、それを利用できる。 ・与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解できる。 ・円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ・円と直線の位置関係を、適切な方法で調べることができる。 ・円の接線の公式を理解して、それを利用できる。	18
5	＜中間考査＞教科書P51～P93 3節 領域【3】	・2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係から円の方程式を求めることができる。 ・軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ・媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 ・不等式の表す領域を図示することができる。 ・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。	
6	第4章 三角関数 1節 三角関数[12] 2節 加法定理[7]	・角の概念を一般角まで拡張し、弧度法を用いて角を表すことができるようにする。 ・単位円上の点の座標を三角関数で表せ、相互関係を理解し利用できるようにする。 ・三角関数のグラフが描けるようにする。 ・三角関数の相互関係の理解を深め、関数と式との関係を理解する。 ・三角方程式・不等式が解けるようにする。 ・加法定理の公式を導き、それを活用できるようにする。	
7	＜期末考査＞教科書P94～P138 第5章 指数関数と対数関数	・2倍角・半角の公式を導き、それを活用できるようにする。 - また、三角関数の合成について理解する。	
8	1節 指数関数[6]	・指数法則を理解し、計算ができるようにする。また、累乗根の意味とその性質を理解する。	18
9		・指数関数のグラフが描けるようにし、指数についての方程式・不等式が解けるようにする。	
10	2節 対数関数[7] ＜中間考査＞教科書P140～P161	・対数の意味を明らかにし、対数の基本性質を理解する。対数関数のグラフを描けるようにし、対数を含む方程式・不等式が解けるようにする。	
	第6章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数[7]	・常用対数を用いて簡単な計算ができるようにする。 ・平均変化率の極限值としての微分係数を求めることができるようにする。	20
11	2節 関数の値の変化[7]	・導関数を定義し、微分できるようにする。 ・微分を用いて、接線の方程式が求められるようにする。 ・導関数を用いて、関数の増減、極大・極小を調べることができるようにする。 ・関数の増減やグラフを利用して、関数の最大値・最小値を	

12	3節 積分法[10] ＜期末考査＞教科書P166～P204 数学Ⅲへ	求めること、方程式の解について調べること、不等式を証明することなどができるようにする。 ・微分の逆計算として不定積分を導入し、不定積分の計算ができるようにする。 ・定積分の計算ができるようにする。 ・定積分の応用として、平面図形の面積が計算できるようにする。	21 18
			95

数 学 科 2 年		数 学Ⅲ		年 間 授 業 計 画 (シラバス)	
科目名	数学Ⅲ	対象	進学理系	Ⅱ コース	単位数 1 単位
教科書	新編 数学Ⅲ		出版社 数研出版		
副教材	はぎ取り式ドリル 数学Ⅲ, 3 T R I A L 数学Ⅲ				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① 平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法についての理解を深める。
- ② 知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを積極的に活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法, 成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法に関心をもつとともに, それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって, 学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 7割 平常点 (学習態度, 小テスト, 課題など) 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4 ～ 11 12	数学Ⅱ ガイダンス 【1】 第1章複素数平面 1節 複素数平面 【4】 1 2節 複素数の極形式 【5】 3節ド・モアブルの定理 【3】 2 4節 複素数と図形 【4】 第2章式と曲線 1節 放物線 【3】 2節 楕円 【5】 3節 双曲線 【3】 3 <学年末考査>教科書 p6~p41	「数学受験に向けて」のプリントを参考に、学習の仕方についてガイダンスをする。 複素数平面について理解し、図形的意味を理解する。また、対称な点を表す複素数や共役複素数の性質を理解する。 極形式を理解し、乗法や除法の図形的意味や商の絶対値・偏角の性質などを理解する。 定理を利用して、 n 乗や n 乗根を求めることができる。 円や直線を複素数の方程式で表せ、線分の内分・外分・重心を求められる。複素数の方程式を満たす点全体について考察できる。 軌跡を利用し、放物線の方程式を導き、標準形で表せて、概形を書き、焦点・準線を求めることができる。 軌跡を利用し、楕円の方程式を導き、概形を書き、焦点・長軸・短軸の長さを求めることができる。 軌跡を利用し、双曲線の方程式を導き、標準形で表せて、概形を書き、焦点・頂点・漸近線を求めることができる。	28
			118

数 学 科 2 年		数 学 B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学 B	対象	進学理系	Ⅱ コース	単位数 3 単位
教科書	新編 数学 B		出版社 数研出版		
副教材	3 T R I A L 数学 B はぎとり式練習ドリル数 B				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① 数列及びベクトルについて理解させる。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	数列及びベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列及びベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列及びベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数列及びベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末にまとめる。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】 【1】 第1章 平面上のベクトル	・ 予習の仕方を身に付ける。 ・ 授業の受け方、ノートを取り方を学ぶ。	1
5	第1節 ベクトルとその演算【11】 ＜中間考査＞教科書 P6～P27	・ 復習し、理解が深まることを実感させる。 ・ 有効線分の向きと大きさだけに着目し、ベクトルの概念や本質について理解させる。 ・ ベクトルの相等および、和・差・実数倍などの演算方法を学び、活用できるようにする。 ・ ベクトルの2方向への分解を取り上げて、基本ベクトル表示・成分表示を学び、演算や表示ができるようにする。	11
6	第2節 ベクトルと平面図形【9】	・ ベクトルの内積の意味を学び、計算方法を理解し、活用できるようにする。 ・ 位置ベクトルの意味を理解し、内分・外分点・重心の位置ベクトルを求めることができるようにする。	16

7	第2章 空間のベクトル【13】 ＜期末考査＞教科書 P27～P53	・直線のベクトル表示を学習し、その成分表示と x, y の1次方程式との関係を明らかにする。 ・位置ベクトルが平面図形を調べるのに有効であることを認識させる。 ・空間は3次元であることを実感させ、空間の点の座標と2点の距離を求めることができるようにする。 ・ベクトルの成分表示に慣れさせ、成分計算、成分表示ができるようにする。 ・平面と同様、空間のベクトルの内積の定義を理解させる。 ・平面上のベクトルの公式がそのまま成り立つことを理解させ、位置ベクトルを用いて、空間図形の性質を調べる。	20
8			
9		・空間座標における2点間の距離、分点の座標が求められるようにする。球面の方程式では、座標平面に平行な平面との交わりに着目させる。	
10	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列【10】 ＜中間考査＞教科書 P52～P81	・数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理解させる。 ・等差数列の一般項を、初項・公差を使って表せるようにする。 ・等差数列の和を、n を用いて表せるようにする。 ・等比数列の一般項を、初項・公比を使って表せるようにする。 ・等比数列の和を、n を用いて表せるようにする。	15
11	第2節 いろいろな数列【6】 第3節 数学的帰納法【7】	・和を表す記号 Σ の意味と用法を理解し、自由に使えるようにする。 ・階差数列などいろいろな数列に親しみ、数列の和から一般項を求めることができるようにする。 ・隣り合う2項間の関係と初項から、一般項を求めることができるようにする。 ・自然数 n についての等式や不等式について、新しい証明法を学ぶ。	
12	＜期末考査＞教科書 P82～P104		
1	プリント演習		24
2			
3			
	＜学年末考査＞プリント範囲		
			87

数 学 科		2 年		数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅱ	対象	特進文系	コース	単位数	3	単位
教科書	新編 数学Ⅱ			出版社		数研出版	
副教材	3 T R I A L 数学Ⅱ，チャート式解法と演習数学Ⅱ+B，ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編						
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度，小テスト，課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】[1] 第4章 三角関数 1節 三角関数[9]	・「日々の学習」のプリントを参考に、学習の仕方についてガイダンスをする。 ・角の概念を一般角まで拡張し、弧度法を用いて角を表すことができるようにする。 ・単位円上の点の座標を三角関数で表せ、相互関係を理解し利用できるようにする。 ・三角関数のグラフが描けるようにする。 ・三角関数の相互関係の理解を深め、関数と式との関係を理解する。	16
5	2節 加法定理[6] ＜中間考査＞教科書 P104～138	・三角方程式・不等式が解けるようにする。 ・加法定理の公式を導き、それを活用できるようにする。 ・2倍角・半角の公式を導き、それを活用できるようにする。	
6	第5章 指数関数と対数関数 1節 指数関数[6]	・指数法則を理解し、計算ができるようにする。また、累乗根の意味とその性質を理解する。 ・指数関数のグラフが描けるようにし、指数についての方	
7	2節 対数関数[7] ＜期末考査＞P139～164	・対数の意味を明らかにし、対数の基本性質を理解する。 ・対数関数のグラフを描けるようにし、対数を含む方程式・不等式が解けるようにする。	13
8	第6章 微分法と積分法	・常用対数を用いて簡単な計算ができるようにする。	24
9	1節 微分係数と導関数[7]	・平均変化率の極限值としての微分係数を求めることができるようにする。 ・導関数を定義し、微分できるようにする。 ・微分を用いて、接線の方程式が求められるようにする。 ・導関数を用いて、関数の増減、極大・極小を調べることができるようにする。	
10	2節 関数の値の変化[7]	・関数の増減やグラフを利用して、関数の最大値・最小値を求めること、方程式の解について調べること、不等式を証明することなどができるようにする。	
11	3節 積分法[10] ＜中間考査＞P165～209	・微分の逆計算として不定積分を導入し、不定積分の計算ができるようにする。 ・定積分の計算ができるようにする。	
12	ベーシックスタイル数学演習	・定積分の応用として、平面図形の面積が計算できるようにする。 ・総復習しながら、理解を深めていく。	
1	＜期末考査＞		20
2			
3	＜学年末考査＞		22
			95

数 学 科 2 年		数 学 B		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学 B	対象	特進文系	コース	単位数 2 単位
教科書	新編 数学 B		出版社 数研出版		
副教材	3 T R I A L 数学 B チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① 数列及びベクトルについて理解させる。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	数列及びベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列及びベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列及びベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数列及びベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末にまとめる。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】 【1】 第1章 平面上のベクトル	・ 予習の仕方を身に付ける。 ・ 授業の受け方、ノートを取り方を学ぶ。	1
5	第1節 ベクトルとその演算【11】	・ 復習し、理解が深まることを実感させる。 ・ 有効線分の向きと大きさだけに着目し、ベクトルの概念や本質について理解させる。	11
6	<中間考査>教科書 P6～P27 第2節 ベクトルと平面図形【13】	・ ベクトルの相等および、和・差・実数倍などの演算方法を学び、活用できるようにする。 ・ ベクトルの2方向への分解を取り上げて、基本ベクトル表示・成分表示を学び、演算や表示ができるようにする。 ・ ベクトルの内積の意味を学び、計算方法を理解し、活用できるようにする。 ・ 位置ベクトルの意味を理解し、内分・外分点・重心の位置ベクトルを求めることができるようにする。	13

7			
8	＜期末考查＞教科書 P28～P43	・直線のベクトル表示を学習し、その成分表示と x, y の 1 次方程式との関係を明らかにする。	
9	第 2 章 空間のベクトル 【16】	・位置ベクトルが平面図形を調べるのに有効であることを 認識させる。	13
10	＜中間考查＞教科書 P44～P59	・空間は 3 次元であることを実感させ、空間の点の座標と 2 点の距離を求めることができるようにする。	
11	第 3 章 数列	・ベクトルの成分表示に慣れさせ、成分計算、成分表示が できるようにする。	
12	第 1 節 等差数列と等比数列 【10】	・平面と同様、空間のベクトルの内積の定義を理解させる。	13
1	＜期末考查＞教科書 P60～P81	・空間座標における 2 点間の距離、分点の座標が求められ るようにする。球面の方程式では、座標平面に平行な平 面との交わりに着目させる。	
2	第 2 節 いろいろな数列 【6】	・数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理 解させる。	13
		・等差数列の一般項を、初項・公差を使って表せるように する。	
		・等差数列の和を、 n を用いて表せるようにする。	
		・等比数列の一般項を、初項・公比を使って表せるように する。	
		・等比数列の和を、 n を用いて表せるようにする。	
		・和を表す記号 Σ の意味と用法を理解し、自由に使えるよ うにする。	
		・階差数列などいろいろな数列に親しみ、数列の和から一 般項を求めることができるようにする。	
	第 3 節 数学的帰納法 【7】	・隣り合う 2 項間の関係と初項から、一般項を求めること ができるようにする。	
3	＜学年末考查＞教科書 P82～P104	・自然数 n についての等式や不等式について、新しい証明 法を学ぶ。	
			64

数 学 科		2 年		数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅱ	対象	特進理系	コース	単位数	3	単位
教科書	新編 数学Ⅱ			出版社		数研出版	
副教材	はぎ取り式ドリル 数学Ⅱリンク数学演習ⅠA+ⅡB, チャート式解法と演習数学Ⅱ+B						
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度，小テスト，課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】[1]	・「日々の学習」のプリントを参考に、学習の仕方についてガイダンスをする。	22
5	第4章 三角関数 1節 三角関数[11]	・角の概念を一般角まで拡張し、弧度法を用いて角を表すことができるようにする。 ・単位円上の点の座標を三角関数で表せ、相互関係を理解し利用できるようにする。 ・三角関数のグラフが描けるようにする。 ・三角関数の相互関係の理解を深め、関数と式との関係を理解する。	
6	2節 加法定理[11] ＜中間考査＞教科書 P104～150	・三角方程式・不等式が解けるようにする。 ・加法定理の公式を導き、それを活用できるようにする。 ・2倍角・半角の公式を導き、それを活用できるようにする。また、三角関数の合成について理解する。	26
7	第5章 指数関数と対数関数 1節 指数関数[8]	・指数法則を理解し、計算ができるようにする。また、累乗根の意味とその性質を理解する。	
8	2節 対数関数[9]	・指数関数のグラフが描けるようにし、指数についての方 程式・不等式が解けるようにする。 ・対数の意味を明らかにし、対数の基本性質を理解する。 対数関数のグラフを描けるようにし、対数を含む方程式・ 不等式が解けるようにする。	24
9	第6章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数[9] ＜期末考査＞P151～189	・常用対数を用いて簡単な計算ができるようにする。 ・平均変化率の極限值としての微分係数を求めることができ るようにする。 ・導関数を定義し、微分できるようにする。 ・微分を用いて、接線の方程式が求められるようにする。 ・導関数を用いて、関数の増減、極大・極小を調べることが できるようにする。	
10	2節 関数の値の変化[11]	・関数の増減やグラフを利用して、関数の最大値・最小値を 求めること、方程式の解について調べること、不等式を証 明することなどができるようにする。	72
	3節 積分法[13] ＜中間考査＞P189～209 ～ 数学Ⅲへ ～	・微分の逆計算として不定積分を導入し、不定積分の計算が できるようにする。 ・定積分の計算ができるようにする。 ・定積分の応用として、平面図形の面積が計算できるように する。 ・総復習しながら、理解を深めていく。	

数 学 科 2 年		数学Ⅲ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅲ	対象	特進理系	コース	単位数 1 単位
教科書	新編 数学Ⅲ		出版社 数研出版		
副教材	はぎ取り式ドリル 数学Ⅲ, 3 T R I A L 数学Ⅲ, チャート式解法と演習 数学Ⅲ				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① 平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法についての理解を深める。
- ② 知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを積極的に活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法, 成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法に関心をもつとともに, それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって, 学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 7割 平常点 (学習態度, 小テスト, 課題など) 3割

3 学習計画

[illegible]

数学 科 2 年 数学 B 年間授業計画（シラバス）					
科目名	数学 B	対象	特進理系	コース	単位数 3 単位
教科書	新編 数学 B			出版社	数研出版
副教材	3 TRIAL 数学 B チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B				
担当者					

1 学習の到達目標

- ① 数列及びベクトルについて理解させる。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の趣旨	数列及びベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列及びベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列及びベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数列及びベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末にまとめる。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】 【1】 第1章 平面上のベクトル	・ 予習の仕方を身に付ける。 ・ 授業の受け方、ノートを取り方を学ぶ。	1
5	第1節 ベクトルとその演算【11】 ＜中間考査＞教科書 P6～P27	・ 復習し、理解が深まることを実感させる。 ・ 有効線分の向きと大きさだけに着目し、ベクトルの概念や本質について理解させる。 ・ ベクトルの相等および、和・差・実数倍などの演算方法を学び、活用できるようにする。 ・ ベクトルの2方向への分解を取り上げて、基本ベクトル表示・成分表示を学び、演算や表示ができるようにする。	11
6	第2節 ベクトルと平面図形【9】	・ ベクトルの内積の意味を学び、計算方法を理解し、活用できるようにする。 ・ 位置ベクトルの意味を理解し、内分・外分点・重心の位置ベクトルを求めることができるようにする。	16

7	第2章 空間のベクトル【13】 ＜期末考査＞教科書 P27～P53	・直線のベクトル表示を学習し、その成分表示と x, y の1次方程式との関係を明らかにする。 ・位置ベクトルが平面図形を調べるのに有効であることを認識させる。 ・空間は3次元であることを実感させ、空間の点の座標と2点の距離を求めることができるようにする。 ・ベクトルの成分表示に慣れさせ、成分計算、成分表示ができるようにする。 ・平面と同様、空間のベクトルの内積の定義を理解させる。 ・平面上のベクトルの公式がそのまま成り立つことを理解させ、位置ベクトルを用いて、空間図形の性質を調べる。	20
8			
9		・空間座標における2点間の距離、分点の座標が求められるようにする。球面の方程式では、座標平面に平行な平面との交わりに着目させる。	
10	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列【10】 ＜中間考査＞教科書 P52～P81	・数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理解させる。 ・等差数列の一般項を、初項・公差を使って表せるようにする。 ・等差数列の和を、n を用いて表せるようにする。 ・等比数列の一般項を、初項・公比を使って表せるようにする。 ・等比数列の和を、n を用いて表せるようにする。	15
11	第2節 いろいろな数列【6】 第3節 数学的帰納法【7】	・和を表す記号 Σ の意味と用法を理解し、自由に使えるようにする。 ・階差数列などいろいろな数列に親しみ、数列の和から一般項を求めることができるようにする。 ・隣り合う2項間の関係と初項から、一般項を求めることができるようにする。 ・自然数 n についての等式や不等式について、新しい証明法を学ぶ。	
12	＜期末考査＞教科書 P82～P104		
1	プリント演習		24
2			
3			
	＜学年末考査＞プリント範囲		
			97

数 学 科 3 年			数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学Ⅱ	対象	スポーツ	コース	単位数	3	単位
教科書	フォローノートⅡ+B			出版社	数研出版		
副教材	フォローノートⅡ+B						
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ③ 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を身につける。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を数学的に記述し多面的・発展的に考えることを通して，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など）3割

2 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	到達度対策		
5	到達度テスト フォローノート数学Ⅱ+B 1 整式の計算と二項定理 ↓ 8 高次方程式 ———— I 学期・中間考査 ———— 9 点の座標 ↓ 24 対数関数 ———— I 学期・期末考査 ————	・類題がある問題などは片方を解説、もう一方を演習する。計算主体の問題などは積極的に解く。 - また、程度の高い問題や高度な計算力や発想力を要する問題などは、とばして進める。 ・1時間平均3～4題程度(問題の難易・計算量による)を目安とし、テンポ良く進める。1回の授業で見開き(2p分)の2/3程度(易しい場合は見開き全部)の消化を目安とする。	14
6			
7			
8	到達度対策	・9月初旬～9月第4週まで到達度テスト過去問による対策演習などを行い到達度テストに備える。	16
9	3年9月・基礎学力到達度テスト		
10	25 微分係数 ↓ 32 面積 ———— II 学期・中間考査 ———— 33 ベクトルの演算と成分 ↓ 43 漸化式 (44 数学的帰納法は扱わない)	・位置ベクトル・空間ベクトルの一部の高度な問題は省く。 ・項目44は扱わない。	20
11			
12	日本大学卒業前テキストによる演習 ———— II 学期・期末考査 ————	・11月第2週より「日本大学卒業前教育」テキストに沿って総復習と演習を行う。(～12月中旬まで)	18
			68

数 学 科		3 年		数学探究		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学探究	対象	スポーツ	コース	単位数	2単位	
教科書	フォローノートⅠ+A				出版社	数研出版	
副教材	フォローノートⅠ+A						
担当者							

1 学習の到達目標

- ④ 2次関数・三角比や場合の数などの基礎的な知識の習得と計算技能の習熟を図る。
 ⑤ 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を身につける。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

③ 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	2次関数・三角比・場合の数の演習に積極的に取り組み、計算技能を養い、それらを問題解決の手段へ応用する。数学的な事象の考察や活用能力を養う。	2次関数や三角比などの題材を通して基礎的な事象を数学的に考察・表現し、思考や計算の過程を振り返り、論理的な処理・解決能力を身に付けている。	2次関数・三角比・場合の数・整数などの単元の復習・演習を通して基礎的な計算処理技能を研鑽し身に付けている。	2次関数の頂点・2次不等式の解法・三角比の図形への活用・場合の数と確率の計算などの題材における基礎的な計算技術や問題解決の手法を学ぶ。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

④ 成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 7 割 平常点（学習態度、小テスト、課題など） 3 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】[1]	・予習の仕方を身に付ける。 ・授業の受け方，ノートを取り方を学ぶ。 ・復習し，理解が深まることを実感する。	
	基礎学力到達度テスト対策[3] フォローノート I・A	基礎学力テストまで，過去問等で演習をする。	
5	1 数の計算 ↓ 14 関数とグラフ まで[9] ＜中間考査＞フォローp4～p14,	＜フォローノートの進め方＞ 類題がある問題などは片方を解説，もう一方を生徒らに演習させ，計算主体の問題などは生徒らに積極的に解く。 また，程度の高い問題や高度な計算力や発想力を要する問題などは，とばして進める。	13
6	12 2次関数のグラフ(1) から ↓ 24 三角比の相互関係 まで[14]	1時間平均してテキスト見開き1つ分(2p)程度 (問題の難易・計算量による)を目安としテンポ良く進める。	
7	＜期末考査＞フォローp15～p27,	フォローノートの各項目を通じて，	14
8		平方完成と2次関数の頂点・グラフ，2次不等式の解法，鋭角・鈍角の三角比の値，正弦定理と余弦定理の活用，場合の数の計算(順列・組合せのP,Cの使い分け)，様々な事象の確率の計算，約数と倍数・互除法 などの演習・習熟を目指す。	
9	25 正弦定理 から ↓ 34 条件付き確率 まで[9] 基礎学力到達度テスト対策[4] ＜中間考査＞フォローp28～p41		13
10	39、平面図形 から ↓		
11	42、整数の性質(2) まで[3] 卒業前教育テキスト[10] (文系；I+A分野)	フォローノート終了後 11月中旬より日本大学卒業前教育テキスト(文系)の数IA範囲を消化していく。	
12	＜期末考査＞フォローp42～p45, 卒業前テキストの数I+Aの部分		13
			53

数 学 科 3 年			数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学Ⅱ	対象	進学文系Ⅰ	コース	単位数	3	単位
教科書	チャレンジワーク文系数学			出版社	学研アソシエ		
副教材							
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

⑤ 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び、微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

⑥ 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。
評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	基礎学力到達度対策[4]	・基礎学力到達度の出題傾向を考え、対策を行う。	4
5	基礎学力到達度テスト 第9章 複素数と方程式[6] 第10章 図形と方程式[6] ＜中間考查＞P46～61	・「これだけはおさえよう」で公式などの確認をし、「基本問題」までは誰でも解けるようにする。 最終的には「まとめ問題」で理解度や応用力を確認する。	12
6	第11章 三角関数[7] 第12章 指数関数・対数関数[6] 第13章 微分法と積分法[6]		
7	＜期末考查＞P62～79		19
8			
9	第14章 数列[5] 第15章 ベクトル[7] 基礎学力到達度テスト Ⅱ+Bの復習[10]		12
10	＜中間考查＞P46～95 卒業前教育[20]		10
11	＜期末考查＞		20
			77

数学 科 3 年							数学探究		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学探究		対象	進学文系Ⅰ		コース	単位数	3		単位
教科書	チャレンジワーク文系数学					出版社	学研アソシエ			
副教材	リンク数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編									
担当者										

1 学習の到達目標

公式を覚え、正しく使えるようにし、教科書の例題レベルが解けるようにする。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

⑦ 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	数学的な見方や考え方の良さを認識し、積極的に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考え、多面的・発展的に考える。	数学的に考察し、表現・処理する方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	基本的な概念、原理・原則、用語・記号などを理解し、知識を身に付ける。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

⑧ 成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 7 割 平常点（学習態度、小テスト、課題など） 3 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	基礎学力到達度対策	・基礎学力到達度の出題傾向を考え、対策授業を行う。	3
	基礎学力到達度テスト		
5	第1章 数と式	・「これだけはおさえよう」で公式などの確認をし、「基本問題」までは誰でも解けるようにする。	10
	第2章 2次関数	最終的には「まとめ問題」で理解度や応用力を確認する。	
	中間考査		
	第3章 三角比		
6	第4章 データの分析		21
	第5章 場合の数		
7	期末考査		
8			
9	第7章 整数の性質		21
	第8章 図形の性質		
	基礎学力到達度テスト I		
	+A の復習		6
10	中間考査		
	I +A の復習		18
11	期末考査		
			79

数 学 科 3 年			数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学Ⅱ	対象	進学文系Ⅱ	コース	単位数	3	単位
教科書	チャレンジワーク文系数学			出版社	学研		
副教材							
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

⑨ 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び、微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

⑩ 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。
評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	基礎学力到達度対策[4]	・基礎学力到達度の出題傾向を考え、対策授業を行う。	4
	基礎学力到達度テスト		
5	第9章 複素数と方程式[6]	・「これだけはおさえよう」で公式などの確認をし、「基本問題」までは誰でも解けるようにする。	12
	第10章 図形と方程式[6]	最終的には「まとめ問題」で理解度や応用力を確認する。	
	＜中間考査＞P46～61		
	第11章 三角関数[7]		
6	第12章 指数関数・対数関数[6]		
	第13章 微分法と積分法[6]		
7	＜期末考査＞P62～79		19
8			
9	第14章 数列[5]		
	第15章 ベクトル[7]		
	基礎学力到達度テスト		12
	Ⅱ+Bの復習[10]		
10	＜中間考査＞P46～95		10
	卒業前教育[20]		
11	＜期末考査＞		20
			77

数 学 科		3 年		数学探究		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学探究	対象	進学文系Ⅱ	コース	単位数	3	単位
教科書	チャレンジワーク文系数学			出版社	学研アソシエ		
副教材	チャレンジワーク文系数学						
担当者							

1 学習の到達目標

公式を覚え、正しく使えるようにし、教科書の例題レベルが解けるようにする。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

⑪ 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	数学的な見方や考え方の良さを認識し、積極的に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考え、多面的・発展的に考える。	数学的に考察し、表現・処理する方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	基本的な概念、原理・原則、用語・記号などを理解し、知識を身に付ける。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

⑫ 成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	基礎学力到達度対策	・基礎学力到達度の出題傾向を考え、対策を行う。	3
	基礎学力到達度テスト		
5	第1章 数と式	・「これだけはおさえよう」で公式などの確認をし、「基本問題」までは誰でも解けるようにする。	10
	第2章 2次関数	最終的には「まとめ問題」で理解度や応用力を確認する。	
	中間考査		
	第3章 三角比		
6	第4章 データの分析		21
	第5章 場合の数		
7	期末考査		
8			
9	第7章 整数の性質		21
	第8章 図形の性質		
	基礎学力到達度テスト I		
	+A の復習		6
10	中間考査		
	I +A の復習		18
11	期末考査		
			79

数 学 科 3 年			数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学Ⅱ	対象	進学理系Ⅰ	コース	単位数	3	単位
教科書	チャレンジワーク理系数学			出版社	学研		
副教材							
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
 ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

⑬ 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び、微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

⑭ 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。
 評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	基礎学力到達度対策	・基礎学力到達度の出題傾向を考え、対策を行う。 ・「これだけはおさえよう」で公式などの確認をさせ、「基本問題」のこちらで指定した問題は、予習用の宿題とする。授業では「基本問題」の残りと「まとめ問題」を中心に進める。	4
	基礎学力到達度テスト		
	第1章 数と式、不等式、命題[2]		
5	第2章 2次関数[2]		
	第3章 三角比[2]		
	第4章 データの分析[2]		
	第5章 場合の数[2]		
	第6章 確率[2]		
	＜中間考査＞P2～25		12
6	第7章 整数の性質[2]		
	第8章 図形の性質[2]		
	第9章 複素数と方程式[3]		
	第10章 図形と方程式[3]		
	第11章 三角関数[3]		
	第12章 指数関数・対数関数[3]		
	第13章 微分法と積分法[3]		
7	＜期末考査＞P26～63		19
8			
9	第14章 数列[2]		
	第15章 ベクトル[3]		
	第16章 いろいろな曲線[1]		
	第17章 複素数平面[2]		
	第18章 いろいろな関数[1]		
	第19章 極限[3]		12
	基礎学力到達度テスト		
10	Ⅱ+Bの復習		10
	＜中間考査＞P2～95		
11	卒業前教育		20
	＜期末考査＞		
			79

数 学 科 3 年		数学Ⅲ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅲ	対象	進学理系Ⅰ	コース	単位数 4 単位
教科書	新編 数学Ⅲ		出版社 数研出版		
副教材	3 T R I A L 数学Ⅲ				
担当者					

1 学習の到達目標

- ③ 様々な曲線とその表示，極限，微分法及び積分法とその応用についての理解を深める。
- ④ 知識の習得と技能の習熟を図る。
- ⑤ 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を身につける。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法に関心をもつとともに，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察 ノート(板書)	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

- ① 評価の方法によって，学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度，小テスト，課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】[1]	- 予習の仕方を身に付ける。 - 授業の受け方， ノートの取り方を学ぶ。 - 復習し， 理解が深まることを実感する。 - 基礎学力テストまで， 過去問等で演習をする。	
5	基礎学力到達度テスト直前対策 [4] 第4章 極限 第1節 数列の極限 [8]	- 数列の極限值を求めることができる。 - 無限等比数列の収束・発散を利用して， 極限を求めることができる。	24
	第2節 関数の極限 [9] 章末問題【2】 ＜中間考査＞	様々な不定形の極限の計算能力を養う。 関数の定義域によっては右側・左側などの片側極限が必要となることを理解させ， のちの連続性へ繋げる。	
	第5章 微分法 第1節 導関数 [6]	微分の基礎計算技能を養う。 積・商の導関数， 特に合成関数の微分法の計算の習熟を強化する。	
6	第2節 いろいろな関数の導関数 [10] 章末問題【3】 第6章 第1節 導関数の応用 [9] ＜期末考査＞	- 三角関数， 指数関数， 対数関数の微分を学び， 頻出である $\log f(x)$ の微分(対数微分法)についても習熟する。 - 曲線の方程式や媒介変数表示における微分計算を学ぶ。 - 微分係数の応用としての接線・法線の方程式の求め方や平均値の定理を学ぶ。	28
7	第2節 いろいろな応用 [6]	- 第2次導関数を用いた変曲点や凹凸の判定， それらを踏まえた増減表やグラフの描画を学び習熟する。 - 方程式・不等式の考察へ増減やグラフを応用する。	
8			
9	基礎学力到達度テスト対策 [8] 章末問題【3】	9 月上～中旬より基礎学力到達度テスト対策として過去問演習に費やす。(テスト当日まで)	
10	第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 [8] ＜中間考査＞	微分の逆演算としての積分の計算を理解し， 様々な関数の不定積分の計算を学ぶ。	25
11	第2節 定積分 [12]	- 不定積分の習熟を土台として定積分の計算力を養う。 複雑な関数における置き換えの有効性を理解させ， 置換積分に繋げる。 また積の形の式や次数下げに対して部分積分法の有効性を理解する。 - 置換積分においては変域に十分注意する。	
12	第3節 積分法の応用 [12]	- 区分求積法を利用した和の極限の求め方を学ぶ。 - 積分の最重要な応用としての面積・体積・弧長の計算技術を学び， 習熟する。 速度と道のりへの応用にも触れる。	
1	＜期末考査＞		24
2	～卒業前教育～[4]	卒業前教育テキストの数Ⅲ範囲をこなす。	4
3			
			105

数 学 科 3 年			数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学Ⅱ	対象	進学理系Ⅱ	コース	単位数	3 単位	
教科書	チャレンジワーク理系数学			出版社	学研		
副教材							
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

⑮ 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び、微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

⑯ 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。
評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	基礎学力到達度対策	・基礎学力到達度の出題傾向を考え、対策授業を行う。	4
5	基礎学力到達度テスト 第1章 数と式、不等式、命題[2] 第2章 2次関数[2] 第3章 三角比[2] 第4章 データの分析[2] 第5章 場合の数[2] 第6章 確率[2] ＜中間考査＞P2～25	・「これだけはおさえよう」で公式などの確認をさせ、「基本問題」のこちらで指定した問題は、予習用の宿題。授業では「基本問題」の残りと「まとめ問題」を中心に進める。	12
6	第7章 整数の性質[2] 第8章 図形の性質[2] 第9章 複素数と方程式[3] 第10章 図形と方程式[3] 第11章 三角関数[3] 第12章 指数関数・対数関数[3] 第13章 微分法と積分法[3] ＜期末考査＞P26～63		19
7			
8			
9	第14章 数列[2] 第15章 ベクトル[3] 第16章 いろいろな曲線[1] 第17章 複素数平面[2] 第18章 いろいろな関数[1] 第19章 極限[3] 基礎学力到達度テスト		12
10	Ⅱ+Bの復習 ＜中間考査＞P2～95		10
11	卒業前教育 ＜期末考査＞		20
			79

数学 科 3 年		数学Ⅲ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅲ	対象	進学理系Ⅱ	コース	単位数 4 単位
教科書	新編 数学Ⅲ		出版社 東京書籍		
副教材	3 T R I A L 数学Ⅲ				
担当者					

2 学習1 学習の到達目標

- ⑥ 様々な曲線とその表示，極限，微分法及び積分法とその応用についての理解を深める。
 ⑦ 知識の習得と技能の習熟を図る。
 ⑧ 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を身につける。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	数Ⅲ特有の概念である極限の考えと自然対数 e の存在や，自然科学の根拠をなす微分法及び積分法に関心をもつとともに，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。無限・連続性・微積分が近代科学の基盤であることへの関心を持ち、理解する。	極限と連続性などの数学的概念が微積分の根拠をなすことの理解を促し，数学的な考察や問題解決の手法としての極限，微分法及び積分法の考え方を習熟する。微積分の基礎的計算技能を養うとともに，1次近似としての微分法・求積手段としての積分法の内容を理解する。	初等関数の微分演算への習熟と，微分法を関数の増減やグラフの描画へ活用する思考力，積分法を面積・体積・弧長などへ応用する能力，その過程で必須となる置換積分・部分積分などの特有の計算技能を養う。これらの習熟を通して事象を数理科学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	微積分の理論的基礎となる無限や極限・連続性の意味を理解する。増減やグラフの概形を把握する手段としての微分法，面積・体積などの求積手段としての積分法を理解・活用し，微積分における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識や応用力を身に付けている。
評価の 方法	授業観察 ノート(板書)	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

② 評価の方法によって，学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度，小テスト，課題など）3割

3. 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】[1]	・予習の仕方を身に付ける。 ・授業の受け方， ノートの取り方を学ぶ。 ・復習し， 理解が深まることを実感する。	
5	基礎学力到達度テスト直前対策 [4]	基礎学力テストまで， 過去問等で演習をする。	
	第4章 極限 第1節 数列の極限 [8]	・等比数列の極限を公比 r の値により分類する。 r と 1 との大小が鍵となることを理解する。 r^n の収束する必要十分条件などを把握する。またこれらの応用として無限等比級数の収束について考察する。 ・無限級数を部分和の極限として計算できるようにする。やや複雑な計算にも対応できる処理能力を養う。 ・様々な不定形の極限の計算能力を養う。関数の定義域によっては右側・左側などの片側極限が必要となることを理解させ， のちの連続性の指導へ繋げる。 ・重要項目である $\frac{\sin x}{x}$ の極限とその応用などを学ぶ。	24
	第2節 関数の極限 [9] 章末問題 [2]	関数の連続性とその応用としての中間値の定理を学ぶ。	
	<中間考査>		
	第5章 微分法 第1節 導関数 [6]	・微分の基礎計算技能を養う。積・商の導関数， 特に合成関数の微分法の計算の習熟を強化する。 ・三角関数， 指数関数， 対数関数の微分を学び， 頻出である $\log f(x)$ の微分(対数微分法)についても習熟する。 ・曲線の方程式や媒介変数表示における微分計算を学ぶ。	
	第2節 いろいろな関数の導関数 [10]		
6	第6章 第1節 導関数の応用 (前半) [9] ～関数の値の変化 まで～ <期末考査>	・微分係数の応用としての接線・法線の方程式の求め方や平均値の定理を学ぶ。 ・第2次導関数を用いた変曲点や凹凸の判定， それらを踏まえた増減表やグラフの描画を学び習熟する。 ・方程式・不等式の考察へ増減やグラフを応用する。	25
	第1節 導関数の応用 (後半) [6] ～関数のグラフ より～ 第2節 いろいろな応用 [6]		
	基礎学力到達度テスト対策 [8]	9 月上～中旬より基礎学力到達度テスト対策として過去問演習に費やす。(テスト当日まで)	
7	第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 [8] <中間考査>	・微分の逆演算としての積分の計算を理解し， 様々な関数の不定積分の計算を学ぶ。	28
8	第2節 定積分 [12]	・不定積分の習熟を土台として定積分の計算力を養う。複雑な関数における置き換えの有効性を理解させ， 置換積分の指導に繋げる。また積の形の式や次数下げに対して部分積分法の有効性を理解する。	
9		置換積分においては変域に十分注意する。	
10	第3節 積分法の応用 [12]	・区分求積法を利用した和の極限の求め方を学ぶ。	

11	<学年末考查> ～卒業前教育～[4]	・積分の最重要な応用としての面積・体積・弧長の計算技術を学び，習熟する。 速度と道のりへの応用にも触れる。 卒業前教育テキストの数Ⅲ範囲をこなす。	24
12			4
1			
2			
3			
			105

数 学 科 3 年			数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学Ⅱ	対象	特進文系	コース	単位数	3	単位
教科書	ベーシックスタイルⅠ・Ⅱ・A・B			出版社	数研出版		
副教材	ベーシックスタイルⅠ・Ⅱ・A・B						
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

⑰ 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び、微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

⑱ 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。
評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	基礎学力到達度対策[4]	・基礎学力到達度の出題傾向を考え、対策授業を行う。	4
5	基礎学力到達度テスト ベーシックスタイルⅠ・Ⅱ・A・B P6～P49 [12] ＜中間考査＞	Complete の問題を行う。1 日 3～4 題のペース。	12
6	P52～P117 [19]		
7	＜期末考査＞		19
8	P10～P176 まで [20]	ベストセクション センター試験の「最重要」に	
9	基礎学力到達度テスト	チェックが入っている問題を1日3題のペースで解く。	
10	＜中間考査＞	チェックのない問題を抜粋して行う。	20
	P10～P176 まで [15]		15
11	＜期末考査＞		
12	センター対策 黒本・青本[10]		10
			80

数 学 科 3 年			数学探求		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学探究	対象	特進文系	コース	単位数	3	単位
教科書	シニアⅠ・Ⅱ・A・B			出版社	数研出版		
副教材	シニアⅠ・Ⅱ・A・B 国立大学過去問題						
担当者							

1 学習の到達目標

- ① 基礎的な公式・典型的な解法パターンに習熟し、入試基礎のレベルを難なく解ける力を養う。
 ② 典型問題の習熟に加え、応用力と腰の強い計算力などを養成する。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

⑨ 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	数学的な見方や考え方の良さを認識し、積極的に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考え、多面的・発展的に考える。	数学的に考察し、表現・処理する方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	基本的な概念、原理・原則、用語・記号などを理解し、知識を身に付ける。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

⑩ 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	数学受験に向けて シニアⅠ・Ⅱ・A・B	左ページのポイントチェックを解く。 4題ずつを目安に進める。	
5	I+A 中間テスト	予習を前提とし、極端に簡単な問題は答えのみを確認。	18
6	Ⅱ+B		
7	期末テスト		18
8	到達度テスト対策 到達度テスト	現状に合わせてシニアまたは黄チャート 2周目は右ページのA問題*印の問題を解く。	
9	I+A, Ⅱ+B	予習を前提。	18
10	中間テスト		
11	センター試験対策問題演習 期末テスト	センター試験・2次試験対策問題演習では、事前に解き、授業で解説。	18
12	センター試験対策問題演習 国立大学2次対策問題演習 センター試験直前演習		
			72

普通科 3 年			数学Ⅱ		年間授業計画（シラバス）		
科目名	数学Ⅱ	対象	特進理系	コース	単位数	3	単位
教科書	キートレーニングⅠ・Ⅱ・A・B			出版社	数研出版		
副教材							
担当者							

1 学習の到達目標

- ① いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。
- ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

21 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び、微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

22 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。
評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度、小テスト、課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	数学受験に向けて キートレーニングⅠ・Ⅱ・A・B	左ページの「Training」の解説。	13
5	1。式の計算 ↓ 21。整数の性質の種々の問題 ↓ 中間テスト	1時間1単元以上を目安。 必ず「Get Ready」を予習する。	
6	22。二項定理、整式の除法、分数式の計算 ↓		
7	38。面積 ↓ 期末テスト		
8	演習	右ページの「Challenge」の解説。*印の問題は全問、 無印の問題はセレクトして扱う。1時間4題程度を目安 とする。予習を前提とする。	21
9	中間テスト		21
10	期末テスト		
11	センター試験対策問題演習 国立大学2次対策問題演習 センター試験直前演習	・センター試験・2次試験対策問題演習では、事前に解 き、授業で解説。	24
12			
			79

数 学 科		3 年		数学Ⅲ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	数学Ⅲ	対象	特進理系	コース	単位数	4	単位
教科書	新編 数学Ⅲ			出版社 数研出版			
副教材	3 T R I A L 数学Ⅲ, ベーシックスタイル数学Ⅲ, チャート式解法と演習 数学Ⅲ						
担当者							

1 学習の到達目標

- ⑨ 様々な曲線とその表示, 極限, 微分法及び積分法とその応用についての理解を深める。
 ⑩ 知識の習得と技能の習熟を図る。
 ⑪ 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを積極的に活用する態度を身につける。

2 評価の観点・趣旨・方法, 成績評価の方法

② 評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の 趣旨	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法に関心をもつとともに, それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。
評価の 方法	授業観察 ノート(板書)	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題	小テスト 定期考査 課題

② 成績評価の方法

③ 評価の方法によって, 学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 7 割 平常点 (学習態度, 小テスト, 課題など) 3 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 【予習復習体験学習】[1]	・予習の仕方を身に付ける。 ・授業の受け方， ノートの取り方を学ぶ。 ・復習し， 理解が深まることを実感する。	
5	基礎学力到達度テスト直前対策 [4] 第6章	基礎学力テストまで， 過去問等で演習をする。	
	第2節 いろいろな応用 [6]	・方程式・不等式の考察へ増減やグラフを応用する。	
	第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 [8]	・微分の逆演算としての積分の計算を理解し， 様々な関数の不定積分の計算を学ぶ。	
	<中間考査>		
6	第2節 定積分 [10]	・不定積分の習熟を土台として定積分の計算力を養う。複雑な関数における置き換えの有効性を理解させ， 置換積分に繋げる。 また積の形の式や次数下げに対して部分積分法の有効性を理解する。	26
	第3節 積分法の応用 [10]	・置換積分においては変域に十分注意する。 ・区分求積法を利用した和の極限の求め方を学ぶ。 ・積分の最重要な応用としての面積・体積・弧長の計算技術を学び， 習熟する。 速度と道のりへの応用にも触れる。	
	<期末考査>		
7	基礎学力到達度テスト対策 [8]	9 月上～中旬より基礎学力到達度テスト対策として過去問演習に費やす。(テスト当日まで)	
	ベーシックスタイルⅢ	Style と Same Style の解説。 1 時間 3、4 題程度を目安とする。	28
8			
9	<中間考査>	Style と Same Style の解説。	
10	ベーシックスタイルⅢ	1 時間 3、4 題程度を目安とする。	25
11	<期末考査> センター試験対策	センター試験対策	
12			24
1			4
2			
3			
			107

理 科 1 年 科学と人間生活 年間授業計画（シラバス）					
科目名	科学と人間生活	対象	スポーツ	コース	単位数 2 単位
教科書	新 科学と人間生活 出版社 数研出版				
副教材	新 科学と人間生活 整理ノート				

1 学習の到達目標

①	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
②	科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解する。
③	身近な自然の事物・現象及び日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深める。
④	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の内容	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について興味・関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について問題を見だし、観察、実験などを通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録し、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、観察、実験などを通して理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	学習態度 確認テストなど	定期テストなど	観察・実験など	問題集 レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	予習復習体験学習 中学校理科の復習	プリント学習で中学校の復習を行う。	4
5	序編 科学技術の発展 「見る」技術の広がり 1. 視覚の世界 2. 見るという能力 3. 見る世界の拡大 4. 大宇宙へ小宇宙へ 5. 視覚化の発展 6. 人間生活の変化	予習復習体験 ・科学技術の発展が今日の生活を豊かで便利にしてきたことに貢献し、社会の変化に影響を与えてきたことを、身近な科学技術の例から理解する。 ・身近な自然の事物・現象及び日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深める。	6

	一学期中間考查		1
6	第1編 物質の科学 第1章 金属, プラスチック とその利用 第2章 衣料と食品	・日常生活にみられる身近な物質の素材となる材料の種類, 性質, 及び用途について理解する。 ※〔第1章 金属, プラスチックとその利用〕と〔第2章 衣料と食品〕は, いずれか1つを選択して学習する。	8
7	一学期期末考查	1学期の復習	2
8	第一回学力考查	夏休みの課題より出題	1
9	第2編 生命の科学 第1章 生物と光 第2章 微生物とその利用	・植物の生育と光との関係, 動物の行動及びヒトの視覚と光とのかわり, 多様な微生物と生態系での働き, 微生物と人間生活とのかわりについて理解する。 ※〔第1節 生物と光〕と〔第2節 微生物とその応用〕は,	8
10	二学期中間考查		1
11	第3編 熱や光の科学 第1章 熱の性質とその利用 第2章 光の性質とその利用	・熱の性質やエネルギーの変換と保存, 有効利用, 及び光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解する。 ※〔第1章 熱の性質とその利用〕と〔第2節 光の性質とその利用〕は, いずれか1つを選択して学習する。	8
12	二学期期末考查	2学期の復習	1
1	第二回学力考查	冬休みの課題より出題	1
	第4編 地球や宇宙の科学 第1章 自然景観と自然災害 第2章 太陽系における地球	・身近な自然景観の成り立ちと自然災害, 及び太陽や月などの身近にみられる天体と人間生活とのかわり, 太陽系における地球について理解する。 ※〔第1節 身近な自然景観と自然災害〕と〔第2節 身近な天体と太陽系における地球〕は, いずれか1つを選択して学習する。	6
2	終編 これからの科学と人間生活 1. 科学が人間生活に与える影響 2. 課題研究の進め方	・自然との人間生活とのかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえ, これからの科学と人間生活とのかわり方について考察する。 ・具体的な課題の研究・調査を始めるに当たって, 課題の設定から研究計画の立案, 研究の実施, 及びレポートの作成, プレゼンテーションまでの展開を的確に理解する。いずれか1つを選択して学習する。	8
3	学年末考查		2
	年間合計		65

理 科 1 年 生物基礎 年間授業計画（シラバス）						
科目名	生物基礎	対象	スポーツ	コース	単位数	2 単位
教科書	改訂版 生物基礎			出版社	数研出版	
副教材	三訂版リードLight ノート生物基礎、改訂版生物基礎学習ノート					

1 学習の到達目標

①生物と遺伝子について観察，実験を通して探求し，細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解させ，生物についての共通性と多様性の視点を身に着ける。 ②生物の体内環境の維持について観察，実験など通じて探求し，生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ，体内環境の維持と健康との関係について認識する。 ③生物の多様性と生態系について観察，実験などを通して探求し，生態系の成り立ちを理解させ，その保全の重要性について認識する。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	生物や生物現象に関心 や探究心をもち，主体的 に探究しようとする とともに，科学的態度 を身に付けている。	生物や生物現象の中に 問題を見い出し，探究 する過程を通して事象 を化学的に考察し，導 き出した考えを的確に 表現している。	生物や生物現象に関す る観察実験などを行 い，基本操作を習得す るとともに，それらの 過程や結果を的確に記 録，整理し自然の事物， 現象を科学的に探究す る技能を身に付けてい る。	生物や生物現象に関す る基本的な概念や原 理・法則について理解 を深め，知識を身に付 けている。
評価の 方法	確認テスト 定期考査 ノートなど	確認テスト 定期考査など	確認テスト 定期考査 観察・実験など	確認テスト 定期考査 レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	序章 生物基礎を学ぶにあたって，探究活動の進め方（2），顕微鏡・マイクロメーター		5
5	第1章 生物の特徴（13）		
6	1. 生物の多様性と共通性（6） 2. エネルギーと代謝（3） 3. 光合成と呼吸（4）	生物の多様性と共通性の由来，生物の共通性-生物の基本的な特徴-，生物の共通構造-細胞- 生命活動とエネルギー，代謝と酵素 光合成，呼吸，光合成と呼吸によるエネルギーの流れ，ミトコンドリアや葉緑体の由来	7 中間考査 8
7	第2章 遺伝子とそのはたらき（12）		期末考査 3

8	1. 遺伝情報と DNA (4)	遺伝情報を担う物質-DNA, DNA の構造	2
9	2. 遺伝情報の発現(4)	遺伝情報とタンパク質, RNA のはたらき, タンパク質の合成	8
	3. 遺伝情報の分配(4)	染色体と DNA の遺伝情報, 細胞分裂と遺伝情報の分配, 分化した細胞の遺伝情報, DNA の遺伝情報と遺伝子, ゲノム	
10	第3章 生物の体内環境 (15)		7
	1. 体液という体内環境(4)	体内環境と恒常性, 体液とその循環, 血液の凝固と線溶, 体液の組成と生命活動	中間考査
11	2. 腎臓と肝臓(3)	腎臓と肝臓の役割, 腎臓のはたらき, 肝臓のはたらき, 腎臓と肝臓の分業と協働	8
	3. 神経とホルモンによる調節(4)	神経による調節-自律神経系, ホルモンによる調節-内分泌系, 自律神経とホルモンによる調節	期末考査
12	4. 免疫(4)	免疫とは, 物理的・化学的防御, 自然免疫, 獲得免疫, 免疫と病気	2
1	第4章 植生の多様性と分布 (9)		5
	1. さまざまな植生(3)	植生とその成り立ち, さまざまな植生-森林・草原・荒原-	
	2. 植生の遷移(3)	植生の遷移, 遷移の過程, 遷移のしくみ	
	3. 気候とバイオーム(3)	気候とバイオーム, 世界のバイオームとその分布, 日本のバイオームとその分布	
2	第5章 生態系とその保全(9)		8
3	1. 生態系(2)	生態系の成り立ち, さまざまな生態系, 生態ピラミッド	学年末考査
	2. 物質循環とエネルギーの流れ(2)	炭素の循環とエネルギーの流れ, 窒素の循環	
	3. 生態系のバランス(2)	生態系のバランス	
	4. 人間活動と生態系の保全(3)	外来生物の移入, 森林の過度の伐採, 生物濃縮, 生態系の保全	
	標準 60 時間		65 時間

理 科 1 年		物理基礎		年間授業計画（シラバス）	
科目名	物理基礎	対象	進学	コース	単位数 2 単位
教科書	改訂版 新編 物理基礎	出版社 数研出版			
副教材	改訂版 新編 物理基礎	準拠ノート まとめと問題（数研出版）			

1 学習の到達目標

- ① 物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。
- ② 目的意識をもって観察・実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につける。
- ③ 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。
- ④ 科学技術の在り方やエネルギー問題について意思決定するために必要な、科学的な知識、能力、態度を身につける。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事象・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	ノート・プリント 定期テストなど	定期テスト レポートなど	定期テスト 観察・実験など	小テスト・レポート 定期テストなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	＜予習復習体験＞ 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	物体の運動について、変位や速度、加速度などの基本事項について理解し、それらの時間変化を、グラフや式を使って扱えるようになる。	1 8
5	＜中間考査＞ 第2章 運動の法則	1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 範囲：第1編 第1章 物体にはたらく力の種類や表し方について学び、力のはたらき方によって物体の運動の仕方の違いや、力と運動に関わる法則について理解する。	12
6		1. 力とそれのはたらき 2. 力のつりあい	

7		3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力	
8	＜期末考査＞	範囲：第1編 第2章	1
9	＜学力考査＞	範囲：1学期の範囲	12
	第3章 仕事と 力学的エネルギー	仕事とエネルギーを関連付けて理解を深め、これらの関係性から、物体の運動について分析できるようになる。	
10		1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存	
	＜中間考査＞	範囲：第1編 第3章	16
	第2編 熱	物質の状態変化や温度変化について、熱量や熱容量、比熱を理解し、また熱現象とエネルギーの関係について学ぶ。	
	第1章 熱とエネルギー	1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関	
11			
	第3編 波		
	第1章 波の性質	波の基本性質を理解し、波長や速さなどを使い定量的に表せるようになる。	
		1. 波と媒質の運動 2. 重ねあわせの原理	
	第2章 音	音の性質として固有振動や共鳴を学び、楽器の原理について理解する。	
12		1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴	
1	＜期末考査＞	範囲：第2編, 第3編	1
	＜学力考査＞	範囲：2学期の範囲	
	第4編 電気		
	第1章 物質と電気抵抗	電荷や電流、電力について定量的について扱えるようになり、複数の抵抗を接続したときに合成抵抗が求められるようになる。	10
		1. 電気の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー	
2	第2章 磁場と交流	電流と磁界が互いに及ぼす影響について理解する。また、モーターの原理から交流について学び、電磁波とも関連させながら理解を深める。	
		1. 電流と磁場 2. 交流と電磁波	
	第5編 物理学と社会	様々なエネルギーの特性や利用について、物理的な視点から理解する。	4
	第1章 エネルギーの利用	1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電	
3	第2章 物理学が拓く世界	放射線について学び、人体などへの影響、エネルギー問題に感心を深める。	
		1. 摩擦をコントロールする 2. エネルギーを有効利用する 3. 見えないものを見る	
	＜期末考査＞	範囲：第4編, 第5編	
合計			65

理 科 1 年 化学基礎 年間授業計画（シラバス）					
科目名	化学基礎	対象	進学	コース	単位数 2 単位
教科書	改訂 化学基礎			出版社	東京書籍
副教材	改訂ニューアチーブ化学基礎（東京書籍），化学基礎徹底暗記&ドリル（啓林館）				

1 学習の到達目標

①	化学が物質を対象とする科学であることや，化学が人間生活に果たしている役割を理解する。
②	原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。
③	化学反応の量的関係，酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに，日常生活や社会と関連付けて考察する。
④	上記の目標を達成するために探究活動を行い，学習内容を深めるとともに，化学的に探究する能力を高める。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち，意欲的に探究しようとするとともに，科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。
評価の 方法	章末問題・演習プリント 定期テストなど	小テスト 定期テストなど	定期テスト 観察・実験など	定期テストなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	序 編 化学と人間生活 1章 人間生活の中の化学 2章 化学とその役割	◎地球には，水や空気，岩石，多くの動植物などの自然界に見られるものとともに，道路や建物，自動車，道具や機械など人工的に作り出されたものが数多く存在する。これらは，すべて多種多様な物質からできている。物質と，私たち人間の間にはどのような関係があるのだろうか。	4
5	第1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素 ・物質の成分 ・物質の構成元素 ・物質の三態	予習復習体験 ◎私たちの身のまわりにはさまざまな物質がある。その物質の構成や性質，変化を調べるのが化学である。この章では，物質を分類し，その成分の構成粒子について学ぼう。また，物質の分離・精製や，その成分を調べる実験から，物質の成り立ちについての理解を深めよう。	6

	1学期中間考査		1
6	2章 原子の構造と元素の周期表 ・原子の構造 ・電子配置と周期表	◎現在、約110種類の元素に対応した原子の存在が確認されている。本章では、原子の構造を理解し、各元素の分類方法についても学ぼう。	8
	3章 化学結合 ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合 ・物質の分類	◎身近にあるすべての物質は、原子・分子・イオンという小さな粒子から成り立っている。これらが結合により集まることで、目に見えるほどの大きさの物質になる。本章では、さまざまな化学結合のしくみと性質について学び、物質の成り立ちを理解しよう。	
7	1学期期末考査		2
8	第1回学力考査		1
9	第2編 物質の変化		8
	1章 物質と化学反応式 ・原子量・分子量・式量 ・物質	◎私たちの身の回りには、極めて質量が小さな原子・分子が多数集まったものである。この章では、原子・分子の質量をより簡単に表す方法や、原子・分子の個数をひとまとめとして扱う方法、および、化学反応における量的関係についても学ぼう。	8
10	・溶液の濃度 ・化学反応式と量的関係		
	2学期中間考査		1
11	2章 酸と塩基 ・酸と塩基 ・水素イオン濃度とpH ・中和反応と塩の生成 ・中和滴定	◎食酢や果物中の酸や、石灰水や灰汁などの塩基は、人類が古くから知っていた物質である。これらは現在でも重要な物質であり、私たちの日常生活とも深く関わっている。この章では、酸・塩基の基本的な性質や、それらの中和反応について学んでいこう。	8
12	2学期期末考査		1
1	第2回学力考査		1
	3章 酸化還元反応 ・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤	◎物質の燃焼、金属の酸への溶解、電池や電気分解など、身のまわりで起こる多くの反応では、電子のやりとりが重要な役割を果たしている。これらは、酸化還元反応と呼ばれている。この章では、酸化還元反応が電子の授受に基づいて説明できることを学んでいこう。	6
2	・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用		8
3	学年末考査		2
合計			65

理 科 1 年 生物基礎 年間授業計画（シラバス）						
科目名	生物基礎	対象	進学	コース	単位数	2 単位
教科書	改訂版 生物基礎			出版社	数研出版	
副教材	三訂版リードLight ノート生物基礎、改訂版生物基礎学習ノート					

1 学習の到達目標

①生物と遺伝子について観察，実験を通して探求し，細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解させ，生物についての共通性と多様性の視点を身に着ける。 ②生物の体内環境の維持について観察，実験など通じて探求し，生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ，体内環境の維持と健康との関係について認識する。 ③生物の多様性と生態系について観察，実験など通じて探求し，生態系の成り立ちを理解させ，その保全の重要性について認識する。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

② 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	生物や生物現象に関心 や探究心をもち，主体的 に探究しようとする とともに，科学的態度 を身に付けている。	生物や生物現象の中に 問題を見い出し，探究 する過程を通して事象 を化学的に考察し，導 き出した考えを的確に 表現している。	生物や生物現象に関す る観察実験などを行 い，基本操作を習得す るとともに，それらの 過程や結果を的確に記 録，整理し自然の事物， 現象を科学的に探究す る技能を身に付けてい る。	生物や生物現象に関す る基本的な概念や原 理・法則について理解 を深め，知識を身に付 けている。
評価の 方法	確認テスト 定期考査 ノートなど	確認テスト 定期考査など	確認テスト 定期考査 観察・実験など	確認テスト 定期考査 レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	序章 生物基礎を学ぶにあたって，探究活動の進め方（2），顕微鏡・マイクロメーター		5
5	第1章 生物の特徴（13）		
6	1. 生物の多様性と共通性（6） 2. エネルギーと代謝（3） 3. 光合成と呼吸（4）	生物の多様性と共通性の由来，生物の共通性-生物の基本的な特徴-，生物の共通構造-細胞- 生命活動とエネルギー，代謝と酵素 光合成，呼吸，光合成と呼吸によるエネルギーの流れ，ミトコンドリアや葉緑体の由来	7 中間考査 8
7	第2章 遺伝子とそのはたらき（12）		期末考査 3

8	1. 遺伝情報と DNA (4)	遺伝情報を担う物質-DNA, DNA の構造	2
9	2. 遺伝情報の発現(4)	遺伝情報とタンパク質, RNA のはたらき, タンパク質の合成	8
	3. 遺伝情報の分配(4)	染色体と DNA の遺伝情報, 細胞分裂と遺伝情報の分配, 分化した細胞の遺伝情報, DNA の遺伝情報と遺伝子, ゲノム	
10	第3章 生物の体内環境 (15)		7
	1. 体液という体内環境(4)	体内環境と恒常性, 体液とその循環, 血液の凝固と線溶, 体液の組成と生命活動	中間考査
11	2. 腎臓と肝臓(3)	腎臓と肝臓の役割, 腎臓のはたらき, 肝臓のはたらき, 腎臓と肝臓の分業と協働	8
	3. 神経とホルモンによる調節(4)	神経による調節-自律神経系, ホルモンによる調節-内分泌系, 自律神経とホルモンによる調節	期末考査
12	4. 免疫(4)	免疫とは, 物理的・化学的防御, 自然免疫, 獲得免疫, 免疫と病気	2
1	第4章 植生の多様性と分布 (9)		5
	1. さまざまな植生(3)	植生とその成り立ち, さまざまな植生-森林・草原・荒原-	
	2. 植生の遷移(3)	植生の遷移, 遷移の過程, 遷移のしくみ	
	3. 気候とバイオーム(3)	気候とバイオーム, 世界のバイオームとその分布, 日本のバイオームとその分布	
2	第5章 生態系とその保全(9)		8
3	1. 生態系(2)	生態系の成り立ち, さまざまな生態系, 生態ピラミッド	学年末考査
	2. 物質循環とエネルギーの流れ(2)	炭素の循環とエネルギーの流れ, 窒素の循環	
	3. 生態系のバランス(2)	生態系のバランス	
	4. 人間活動と生態系の保全(3)	外来生物の移入, 森林の過度の伐採, 生物濃縮, 生態系の保全	
	標準 60 時間		65 時間

理 科 1 年 物理基礎 年間授業計画（シラバス）					
科目名	物理基礎	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	改訂版 新編 物理基礎			出版社	数研出版
副教材	四訂版 リードLight ノート 物理基礎（数研出版）				

1 学習の到達目標

- ① 物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。
- ② 目的意識をもって観察・実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につける。
- ③ 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。
- ④ 科学技術の在り方やエネルギー問題について意思決定するために必要な、科学的な知識、能力、態度を身につける。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の内容	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事象・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	授業態度 定期テストなど	定期テストなど	定期テスト 観察・実験など	小テスト 定期テストなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	＜予習復習体験＞ 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	物体の運動について、変位や速度、加速度などの基本事項について理解し、それらの時間変化を、グラフや式を使って扱えるようになる。	1 8
5	＜中間考査＞ 第2章 運動の法則	1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 範囲：第1編 第1章 物体にはたらく力の種類や表し方について学び、力のはたらき方によって物体の運動の仕方の違いや、力と運動に関わる法則について理解する。	12
6		1. 力とそれのはたらき 2. 力のつりあい	

7		3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力	
8	＜期末考査＞	範囲：第1編 第2章	1
9	＜学力考査＞	範囲：1学期の範囲	12
10	第3章 仕事と 力学的エネルギー	仕事とエネルギーを関連付けて理解を深め、これらの関係性から、物体の運動について分析できるようになる。 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存	
11	＜中間考査＞ 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	範囲：第1編 第3章 物質の状態変化や温度変化について、熱量や熱容量、比熱を理解し、また熱現象とエネルギーの関係について学ぶ。 1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関	16
12	第3編 波 第1章 波の性質	波の基本性質を理解し、波長や速さなどを使い定量的に表せるようになる。 1. 波と媒質の運動 2. 重ねあわせの原理	
1	第2章 音	音の性質として固有振動や共鳴を学び、楽器の原理について理解する。 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴	
2	＜期末考査＞ ＜学力考査＞	範囲：第2編, 第3編 範囲：2学期の範囲	1
3	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗	電荷や電流、電力について定量的について扱えるようになり、複数の抵抗を接続したときに合成抵抗が求められるようになる。 1. 電気の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー	10
	第2章 磁場と交流	電流と磁界が互いに及ぼす影響について理解する。また、モーターの原理から交流について学び、電磁波とも関連させながら理解を深める。 1. 電流と磁場 2. 交流と電磁波	
	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用	様々なエネルギーの特性や利用について、物理的な視点から理解する。 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電	4
	第2章 物理学が拓く世界	放射線について学び、人体などへの影響、エネルギー問題に感心を深める。 1. 摩擦をコントロールする 2. エネルギーを有効利用する 3. 見えないものを見る	
	＜期末考査＞	範囲：第4編, 第5編	
合計			65

理 科 1 年 化学基礎 年間授業計画（シラバス）					
科目名	化学基礎	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	改訂 化学基礎 出版社 東京書籍				
副教材	改訂ニューアチーブ化学基礎（東京書籍），改訂化学基礎徹底暗記&ドリル（啓林館）				

1 学習の到達目標

① 化学が物質を対象とする科学であることや，化学が人間生活に果たしている役割を理解する。
② 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。
③ 化学反応の量的関係，酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに，日常生活や社会と関連付けて考察する。
④ 上記の目標を達成するために探究活動を行い，学習内容を深めるとともに，化学的に探究する能力を高める。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち，意欲的に探究しようとするとともに，科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。
評価の 方法	章末問題・演習プリント 定期テストなど	小テスト 定期テストなど	定期テスト 観察・実験など	定期テストなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	序 編 化学と人間生活 1章 人間生活の中の化学 2章 化学とその役割	◎地球には，水や空気，岩石，多くの動植物などの自然界に見られるものとともに，道路や建物，自動車，道具や機械など人工的に作り出されたものが数多く存在する。これらは，すべて多種多様な物質からできている。物質と，私たち人間の間にはどのような関係があるのだろうか。	4
5	第1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素 ・物質の成分 ・物質の構成元素 ・物質の三態	予習復習体験 ◎私たちの身のまわりにはさまざまな物質がある。その物質の構成や性質，変化を調べるのが化学である。この章では，物質を分類し，その成分の構成粒子について学ぼう。また，物質の分離・精製や，その成分を調べる実験から，物質の成り立ちについての理解を深めよう。	6

	1学期中間考査		1
6	2章 原子の構造と元素の周期表 ・原子の構造 ・電子配置と周期表	◎現在、約110種類の元素に対応した原子の存在が確認されている。本章では、原子の構造を理解し、各元素の分類方法についても学ぼう。	8
	3章 化学結合 ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合 ・物質の分類	◎身近にあるすべての物質は、原子・分子・イオンという小さな粒子から成り立っている。これらが結合により集まることで、目に見えるほどの大きさの物質になる。本章では、さまざまな化学結合のしくみと性質について学び、物質の成り立ちを理解しよう。	
7	1学期期末考査		2
8	第1回学力考査		1
9	第2編 物質の変化		8
	1章 物質と化学反応式 ・原子量・分子量・式量 ・物質	◎私たちの身の回りには、極めて質量が小さな原子・分子が多数集まったものである。この章では、原子・分子の質量をより簡単に表す方法や、原子・分子の個数をひとまとめとして扱う方法、および、化学反応における量的関係についても学ぼう。	8
10	・溶液の濃度 ・化学反応式と量的関係		
	2学期中間考査		1
11	2章 酸と塩基 ・酸と塩基 ・水素イオン濃度とpH ・中和反応と塩の生成 ・中和滴定	◎食酢や果物中の酸や、石灰水や灰汁などの塩基は、人類が古くから知っていた物質である。これらは現在でも重要な物質であり、私たちの日常生活とも深く関わっている。この章では、酸・塩基の基本的な性質や、それらの中和反応について学んでいこう。	8
12	2学期期末考査		1
1	第2回学力考査		1
	3章 酸化還元反応 ・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤	◎物質の燃焼、金属の酸への溶解、電池や電気分解など、身のまわりで起こる多くの反応では、電子のやりとりが重要な役割を果たしている。これらは、酸化還元反応と呼ばれている。この章では、酸化還元反応が電子の授受に基づいて説明できることを学んでいこう。	6
2	・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用		8
3	学年末考査		2
合計			65

理 科 1 年 生物基礎 年間授業計画（シラバス）						
科目名	生物基礎	対象	特進	コース	単位数	2 単位
教科書	改訂版 生物基礎			出版社	数研出版	
副教材	三訂版リードLight ノート生物基礎、改訂版生物基礎学習ノート					

1 学習の到達目標

①生物と遺伝子について観察，実験を通して探求し，細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解させ，生物についての共通性と多様性の視点を身に着ける。 ②生物の体内環境の維持について観察，実験など通じて探求し，生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ，体内環境の維持と健康との関係について認識する。 ③生物の多様性と生態系について観察，実験などを通して探求し，生態系の成り立ちを理解させ，その保全の重要性について認識する。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

③ 評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	生物や生物現象に関心 や探究心をもち，主体的 に探究しようとする とともに，科学的態度 を身に付けている。	生物や生物現象の中に 問題を見い出し，探究 する過程を通して事象 を化学的に考察し，導 き出した考えを的確に 表現している。	生物や生物現象に関す る観察実験などを行 い，基本操作を習得す るとともに，それらの 過程や結果を的確に記 録，整理し自然の事物， 現象を科学的に探究す る技能を身に付けてい る。	生物や生物現象に関す る基本的な概念や原 理・法則について理解 を深め，知識を身に付 けている。
評価の 方法	確認テスト 定期考査 ノートなど	確認テスト 定期考査など	確認テスト 定期考査 観察・実験など	確認テスト 定期考査 レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	序章 生物基礎を学ぶにあたって，探究活動の進め方（2），顕微鏡・マイクロメーター		5
5	第1章 生物の特徴（13）		
6	1. 生物の多様性と共通性（6） 2. エネルギーと代謝（3） 3. 光合成と呼吸（4）	生物の多様性と共通性の由来，生物の共通性-生物の基本的な特徴-，生物の共通構造-細胞- 生命活動とエネルギー，代謝と酵素 光合成，呼吸，光合成と呼吸によるエネルギーの流れ，ミトコンドリアや葉緑体の由来	7 中間考査 8
7	第2章 遺伝子とそのはたらき（12）		期末考査 3

8	1. 遺伝情報と DNA (4)	遺伝情報を担う物質-DNA, DNA の構造	2
9	2. 遺伝情報の発現(4)	遺伝情報とタンパク質, RNA のはたらき, タンパク質の合成	8
	3. 遺伝情報の分配(4)	染色体と DNA の遺伝情報, 細胞分裂と遺伝情報の分配, 分化した細胞の遺伝情報, DNA の遺伝情報と遺伝子, ゲノム	
10	第3章 生物の体内環境 (15)		7
	1. 体液という体内環境(4)	体内環境と恒常性, 体液とその循環, 血液の凝固と線溶, 体液の組成と生命活動	中間考査
11	2. 腎臓と肝臓(3)	腎臓と肝臓の役割, 腎臓のはたらき, 肝臓のはたらき, 腎臓と肝臓の分業と協働	8
	3. 神経とホルモンによる調節(4)	神経による調節-自律神経系, ホルモンによる調節-内分泌系, 自律神経とホルモンによる調節	期末考査
12	4. 免疫(4)	免疫とは, 物理的・化学的防御, 自然免疫, 獲得免疫, 免疫と病気	2
1	第4章 植生の多様性と分布 (9)		5
	1. さまざまな植生(3)	植生とその成り立ち, さまざまな植生-森林・草原・荒原-	
	2. 植生の遷移(3)	植生の遷移, 遷移の過程, 遷移のしくみ	
	3. 気候とバイオーム(3)	気候とバイオーム, 世界のバイオームとその分布, 日本のバイオームとその分布	
2	第5章 生態系とその保全(9)		8
3	1. 生態系(2)	生態系の成り立ち, さまざまな生態系, 生態ピラミッド	学年末考査
	2. 物質循環とエネルギーの流れ(2)	炭素の循環とエネルギーの流れ, 窒素の循環	
	3. 生態系のバランス(2)	生態系のバランス	
	4. 人間活動と生態系の保全(3)	外来生物の移入, 森林の過度の伐採, 生物濃縮, 生態系の保全	
	標準 60 時間		65 時間

理 科 2 年 物 理 年間授業計画（シラバス）					
科目名	物理	対象	進学（理系）	コース	単位数 3 単位
教科書	改訂 物理			出版社	数研出版
副教材	サンダイヤル ステップアップノート 物理 改訂版				

1 学習の到達目標

- ① 物理学的な事物・現象に対する探究心を高める。
- ② 目的意識をもって観察・実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を身につける。
- ③ 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な自然観を身につける。
- ④ 科学技術の在り方について意思決定するために必要な，科学的な見方や考え方を身につける。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	物理学的な事物・現象に関心や探究心をもち，主体的に探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。	物理学的な事物・現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な事物・現象に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め，知識を身に付けている。
評価の 方法	ノート・プリント 定期テストなど	定期テスト レポートなど	定期テスト 観察・実験など	小テスト・レポート 定期テストなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動	<予習復習体験> 平面内の運動の合成速度，相対速度や，放物運動について，ベクトルを用いながら理解する。 1 平面運動の速度・加速度 2 落体の運動	
5	第2章 剛体	平面内で剛体にはたらく力と力のモーメントがつり合う条件について理解する。 1 剛体にはたらく力のつりあい 2 剛体にはたらく力の合力と重心	18
		<1学期中間考査>（第1編第1章～第2章）	1

6	第3章 運動量の保存	衝突や分裂の例から、運動量や力積、運動量保存の法則が成り立つことを理解する。 1 運動量と力積 2 運動量保存則 3 反発係数	
7	第4章 円運動と万有引力	円運動する物体の様子を表す方法として、等速円運動の速度、周期、角速度、向心加速度及び向心力について理解する。 1 等速円運動 2 慣性力 3 単振動 4 万有引力	16
8		<1学期期末考査> (第1編3章～4章)	1
9	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化	ボイルの法則やシャルルの法則、状態方程式を含め、気体分子の速さや温度、圧力、状態変化などの関わりについて理解する。 1 気体の法則 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化	18
10		<2学期中間考査> (第2編)	1
11	第3編 波 第1章 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方	波の伝わり方として、反射・屈折、回折、干渉について理解する。 1 正弦波 2 波の伝わり方 音の回折、干渉や、ドップラー効果について理解する。 1 音の伝わり方 2 音のドップラー効果	20
12		<2学期期末考査> (第3編第1章～第2章)	1
1		<第2回学力考査>	1
2	第3章 光	ヤングの実験やレンズの学習を通して、光の反射、屈折、分散、偏光、速さ、波長などについて理解する。 1 光の性質 2 レンズ 3 光の干渉と回折	18
3		<学年末考査> (第3編3章)	1
合計			97

理 科 2 年 化 学 年間授業計画（シラバス）					
科目名	化学	対象	進学（理系）	コース	単位数 3 単位
教科書	化学 出版社 東京書籍				
副教材	スクエア最新図説化学（第一学習社），改訂スタディノート化学（第一学習社），改訂化学徹底暗記&ドリル（啓林館）				

1 学習の到達目標

① 物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡および溶液の性質について理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察する。
② 化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できるとともに日常生活や社会と関連づけて考察する。
③ 無機物質の性質や反応を探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることが理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の内容	化学的な事物・現象に関心や探求心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	化学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	化学的な事象・現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価の方法	授業態度 課題提出 定期テストなど	確認テスト 小テスト 定期テストなど	確認テスト 定期テスト 観察・実験など	演習プリント 定期テスト レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	第1編 物質の状態と平衡 1章 物質の状態	予習復習体験 ◎物質は、原子・分子・イオンなどの粒子の集合体で、温度・圧力が決まると、固体・液体・気体のいずれかの状態をとる。これらの三つの状態をまとめて物質の三態という。本章では、物質の三態やその間の状態変化が、個々の粒子の性質とどのように関係するかについて学ぶ。	15
5	2章 気体の性質 1学期中間考査 3章 溶液の性質	◎気体の体積、温度および、圧力の間には、気体の種類によらない共通の関係がある。また、このような関係は二種類以上の気体からなる混合気体でも成り立つ。この章では、すべての気体に共通するいくつかの法則について学ぶ。 考査範囲 第1編1章～2章 ◎液体の中に他の物質が溶けるという現象は、どのように理解すればよいのであろうか。溶液の性質は純粋な液体とどのように異なるのであろうか。本章では、溶解のしくみとようかものさまざまな性質について学ぶ。	1 15

6	4章 固体の構造	◎常温・常圧で気体や液体の物質も、温度・圧力を変えると固体に変化することがある。固体物質中では粒子どうしが引き合って接近し、互いの位置関係が固定されている。ここでは、固体中の粒子がどのような配列構造をとるかを学ぶ。	
	期末考査	考査範囲 第1編3章～4章	1
	学力考査	考査範囲 1学期の復習	1
	第2編 化学反応とエネルギー		
7	1章 化学反応と熱・光	◎化学反応によって、新しい物質が生成する際には熱の出入りが起こる。これは、反応物のもつエネルギーと生成物のもつエネルギーの差が、熱として放出されたり吸収されたりするためである。この章では、化学変化に伴うエネルギーの出入りについて学ぶ。	1 7
8			
9	2章 電池と電気分解	◎物質のもつ化学エネルギーを電気エネルギーとして取り出すのが電池であり、物質に電気エネルギーを加えて酸化還元反応を起こし、化学エネルギーに変えるのが電気分解である。この章では、電気エネルギーと化学エネルギーの関係について学ぶ。	
10	中間考査	考査範囲 第2編1章～2章	1
	第3編 化学反応の速さと平衡		
	1章 化学反応の速さ	◎化学反応には、瞬時に起こるものから、ゆっくり進行するものまで、さまざまなものがある。また、同じ化学反応でも、濃度や温度、触媒の存在などの要因で反応の速さは変化する。この章では、化学反応の速さの表し方と、反応の速さを決める方法について学ぶ。	1 7
	2章 化学平衡	◎化学反応では、反応がある程度進行したとき、反応物と生成物の割合が一定となり、見かけ上反応が停止した状態になることがある。この状態を化学平衡という。この章では、化学平衡における各物質の量的関係および、化学平衡の移動について学ぶ。	
11	3章 水溶液中の化学平衡	◎弱電解質を水に溶かすと、一部が電離して陽イオンと陰イオンが生成する。これらのイオンと電離していない分子間には、化学平衡が成り立つ。この章では、酸や塩基、塩の基本的な性質が、水溶液中の化学平衡で説明できることを学ぶ。	
12	期末考査	考査範囲 第3編1章～3章	1
1	学力考査	考査範囲 2学期の復習	1
	第4編 無機物質		
	1章 周期表と元素	◎元素の性質は、その元素の周期表における位置によって推定できる。	2 5
	2章 非金属元素の単体と化合物	◎非金属元素には、酸素のように化学的に活発で、ほとんどの元素と化合物をつくる元素や、ヘリウムのように全く反応しない元素が含まれている。この章では、非金属元素の単体やその化合物の性質について学ぶ。	
2	3章 典型金属元素の単体と化合物	◎遷移元素は、周期表の3族から11族に属する元素で、すべて金属元素である。鉄、銅、銀、金など、私たちの生活と深くかかわっているものが多い。この章では、遷移元素の単体や化合物の性質、および、各種の金属イオンの分離と検出方法についても学ぶ。	
3	期末考査	考査範囲 第4編1章～3章	1
	合計		96

理 科 2 年 生 物 年間授業計画（シラバス）					
科目名	生物	対象	進学（理系）	コース	単位数 3 単位
教科書	生物 出版社 数研出版				
副教材	三訂版リードLight ノート生物, ニューステージ新生物図表, 生物学習ノート				

1 学習の到達目標

① 生物学における基本的概念や原理・法則を理解する。
② 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。
③ 目的意識を持って観察実験などを行う。
④ 到達度テストに対応できる力を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	生物や生物現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して事象を化学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	小テスト 定期テスト ノートなど	確認テスト 小テスト 定期テストなど	確認テスト 定期テスト 観察・実験など	確認テスト 定期テスト レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	予習復習体験学習(1) 第1章 細胞と分子(14)		11
5	1. 生体の構成—個体・細胞・分子(2) 2. タンパク質の構造と性質(3) 3. 酵素のはたらき(3) 4. 細胞の構造とはたらき(2) ＜1学期中間考査＞	1. 生物のからだの構造と階層性, 細胞を構成する物質 2. 細胞の生命活動の担い手—タンパク質, タンパク質の構造, タンパク質の立体構造と機能 3. 酵素の基本的なはたらき, 酵素の性質, 酵素とともにのはたらく分子, 酵素反応の調節 4. 生物の基本単位—細胞, 原核細胞と真核細胞, 真核細胞の構造とそのはたらき	6
6	5. 細胞の活動とタンパク	5. 生体膜, 生体膜と物質の出入り, 細胞間結合,	10
7	質(4)	細胞骨格とそのはたらき, 免疫とタンパク質	6

8	第2章 代謝(12)		0
9	1. 代謝とエネルギー(1)	1. 代謝と ATP, 生物とエネルギー	
	2. 呼吸と発酵(4)	2. 呼吸, 呼吸のしくみ, 発酵, 脂肪とタンパク質の分解	11
	<1学期期末考査>		
	<第1回学力考査>		
10	3. 光合成(5)	3. 光合成, 光合成と葉緑体, 光合成のしくみ, 細菌の炭酸同化	
	4. 窒素同化(2)	4. 植物の窒素同化, 動物の窒素同化	8
	第3章 遺伝情報の発現(13)		
	1. DNA の構造と複製(3)	1. DNA の構造, DNA の複製	
	2. 遺伝情報の発現(3)	2. 遺伝情報とその発現, 転写とスプライシング, 翻訳,	
	<2学期中間考査>	原核細胞のタンパク質合成, 遺伝情報の変化と形質への影響	
11	3. 遺伝子の発現調節(3)	3. 遺伝子の発現と調節, 原核生物の転写調節,	6
	4. バイオテクノロジー(4)	真核生物の転写調節	
12		4. 遺伝子組換え技術, 生物への遺伝子導入,	
		DNA の増幅と塩基配列の決定, 遺伝子発現の解析,	5
		バイオテクノロジーと人間生活	
1	第4章 生殖と発生(19)		10
	1. 遺伝子と染色体(2)	1. 染色体の構造, 染色体と遺伝子	
2	2. 減数分裂と遺伝情報の分配(2)	2. 遺伝情報の分配, 減数分裂の過程	9
	3. 遺伝子の多様な組み合わせ(3)	3. 減数分裂による遺伝子の組み合わせ,	
3	<2学期期末考査>	受精による遺伝子の組み合わせ	3
	<第2回学力考査>		
	4. 動物の配偶子形成と受精(2)	4. 動物の配偶子形成, 受精	
	5. 初期発生の過程(3)	5. 卵の種類と卵割, ウニの発生, カエルの発生, 胚葉の分化	
	6. 細胞の分化と形態形成(4)	6. 誘導と形成体のはたらき, 誘導のしくみと細胞の分化,	
	7. 植物の発生(3)	形態形成を調節する遺伝子	
	<学年末考査>	7. 被子植物の配偶子形成と受精,	
		植物の器官の分化と調節遺伝子	
	標準 82 時間		85 時間

理 科 2 年 化学基礎 年間授業計画（シラバス）						
科目名	化学基礎	対象	特進(文系)	コース	単位数	2 単位
教科書	改訂 化学基礎			出版社	東京書籍	
副教材	標準セミナー化学基礎（第一学習社），ネオパルノート化学基礎（第一学習社）					

1 学習の到達目標

① 化学が物質を対象とする科学であることや、化学が人間生活に果たしている役割を理解する。
② 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。
③ 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察する。
④ 上記の目標を達成するために探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	演習 定期テストなど	演習 定期テストなど	観察・実験 定期テストなど	演習 定期テストなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	序 編 化学と人間生活 1 章 人間生活の中の化学 2 章 化学とその役割	予習復習体験 問題集を用いて演習。	4
5	第1編 物質の構成 1 章 物質の探究 ・純物質と混合物 ・化合物と元素 ・物質の三態 1 学期中間考査 2 章 原子の構造と元素の周期表 ・原子の構造	考査範囲 第1編1章	8

6	・元素の周期律と元素の性質 3章 化学結合		8
7	・イオン ・イオン結合 ・共有結合 ・配位結合 ・分子間の結合 ・金属結合 ・化学結合と物質の分類・用途 1学期期末考査	考査範囲 第1編2章～3章	2
8	学力考査 第2編 物質の変化	考査範囲 化学基礎全範囲	
9	1章 物質と化学反応式		9
10	・原子量・分子量・式量 ・物質質量 ・溶液の濃度 ・化学反応式と量的関係 2学期中間考査	考査範囲 第2編1章	9
11	2章 酸と塩基		10
12	・酸と塩基 ・水素イオン濃度と pH ・中和反応と塩の生成 ・中和滴定 2学期期末考査	考査範囲 第2編2章	
1	学力考査 3章 酸化還元反応	考査範囲 化学基礎全範囲	8
2	・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応 ・さまざまな酸化還元反応		8
3	学年末考査	考査範囲 第2編3章	
合計			66

理 科 2 年		生物基礎		年間授業計画（シラバス）	
科目名	生物基礎	対象	特進（文系）	コース	単位数 1 単位
教科書	生物基礎			出版社	数研出版
副教材	コンセプトノート生物基礎				

1 学習の到達目標

① 生物学における基本的概念や原理・法則を理解する。
② 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。
③ 目的意識を持って観察実験などを行う。
④ センター試験にも対応できる力を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	生物や生物現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して事象を化学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	確認テスト 定期考査 ノートなど	確認テスト 定期考査など	確認テスト 定期考査 観察・実験など	確認テスト 定期考査 レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	学習方法について(1) センター過去問演習&解説(3)	H29 分（全3題）	3
5	第1章 生物と遺伝子(9) ＜1学期中間考査(5)＞	1. ミクロメーターを用いた測定 2. DNA の構造	4
6		3. 転写・翻訳 4. 体細胞分裂と DNA 量の変化 5. 原核細胞と真核細胞	3
7	＜1学期期末考査(5)＞ ＜第1回学力考査(2)＞	6. 代謝1（酵素、ATP） 7. 代謝2（光合成、呼吸）	2
8			0
9	第2章 生物の体内環境(9)	8. 体液と酸素解離曲線	3

10	< 2学期中間考査(5) > < 2学期期末考査(5) > 第3章 生物の多様性と生態系 (8) < 3学期期末考査(6) >	9. 腎臓と肝臓のはたらき	4
11		10. 体液濃度の調節	2
12		11. 体内環境の維持のしくみ	3
1		12. フィードバック	
2		13. 免疫	
3		14. 光-光合成曲線	2
		15. 遷移のしくみ	3
		16. バイオーム1	
		17. バイオーム2	2
		18. 生態系のバランス	
		19. 物質循環とエネルギーの流れ	
		20. 生態系の保全	
	標準 32 時間		31 時間

理 科 2 年 物 理 年間授業計画（シラバス）					
科目名	物理	対象	特進（理系）	コース	単位数 3 単位
教科書	改訂 物理 出版社 数研出版				
副教材	セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）				

1 学習の到達目標

- ① 物理学的な事物・現象に対する探究心を高める。
- ② 目的意識をもって観察・実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につける。
- ③ 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。
- ④ 科学技術の在り方について意思決定するために必要な、科学的な見方や考え方を身につける。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	物理学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	物理学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	学習態度 定期テストなど	定期テストなど	定期テスト 観察・実験など	小テスト 定期テストなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動	<予習復習体験> 平面内の運動の合成速度、相対速度や、放物運動について、ベクトルを用いながら理解する。 1 平面運動の速度・加速度 2 落体の運動	
5	第2章 剛体	平面内で剛体にはたらく力と力のモーメントがつり合う条件について理解する。 1 剛体にはたらく力のつりあい 2 剛体にはたらく力の合力と重心	18
		<1学期中間考査>（第1編第1章～第2章）	1
	第3章 運動量の保存	衝突や分裂の例から、運動量や力積、運動量保存の法則が成り立	

6		つことを理解する。 1 運動量と力積 2 運動量保存則 3 反発係数	
7	第4章 円運動と万有引力	円運動する物体の様子を表す方法として、等速円運動の速度、周期、角速度、向心加速度及び向心力について理解する。 1 等速円運動 2 慣性力 3 単振動 4 万有引力	16
8		<1学期期末考査> (第1編3章～4章) <第1回学力考査>	1 1
9	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化	ボイルの法則やシャルルの法則、状態方程式を含め、気体分子の速さや温度、圧力、状態変化などの関わりについて理解する。 1 気体の法則 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化	18
10		<2学期中間考査> (第2編)	1
11	第3編 波 第1章 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方	波の伝わり方として、反射・屈折、回折、干渉について理解する。 1 正弦波 2 波の伝わり方 音の回折、干渉や、ドップラー効果について理解する。 1 音の伝わり方 2 音のドップラー効果	20
12 1		<2学期期末考査> (第3編第1章～第2章) <第2回学力考査>	1 1
	第3章 光	ヤングの実験やレンズの学習を通して、光の反射、屈折、分散、偏光、速さ、波長などについて理解する。 1 光の性質 2 レンズ 3 光の干渉と回折	
2	第4編 電気と磁気 第1章 電場	電荷が相互に及ぼし合う力や電気量の保存、電場（電界）の表し方や性質、電気力線について理解する。 1 静電気力 2 電場	18
3		<学年末考査> (第3編3章)	1
合計			97

理 科 2 年 化 学 年間授業計画（シラバス）					
科目名	化学	対象	特進（理系）	コース	単位数 3 単位
教科書	化学				

1 学習の到達目標

① 物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡および溶液の性質について理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察する。
② 化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できるとともに日常生活や社会と関連づけて考察する。
③ 無機物質の性質や反応を探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることが理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の内容	化学的な事物・現象に関心や探求心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	化学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	化学的な事象・現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価の方法	授業態度 課題提出 定期テストなど	確認テスト 小テスト 定期テストなど	確認テスト 定期テスト 観察・実験など	演習プリント 定期テスト レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	第1編 物質の状態と平衡 1章 物質の状態	予習復習体験 ◎物質は、原子・分子・イオンなどの粒子の集合体で、温度・圧力が決まると、固体・液体・気体のいずれかの状態をとる。これらの三つの状態をまとめて物質の三態という。本章では、物質の三態やその間の状態変化が、個々の粒子の性質とどのように関係するかについて学ぶ。	15
5	2章 気体の性質 1学期中間考査 3章 溶液の性質	◎気体の体積、温度および、圧力の間には、気体の種類によらない共通の関係がある。また、このような関係は二種類以上の気体からなる混合気体でも成り立つ。この章では、すべての気体に共通するいくつかの法則について学ぶ。 考査範囲 第1編1章～2章 ◎液体の中に他の物質が溶けるという現象は、どのように理解すればよいのであろうか。溶液の性質は純粋な液体とどのように異なるのであろうか。本章では、溶解のしくみとようかものさまざまな性質について学ぶ。	1 15

6	4章 固体の構造	◎常温・常圧で気体や液体の物質も、温度・圧力を変えると固体に変化することがある。固体物質中では粒子どうしが引き合って接近し、互いの位置関係が固定されている。ここでは、固体中の粒子がどのような配列構造をとるかを学ぶ。	
	期末考査	考査範囲 第1編3章～4章	1
	学力考査	考査範囲 1学期の復習	1
	第2編 化学反応とエネルギー		
7	1章 化学反応と熱・光	◎化学反応によって、新しい物質が生成する際には熱の出入りが起こる。これは、反応物のもつエネルギーと生成物のもつエネルギーの差が、熱として放出されたり吸収されたりするためである。この章では、化学変化に伴うエネルギーの出入りについて学ぶ。	1 7
8			
9	2章 電池と電気分解	◎物質のもつ化学エネルギーを電気エネルギーとして取り出すのが電池であり、物質に電気エネルギーを加えて酸化還元反応を起こし、化学エネルギーに変えるのが電気分解である。この章では、電気エネルギーと化学エネルギーの関係について学ぶ。	
10	中間考査	考査範囲 第2編1章～2章	1
	第3編 化学反応の速さと平衡		
	1章 化学反応の速さ	◎化学反応には、瞬時に起こるものから、ゆっくり進行するものまで、さまざまなものがある。また、同じ化学反応でも、濃度や温度、触媒の存在などの要因で反応の速さは変化する。この章では、化学反応の速さの表し方と、反応の速さを決める方法について学ぶ。	1 7
	2章 化学平衡	◎化学反応では、反応がある程度進行したとき、反応物と生成物の割合が一定となり、見かけ上反応が停止した状態になることがある。この状態を化学平衡という。この章では、化学平衡における各物質の量的関係および、化学平衡の移動について学ぶ。	
11	3章 水溶液中の化学平衡	◎弱電解質を水に溶かすと、一部が電離して陽イオンと陰イオンが生成する。これらのイオンと電離していない分子間には、化学平衡が成り立つ。この章では、酸や塩基、塩の基本的な性質が、水溶液中の化学平衡で説明できることを学ぶ。	
12	期末考査	考査範囲 第3編1章～3章	1
1	学力考査	考査範囲 2学期の復習	1
	第4編 無機物質		
	1章 周期表と元素	◎元素の性質は、その元素の周期表における位置によって推定できる。	2 5
	2章 非金属元素の単体と化合物	◎非金属元素には、酸素のように化学的に活発で、ほとんどの元素と化合物をつくる元素や、ヘリウムのように全く反応しない元素が含まれている。この章では、非金属元素の単体やその化合物の性質について学ぶ。	
2	3章 典型金属元素の単体と化合物	◎遷移元素は、周期表の3族から11族に属する元素で、すべて金属元素である。鉄、銅、銀、金など、私たちの生活と深くかかわっているものが多い。この章では、遷移元素の単体や化合物の性質、および、各種の金属イオンの分離と検出方法についても学ぶ。	
3	期末考査	考査範囲 第4編1章～3章	1
	合計		9 6

理 科 2 年 生 物 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	生物	対象	特進理系	コース	単位数 3 単位
教科書	生物			出版社	数研出版
副教材	三訂版リードLight ノート生物 , ニューステージ新生物図表 , 生物学習ノート				

1 学習の到達目標

①単に教科書に書かれた知識を習得するだけでなく、どのようにしてこれらの知見が得られるようになったのかについても学ぶ。
②自らの五感を使って観察や実験、探究活動を行い、得られた結果について自分で考察することで、分析する力や考察する力を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	生物や生物現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して事象を化学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	確認テスト 定期考査 ノートなど	確認テスト 定期考査など	確認テスト 定期考査 観察・実験など	確認テスト 定期考査 レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	予習復習体験学習(1) 第1章 細胞と分子(14) 1. 生体の構成—個体・細胞・分子(2) 2. タンパク質の構造と性質(3)	1. 生物のからだの構造と階層性、細胞を構成する物質 2. 細胞の生命活動の担い手—タンパク質、タンパク質の構造, タンパク質の立体構造と機能	11
5	3. 酵素のはたらき(3) 4. 細胞の構造とはたらき(2) ＜1学期中間考査＞ 5. 細胞の活動とタンパク質(4)	3. 酵素の基本的なはたらき、酵素の性質, 酵素とともにはたらく分子、酵素反応の調節 4. 生物の基本単位—細胞、原核細胞と真核細胞, 真核細胞の構造とそのはたらき 5. 生体膜、生体膜と物質の出入り、細胞間結合, 細胞骨格とそのはたらき、免疫とタンパク質	6
6	第2章 代謝(12)		10
7	1. 代謝とエネルギー(1)	1. 代謝とATP、生物とエネルギー	6

8	2. 呼吸と発酵(4) < 1 学期期末考査 > < 第 1 回学力考査 >	2. 呼吸, 呼吸のしくみ, 発酵, 脂肪とタンパク質の分解	0
9	3. 光合成(5) 4. 窒素同化(2)	3. 光合成, 光合成と葉緑体, 光合成のしくみ, 細菌の炭酸同化 4. 植物の窒素同化, 動物の窒素同化	11
10	第 3 章 遺伝情報の発現(13) 1. DNA の構造と複製(3) 2. 遺伝情報の発現(3) < 2 学期中間考査 > 3. 遺伝子の発現調節(3) 4. バイオテクノロジー(4)	1. DNA の構造, DNA の複製 2. 遺伝情報とその発現, 転写とスプライシング, 翻訳, 原核細胞のタンパク質合成, 遺伝情報の変化と形質への影響 3. 遺伝子の発現と調節, 原核生物の転写調節, 真核生物の転写調節 4. 遺伝子組換え技術, 生物への遺伝子導入, DNA の増幅と塩基配列の決定, 遺伝子発現の解析, バイオテクノロジーと人間生活	8
11	第 4 章 生殖と発生(19) 1. 遺伝子と染色体(2)		6
12	2. 減数分裂と遺伝情報の分配(2) 3. 遺伝子の多様な組み合わせ(3)	1. 染色体の構造, 染色体と遺伝子 2. 遺伝情報の分配, 減数分裂の過程 3. 減数分裂による遺伝子の組み合わせ, 受精による遺伝子の組み合わせ	5
1	< 2 学期期末考査 > < 第 2 回学力考査 >		10
2	4. 動物の配偶子形成と受精(2) 5. 初期発生の過程(3) 6. 細胞の分化と形態形成(4)	4. 動物の配偶子形成, 受精 5. 卵の種類と卵割, ウニの発生, カエルの発生, 胚葉の分化 6. 誘導と形成体のはたらき, 誘導のしくみと細胞の分化, 形態形成を調節する遺伝子	9
3	7. 植物の発生(3) < 学年末考査 >	7. 被子植物の配偶子形成と受精, 植物の器官の分化と調節遺伝子	3
	標準 82 時間		85 時間

理 科 3 年 物 理 年間授業計画（シラバス）					
科目名	物理	対象	進学（理系）	コース	単位数 4 単位
教科書	改訂 物理			出版社	東京書籍
副教材	改訂 スタディノート物理（第一学習社）				

1 学習の到達目標

- ① 物理的な事物・現象に対する探究心を高める。
- ② 目的意識をもって観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。
- ③ 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。
- ④ 科学技術の在り方について意思決定するために必要な、科学的な見方や考え方を身につける。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	授業に対して真剣に取り組む、教科書を熟読し質問に対して自分の頭で考え、答える。	教科書の例題や類題の模範解答に対して違う考え方ができる。問題解説の際に的確に発表できる。	演示実験の際、考えながら見学できる。実験の行程に対して説明することができる。	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	小テスト 定期テストなど	問題解説発表 小テスト 定期テストなど	定期テスト 観察・実験など	小テスト 定期テストなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	第2編 波 3章 光	<予習復習体験学習> 波としての光の性質を学び、光の現象について理解をする。 2. 光の干渉と回折	1 2
5	第3編 電気と磁気 1章 電場と電位	空間に生じている電場を理解し、色々な電気の性質について学ぶ。 1. 静電気 2. 電場 3. 電位	1 6
6	2章 電流	<1学期中間考査>（第2編3章2節～第3編1章3節） 4. 電場の中の物体 5. コンデンサー 電流の回路について調べ、規則性について考える。	1 6

		1. 電流 2. 直流回路	4
7		<1学期期末考査> (第3編1章4節～2章2節)	1
8		<第1回学力考査>	
9	3章 電流と磁場	磁石や磁気の性質を理解し、電気と磁気の関係を学ぶ。 1. 磁場 2. 電流がつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力	1 6
10	4章 電磁誘導と電磁波	CL 回路に交流を流し電気振動を起こすと電磁波が発生する現象を理解する。 1. 電磁誘導の法則 2. 相互誘導と自己誘導 4. 交流 5. 電磁波	1 6
	第5編 原子	<2学期中間考査> (第3編3章～4章)	
11	1章 電子と光	量子の世界では粒子及び波動としての物質の二重性について学ぶ。 1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 波動性と粒子性	1 8
	2章 原子と原子核	原子核の基本的な構成を学ぶ。 1. 原子の構造 2. 原子核 3. 原子核の崩壊 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子	
12		<2学期期末考査> (第4編1章～2章)	
	合計		9 9

理 科 3 年 化 学 年間授業計画（シラバス）					
科目名	化学	対象	進学（理系）	コース	単位数 4 単位
教科書	化学				

1 学習の到達目標

① 無機物質の性質や反応を探究し，元素の性質が周期表に基づいて整理できることが理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察する。
② 有機化合物の性質や反応を探究し，有機化合物の分類と特徴が理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察する。
③ 高分子化合物の性質や反応を探究し，合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴が理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察する。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	化学的な事物・現象に関心や探求心を持ち，主体的に探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。	化学的な事物・現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	化学的な事象・現象に関する観察，実験を行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め，知識を身に付けている。
評価の 方法	授業態度 課題提出 定期テストなど	確認テスト 小テスト 定期テストなど	確認テスト 定期テスト 観察・実験など	演習プリント 定期テスト レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	第4編 無機物質 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物	予習復習体験 ◎典型元素の単体や化合物の性質についても学ぶ。 ◎遷移元素は，周期表の3族から11族に属する元素で，すべて金属元素である。鉄、銅、銀、金など，私たちの生活と深くかかわっているものが多い。この章では，遷移元素の単体や化合物の性質，および，各種の金属イオンの分離と検出方法についても学ぶ。	12
5	5章 無機物質と人間生活 1学期中間考査	◎私たちの身のまわりでは，鉱物から得られる金属・セラミックなどの材料が広く利用されており，私たちの生活をより豊かなものになっている。この章では，金属やセラミックスの製法や性質，用途などについて学び，これらの物質への正しい理解を深めていこう。 考査範囲 第4編3章～5章	16

6	第5編 有機化合物		
	1章 有機化合物の特徴と構造	◎私たちの生活は、さまざまな有機化合物に取り囲まれている。例えば、食品、衣料品、医薬品はその大部分が有機化合物からできている。この章では、有機化合物の特徴と分類のしかた、および、化学式の決定の方法について学ぶ。	1 6
	2章 炭化水素	◎石油や天然ガスには、種々の炭化水素が含まれている。私たちの暮らしと切り離せないメタンやプロパンもその仲間である。この章では有機化合物の基本となる炭化水素について、その性質や構造を学ぶ。	
	3章 酸素を含む有機化合物	◎酸素は、有機化合物をつくる元素のうち、3番目に多い元素である。この章では、酸素を含む有機化合物のうち、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸およびその誘導体の性質や構造を学ぶ。	
7	期末考査	考査範囲 第5編1章～3章	4
8	学力考査	考査範囲 1学期の復習	1
9	基礎学力到達度テスト対策	問題集を用いて演習	1 6
10	4章 芳香族化合物	◎ベンゼンおよびその誘導体は、分子内にベンゼン環と呼ばれる独特の構造をもち、芳香族化合物と呼ばれる。この章では、芳香族炭化水素をはじめ、有機化合物の世界で大きな位置を占めている芳香族化合物の性質や構造を学ぶ。	1 6
	中間考査	考査範囲 第5編4章～5章、第6編1章～3章	
	5章 有機化合物と人間生活	◎これまでに、脂防族化合物や芳香族化合物の構造や性質などを学んだ。ここでは私たちの身の回りにある糖類、アミノ酸および医薬品、染料、洗剤などの有機化合物について、構造や性質だけでなく、これらの物質が日常生活でどのように利用されているかを学ぶ。	
	第6編 高分子化合物		
11	1章 高分子化合物	◎私たちの生活の中で、衣料・食品・住居などを構成する物質の中には分子量の大きな化合物が多く存在する。これらの化合物は高分子化合物と呼ばれ、これまで学習してきた分子量の小さな化合物とは異なる性質を示す。本章では、高分子化合物の分類や特徴、およびその合成方法などについて学ぶ。	1 8
	2章 天然高分子化合物	◎人工的につくられた合成高分子化合物に対して自然界にも数多くの天然高分子化合物が存在する。本章では、生物体とも関連の深い糖類、タンパク質、核酸などについて、その構造や性質などを理解しよう。また、これらの物質と私たちの生活との関わりについても学ぶ。	
12	3章 合成高分子化合物	◎石油などを原料として作られる合成高分子化合物には、その形態や機能の違いにより、合成繊維、プラスチック（合成樹脂）、合成ゴムなどがある。これらは私たちの生活にはなくてはならない重要な物質である。本章では代表的な合成高分子の構造や性質などについて学ぶ。	6
	4章 高分子化合物と人間生活	◎これまでに学んだものの他にも、さまざまな機能をもつ高分子化合物が新たに開発されている。しかし、人間の手によって作り出された高分子化合物は、私たちの生活に役立つ一方、地球環境に対して少なからず負荷を与えており、その適正な処理が課題となっている。本章では、高分子化合物の新しい機能、ならびに、処理について学ぶ。	
	期末考査	考査範囲 第6編1章～3章	
	合計		1 0 5

理 科 3 年 生 物 年間授業計画（シラバス）					
科目名	生物	対象	進学理系	コース	単位数 4 単位
教科書	生物 出版社 数研出版				
副教材	リードLight ノート生物, ニューステージ新生物図表, 生物学習ノート, チャレンジワーク生物				

1 学習の到達目標

① 生物学における基本的概念や原理・法則を理解する。
② 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。
③ 目的意識を持って観察実験などを行う。
④ 到達度テストに対応できる力を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	生物や生物現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して事象を化学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	確認テスト 定期考査 ノートなど	確認テスト 定期考査など	確認テスト 定期考査 観察・実験など	確認テスト 定期考査 レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	予習復習体験学習(1) 第4章 生殖と発生(19) 6. 細胞の分化と形態形成(4) 7. 植物の発生(3) 第5章 動物の反応と行動(14) 1. ニューロンとその興奮(3)	6. 形態形成を調節する遺伝子 7. 被子植物の配偶子形成と受精, 植物の器官の分化と調節遺伝子	13
5	2. 刺激の受容(3) 3. 情報の統合(3) 4. 刺激への反応(2) 5. 動物の行動(3) 第6章 植物の環境応答(9) 1. 植物の反応(2)	1. 刺激の受容から行動まで, ニューロンの構造, ニューロンの興奮, 興奮の伝導, 興奮の伝達 2. 受容器と適刺激, 視覚器, 聴覚器・平衡受容器, その他の受容器 3. 神経系, 中枢神経系, 末梢神経系, 反射 4. 筋肉の構造と収縮, その他の効果器 5. 生得的行動, いろいろな生得的行動, 学習 1. 刺激に対する植物の反応	10

	< 1 学期中間考査(18) > 2. 成長の調節(3) 3. 花芽形成と発芽の調節(4) 第 7 章 生物群集と生態系(16) 1. 個体群(3) 2. 個体群内の個体間の関係(2) 3. 異種個体群間の関係(2) 4. 生物群集(2)	5/20～ 2. 成長の調節と植物ホルモン, オーキシンのはたらき, その他の植物ホルモンによる調節 3. 花芽形成と日長, 花芽形成のしくみ, 花芽形成と温度, 種子の休眠と発芽, 種子の発芽と光, 植物の一生と環境応答	
6		1. 個体群, 個体群の成長と密度効果, 個体群の年齢構成と生存曲線 2. 動物の群れ, 縄張り, 動物の社会 3. 生物の異種個体群間における競争, 被食者-捕食者相互関係, 共生と寄生 4. 生物群集, 生態的地位と共存	12
7	< 1 学期期末考査(17) >	7/2～	1
8	< 第 1 回学力考査(8) >	8/26～	1
9	5. 生態系における物質生産(4) 6. 生態系と生物多様性(3) 到達度テスト対策(8) < 到達度テスト(13) > 第 8 章 生命の起源と進化(12) 1. 生命の起源(3) 2. 生物の変遷(5) 3. 進化のしくみ(4)	5. 生態系の成り立ち, 生態系における物質生産, さまざまな生態系における物質生産, 生態系におけるエネルギーの利用 6. 生物多様性, 生物多様性に影響を与える要因-かく乱, 個体群の絶滅を加速する要因, 生物多様性の保全 9/26 1. 有機物の生成と蓄積, 有機物から生物へ, 生物の出現とその発展, 細胞の発達-真核生物の出現 2. 地質時代, 多細胞生物の出現-先カンブリア時代, 水中での生物の変遷-古生代, 生物の陸上進出-古生代, 種子植物とは虫類の繁栄-中生代, 被子植物と哺乳類の繁栄-新生代, 人類の出現と進化 3. 突然変異, 自然選択, 遺伝的浮動, 隔離と種分化, 分子進化と中立説	15
10	< 2 学期中間考査(9) >	10/15～	
11	第 9 章 生物の系統(11) 1. 生物の分類と系統(3) 2. 原核生物(1) 3. 原生生物(1) 4. 植物(2) 5. 動物(3) 6. 菌類(1) < 2 学期期末考査(22) >	1. 生物の分類, 系統と分類, 系統分類の方法, 生物の分類体系 2. 原核生物 3. 原生生物 4. 植物の分類の考え方, コケ植物, シダ植物, 種子植物 5. 動物の分類の考え方, 無脊椎動物, 脊椎動物 6. 菌類 11/27～	13
	標準 77 時間		80 時間

理 科 3 年							化学基礎		年間授業計画（シラバス）		
科目名	化学基礎		対象	特進(文系)		コース		単位数	1 単位		
教科書	改訂 化学基礎				出版社		東京書籍				
副教材	チェック&演習化学基礎（数研出版）										

1 学習の到達目標

- ① 化学が物質を対象とする科学であることや、化学が人間生活に果たしている役割を理解する。
- ② 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。
- ③ 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察する。
- ④ 上記の目標を達成するために探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価の 方法	演習 定期テストなど	演習 定期テストなど	観察・実験 定期テストなど	演習 定期テストなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	第1編 物質の構成と化学結合 1章 物質の構成	問題集を用いて演習 考査範囲 「実践問題」 (化学基礎全範囲)	3
5	2章 物質の構成粒子 1学期中間考査		3
6	3章 粒子の結合 第2編 物質の変化		3
7	1章 物質と化学反応式 1学期期末考査	考査範囲 「実践問題」 (化学基礎全範囲)	3
8	2章 酸と塩基	考査範囲 「実践問題」 (化学基礎全範囲)	2
9	3章 酸化還元反応		3
10	2学期中間考査		3
11	総合問題 2学期期末考査	考査範囲 「実践問題」 (化学基礎全範囲)	3
12			3
合計			26

理 科 3 年							生物基礎		年間授業計画（シラバス）	
科目名	生物基礎	対象	特進（文系）	コース	単位数	1	単位			
教科書	生物基礎				出版社	数研出版				
副教材	大学入試センター試験対策 チェック&演習 生物基礎（数研出版）									

1 学習の到達目標

- ① 生物学における基本的概念や原理・法則を理解する。
- ② 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。
- ③ 目的意識を持って観察実験などを行う。
- ④ センター試験に対応できる力を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	生物や生物現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して事象を化学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	小テスト 定期テスト ノートなど	確認テスト 小テスト 定期テストなど	確認テスト 定期テスト 観察・実験など	確認テスト 定期テスト レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	第1編 生物と遺伝子	第1章 生物の特徴	3
5	(4)	第2章 遺伝子とそのはたらき	4
	<1学期中間考査(5)>		
6	第2編 生物の体内環境の維持(4)	第3章 体内環境の恒常性	3
		第4章 体内環境の調節と免疫	
7	<1学期期末考査(5)>		1
8	第3編 生物の多様性と生態系(4)	第5章 植生の多様性と分布	1
9		第6章 生態系とその保全	3
	<第1回学力考査(2)>	一年間のまとめ	
10	<2学期中間考査(5)>		3
11	<2学期期末考査(5)>		2
	<センター試験>		
	標準 20 時間		20 時間

理 科 3 年 物 理 年間授業計画（シラバス）					
科目名	物理	対象	特進（理系）	コース	単位数 4 単位
教科書	改訂 物理			出版社	東京書籍
副教材	セミナー物理基礎＋物理（第一学習社），センター試験 物理 単元別問題集（駿台文庫）				

1 学習の到達目標

- ① 物理的な事物・現象に対する探究心を高める。
- ② 目的意識をもって観察・実験などを行い，物理的に探究する能力と態度を身につける。
- ③ 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な自然観を身につける。
- ④ 科学技術の在り方について意思決定するために必要な，科学的な見方や考え方を身につける。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	授業に対して真剣に取り組む，教科書を熟読し質問に対して自分の頭で考え，答える。	教科書の例題や類題の模範解答に対して違う考え方ができる。問題解説の際に的確に発表できる。	演示実験の際，考えながら見学できる。実験の行程に対して説明することができる。	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め，知識を身に付けている。
評価の 方法	小テスト 定期テストなど	問題解説発表 小テスト 定期テストなど	定期テスト 観察・実験など	小テスト 定期テストなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	第3編 電気と磁気 1章 電場と電位 ・3節 電位 ・4節 電場の中の物体 ・5節 コンデンサー	<予習復習体験学習> ・電荷の移動と仕事の関係，電場と電位の関係，及び電位の基準点について理解する。 ・箔検電器などの実験を通して，静電誘導，静電遮蔽（シールド），誘電分極について理解する。 ・コンデンサーの充電と放電，電気容量，空気中に置かれた平行板コンデンサーなどの基本的な性質について理解する。	1 1 2
5	2章 電流 ・1節 電流 ・2節 直流回路	・電池の起電力と内部抵抗の測定などを通して，キルヒホッフの法則，電球の電流特性などについて理解する。また，コンデンサーを含む電気回路や，半導体の特性について理解する。	1 5
		<1学期中間考査(3編1章3節～2章2節)>	1
6	3章 電流と磁場 ・1節 磁場（磁界） ・2節 電流がつくる磁場	・観察，実験を通して，直線電流のまわり，円形電流の中心，ソレノイドの内部にできる磁場について理解する。	1 6

	・ 3 節 電流が磁場から受ける力 ・ 4 節 ローレンツ力	・ 観察, 実験を通して, 電流が磁場から受ける力を表す式やローレンツ力について理解する。	
7	4章 電磁誘導と電磁波 ・ 1 節 電磁誘導の法則 ・ 2 節 相互誘導と自己誘導 ・	・ コイルを貫く磁束が変化するとき及び導線が磁束を横切るときに生じる誘導起電力, 自己誘導, 相互誘導, 渦電流の仕組みなどについて理解する。	8
8		< 1 学期期末考査 (3 編 3 章 1 節 ~ 4 章 2 節) >	1
9	・ 3 節 交流 ・ 4 節 電磁波	・ 交流回路におけるコンデンサーやコイルのリアクタンス, R L C 回路のインピーダンスについて理解する。 ・ 電磁波の基本的な性質や電波の利用について理解する。	8
10	4 編 原子 1 章 電子と光 ・ 1 節 電子 ・ 2 節 光の粒子性 ・ 3 節 X 線 ・ 4 節 電磁波	・ 電子の発見に関する歴史的な実験にも触れながら, 真空放電などの実験を通して, 電子の比電荷, 電気素量について理解する。 ・ 光電効果, 光量子仮説, 電子線回折, 物質波について理解する。また, X 線の性質や利用について理解する。	8
	2 章 原子と原子核 ・ 1 節 原子の構造 ・ 2 節 原子核 ・ 3 節 原子核の崩壊 ・ 4 節 核反応と核エネルギー ・ 5 節 素粒子	・ α 粒子の散乱実験などの科学史や水素原子のスペクトルの観察などを通して, 原子の構造やスペクトルの波長に規則性があること, ボーアの原子モデルなどを学び, 原子が出す光のスペクトルと電子のエネルギー準位の関係について理解する。 ・ 原子核の構成, 原子核の崩壊, 半減期, 核分裂, 核融合, 原子核反応を扱い, 質量とエネルギーの等価性, 及び原子力発電のしくみについて理解する。 ・ クォークとレプトンなどの素粒子の存在, 及び 4 つの基本的な力 (強い力, 電磁気力, 弱い力, 重力) などについて理解する。	8
11	総合演習	総合演習	1 8
12	センター対策講座		
1	センター試験	< 2 学期期末考査 > (総合問題)	1
2	国公立 2 次・私大入試対策講座		
	合計		9 9

理 科 3 年 化 学 年間授業計画（シラバス）					
科目名	化学	対象	特進（理系）	コース	単位数 4 単位
教科書	化学				

1 学習の到達目標

① 無機物質の性質や反応を探究し，元素の性質が周期表に基づいて整理できることが理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察する。
② 有機化合物の性質や反応を探究し，有機化合物の分類と特徴が理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察する。
③ 高分子化合物の性質や反応を探究し，合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴が理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察する。

2 評価の観点・内容・方法，及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	化学的な事物・現象に関心や探求心をもち，主体的に探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。	化学的な事物・現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	化学的な事象・現象に関する観察，実験を行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め，知識を身に付けている。
評価の 方法	授業態度 課題提出 定期テストなど	確認テスト 小テスト 定期テストなど	確認テスト 定期テスト 観察・実験など	演習プリント 定期テスト レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	第4編 無機物質 4章 遷移元素の単体と化合物	予習復習体験 ◎遷移元素は，周期表の3族から11族に属する元素で，すべて金属元素である。鉄、銅、銀、金など、私たちの生活と深くかかわっているものが多い。この章では，遷移元素の単体や化合物の性質，および，各種の金属イオンの分離と検出方法についても学ぶ。	12
5	5章 無機物質と人間生活 1学期中間考査	◎私たちの身のまわりでは，鉱物から得られる金属・セラミックなどの材料が広く利用されており，私たちの生活をより豊かなものになっている。この章では，金属やセラミックスの製法や性質，用途などについて学び，これらの物質への正しい理解を深めていこう。 考査範囲 第4編3章～5章	16

6	第5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素 3章 酸素を含む有機化合物	◎私たちの生活は、さまざまな有機化合物に取り囲まれている。例えば、食品、衣料品、医薬品はその大部分が有機化合物からできている。この章では、有機化合物の特徴と分類のしかた、および、化学式の決定の方法について学ぶ。 ◎石油や天然ガスには、種々の炭化水素が含まれている。私たちの暮らしと切り離せないメタンやプロパンもその仲間である。この章では有機化合物の基本となる炭化水素について、その性質や構造を学ぶ。 ◎酸素は、有機化合物をつくる元素のうち、3番目に多い元素である。この章では、酸素を含む有機化合物のうち、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸およびその誘導体の性質や構造を学ぶ。	16
7	期末考査	考査範囲 第5編1章～3章	4
8	学力考査	考査範囲 1学期の復習	1
9	4章 芳香族化合物	◎ベンゼンおよびその誘導体は、分子内にベンゼン環と呼ばれる独特の構造をもち、芳香族化合物と呼ばれる。この章では、芳香族炭化水素をはじめ、有機化合物の世界で大きな位置を占めている芳香族化合物の性質や構造を学ぶ。	16
10	5章 有機化合物と人間生活 第6編 高分子化合物 1章 高分子化合物 2章 天然高分子化合物 3章 合成高分子化合物 中間考査	◎これまでに、脂防族化合物や芳香族化合物の構造や性質などを学んだ。ここでは私たちの身の回りにある糖類、アミノ酸および医薬品、染料、洗剤などの有機化合物について、構造や性質だけでなく、これらの物質が日常生活でどのように利用されているかを学ぶ。 ◎私たちの生活の中で、衣料・食品・住居などを構成する物質の中には分子量の大きな化合物が多く存在する。これらの化合物は高分子化合物と呼ばれ、これまで学習してきた分子量の小さな化合物とは異なる性質を示す。本章では、高分子化合物の分類や特徴、およびその合成方法などについて学ぶ。 ◎人工的につくられた合成高分子化合物に対して自然界にも数多くの天然高分子化合物が存在する。本章では、生物体とも関連の深い糖類、タンパク質、核酸などについて、その構造や性質などを理解しよう。また、これらの物質と私たちの生活との関わりについても学ぶ。 ◎石油などを原料として作られる合成高分子化合物には、その形態や機能の違いにより、合成繊維、プラスチック（合成樹脂）、合成ゴムなどがある。これらは私たちの生活にはなくてはならない重要な物質である。本章では代表的な合成高分子の構造や性質などについて学ぶ。	16
11	4章 高分子化合物と人間生活 マーク式演習 期末考査	◎これまでに学んだものの他にも、さまざまな機能をもつ高分子化合物が新たに開発されている。しかし、人間の手によって作り出された高分子化合物は、私たちの生活に役立つ一方、地球環境に対して少なからず負荷を与えており、その適正な処理が課題となっている。本章では、高分子化合物の新しい機能、ならびに、処理について学ぶ。	18
12	センター対策講座	考査範囲 第6編1章～3章	6
1	センター試験		
2	国公立2次・私大入試対策		
	合計		105

理 科 3 年 生 物 年間授業計画（シラバス）					
科目名	生物	対象	特進理系	コース	単位数 4 単位
教科書	生物 出版社 数研出版				
副教材	三訂版リードLight ノート生物, ニューステージ新生物図表, センター試験対策 チェック&演習生物, 生物学習ノート				

1 学習の到達目標

- ① 生物学における基本的概念や原理・法則を理解する。
- ② 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。
- ③ 目的意識を持って観察実験などを行う。
- ④ センター試験や2次試験にも対応できる力を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の 内容	生物や生物現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して事象を化学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価の 方法	小テスト 定期テスト ノートなど	確認テスト 小テスト 定期テストなど	確認テスト 定期テスト 観察・実験など	確認テスト 定期テスト レポートなど

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査7割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）3割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	予習復習体験学習(1) 第5章 動物の反応と行動(14) 1. ニューロンとその興奮(3) 2. 刺激の受容(3) 3. 情報の統合(3) 4. 刺激への反応(2) 5. 動物の行動(3) 第6章 植物の環境応答(9) 1. 植物の反応(2)	1. 刺激の受容から行動まで、ニューロンの構造、ニューロンの興奮、興奮の伝導、興奮の伝達 2. 受容器と適刺激、視覚器、聴覚器・平衡受容器、その他の受容器 3. 神経系、中枢神経系、末しょう神経系、反射 4. 筋肉の構造と収縮、その他の効果器 5. 生得的行動、いろいろな生得的行動、学習	13
5	5/22～ < 1学期中間考査(18) >	5/22～ 1. 刺激に対する植物の反応	10

6	2. 成長の調節(3) 3. 花芽形成と発芽の調節(4) 第 7 章 生物群集と生態系(16) 1. 個体群(3) 2. 個体群内の個体間の関係(2)	2. 成長の調節と植物ホルモン, オーキシンのはたらき, その他の植物ホルモンによる調節 3. 花芽形成と日長, 花芽形成のしくみ, 花芽形成と温度, 種子の休眠と発芽, 種子の発芽と光, 植物の一生と環境応答 1. 個体群, 個体群の成長と密度効果, 個体群の年齢構成と生存曲線 2. 動物の群れ, 縄張り, 動物の社会 3. 生物の異種個体群間における競争, 被食者-捕食者相互関係, 共生と寄生	12
7	3. 異種個体群間における競争(2)	4. 生物群集, 生態的地位と共存	1
8	4. 生物群集(2)	6/28～	1
9	<1 学期期末考査(17)> <第 1 回学力考査(8)> 5. 生態系における物質生産(4) 6. 生態系と生物多様性(3)	8/28～ 5. 生態系の成り立ち, 生態系における物質生産, さまざまな生態系における物質生産, 生態系におけるエネルギーの利用 6. 生物多様性, 生物多様性に影響を与える要因-かく乱, 個体群の絶滅を加速する要因, 生物多様性の保全	15
10	到達度テスト対策(8) <到達度テスト(13)> 第 8 章 生命の起源と進化(12) 1. 生命の起源(3) 2. 生物の変遷(5)	9/27 1. 有機物の生成と蓄積, 有機物から生物へ, 生物の出現とその発展, 細胞の発達-真核生物の出現 2. 地質時代, 多細胞生物の出現-先カンブリア時代, 水中での生物の変遷-古生代, 生物の陸上進出-古生代, 種子植物とは虫類の繁栄-中生代, 被子植物と哺乳類の繁栄-新生代, 人類の出現と進化 3. 突然変異, 自然選択, 遺伝的浮動, 隔離と種分化, 分子進化と中立説	15
11	3. 進化のしくみ(4) <2 学期中間考査(9)> 第 9 章 生物の系統(11) 1. 生物の分類と系統(3) 2. 原核生物(1) 3. 原生生物(1) 4. 植物(2) 5. 動物(3) 6. 菌類(1) <2 学期期末考査(22)> 〈センター試験〉 〈個別学力前期試験〉 〈個別学力後期試験〉	10/16～ 1. 生物の分類, 系統と分類, 系統分類の方法, 生物の分類体系 2. 原核生物 3. 原生生物 4. 植物の分類の考え方, コケ植物, シダ植物, 種子植物 5. 動物の分類の考え方, 無脊椎動物, 脊椎動物 6. 菌類	13
	標準 77 時間		80 時間

保健体育		科	1 年	体育	年間授業計画（シラバス）		
科目名	体育	対象	スポーツコース		単位数	4	単位
教科書	最新高等保健体育				出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健体育ノート						

1 学習の到達目標

①	運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
②	自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
③	健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定をまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元		主 な 学 習 内 容 と ね ら い		時間数
	体 育	演 習	体 育	演 習	
4	ガイダンス	ガイダンス	体育理論①	心肺蘇生法	体育 3 3 演習 1 0
5	体育理論①	心肺蘇生法	1. 人間にとって「動く」とは	・日常的に起こるけがの症状に応じた適切な応急手当ができるようにする。	
	新体力テスト	・現場における応急手当	2. スポーツの始まりと変遷	・外部の専門家の指導の下、心肺蘇生法（AED）講習会を開催し、救命講習認定証が交付できるよう取り組むこと。	
	体づくり運動	・AED 講習会	3. スポーツ文化の楽しみ方	スポーツ栄養学	
	＜男女＞	スポーツ栄養学	新体力テスト	・スポーツ活動を進めるにあたり、自己の身体について基礎的な知識と、スポーツ栄養学に基づくより専門的な知識が必要であることを	
	ラジオ体操第1	・水分補給について	・新体力テストを実施することで、自分の体力を把握する。結果を評価し目標を立て、授業を積極的に取り組めるようにする。		
	マット運動		体づくり運動		
			・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力の違いに配慮し、合意形成に		

6	体育理論②	ゴルフ ・グリップ ・アイアンショット ・ドライバーショット ・アプローチ ・ルール ・エチケット	貢献する。 ・体力の構成要素や体づくり運動の実生活への取り入れ方を理解し、取り組みを工夫することができる。	学ぶ。今回は、主に水分補給について講義を受ける。正しい水分補給の仕方を学び、自らのパフォーマンス向上を図る。	
7			ラジオ体操 ・ラジオ体操第1を習得し、準備運動とする。 マット運動 ・「倒立前転→側方倒立回転→跳び前転→前転→着地」の技を連続して滑らかに演技する。 ・技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができる。	ゴルフ ・ゴルフの基本的技術習得を身につけるとともに、近い将来、実際のゴルフコース場でルールとマナーに則したプレーができるようなゴルファーを目指すべく学習する。	
8	体づくり運動 ＜男子＞ サッカー	トレーニング基礎 ・競技力を構成する諸要素の関係 ・技能、戦術の上達過程 ・技能、戦術を向上させるトレーニング方法	体育理論② 4. オリンピックと国際理解 5. スポーツと経済 6. ドーピングとスポーツ倫理	トレーニング基礎 ・競技としてのスポーツで良い成績をあげるためには、それに応じた競技力を高める必要がある。 ・運動やスポーツを効果的に行うためには、トレーニングによって体力を高め、技術や戦術を練習して技能や戦術能を高める必要がある。そのために、講習や実技を通して競技力の向上に必要な基礎知識を知る。	
9	＜女子＞ ソフトテニス	・競技力と精神力（メンタル面）の関係	サッカー ・インサイドキック、インステップキック、トラッピング、リフティングドリブル、ゲーム ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への投入などから攻防を展開する。		
10					体育 39
11					演習 10
12			ソフトテニス ・フォアハンドストローク、サービス、ボレー、ゲーム ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。	スキー ・寒冷地における冬季のスポーツのひとつとして、スキーの技術を身につけ、生涯を通して親しめるようになる。 ・重心の位置や滑走面など、普段とは違った環境下での運動の特性を踏まえ、普段使わない筋肉の強化はもとより、教え合うことで互いに交流する。	
1	体づくり運動 ＜男女＞ バスケットボール	スキー（猿倉スキー場） ・シュテム・ストップ ・大回り ・小回り ・緩斜面・急斜面・コブ斜面を安全に滑走	バスケットボール ・パス、ドリブル、ドリブルシュート、ジャンプシュート、ゴール下シュート、セットシュート、ゲーム ・仲間と連携して、ゴール前の空間を使ったり、ゴール前の区間を作り出したりして攻防を展開する。 ・フェアプレイを大切にすることや仲間を尊重し、合意形成に貢献することなどに意欲をもち、健康や安全に留意する。		
2					体育 20 演習 8
3					

保健体育		科 1 年	体育	年間授業計画（シラバス）		
科目名	体育	対象	進学 I	コース	単位数	2 単位
教科書	最新高等保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健体育ノート					

1 学習の到達目標

① 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定をまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
	体 育		
4	ガイダンス	体育理論① 1. 人間にとって「動く」とは 2. スポーツの始まりと変遷 3. スポーツ文化の楽しみ方 新体力テスト ・新体力テストを実施することで、自分の体力を把握する。結果を評価し目標を立て、授業を積極的に取り組めるようにする。 体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力などの違いに配慮し、合意形成に貢献することなどに興味を持ち、体力の構成要素や体づくり運動の実生活への取り入れ方を理解し、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫することができる。 ラジオ体操 ・ラジオ体操第1を習得し、準備運動とする。	24
5	体育理論①		
	新体力テスト		
6	体づくり運動		
	<男女>		
	ラジオ体操第1		
7	マット運動		

		マット運動 ・ 「倒立前転 → 側方倒立回転 → 跳び前転 → 前転 → 着地」の技を連続して滑らかに演技する。 ・ 技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができる。	
8	体育理論②	体育理論②	
9	体づくり運動	4. オリンピックと国際理解 5. スポーツと経済 6. ドーピングとスポーツ倫理	
10	＜男子＞ サッカー	サッカー ・ インサイドキック、インステップキック、トラッピング、リフティング、ドリブルゲーム ・ 安定したボール操作と空間を作りだすなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開する。	26
11	＜女子＞ ソフトテニス	ソフトテニス ・ フォアハンドストローク、サービス、ボレー、ゲーム ・ 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。	
12			
1	体づくり運動	バスケットボール	
2	＜男女＞ バスケットボール	・ パス、ドリブル、ドリブルシュート、ジャンプシュート、ゴール下シュート、セツシュート、ゲーム ・ 仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、ゴール前の区間を作り出したりして攻防を展開する。 ・ 安定したボール操作と空間を作りだすなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開する。 ・ フェアプレイを大切にすることや仲間を尊重し、合意形成に貢献することなどに意欲をもち、健康や安全に留意する。	12
3			

保健体育		科	1 年	体育	年間授業計画（シラバス）		
科目名	体育		対象	進学Ⅱ	コース	単位数	2 単位
教科書	最新高等保健体育				出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健体育ノート						

1 学習の到達目標

- ② 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定をまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
	体 育		
4	ガイダンス	体育理論① 1. 人間にとって「動く」とは 2. スポーツの始まりと変遷 3. スポーツ文化の楽しみ方 新体力テスト ・新体力テストを実施することで、自分の体力を把握する。結果を評価し目標を立て、授業を積極的に取り組めるようにする。 体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力などの違いに配慮し、合意形成に貢献することなどに興味を持ち、体力の構成要素や体づくり運動の実生活への取り入れ方を理解し、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫することができる。 ラジオ体操 ・ラジオ体操第1を習得し、準備運動とする。	24
5	体育理論①		
	新体力テスト		
6	体づくり運動		
	<男女>		
	ラジオ体操第1		
7	マット運動		

		マット運動 ・ 「 倒立前転 → 側方倒立回転 → 跳び前転 → 前転 → 着地 」 の技を連続して滑らかにを行い演技する。 ・ 技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができる。	
8	体育理論②	体育理論②	
9	体づくり運動	4. オリンピックと国際理解 5. スポーツと経済 6. ドーピングとスポーツ倫理	
10	＜男子＞ サッカー	サッカー ・ インサイドキック、インステップキック、トラッピング、リフティング、ドリブル、ゲーム ・ 安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開する。	26
11	＜女子＞ ソフトテニス	ソフトテニス ・ フォアハンドストローク、サーブ、ボレー、ゲーム ・ 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。	
12			
1	体づくり運動	バスケットボール ・ パス、ドリブル、ドリブルシュート、ジャンプシュート、ゴール下シュート、セットシュート・ゲーム ・ 仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、ゴール前の区間を作り出したりして攻防を展開する。 ・ 安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開する。 ・ フェアプレイを大切にすることや仲間を尊重し、合意形成に貢献することなどに意欲をもち、健康や安全に留意する。	
2	＜男女＞ バスケットボール		12
3			

保健体育		科	1 年	体育	年間授業計画（シラバス）		
科目名	体育	対象	特進	コース	単位数	2	単位
教科書	最新高等保健体育			出版社	大修館書店		
副教材	最新高等保健体育ノート						

1 学習の到達目標

- ① 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
評価の内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定をまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
	体 育		
4	ガイダンス	体育理論① 1. 人間にとって「動く」とは 2. スポーツの始まりと変遷 3. スポーツ文化の楽しみ方 新体力テスト ・新体力テストを実施することで、自分の体力を把握する。結果を評価し目標を立て、授業を積極的に取り組めるようにする。 体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力などの違いに配慮し、合意形成に貢献することなどに興味を持ち、体力の構成要素や体づくり運動の実生活への取り入れ方を理解し、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫することができる。 ラジオ体操 ・ラジオ体操第1を習得し、準備運動とする。	24
5	体育理論①		
	新体力テスト		
6	体づくり運動		
	<男女>		
	ラジオ体操第1		
7	マット運動		

		マット運動 ・ 「 倒立前転 → 側方倒立回転 → 跳び前転 → 前転 → 着地 」 の技を連続して滑らかにを行い演技する。 ・ 技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができる。	
8	体育理論②	体育理論②	
9	体づくり運動	4. オリンピックと国際理解 5. スポーツと経済 6. ドーピングとスポーツ倫理	
10	＜男子＞ サッカー	サッカー ・ インサイドキック、インステップキック、トラッピング、リフティング、ドリブルゲーム	26
11	＜女子＞ ソフトテニス	・ 安定したボール操作と空間を作りだすなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開する。	
12		ソフトテニス ・ フォアハンドストローク、サービス、ボレー、ゲーム ・ 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。	
1	体づくり運動	バスケットボール	
2	＜男女＞ バスケットボール	・ パス、ドリブル、ドリブルシュート、ジャンプシュート、ゴール下シュート、セットシュート、ゲーム ・ 仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、ゴール前の区間を作り出したりして攻防を展開する。 ・ 安定したボール操作と空間を作りだすなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開する。 ・ フェアプレイを大切にすることや仲間を尊重し、合意形成に貢献することなどに意欲をもち、健康や安全に留意する。	12
3			

保健体育科		1 年	保健		年間授業計画（シラバス）	
科目名	保健	対象	スポーツ	コース	単位数	1 単位
教科書	最新高等保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健指導ノート					

1 学習の到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の内容	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定をまとめます。

評価の内容 定期考査9割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）1割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
	保 健		
4	1. 現代社会と健康	・①～⑥までの学習を通して、時代とともに変化してきた健康問題を理解し、知識を深める。特に生活習慣病が日頃の生活習慣と深い関係を持ち食事・適度な運動・休養が予防につながることを認識させ、現代社会における健康の成立条件や問題について学習することで、健康的な生活を送る知識を身につけるようにする。 ・代表的な健康指標として、平均寿命や乳児死亡率がある。また、死因を通してその国や地域がどのような健康問題を抱えているのかを知る。 ・健康にとっての運動、休養の意識を理解し現在または将来においてそれらを自らの生活の中に適切に位置づけられるような力を培う。 ・意志決定・行動選択の重要性について、こころの健康問題と関連させて考えることができるようにする。	12
	①健康の考え方と成り立ち		
	②私たちの健康のすがた		
5	③健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり		
	④生活習慣病とその予防		
6	⑤食事と健康		
	⑥運動・休養と健康		
7			

8	1. 現代社会と健康	・⑦～⑭までの学習を通して、現在問題となっている感染症について知識を深め、健康で豊かな生活を送ることの意義について自己の考えを持つことができるようにする。 ・性感染症の発生状況の実態と予防に関する知識、予防のための個人がおこなう対策と、その前提となる社会の取り組みについて学ぶ。 ・心の働きと体の働きが相互に作用し合うことから、ストレスの多い社会の中で自分が取れる対処法について考えさせ、生活に役立てる意識を持つことができるようにする。 ・喫煙の有害性について学習に加え、喫煙開始や継続の要因となる誘いの断り方など適切な意志決定と行動選択の方法を身につけるようにする。 ・飲酒による健康への影響とそれを防ぐための社会の取り組みを学習する。 ・薬物は依存性が強く一度使用すると自分の意志ではやめられなくなるため、薬物に対する正しい知識をもち、絶対に使用しないという意志決定や行動選択を身につけるようにする。	15
	⑦喫煙と健康		
	⑧飲酒と健康		
9	⑨薬物乱用と健康		
	⑩感染症とその予防		
	⑪性感染症・エイズとその予防		
10	⑫欲求と適応規制		
	⑬心身の相関とストレス		
11	⑭心の健康のために		
12			
1	1. 現代社会と健康	・我が国の交通事故の現状を知るとともに、事故の原因と対策、および交通社会で必要とされる資質と責任について学ぶ。 ・安全な交通社会づくりに向けて法的な整備と交通環境の整備、自動車の安全対策について学ぶ。 ・自他の生命や体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境をつくるためには、一人一人が応急手当の手順や方法を身につけ、自ら進んで行う態度を養うことが必要であることを理解する。 ・具体的な応急手当の知識や技術を学び、必要な場面で実際に行うことができるようにする。 ・心肺蘇生法の技術を取得するとともに、授業後も心肺蘇生法に関心を持ち続けることができるようにする。	8
	⑮交通事故の現状と要因		
	⑯交通事故を防ぐために		
2	⑰応急手当の意義とその基本		
	⑱日常的な応急手当		
3	⑲心肺蘇生法の原理とおこない方		

保健体育科 1 年 保健 年間授業計画（シラバス）					
科目名	保健	対象	進学 I	コース	単位数 1 単位
教科書	最新高等保健体育			出版社	大修館書店
副教材	最新高等保健指導ノート				

1 学習の到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の内容	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定をまとめます。

評価の内容 定期考査9割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）1割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
	保 健		
4	1. 現代社会と健康 ①健康の考え方と成り立ち ②私たちの健康のすがた	・①～⑥までの学習を通して、時代とともに変化してきた健康問題を理解し、知識を深める。特に生活習慣病が日頃の生活習慣と深い関係を持ち食事・適度な運動・休養が予防につながることを認識させ、現代社会における健康の成立条件や問題について学習することで、健康的な生活を送る知識を身につけるようにする。 ・代表的な健康指標として、平均寿命や乳児死亡率がある。また、死因を通してその国や地域がどのような健康問題を抱えているのかを知る。 ・健康にとっての運動、休養の意識を理解し現在または将来においてそれらを自らの生活の中に適切に位置づけられるような力を培う。 ・意志決定・行動選択の重要性について、こころにちの健康問題と関連させて考えることができるようにする。	12
5	③健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり		
6	④生活習慣病とその予防 ⑤食事と健康 ⑥運動・休養と健康		
7			

8	1. 現代社会と健康	・⑦～⑭までの学習を通して、現在問題となっている感染症について知識を深め、健康で豊かな生活を送ることの意義について自己の考えを持つことができるようにする。 ・性感染症の発生状況の実態と予防に関する知識。予防のための個人がおこなう対策と、その前提となる社会の取り組みについて学ぶ。 ・心の働きと体の働きが相互に作用し合うことから、ストレスの多い社会の中で自分が取れる対処法について考えさせ、生活に役立てる意識を持つことができるようにする。 ・喫煙の有害性について学習に加え、喫煙開始や継続の要因となる誘いの断り方など適切な意志決定と行動選択の方法を身につけるようにする。 ・飲酒による健康への影響とそれを防ぐための社会の取り組みを学習する。 ・薬物は依存性が強く一度使用すると自分の意志ではやめられなくなるため、薬物に対する正しい知識をもち、絶対に使用しないという意志決定や行動選択を身につけるようにする。	15
	⑦喫煙と健康		
	⑧飲酒と健康		
9	⑨薬物乱用と健康		
	⑩感染症とその予防		
	⑪性感染症・エイズとその予防		
10	⑫欲求と適応規制		
	⑬心身の相関とストレス		
11	⑭心の健康のために		
12			
1	1. 現代社会と健康	・我が国の交通事故の現状を知るとともに、事故の原因と対策、および交通社会で必要とされる資質と責任について学ぶ。 ・安全な交通社会づくりに向けて法的な整備と交通環境の整備、自動車の安全対策について学ぶ。 ・自他の生命や体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境をつくるためには、一人一人が応急手当の手順や方法を身につけ、自ら進んで行う態度を養うことが必要であることを理解する。 ・具体的な応急手当の知識や技術を学び、必要な場面で実際に行うことができるようにする。 ・心肺蘇生法の技術を取得するとともに、授業後も心肺蘇生法に関心を持ち続けることができるようにする。	8
	⑮交通事故の現状と要因		
	⑯交通事故を防ぐために		
2	⑰応急手当の意義とその基本		
	⑱日常的な応急手当		
3	⑲心肺蘇生法の原理とおこない方		

保健体育科		1 年	保健	年間授業計画（シラバス）		
科目名	保健	対象	進学Ⅱ	コース	単位数	1 単位
教科書	最新高等保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健指導ノート					

1 学習の到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の内容	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定をまとめます。

評価の内容 定期考査9割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）1割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
	保 健		
4	1. 現代社会と健康 ①健康の考え方と成り立ち ②私たちの健康のすがた	・①～⑥までの学習を通して、時代とともに変化してきた健康問題を理解し、知識を深める。特に生活習慣病が日頃の生活習慣と深い関係を持ち食事・適度な運動・休養が予防につながることを認識させ、現代社会における健康の成立条件や問題について学習することで、健康的な生活を送る知識を身につけるようにする。 ・代表的な健康指標として、平均寿命や乳児死亡率がある。また、死因を通してその国や地域がどのような健康問題を抱えているのかを知る。 ・健康にとっての運動、休養の意識を理解し現在または将来においてそれらを自らの生活の中に適切に位置づけられるような力を培う。 ・意志決定・行動選択の重要性について、こころにちの健康問題と関連させて考えることができるようにする。	12
5	③健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり		
6	④生活習慣病とその予防 ⑤食事と健康 ⑥運動・休養と健康		
7			

8	1. 現代社会と健康	・⑦～⑭までの学習を通して、現在問題となっている感染症について知識を深め、健康で豊かな生活を送ることの意義について自己の考えを持つことができるようにする。 ・性感染症の発生状況の実態と予防に関する知識。予防のための個人がおこなう対策と、その前提となる社会の取り組みについて学ぶ。 ・心の働きと体の働きが相互に作用し合うことから、ストレスの多い社会の中で自分が取れる対処法について考えさせ、生活に役立てる意識を持つことができるようにする。 ・喫煙の有害性について学習に加え、喫煙開始や継続の要因となる誘いの断り方など適切な意志決定と行動選択の方法を身につけさせる。 ・飲酒による健康への影響とそれを防ぐための社会の取り組みを学習する。 ・薬物は依存性が強く一度使用すると自分の意志ではやめられなくなるため、薬物に対する正しい知識をもち、絶対に使用しないという意志決定や行動選択を身につけさせる。	15
9	⑦喫煙と健康		
	⑧飲酒と健康		
	⑨薬物乱用と健康		
	⑩感染症とその予防		
10	⑪性感染症・エイズとその予防		
	⑫欲求と適応規制		
	⑬心身の相関とストレス		
11	⑭心の健康のために		
12			
1	1. 現代社会と健康	・我が国の交通事故の現状を知るとともに、事故の原因と対策、および交通社会で必要とされる資質と責任について学ぶ。 ・安全な交通社会づくりに向けて法的な整備と交通環境の整備、自動車の安全対策について学ぶ。 ・自他の生命や体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境をつくるためには、一人一人が応急手当の手順や方法を身につけ、自ら進んで行う態度を養うことが必要であることを理解する。 ・具体的な応急手当の知識や技術を学び、必要な場面で実際に行えるようにする。 ・心肺蘇生法の技術を取得するとともに、授業後も心肺蘇生法に関心を持ち続けることができるようにする。	8
	⑮交通事故の現状と要因		
2	⑯交通事故を防ぐために		
	⑰応急手当の意義とその基本		
	⑱日常的な応急手当		
3	⑲心肺蘇生法の原理とおこない方		

保健体育科 1 年 保健 年間授業計画（シラバス）					
科目名	保健	対象	特進	コース	単位数 1 単位
教科書	最新高等保健体育			出版社	大修館書店
副教材	最新高等保健指導ノート				

1 学習の到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の内容	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定をまとめます。

評価の内容 定期考査9割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）1割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
	保 健		
4	1. 現代社会と健康 ①健康の考え方と成り立ち ②私たちの健康のすがた	①～⑥までの学習を通して、時代とともに変化してきた健康問題を理解し、知識を深める。特に生活習慣病が日頃の生活習慣と深い関係を持ち食事・適度な運動・休養が予防につながることを認識させ、現代社会における健康の成立条件や問題について学習することで、健康的な生活を送る知識を身につけるようにする。 - 代表的な健康指標として、平均寿命や乳児死亡率がある。また、死因を通してその国や地域がどのような健康問題を抱えているのかを知る。 - 健康にとっての運動、休養の意識を理解し現在または将来においてそれらを自らの生活の中に適切に位置づけられるような力を培う。 - 意志決定・行動選択の重要性について、こころにちの健康問題と関連させて考えることができるようにする。	12
5	③健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり		
6	④生活習慣病とその予防 ⑤食事と健康		
7	⑥運動・休養と健康		

8	1. 現代社会と健康	・⑦～⑭までの学習を通して、現在問題となっている感染症について知識を深め、健康で豊かな生活を送ることの意義について自己の考えを持つことができるようにする。 ・性感染症の発生状況の実態と予防に関する知識。予防のための個人がおこなう対策と、その前提となる社会の取り組みについて学ぶ。 ・心の働きと体の働きが相互に作用し合うことから、ストレスの多い社会の中で自分が取れる対処法について考えさせ、生活に役立てる意識を持つことができるようにする。 ・喫煙の有害性について学習に加え、喫煙開始や継続の要因となる誘いの断り方など適切な意志決定と行動選択の方法を身につけるようにする。 ・飲酒による健康への影響とそれを防ぐための社会の取り組みを学習する。 ・薬物は依存性が強く一度使用すると自分の意志ではやめられなくなるため、薬物に対する正しい知識をもち、絶対に使用しないという意志決定や行動選択を身につけるようにする。	15
9	⑦喫煙と健康		
	⑧飲酒と健康		
10	⑨薬物乱用と健康		
11	⑩感染症とその予防		
12	⑪性感染症・エイズとその予防		
	⑫欲求と適応規制		
	⑬心身の相関とストレス		
	⑭心の健康のために		
1	1. 現代社会と健康	・我が国の交通事故の現状を知るとともに、事故の原因と対策、および交通社会で必要とされる資質と責任について学ぶ。 ・安全な交通社会づくりに向けて法的な整備と交通環境の整備、自動車の安全対策について学ぶ。 ・自他の生命や体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境をつくるためには、一人一人が応急手当の手順や方法を身につけ、自ら進んで行う態度を養うことが必要であることを理解する。 ・具体的な応急手当の知識や技術を学び、必要な場面で実際に行うことができるようにする。 ・心肺蘇生法の技術を取得するとともに、授業後も心肺蘇生法に関心を持ち続けることができるようにする。	8
2	⑮交通事故の現状と要因		
	⑯交通事故を防ぐために		
3	⑰応急手当の意義とその基本		
	⑱日常的な応急手当		
	⑲心肺蘇生法の原理とおこない方		

保健体育 科 2 年 体育 年間授業計画（シラバス）						
科目名	体育	対象	スポーツ	コース	単位数	4 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健指導ノート					

1 学習の到達目標

- ② 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の 内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学習単元		主な学習内容とねらい		時間数
	体育	演習	体育	演習	
4	ガイダンス 新体力テスト 体づくり運動	ガイダンス スポーツ栄養学講座	新体力テスト ・新体力テストを実施することで、自分の体力を客観的に自覚させ、積極的に目標を持って授業に向かう態度を養う。	スポーツ栄養学講座 ・スポーツ活動をすすめるにあたり、自己の身体について基礎的な知識と、スポーツ栄養学に基づき専門的な知識を学ぶ。	体育 23 演習 14
5	体育理論①	スポーツトレーニング論 ・トレーニングの基礎知識 ・トレーニングの実技	体づくり運動 ・身体の様々な部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。	スポーツトレーニング論 ・スポーツ活動をすすめるにあたり、自己の身体について基礎的な知識とスポーツ生理学に基づき、より専門的な知識が必要であることを実践する。また、スポーツ活動と体力面での関わり合いについての内容を理解し、自己の体力の向上を目指す。	
6	<男女> ハードル走	・けがの予防と対応 ・機能的トレーニングの実践 1・2・3・4 ・スポーツに関する資格制度	体育理論① 1. スポーツの技術と技能 2. 技能の上達過程と練習 3. 技能と体力		
7		・実践ヨガ 1・2			

			ハードル走 ・スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができるようにする。		
8	体育理論②		体育理論②		
	体づくり運動	ゴルフ ・グリップ ・アイアンショット	4. 体力トレーニング 5. 運動・スポーツにおける安全の確保	ゴルフ ・ゴルフの基本的技術習得を身につけるとともに、近い将来、実際のゴルフコース場でルールとマナーに則したプレーができるようなゴルファーを目指すべく学習する	
9	<男子> ソフトボール	・ドライバーショット ・ターゲットへのアプローチ	ソフトボール ・ピッチング ・捕球送球 ・トスバッティング ・ゲーム		
10	<女子> バレーボール	・ルール	バレーボール ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・サービス ・ゲーム		体育 29 演習 12
11					
12					
1	体づくり運動	スキー（蔵王スキー場） ブルーク・ストップ シュテム・パラレル ・大回り ・小回り	卓球 ・フォアハンドストローク ・バックハンドストローク ・サーブ ・ゲーム	スキー ・寒冷地における冬季のスポーツのひとつとして、スキーの技術を身につけ、生涯を通して親しめるようになる。 ・重心の位置や滑走面など、普段とは違った環境下での運動の特性をふまえ、普段使わない筋肉の強化はもとより、教え合うことで互いに交流する	
2	<男女> 卓球	・緩斜面・急斜面・コブ斜面を安全に滑走		・寒冷地における冬季のスポーツのひとつとして、技術を身につけ生涯を通して親しめる意識を高めさせる	体育 14 演習 4
3					

保健体育 科 2 年		体育		年間授業計画（シラバス）		
科目名	体育	対象	進学Ⅰ（文系）	コース	単位数	2 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健指導ノート					

1 学習の到達目標

- ③ 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の 内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
	体育	体育	
4	ガイダンス	新体力テスト	23
	新体力テスト	・新体力テストを実施することで、自分の体力を客観的に自覚させ、積極的に目標を持って授業に向かう態度を養う。	
5	体づくり運動	体づくり運動	
	体育理論①	・身体のような部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。	
6	＜男女＞ ハードル走	体育理論① 1. スポーツの技術と技能 2. 技能の上達過程と練習 3. 技能と体力 ハードル走 ・スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことが	

7		できるようにする。	
8	体育理論②	体育理論②	
		4. 体力トレーニング	
		5. 運動・スポーツにおける安全の確保	
9	体づくり運動		
		ソフトボール	
	<男子>	・ピッチング	
	ソフトボール	・捕球送球	
10		・トスバッティング	
	<女子>	・ゲーム	
	バレーボール		29
11		バレーボール	
		・オーバーハンドパス	
		・アンダーハンドパス	
		・サービス	
12		・ゲーム	
1	体づくり運動		
	<男女>	卓球	
2	卓球	・フォアハンドストローク	
		・バックハンドストローク	
		・サーブ ・ゲーム	14
3			

保健体育 科 2 年 体育 年間授業計画（シラバス）						
科目名	体育	対象	進学 II (文系)	コース	単位数	2 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健指導ノート					

1 学習の到達目標

- ④ 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学習單元	主な学習内容とねらい	時間数
	体育	体育	
4	ガイダンス	新体力テスト	23
	新体力テスト	・新体力テストを実施することで、自分の体力を客観的に自覚させ、積極的に目標を持って授業に向かう態度を養う。	
5	体づくり運動	体づくり運動	
	体育理論①	・身体のような部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。	
6	＜男女＞ ハードル走	体育理論① 1. スポーツの技術と技能 2. 技能の上達過程と練習 3. 技能と体力 ハードル走 ・スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができるようにする。	

7			
8	体育理論②	体育理論②	
		4. 体力トレーニング	
		5. 運動・スポーツにおける安全の確保	
9	体づくり運動		
		ソフトボール	
	<男子>	・ピッチング	
	ソフトボール	・捕球送球	
10		・トスバッティング	
		・ゲーム	29
	<女子>		
	バレーボール		
11		バレーボール	
		・オーバーハンドパス	
		・アンダーハンドパス	
		・サービス	
12		・ゲーム	
1	体づくり運動		
		卓球	
	<男女>	・フォアハンドストローク	
2	卓球	・バックハンドストローク	14
		・サーブ ・ゲーム	
3			

保健体育 科 2 年 体育 年間授業計画（シラバス）						
科目名	体育	対象	進学Ⅰ（理系）	コース	単位数	2 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健指導ノート					

1 学習の到達目標

- ① 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の 内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学習単位	主な学習内容とねらい	時間数
	体育	体育	
4	ガイダンス	新体力テスト	23
	新体力テスト	・新体力テストを実施することで、自分の体力を客観的に自覚させ、積極的に目標を持って授業に向かう態度を養う。	
5	体づくり運動	体づくり運動	
	体育理論①	・身体のような部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。	
6	＜男女＞ ハードル走	体育理論① 1. スポーツの技術と技能 2. 技能の上達過程と練習 3. 技能と体力 ハードル走 ・スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができるようにする。	

7			
8	体育理論②	体育理論②	
		4. 体力トレーニング	
		5. 運動・スポーツにおける安全の確保	
9	体づくり運動		
		ソフトボール	
	<男子>	・ピッチング	
	ソフトボール	・捕球送球	
10		・トスバッティング	
		・ゲーム	29
	<女子>		
	バレーボール		
11		バレーボール	
		・オーバーハンドパス	
		・アンダーハンドパス	
		・サービス	
12		・ゲーム	
1	体づくり運動		
		卓球	
	<男女>	・フォアハンドストローク	
2	卓球	・バックハンドストローク	14
		・サーブ ・ゲーム	
3			

保健体育 科 2 年		体育		年間授業計画（シラバス）		
科目名	体育	対象	進学Ⅱ（理系）	コース	単位数	2 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健指導ノート					

1 学習の到達目標

- ① 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の 内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
	体育	体育	
4	ガイダンス	新体力テスト	23
	新体力テスト	・新体力テストを実施することで、自分の体力を客観的に自覚させ、積極的に目標を持って授業に向かう態度を養う。	
5	体づくり運動	体づくり運動	
	体育理論①	・身体のような部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。	
6	＜男女＞ ハードル走	体育理論① 1. スポーツの技術と技能 2. 技能の上達過程と練習 3. 技能と体力 ハードル走 ・スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことが	

7		できるようにする。	
8	体育理論②	体育理論②	
	体づくり運動	4. 体力トレーニング 5. 運動・スポーツにおける安全の確保	
9			
	<男子>	ソフトボール	
	ソフトボール	・ピッチング ・捕球送球 ・トスバッティング ・ゲーム	29
10			
	<女子>		
	バレーボール	バレーボール	
11		・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・サーブ ・ゲーム	
12			
1	体づくり運動	卓球	
	<男女>	・フォアハンドストローク ・バックハンドストローク ・サーブ ・ゲーム	14
2	卓球		
3			

保健体育 科 2 年 体育 年間授業計画（シラバス）						
科目名	体育	対象	特進（文系）	コース	単位数	2 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健指導ノート					

1 学習の到達目標

- ② 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の 内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評価にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
	体育	体育	
4	ガイダンス	新体力テスト	23
	新体力テスト	・新体力テストを実施することで、自分の体力を客観的に自覚させ、積極的に目標を持って授業に向かう態度を養う。	
5	体づくり運動	体づくり運動	
	体育理論①	・身体のような部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。	
		体育理論①	
6	<男女> ハードル走	1. スポーツの技術と技能 2. 技能の上達過程と練習 3. 技能と体力	23
7		ハードル走 ・スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができるようにする。	

8	体育理論②	体育理論②	
		4. 体力トレーニング	
		5. 運動・スポーツにおける安全の確保	
9	体づくり運動		
		ソフトボール	
	<男子>	・ピッチング	
	ソフトボール	・捕球送球	
10		・トスバッティング	
		・ゲーム	29
	<女子>		
	バレーボール		
11		バレーボール	
		・オーバーハンドパス	
		・アンダーハンドパス	
		・サーブ	
12		・ゲーム	
1	体づくり運動		
		卓球	
	<男女>	・フォアハンドストローク	
2	卓球	・バックハンドストローク	14
		・サーブ ・ゲーム	
3			

保健体育 科 2 年 体育 年間授業計画（シラバス）						
科目名	体育	対象	特進（理系）	コース	単位数	2 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健指導ノート					

1 学習の到達目標

- ① 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の 内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学習單元	主な学習内容とねらい	時間数
	体育	体育	
4	ガイダンス 新体力テスト	新体力テスト ・新体力テストを実施することで、自分の体力を客観的に自覚させ、積極的に目標を持って授業に向かう態度を養う。	23
5	体づくり運動 体育理論①	体づくり運動 ・身体様々な部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。 体育理論① 1. スポーツの技術と技能 2. 技能の上達過程と練習 3. 技能と体力	
6	<男女> ハードル走	ハードル走 ・スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができるようにする。	
7			

8	体育理論②	体育理論②	
		4. 体力トレーニング	
		5. 運動・スポーツにおける安全の確保	
9	体づくり運動		
		ソフトボール	
	<男子>	・ピッチング	
	ソフトボール	・捕球送球	
10		・トスバッティング	
		・ゲーム	29
	<女子>		
11	バレーボール	バレーボール	
		・オーバーハンドパス	
		・アンダーハンドパス	
		・サーブ	
12		・ゲーム	
1	体づくり運動		
		卓球	
	<男女>	・フォアハンドストローク	
2	卓球	・バックハンドストローク	14
		・サーブ ・ゲーム	
3			

保健体育 科 2 年		保健		年間授業計画（シラバス）	
科目名	保健	対象	スポーツ	コース	単位数 1 単位
教科書	最新高等学校保健体育		出版社 大修館書店		
副教材	最新高等保健体育ノート				

1 学習の到達目標

個人及び社会生活において健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の 内容	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 9 割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 1 割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
	保 健		
4	2. 生涯を通じる健康 ①思春期と健康 ②性への関心・欲求と性行動 ③妊娠・出産と健康	・年齢に応じた健康保持増進に関する正しい知識を身につけるようにする。 ・性意識や欲求の変化の男女差、異性の心と体の違いについて理解できるようにする。 ・望まない妊娠、性感染症と性行動との関連について理解を深める。 ・受精・妊娠と出産の一連の過程を学習する。 ・家族計画の意義について学習する。 ・健康な結婚生活について、心身の発達や本人および家族の立場から理解することを目指す。 ・中高年期にともなう心身の変化について、形態、機能の両面から学習し理解を深める。	12
5	④避妊法と人工妊娠中絶 ⑤結婚生活と健康 ⑥中高年期と健康		
6			
7			

8	2. 生涯を通じる健康 ⑦医薬品とその活用	・保健サービスの内容を理解し、提供されるサービスが、家族や地域社会生活にどのように役立たせるか考えることができるようにする。 ・医療が必要なとき適切な医療サービスを利用できるのは、さまざまな医療関係者の養成や医療機関が設置されているからサービスを受けられることを理解できるようにする。 ・生涯を通じて健康な生活を維持するために、個々の努力と社会的な対策（保健・医療・福祉）について学習する。 ・大気をめぐる環境問題について、過去・現在の汚染問題について知識を深めることができるようにする。 ・水質汚濁と土壌汚染はどのように起こり、どんな健康問題を引き起こすかを考える。 ・環境汚染の防止・改善の対策では、社会対策や個人で出来ることなど総合的な対策を身につける態度を養う。	15
9	⑧医療サービスとその活用 ⑨保健サービスとその活用 ⑩さまざまな保健活動や対策		
10	3. 社会生活と健康 ①大気汚染と健康		
11	②水質汚濁，土壌汚染と健康 ③環境汚染を防ぐ取り組み		
12			
1	3. 社会生活と健康 ④ごみの処理と上下水道の設備 ⑤食品を守る活動	・ごみ処理と上下水道整備の状況を知る。 ・現在生活における食品に関しての問題点と、今後どんな問題が発生するのかを考えることができるようにする。 ・働くことと健康が相互に影響し合うことから、仕事の仕方や職場環境を整えることの必要性について学習し、将来に生かす意識を深める。 ・職場における健康管理の必要性について理解を深め、職場及び日常生活での健康増進について考えをまとめ、実践できる態度を養う。	8
2	⑥働くことと健康 ⑦働く人の健康づくり		
3			

保健体育 科 2 年		保健		年間授業計画（シラバス）	
科目名	保健	対象	進学Ⅰ（文系）	コース	単位数 1 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店
副教材	最新高等保健体育ノート				

1 学習の到達目標

個人及び社会生活において健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の 内容	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 9 割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 1 割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
	保 健		
4	2. 生涯を通じる健康 ①思春期と健康 ②性への関心・欲求と性行動 ③妊娠・出産と健康	・年齢に応じた健康保持増進に関する正しい知識を身につけるようにする。 ・性意識や欲求の変化の男女差、異性の心と体の違いについて理解できるようにする。 ・望まない妊娠、性感染症と性行動との関連について理解を深める。 ・受精・妊娠と出産の一連の過程を学習する。 ・家族計画の意義について学習する。 ・健康な結婚生活について、心身の発達や本人および家族の立場から理解することを目指す。 ・中高年期にともなう心身の変化について、形態、機能の両面から学習し理解を深める。	12
5	④避妊法と人工妊娠中絶 ⑤結婚生活と健康 ⑥中高年期と健康		
6			
7			

8	2. 生涯を通じる健康 ⑦医薬品とその活用	・保健サービスの内容を理解し，提供されるサービスが，家族や地域社会生活にどのように役立たせるか考えることができるようにする。 ・医療が必要なとき適切な医療サービスを利用できるのは，さまざまな医療関係者の養成や医療機関が設置されているからサービスを受けられることを理解できるようにする。 ・生涯を通じて健康な生活を維持するために，個々の努力と社会的な対策（保健・医療・福祉）について学習する。 ・大気をめぐる環境問題について，過去・現在の汚染問題について知識を深めることができるようにする。 ・水質汚濁と土壌汚染はどのように起こり，どんな健康問題を引き起こすかを考える。 ・環境汚染の防止・改善の対策では，社会対策や個人で出来ることなど総合的な対策を身につける態度を養う。	15
9	⑧医療サービスとその活用 ⑨保健サービスとその活用 ⑩さまざまな保健活動や対策		
10	3. 社会生活と健康 ①大気汚染と健康		
11	②水質汚濁，土壌汚染と健康 ③環境汚染を防ぐ取り組み		
12			
1	3. 社会生活と健康 ④ごみの処理と上下水道の設備 ⑤食品を守る活動	・ごみ処理と上下水道整備の状況を知る。 ・現在生活における食品に関しての問題点と，今後どんな問題が発生するのかを考えることができるようにする。 ・働くことと健康が相互に影響し合うことから，仕事の仕方や職場環境を整えることの必要性について学習し，将来に生かす意識を深める。 ・職場における健康管理の必要性について理解を深め，職場及び日常生活での健康増進について考えをまとめ，実践できる態度を養う。	8
2	⑥働くことと健康 ⑦働く人の健康づくり		
3			

保健体育 科 2 年 保健 年間授業計画（シラバス）						
科目名	保健	対象	進学Ⅱ（文系）	コース	単位数	1 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健体育ノート					

1 学習の到達目標

個人及び社会生活において健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の 内容	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決を目指して総合的に考え，判断し，それらを表している。	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 9 割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 1 割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
	保 健		
4	2. 生涯を通じる健康 ①思春期と健康 ②性への関心・欲求と性行動 ③妊娠・出産と健康	・年齢に応じた健康保持増進に関する正しい知識を身につけるようにする。 ・性意識や欲求の変化の男女差，異性の心と体の違いについて理解できるようにする。 ・望まない妊娠，性感染症と性行動との関連について理解を深める。 ・受精・妊娠と出産の一連の過程を学習する。 ・家族計画の意義について学習する。 ・健康な結婚生活について，心身の発達や本人および家族の立場から理解することを目指す。 ・中高年期にともなう心身の変化について，形態，機能の両面から学習し理解を深める。	12
5	④避妊法と人工妊娠中絶 ⑤結婚生活と健康 ⑥中高年期と健康		
6			
7			

8	2. 生涯を通じる健康 ⑦医薬品とその活用	・保健サービスの内容を理解し、提供されるサービスが、家族や地域社会生活にどのように役立たせるか考えることができるようにする。 ・医療が必要なとき適切な医療サービスを利用できるのは、さまざまな医療関係者の養成や医療機関が設置されているからサービスを受けられることを理解できるようにする。 ・生涯を通じて健康な生活を維持するために、個々の努力と社会的な対策（保健・医療・福祉）について学習する。 ・大気をめぐる環境問題について、過去・現在の汚染問題について知識を深めることができるようにする。 ・水質汚濁と土壌汚染はどのように起こり、どんな健康問題を引き起こすかを考える。 ・環境汚染の防止・改善の対策では、社会対策や個人で出来ることなど総合的な対策を身につける態度を養う。	15
9	⑧医療サービスとその活用 ⑨保健サービスとその活用 ⑩さまざまな保健活動や対策		
10	3. 社会生活と健康 ①大気汚染と健康		
11	②水質汚濁，土壌汚染と健康 ③環境汚染を防ぐ取り組み		
12			
1	3. 社会生活と健康 ④ごみの処理と上下水道の設備 ⑤食品を守る活動	・ごみ処理と上下水道整備の状況を知る。 ・現在生活における食品に関しての問題点と、今後どんな問題が発生するのかを考えることができるようにする。 ・働くことと健康が相互に影響し合うことから、仕事の仕方や職場環境を整えることの必要性について学習し、将来に生かす意識を深める。 ・職場における健康管理の必要性について理解を深め、職場及び日常生活での健康増進について考えをまとめ、実践できる態度を養う。	8
2	⑥働くことと健康 ⑦働く人の健康づくり		
3			

保健体育 科 2 年 保健 年間授業計画（シラバス）						
科目名	保健	対象	進学Ⅰ（理系）	コース	単位数	1 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健体育ノート					

1 学習の到達目標

個人及び社会生活において健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の 内容	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 9 割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 1 割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
	保 健		
4	2. 生涯を通じる健康 ①思春期と健康 ②性への関心・欲求と性行動 ③妊娠・出産と健康	・年齢に応じた健康保持増進に関する正しい知識を身につけるようにする。 ・性意識や欲求の変化の男女差、異性の心と体の違いについて理解できるようにする。 ・望まない妊娠、性感染症と性行動との関連について理解を深める。 ・受精・妊娠と出産の一連の過程を学習する。 ・家族計画の意義について学習する。 ・健康な結婚生活について、心身の発達や本人および家族の立場から理解することを目指す。 ・中高年期にともなう心身の変化について、形態、機能の両面から学習し理解を深める。	12
5	④避妊法と人工妊娠中絶 ⑤結婚生活と健康 ⑥中高年期と健康		
6			
7			

8	2. 生涯を通じる健康 ⑦医薬品とその活用	・保健サービスの内容を理解し、提供されるサービスが、家族や地域社会生活にどのように役立たせるか考えることができるようにする。 ・医療が必要なとき適切な医療サービスを利用できるのは、さまざまな医療関係者の養成や医療機関が設置されているからサービスを受けられることを理解できるようにする。 ・生涯を通じて健康な生活を維持するために、個々の努力と社会的な対策（保健・医療・福祉）について学習する。 ・大気をめぐる環境問題について、過去・現在の汚染問題について知識を深めることができるようにする。 ・水質汚濁と土壌汚染はどのように起こり、どんな健康問題を引き起こすかを考える。 ・環境汚染の防止・改善の対策では、社会対策や個人で出来ることなど総合的な対策を身につける態度を養う。	15
9	⑧医療サービスとその活用 ⑨保健サービスとその活用 ⑩さまざまな保健活動や対策		
10	3. 社会生活と健康 ①大気汚染と健康		
11	②水質汚濁，土壌汚染と健康 ③環境汚染を防ぐ取り組み		
12			
1	3. 社会生活と健康 ④ごみの処理と上下水道の設備 ⑤食品を守る活動	・ごみ処理と上下水道整備の状況を知る。 ・現在生活における食品に関しての問題点と、今後どんな問題が発生するのかを考えることができるようにする。 ・働くことと健康が相互に影響し合うことから、仕事の仕方や職場環境を整えることの必要性について学習し、将来に生かす意識を深める。 ・職場における健康管理の必要性について理解を深め、職場及び日常生活での健康増進について考えをまとめ、実践できる態度を養う。	8
2	⑥働くことと健康 ⑦働く人の健康づくり		
3			

保健体育 科 2 年		保健		年間授業計画（シラバス）		
科目名	保健	対象	進学Ⅱ（理系）	コース	単位数	1 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健体育ノート					

1 学習の到達目標

個人及び社会生活において健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の 内容	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決を目指して総合的に考え，判断し，それらを表している。	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって，学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 9 割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 1 割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
	保 健		
4	2. 生涯を通じる健康	・年齢に応じた健康保持増進に関する正しい知識を身につけるようにする。 ・性意識や欲求の変化の男女差，異性の心と体の違いについて理解できるようにする。 ・望まない妊娠，性感染症と性行動との関連について理解を深める。 ・受精・妊娠と出産の一連の過程を学習する。 ・家族計画の意義について学習する。 ・健康な結婚生活について，心身の発達や本人および家族の立場から理解することを目指す。 ・中高年期にともなう心身の変化について，形態，機能の両面から学習し理解を深める。	12
	①思春期と健康		
	②性への関心・欲求と性行動		
5	③妊娠・出産と健康		
	④避妊法と人工妊娠中絶		
	⑤結婚生活と健康		
6	⑥中高年期と健康		
7			

8	2. 生涯を通じる健康 ⑦医薬品とその活用	・保健サービスの内容を理解し、提供されるサービスが、家族や地域社会生活にどのように役立たせるか考えることができるようにする。 ・医療が必要なとき適切な医療サービスを利用できるのは、さまざまな医療関係者の養成や医療機関が設置されているからサービスを受けられることを理解できるようにする。 ・生涯を通じて健康な生活を維持するために、個々の努力と社会的な対策（保健・医療・福祉）について学習する。 ・大気をめぐる環境問題について、過去・現在の汚染問題について知識を深めることができるようにする。 ・水質汚濁と土壌汚染はどのように起こり、どんな健康問題を引き起こすかを考える。 ・環境汚染の防止・改善の対策では、社会対策や個人で出来ることなど総合的な対策を身につける態度を養う。	15
9	⑧医療サービスとその活用 ⑨保健サービスとその活用 ⑩さまざまな保健活動や対策		
10	3. 社会生活と健康 ①大気汚染と健康		
11	②水質汚濁、土壌汚染と健康 ③環境汚染を防ぐ取り組み		
12			
1	3. 社会生活と健康 ④ごみの処理と上下水道の設備	・ごみ処理と上下水道整備の状況を知る。 ・現在生活における食品に関しての問題点と、今後どんな問題が発生するのかを考えることができるようにする。 ・働くことと健康が相互に影響し合うことから、仕事の仕方や職場環境を整えることの必要性について学習し、将来に生かす意識を深める。 ・職場における健康管理の必要性について理解を深め、職場及び日常生活での健康増進について考えをまとめ、実践できる態度を養う。	8
2	⑤食品を守る活動 ⑥働くことと健康		
3	⑦働く人の健康づくり		

保健体育 科 2 年 保健 年間授業計画（シラバス）						
科目名	保健	対象	特進（文系）	コース	単位数	1 単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健体育ノート					

1 学習の到達目標

個人及び社会生活において健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の 内容	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 9 割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 1 割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
	保 健		
4	2. 生涯を通じる健康 ①思春期と健康 ②性への関心・欲求と性行動 ③妊娠・出産と健康	・年齢に応じた健康保持増進に関する正しい知識を身につけるようにする。 ・性意識や欲求の変化の男女差、異性の心と体の違いについて理解できるようにする。 ・望まない妊娠、性感染症と性行動との関連について理解を深める。 ・受精・妊娠と出産の一連の過程を学習する。 ・家族計画の意義について学習する。 ・健康な結婚生活について、心身の発達や本人および家族の立場から理解することを目指す。 ・中高年期にともなう心身の変化について、形態、機能の両面から学習し理解を深める。	12
5	④避妊法と人工妊娠中絶 ⑤結婚生活と健康 ⑥中高年期と健康		
6			
7			

8	2. 生涯を通じる健康 ⑦医薬品とその活用	・保健サービスの内容を理解し、提供されるサービスが、家族や地域社会生活にどのように役立たせるか考えることができるようにする。 ・医療が必要なとき適切な医療サービスを利用できるのは、さまざまな医療関係者の養成や医療機関が設置されているからサービスを受けられることを理解できるようにする。 ・生涯を通じて健康な生活を維持するために、個々の努力と社会的な対策（保健・医療・福祉）について学習する。 ・大気をめぐる環境問題について、過去・現在の汚染問題について知識を深めることができるようにする。 ・水質汚濁と土壌汚染はどのように起こり、どんな健康問題を引き起こすかを考える。 ・環境汚染の防止・改善の対策では、社会対策や個人で出来ることなど総合的な対策を身につける態度を養う。	15
9	⑧医療サービスとその活用 ⑨保健サービスとその活用 ⑩さまざまな保健活動や対策		
10	3. 社会生活と健康 ①大気汚染と健康		
11	②水質汚濁，土壌汚染と健康 ③環境汚染を防ぐ取り組み		
12			
1	3. 社会生活と健康 ④ごみの処理と上下水道の設備 ⑤食品を守る活動	・ごみ処理と上下水道整備の状況を知る。 ・現在生活における食品に関しての問題点と、今後どんな問題が発生するのかを考えることができるようにする。 ・働くことと健康が相互に影響しあうことから、仕事の仕方や職場環境を整えることの必要性について学習し、将来に生かす意識を深める。 ・職場における健康管理の必要性について理解を深め、職場及び日常生活での健康増進について考えをまとめ、実践できる態度を養う。	8
2	⑥働くことと健康 ⑦働く人の健康づくり		
3			

保健体育 科 2 年			保健		年間授業計画（シラバス）		
科目名	保健	対象	特進（理系）	コース	単位数	1	単位
教科書	最新高等学校保健体育			出版社	大修館書店		
副教材	最新高等保健体育ノート						

1 学習の到達目標

個人及び社会生活において健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の内容	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	ノート プリント	定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 9 割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 1 割

3 学習計画

月	学習單元 保 健	主な学習内容とねらい	時間数
4	2. 生涯を通じる健康 ①思春期と健康	・年齢に応じた健康保持増進に関する正しい知識を身につけるようにする。	12
5	②性への関心・欲求と性行動 ③妊娠・出産と健康	・性意識や欲求の変化の男女差、異性の心と体の違いについて理解できるようにする。	
6	④避妊法と人工妊娠中絶 ⑤結婚生活と健康	・望まない妊娠、性感染症と性行動との関連について理解を深める。 ・受精・妊娠と出産の一連の過程を学習する。 ・家族計画の意義について学習する。	
7	⑥中高年期と健康	・健康な結婚生活について、心身の発達や本人および家族の立場から理解することを目指す。 ・中高年期にともなう心身の変化について、形態、機能の両面から学習し理解を深める。	

8	2. 生涯を通じる健康 ⑦医薬品とその活用	・保健サービスの内容を理解し、提供されるサービスが、家族や地域社会生活にどのように役立たせるか考えることができるようにする。 ・医療が必要なとき適切な医療サービスを利用できるのは、さまざまな医療関係者の養成や医療機関が設置されているからサービスを受けられることを理解できるようにする。 ・生涯を通じて健康な生活を維持するために、個々の努力と社会的な対策（保健・医療・福祉）について学習する。 ・大気をめぐる環境問題について、過去・現在の汚染問題について知識を深めることができるようにする。 ・水質汚濁と土壌汚染はどのように起こり、どんな健康問題を引き起こすかを考える。 ・環境汚染の防止・改善の対策では、社会対策や個人で出来ることなど総合的な対策を身につける態度を養う。	15
9	⑧医療サービスとその活用 ⑨保健サービスとその活用 ⑩さまざまな保健活動や対策		
10	3. 社会生活と健康 ①大気汚染と健康		
11	②水質汚濁，土壌汚染と健康 ③環境汚染を防ぐ取り組み		
12			
1	3. 社会生活と健康 ④ごみの処理と上下水道の設備	・ごみ処理と上下水道整備の状況を知る。 ・現在生活における食品に関しての問題点と、今後どんな問題が発生するのかを考えることができるようにする。 ・働くことと健康が相互に影響しあうことから、仕事の仕方や職場環境を整えることの必要性について学習し、将来に生かす意識を深める。 ・職場における健康管理の必要性について理解を深め、職場及び日常生活での健康増進について考えをまとめ、実践できる態度を養う。	8
2	⑤食品を守る活動 ⑥働くことと健康		
3	⑦働く人の健康づくり		

保健体育 科 3 年 体育 年間授業計画（シラバス）						
科目名	体育	対象	スポーツ	コース	単位数	5 単位
教科書	最新高等保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健体育ノート					

1 学習の到達目標

- ① 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の 内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学習単元					主な学習内容と到達目標					時 間 数
	体育	演習	武道		ダンス	体育	演習	武道		ダンス	
			柔道	剣道				柔道	剣道		
4	ガイダンス	各種トレーニング	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	新体力テスト	各種トレーニング	・伝統的な考え方, 礼儀作法を身につける。	・伝統的な考え方, 礼儀作法を身につける。	・現代的なリズムのダンスを通してリズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり, 変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊れるようにする。	体育 24 武 ダ 12 演 習 16
5	新体力テスト	ゴルフ ・グリップ ・アイアン	礼儀作法	礼儀礼法	グループ作り	・新体力テストを実施することで, 自分の体力を客観的に自覚する。	・専門スポーツ種目の技術を習得する。	・相手をもろに崩して投げたり, 抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に合わせた基本動作を身につける。	・相手の構えを崩し, かけたり応じたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に合わせた基本動作を身につける。		
	体づくり運動	ショット ・ドライバーショット ・アプローチ	基本動作 ・受け身	基本動作 ・足さばき ・構え	小作品作り	体づくり運動	・各運動種目に適した筋力トレーニングを実践する。				
6	<男女> 陸上競技	チショット ・ルール ・エチケット	投げ技 ・大内刈り ・体落とし ・支え釣り	・面打ち ・胴打ち ・小手打ち	現代的なリズムのダンス 作品の発表と鑑賞	自己の体力や生活環境に応じた運動を実践して健康保持増進する態度を養う。	・安全に運動を楽しむ態度を養う。				
	・立ち五段跳び ・砲丸投げ	・方向性スイング ・パターン ・ラウンド	込み足 ・背負い投げ ・大腰			陸上競技		・基本となる	・基本となる		

7	体育理論①	に向け練習				・運動の基本である走・跳・投のバランスのとれた運動を通して、体力・筋力の向上を図る。 体育理論① 1. 生涯スポーツの見方・考え方 2. ライフスタイルにおうじたスポーツ	ゴルフ ・ゴルフの基本的技術を身につけるとともに、ゴルフコース場においてルールとマナーを守ってプレーができるように学習する。	る技、得意技、連続技のいずれかができるようにする。	る技、得意技のいずれかができるようにする。		
8	体づくり運動	スポーツ演習	固め技	しかけ技	グループ作り	バレーボール	各種トレーニング	・素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開するための相手の多様な動きにに応じた基本動作を身につける。	・相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりする攻防を展開するための相手の多様な動きにに応じた基本動作を身につける。	・リズム感を身につけ、仲間と共に動き方を創作して発表する楽しさや喜びを実感する。	
9	＜男女＞バレーボール	各種トレーニング	・けさ固め ・横四方固め ・肩固め	・二段の技 ・引き技 ・払い技	創作ダンス	・仲間と共に楽しくバレーボールを楽しむための技術習得及び態度を養う。 ・チームで協力し合い役割やポジションを決め、楽しくゲームができるようにする。	・専門スポーツ種目の技術を習得する。 ・各運動種目に適した筋力トレーニングを実践する。 ・安全に運動を楽しむ態度を養う。	・得意技や連続技・変化技のいずれかにできるようにする。	・得意技ができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選べるようにする。	・表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、イメージを強調した作品を創作する。	
10	・パス	・機能的トレーニング	・約束練習	応じ技	グループ練習	・攻撃や守備の組織的な連携プレーを実践する。 ・作戦を立ててゲームが出来るようにする。	・健康管理に必要な知識を身につける。	・得意技や連続技・変化技のいずれかにできるようにする。	・得意技ができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選べるようにする。	・個や群で対極の動きや空間使い方で変化を付けて即興的に表現できるようにする。	体育 28 武ダ 15 演習 12
11			・連絡技		作品の発表と鑑賞	・生涯スポーツのひとつとして長く楽しめることを理解して、基本的な個人技能を身につける。 ・ルールを理解して審判が出来るようにする。	・健康管理に必要な知識を身につける。	・得意技や連続技・変化技のいずれかにできるようにする。	・得意技ができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選べるようにする。	・個や群で対極の動きや空間使い方で変化を付けて即興的に表現できるようにする。	
12	体育理論②		得意技			体育理論② 3. 日本のスポーツ振興 4. スポーツと環境					

保健体育 科 3 年 体育 年間授業計画（シラバス）							
科目名	体育	対象	進学Ⅰ（文系）	コース	単位数	3	単位
教科書	最新高等保健体育			出版社	大修館書店		
副教材	最新高等保健体育ノート						

1 学習の到達目標

- ① 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の 内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の 方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元				主な学習内容と到達目標				時 間 数
	体育	武道		ダンス	体育	武道		ダンス	
		柔道	剣道			柔道	剣道		
4	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	新体力テスト	・伝統的な考え方, 礼儀作法を身につける。	・伝統的な考え方, 礼儀作法を身につける。	・現代的なリズムのダンスを通してリズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり, 変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊れるようにする。	体育 24 武ダ 12
5	新体力テスト	礼儀作法	礼儀礼法	グループ作り	・新体力テストを実施することで, 自分の体力を客観的に自覚する。	・相手を崩して投げたり, 抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作を身につける。	・相手を崩して崩し, しかめたり応じたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作を身につける。		
	体づくり運動	基本動作		小作品作り	・自己の身体に関心を持ち, 自己の体力や生活環境に応じた運動を実践して健康保持増進する態度を養う。				
	<男女>	・受け身		現代的なリズムのダンス					
	陸上競技	投げ技		作品の発表と鑑賞	陸上競技				
6	・立ち五段跳び ・砲丸投げ	・大内刈り ・体落とし ・支え釣り込み足 ・背負い投げ	・足さばき ・構え ・面打ち ・胴打ち ・小手打ち			・基本となる技,	・基本となる技,		

7	体育理論①	・大腰			る走・跳・投のパラ ンスのとれた運動 を通して、体力・筋 力の向上を図る。	得意技, 連続技の いずれかができ るようにする。	得意技のいずれ かができるよう にする。		
8	体づくり運動 ＜男女＞ バレーボール	固め技 ・けさ固め ・横四方固め ・肩固め	しかけ技 ・二段の技 ・引き技 ・払い技	グループ作り 創作ダンス	バレーボール ・仲間と共に楽し くバレーボール を楽しむ態度を 養う。 ・チームで協力を して役割分担や ポジションを決 め、楽しくゲーム ができるように する。 ・攻撃や守備の組 織的な連携ブレ ーを実践する。	・素早く相手を 崩して投げたり、 抑えたり、返した りするなどの攻 防を展開するた めの相手の多様 な動きに応じた 基本動作を身に つける。	・相手の構えを 崩し、素早くしか けたり応じたり する攻防を展開 するための相手 の多様な動きに 応じた基本動作 を身につける。	・リズム感を身 につけ、仲間と共 に動き方を創作 して発表する楽 しさを喜びを実 感する。	
9	・パス ・フットワーク ・サービス ・トス ・スパイク ・レシーブ	・約束練習	応じ技 ・抜き技 ・返し技 ・簡易試合	グループ練習	・チームで協力を して役割分担や ポジションを決 め、楽しくゲーム ができるように する。 ・攻撃や守備の組 織的な連携ブレ ーを実践する。	・得意技や連続 技・変化技のい ずれかができる ようにする。	・得意技ができ るようにする。	・表したいテー マにふさわしい イメージをとら え、イメージを強 調した作品を創 作する。	
10	・ゲーム	・連絡技 ・得意技		作品の発表と鑑 賞	・作戦を立ててゲ ームが出来るよ うにする。 ・生涯スポーツの ひとつとして長 く楽しめること を理解して、基 本的な個人技能 を身につける。 ・ルールを理解し て審判が出来る ようにする。	・練習や試合の 場面で事故や仲 間の危険を回避 するための活動 の仕方を選べる ようにする。	・練習や試合の 場面で事故や仲 間の危険を回避 するための活動 の仕方を選べる ようにする。	・個や群で対極 の動きや空間使 い方で変化を付 けて即興的に表 現できるように する。	体育 28 武ダ 15
11									
12	体育理論②				体育理論② 3. 日本のスポーツ 振興 4. スポーツと環境				

	体育理論①				力の向上を図る。				
					体育理論① 1. 生涯スポーツの見方・考え方 2. ライフスタイルにおうじたスポーツ				
8	体づくり運動	固め技 ・けさ固め ・横四方固め ・肩固め	しかけ技 ・二段の技 ・引き技 ・払い技	グループ作り	バレーボール ・仲間と共に楽しくバレーボールを楽しむ態度を養う。 ・チームで協力をして役割分担やポジションを決め、楽しくゲームができるようにする。 ・攻撃や守備の組織的な連携プレーを実践する。	・素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開するための相手の多様な動きに応じた基本動作を身につける。	・相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりする攻防を展開するための相手の多様な動きに応じた基本動作を身につける。	・リズム感を身につけ、仲間と共に動き方を創作して発表する楽しさや喜びを実感する。	
9	バレーボール ・パス ・フットワーク ・サーブ ・トス ・スパイク ・レシーブ ・ゲーム	・約束練習	応じ技 ・抜き技 ・返し技 ・簡易試合	創作ダンス グループ練習	・チームで協力をして役割分担やポジションを決め、楽しくゲームができるようにする。 ・攻撃や守備の組織的な連携プレーを実践する。 ・作戦を立ててゲームが出来るようにする。 ・生涯スポーツのひとつとして長く楽しめることを理解して、基本的な個人技能を身につける。 ・ルールを理解して審判が出来るようにする。	・得意技や連続技・変化技のいずれかができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選ぶようにする。	・得意技ができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選ぶようにする。	・表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、イメージを強調した作品を創作する。 ・個や群で対極の動きや空間使い方に変化を付けて即興的に表現できるようにする。	
10		・連絡技 ・得意技							体育 28
11									武ダ 15
12	体育理論②				体育理論② 3. 日本のスポーツ振興 4. スポーツと環境				

	体育理論①				力の向上を図る。				
					体育理論① 1. 生涯スポーツの見方・考え方 2. ライフスタイルにおうじたスポーツ				
8	体づくり運動	固め技 ・けさ固め ・横四方固め ・肩固め	しかけ技 ・二段の技 ・引き技 ・払い技	グループ作り	バレーボール ・仲間と共に楽しくバレーボールを楽しむ態度を養う。 ・チームで協力をして役割分担やポジションを決め、楽しくゲームができるようにする。 ・攻撃や守備の組織的な連携プレーを実践する。 ・作戦を立ててゲームが出来るようにする。 ・生涯スポーツのひとつとして長く楽しむことを理解して、基本的な個人技能を身につける。 ・ルールを理解して審判が出来るようにする。	・素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開するための相手の多様な動きに応じた基本動作を身につける。 ・得意技や連続技・変化技のいずれかができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選ぶようにする。	・相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりする攻防を展開するための相手の多様な動きに応じた基本動作を身につける。 ・得意技ができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選ぶようにする。	・リズム感を身につけ、仲間と共に動き方を創作して発表する楽しさや喜びを実感する。 ・表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、イメージを強調した作品を創作する。 ・個や群で対極の動きや空間使い方に変化を付けて即興的に表現できるようにする。	
9	バレーボール ・パス ・フットワーク ・サーブ ・トス ・スパイク ・レシーブ ・ゲーム	・約束練習	応じ技 ・抜き技 ・返し技 ・簡易試合	創作ダンス グループ練習					
10		・連絡技 ・得意技		作品の発表と鑑賞					体育 28
11									武ダ 15
12	体育理論②				体育理論② 3. 日本のスポーツ振興 4. スポーツと環境				

保健体育 科 3 年 体育 年間授業計画（シラバス）						
科目名	体育	対象	進学Ⅱ（理系）	コース	単位数	3 単位
教科書	最新高等保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健体育ノート					

1 学習の到達目標

- ① 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元				主な学習内容と到達目標				時 間 数
	体育	武道		ダンス	体育	武道		ダンス	
		柔道	剣道			柔道	剣道		
4	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	新体力テスト	・伝統的な考え方, 礼儀作法を身につける。	・伝統的な考え方, 礼儀作法を身につける。	・現代的なリズムのダンスを通してリズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり, 変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊れるようにする。	体育 24 武ダ 12
5	新体力テスト	礼儀作法	礼儀礼法	グループ作り	・新体力テストを実施することで, 自分の体力を客観的に自覚する。	・相手を崩して投げたり, 抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作を身につける。	・相手の構えを崩し, しかけたり応じたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作を身につける。		
	体づくり運動			小作品作り	・自己の身体に関心を持ち, 自己の体力や生活環境に応じた運動を実践して健康保持増進する態度を養う。				
	陸上競技	基本動作 ・受け身	基本動作	現代的なリズムのダンス					
	・立ち五段跳び	投げ技	・足さばき	作品の発表と鑑賞					
6	・砲丸投げ	・大内刈り	・構え						
		・体落とし	・面打ち						
		・支え釣り込み足	・胴打ち		陸上競技				
			・小手打ち		・運動の基本である	・基本となる技,	・基本となる技,		

7	体育理論①	・背負い投げ ・大腰			る走・跳・投のパランスのとれた運動を通して、体力・筋力の向上を図る。 体育理論① 1. 生涯スポーツの見方・考え方 2. ライフスタイルにおうじたスポーツ	得意技、連続技のいずれかができるようにする。	得意技のいずれかができるようにする。		
8	体づくり運動	固め技	しかけ技	グループ作り	バレーボール	・素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開するための相手の多様な動きに応じた基本動作を身につける。	・相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりする攻防を展開するための相手の多様な動きに応じた基本動作を身につける。	・リズム感を身につけ、仲間と共に動き方を創作して発表する楽しさや喜びを実感する。	
9	バレーボール	・けさ固め ・横四方固め ・肩固め	・二段の技 ・引き技 ・払い技	創作ダンス	・仲間と共に楽しくバレーボールを楽しむ態度を養う。 ・チームで協力をして役割分担やポジションを決め、楽しくゲームができるようにする。	・得意技や連続技・変化技のいずれかができるようにする。	・得意技ができるようにする。	・表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、イメージを強調した作品を創作する。	
10		・パス ・フットワーク ・サーブ ・トス ・スパイク ・レシーブ	・応じ技 ・抜き技 ・返し技 ・簡易試合	グループ練習	・攻撃や守備の組織的な連携プレーを実践する。 ・作戦を立ててゲームが出来るようにする。 ・生涯スポーツのひとつとして長く楽しむことを理解して、基本的な個人技能を身につける。 ・ルールを理解して審判が出来るようにする。	・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選べるようにする。	・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選べるようにする。	・個や群で対極の動きや空間使い方で変化を付けて即興的に表現できるようにする。	体育 28 武ダ 15
11		・約束練習 ・連絡技 ・得意技		作品の発表と鑑賞					
12	体育理論②				体育理論② 3. 日本のスポーツ振興 4. スポーツと環境				

保健体育 科 3 年 体育 年間授業計画（シラバス）						
科目名	体育	対象	特進（文系）	コース	単位数	3 単位
教科書	最新高等保健体育			出版社	大修館書店	
副教材	最新高等保健体育ノート					

1 学習の到達目標

- ① 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公平、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
- ③ 健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
評価の内容	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 出席状況	グループでの課題解決学習	技能テスト	理解度テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元				主な学習内容と到達目標				時 間 数
	体育	武道		ダンス	体育	武道		ダンス	
		柔道	剣道			柔道	剣道		
4	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	新体力テスト	・伝統的な考え方、礼儀作法を身につける。	・伝統的な考え方、礼儀作法を身につける。	・現代的なリズムのダンスを通してリズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊れるようにする。	体育 24
5	新体力テスト	礼儀作法	礼儀礼法	グループ作り	・新体力テストを実施することで、自分の体力を客観的に自覚する。	・相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作を身につける。	・相手の構えを崩し、しかめたり応じたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作		
	体づくり運動			小作品作り	・自己の身体に関心を持ち、自己の体力や生活環境に応じた運動を実践して健康保持増進する態度を養う。				
	陸上競技			基本動作	現代的なリズムのダンス				
	・立ち五段跳び			基本動作 ・受け身	・足さばき ・構え ・面打ち			作品の発表と鑑賞	

6	・砲丸投げ	・体落とし ・支え釣り込み足 ・背負い投げ ・大腰	・胴打ち ・小手打ち		陸上競技 ・運動の基本である走・跳・投のパランスのとれた運動を通して、体力・筋力の向上を図る。	つける。 ・基本となる技、得意技、連続技のいずれかができるようにする。	を身につける。 ・基本となる技、得意技のいずれかができるようにする。		武ダ 1 2
7	体育理論①				体育理論① 1. 生涯スポーツの見方・考え方 2. ライフスタイルにおうじたスポーツ				
8	体づくり運動	固め技 ・けさ固め ・横四方固め ・肩固め	しかけ技 ・二段の技 ・引き技 ・払い技	グループ作り	バレーボール ・仲間と共楽し、くバレーボールを楽しむ態度を養う。 ・チームで協力をして役割分担やポジションを決め、楽しくゲームができるようにする。 ・攻撃や守備の組織的な連携プレーを実践する。 ・作戦を立ててゲームが出来るようにする。 ・生涯スポーツのひとつとして長く楽しめることを理解して、基本的な個人技能を身につける。 ・ルールを理解して審判が出来るようにする。	・素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開するための相手の多様な動きに応じた基本動作を身につける。 ・得意技や連続技・変化技のいずれかができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選ぶようにする。	・相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりする攻防を展開するための相手の多様な動きに応じた基本動作を身につける。 ・得意技ができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選ぶようにする。	・リズム感を身につけ、仲間と共に動き方を創作して発表する楽しさや喜びを実感する。 ・表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、イメージを強調した作品を創作する。 ・個や群で対極の動きや空間使い方で変化を付けて即興的に表現できるようにする。	
9	バレーボール ・パス ・フットワーク ・サービス ・トス ・スパイク ・レシーブ ・ゲーム	・約束練習	応じ技 ・抜き技 ・返し技 ・簡易試合	創作ダンス グループ練習					
10		・連絡技 ・得意技		作品の発表と鑑賞					体育 2 8
11									武ダ 1 5
12	体育理論②				体育理論② 3. 日本のスポーツ振興 4. スポーツと環境				

	体育理論①				力の向上を図る。				
					体育理論① 1. 生涯スポーツの見方・考え方 2. ライフスタイルにおうじたスポーツ				
8	体づくり運動	固め技 ・けさ固め ・横四方固め ・肩固め	しかけ技 ・二段の技 ・引き技 ・払い技	グループ作り	バレーボール ・仲間と共に楽しくバレーボールを楽しむ態度を養う。 ・チームで協力をして役割分担やポジションを決め、楽しくゲームができるようにする。 ・攻撃や守備の組織的な連携プレーを実践する。 ・作戦を立ててゲームが出来るようにする。 ・生涯スポーツのひとつとして長く楽しめることを理解して、基本的な個人技能を身につける。 ・ルールを理解して審判が出来るようにする。	・素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開するための相手の多様な動きに応じた基本動作を身につける。 ・得意技や連続技・変化技のいずれかができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選べるようにする。	・相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりする攻防を展開するための相手の多様な動きに応じた基本動作を身につける。 ・得意技ができるようにする。 ・練習や試合の場面で事故や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選べるようにする。	・リズム感を身につけ、仲間と共に動き方を創作して発表する楽しさや喜びを実感する。 ・表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、イメージを強調した作品を創作する。 ・個や群で対極の動きや空間使い方に変化を付けて即興的に表現できるようにする。	
9	バレーボール ・パス ・フットワーク ・サーブ ・トス ・スパイク ・レシーブ ・ゲーム	・約束練習	応じ技 ・抜き技 ・返し技 ・簡易試合	創作ダンス グループ練習					
10		・連絡技 ・得意技		作品の発表と鑑賞					体育 28
11									武ダ 15
12	体育理論②				体育理論② 3. 日本のスポーツ振興 4. スポーツと環境				

芸術 科 2 年 音楽 年間授業計画（シラバス）					
科目名	音楽 I	対象	スポーツ	コース	単位数 2 単位
教科書	ミュージックビュー 出版社 教育出版社				
副教材	なし				

1 学習の到達目標

- ① 音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め創造的な表現力を伸ばす。また、作曲者の名前や生涯、作品内容を理解した上で鑑賞能力を伸ばす。
- ② 器楽や歌唱の実技により演奏技術や表現を学ぶ。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	音楽への関心・ 意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
評価の 趣旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評価の 方法	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント

②評価方法

上記の観点に沿って以下のように評価する。

- ・ 楽曲を成立させた時代の文化・社会などの状況による様式の特徴に関心をもち、意欲的に聞くことができたか。

- ・ 楽器（ギター）による音色や音域の特徴を理解し楽曲を味わうことができたか。
- ・ ギターの演奏法を習得し、指使いやリズム等を把握し、工夫して演奏することができたか。
- ・ パートの役割を意識し、協力し合って主体的に合奏活動を行うことができたか。
- ・ 歌を覚え、積極的に歌唱することができたか。
- ・ 各年代の有名な曲や音楽映画を鑑賞し、原稿用紙または既定の用紙に感想や意見を書くことができたか。

実技点 80 点 平常点 20 点

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	鑑賞① ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルの音楽	協奏曲集「和声と調和の試み」第1番「春」（ヴィヴァルディ）や「トッカータとフーガニ短調」（バッハ）を鑑賞しチェンバロやパイプオルガンを用いたバロック音楽の作品と作曲者の生涯を理解する。	3
～	器楽① ギターでメロディーを弾く	ギターの基本を理解しつつ、「きらきら星」の楽譜を用いてメロディーを弾く練習をする。（テスト実施）。	7
6	その① 映画鑑賞① ギターでメロディーを弾く	映画「天使にラブソングを2」を鑑賞し、ゴスペルソングの楽しさを味わう。また、感想文を書く。（点数に組み入れる。）他に、「アメイジング・グレイス」の鑑賞をすると共に歌唱も行う。	4
9	（歌唱① ギターでメロディーを弾く）	「少年時代」の歌唱をする。楽譜の見方や声を出して歌う楽しさを味わう。	2
	（歌唱② ヒット曲を歌う）	「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」（モーツァルト）を鑑賞し、弦楽合奏の響きを味わうとともに、ソナタ形式について理解する。また、モーツァルトの生涯と作品について理解する。	2
	鑑賞② モーツァルトの音楽	引き続き、映画「アマデウス」を鑑賞し、フィクションではあるがモーツァルトを題材とした時代の社会背景やふんだんに演奏されるモーツァルトの音楽を味わうとともに、ストーリー・脚本・演技・衣装・メイク・推理などもあわせて鑑賞する。また、感想文を書く。（点数に組み入れる。）	6
～	映画鑑賞② 作曲家を題材とした映画の鑑賞	ギターの基本を理解しつつ、「メヌエット」（ベツォールト）の楽譜を用いてメロディーを弾く練習をする。また、メロディーと伴奏を交互に分担し、お互いの音を聴きながら演奏する楽しさを味わう。（テスト実施）	8
	器楽② ギターでメロディーを弾く	ベートーヴェンとシューベルトの生涯と作品について	
	その②		

1 2 1 ～ 3	鑑賞③ ベートーヴェン シューベルトの音楽 (歌唱③ 歌曲を歌う)	理解する。「交響曲第5番」「交響曲第9番合唱付き」やシューベルトの歌曲も鑑賞すると共に、ドイツ語で「野ばら」の歌唱も行う。	4
	鑑賞④ バレエの鑑賞	クリスマス時に海外でよく公演される「くるみ割り人形」(チャイコフスキー)を鑑賞し、バレエのストーリーを考慮しながら鑑賞する。また、チャイコフスキーの生涯と作品について理解する。	2
	器楽③ ギターでコードを弾く (弾き語り)	コード奏の指使いを理解し、「カントリーロード」のコード奏をメロディーに合わせて弾けるように練習する。また、それにより弾き語りの楽しさも味わえるように歌も覚える。 (テスト実施)	2
	鑑賞⑤ 東欧の音楽	「新世界から」(ドヴォルジャーク)を鑑賞し、オーケストラの響きを味わうとともに、5音音階の影響に着目して鑑賞する。また、ドヴォルジャークの生涯と作品について理解する。	7
	鑑賞⑥ オペラ(歌劇)の鑑賞	オペラ「椿姫」(ヴェルディ)を鑑賞し、オペラの有名な歌や場면을味わうとともに、総合芸術としてのオペラを理解する。また、ヴェルディの生涯と作品について理解する。	2
	(歌唱④ 卒業式で歌う曲)	卒業式を前に覚えておきたい歌「蛍の光」を歌唱する。	1
	鑑賞⑦ アメリカの音楽	ピアノ独奏の入ったシンフォニックジャズ「ラブソデ ィ・イン・ブルー」をベルリンフィルによる演奏で鑑賞する。	1

芸術 科 2 年 美術 年間授業計画（シラバス）					
科目名	美術	対象	スポーツ コース	単位数	2 単位
教科書	美術 1 出版社 光村図書				
副教材	なし				

1 学習の到達目標

① 美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	美術への関心・ 意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価の 趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい，多様な表現方法や美術文化に関心を持ち，主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて，感じ取ったことや考えたこと，目的や機能，美しさなどから主題を生成し，創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け，意図に応じて，表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し，そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価の 方法	学習態度 作品等の提出物	学習態度 作品等の提出物	学習態度 作品等の提出物	学習態度 作品等の提出物

②評価方法

上記の観点に沿って以下のように評価する。

- ・授業態度を含め意欲的に，主体的に取り組むことができたか。
- ・感性を働かせてその美しさを感じ取り，創造的な表現を工夫することができたか。
- ・学期ごとの課題作品提出、作品は完成させて提出できたか。

実技点 80 点 平常点 20 点

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	美術教科の1年間の学習についての説明	1
5	絵画（水彩画） 風景画	水彩絵の具による表現（透明水彩・不透明水彩） 自宅付近の風景描写（構図研究・色彩・遠近感） 画面構成、配色、マチエル、立体感、材質感の工夫 作品完成提出	8
	鑑賞批評（講評）	風景画の作品批評（講評）	1
6	絵画（水彩画）	画面構成、配色、マチエル、立体感、材質感の工夫	8
7	静物画	作品完成提出	
	鑑賞批評（講評）	静物画の作品批評（講評）	1
8	木彫	彫刻（木彫） 板材ローズウッドを使用してペーパーナイフ	20
9	ペーパーナイフ制作	制作	
10		クラフトデザインとしての機能を持たせ、単なる機能	
11		面だけでなく楽しいデザインとなるよう工夫させる	
12		作品をサンドペーパーで磨きをかけ艶出しをして完成 作品完成提出	1
	鑑賞批評（講評）	ペーパーナイフの作品批評（講評）	
1	造形表現		14
2	スクラッチボードによる表現	一学期、二学期に制作した自分の作品やその題材（テーマ）を基にして、スクラッチボードによる作品を制作する ニードルを使用し、白と黒を生かした構成、点と線と面との構成などの表現	
3	鑑賞批評（講評）	作品完成提出 スクラッチボード作品の批評（講評）	1

芸術 科 2 年 書道 年間授業計画（シラバス）					
科目名	書道	対象	スポーツ コース	単位数	2 単位
教科書	新編 書道 I 出版社 教育出版				
副教材	なし				

1 学習の到達目標

① 生涯にわたる書を愛好する心情を育成する。
② 書の伝統と文化についての理解を深める。
③ 感性を高め、書写能力の向上を図る。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	書への関心・意欲・ 態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技 能	鑑賞の能力
評価の 趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい，書の伝統と文化に関心を持って，主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り，感性を働かせながら，自らの意図に基づいて構想し，表現を工夫している。	創造的な書表現をするために，基礎的な能力を生かし，効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し，その価値を考え，書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価の 方法	学習態度 ワークシート 作品の提出物	学習態度 ワークシート 作品の提出物	学習態度 ワークシート 作品の提出物	学習態度 ワークシート 作品の提出物

②評価方法

上記の観点に沿って以下のように評価する。

- ・意欲的に、主体的に取り組むことができたか。
- ・感性を働かせてその美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫することができたか。
- ・書写能力を高め、用具、用材を生かし、実用的な表現や基礎的な技能を身に付けることができたか。

実技点 80 点 平常点 20 点

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	授業の取り組みの説明	1
5	漢字の臨書	楷・行・草・篆・隸書より自由に選択し臨書する	6
	漢字臨書作品制作	公募展に出品するに当たり作品として仕上げる（四半切）	3
6	一字書		4
		方筆・円筆の表現 用具の工夫、紙面構成 作品清書	1
7	漢字かな交じり書		4
		語句の選定 用具の工夫、紙面構成 作品清書	2
8	漢字行書臨書 1		4
9	漢字行書臨書 2	蘭亭序の臨書 半紙に六字書きで臨書する 風信帖の臨書 半紙に六字書きで臨書する	4
	色紙作品制作		1
10		語句の選定（漢字 4 文字）	1
		書体は行草体で草稿をつくる	1
11		いくつかの書風で書いてみる	6
		半紙で構成法に留意して練習する	2
		作品清書	1
		釈文を貼り付け仕上げ、鑑賞する	1
12	仮名古筆臨書		
1		「いろは」の練習	3
		仮名の用筆法の習得	2
		「高野切第三種」臨書	3
2	実用書の練習		
		冠婚葬祭の語句	2
		仕上げ	2
	まとめ		
		1 年間の感想と反省	1

芸術 科 2 年 音楽 年間授業計画（シラバス）					
科目名	音楽 I	対象	進学	コース	単位数 2 単位
教科書	ミュージックビュー 出版社 教育出版社				
副教材	なし				

1 学習の到達目標

- ③ 音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め創造的な表現力を伸ばす。また、作曲者の名前や生涯、作品内容を理解した上で鑑賞能力を伸ばす。
- ④ 器楽や歌唱の実技により演奏技術や表現を学ぶ。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	音楽への関心・ 意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
評価の 趣旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評価の 方法	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント

②評価方法

上記の観点に沿って以下のように評価する。

- ・ 楽曲を成立させた時代の文化・社会などの状況による様式の特徴に関心を持ち、意欲的に聞くことができたか。

- ・ 楽器（ギター）による音色や音域の特徴を理解し楽曲を味わうことができたか。
- ・ ギターの演奏法を習得し、指使いやリズム等を把握し、工夫して演奏することができたか。
- ・ パートの役割を意識し、協力し合って主体的に合奏活動を行うことができたか。
- ・ 歌を覚え、積極的に歌唱することができたか。
- ・ 各年代の有名な曲や音楽映画を鑑賞し、原稿用紙または既定の用紙に感想や意見を書くことができたか。

実技点 80 点 平常点 20 点

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	鑑賞① ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルの音楽	協奏曲集「和声と調和の試み」第1番「春」（ヴィヴァルディ）や「トッカータとフーガニ短調」（バッハ）を鑑賞しチェンバロやパイプオルガンをを用いたバロック音楽の作品と作曲者の生涯を理解する。	3
～	器楽① ギターでメロディーを弾く	ギターの基本を理解しつつ、「きらきら星」の楽譜を用いてメロディーを弾く練習をする。（テスト実施）。	7
6	その① 映画鑑賞① ギターでメロディーを弾く	映画「天使にラブソングを2」を鑑賞し、ゴスペルソングの楽しさを味わう。また、感想文を書く。（点数に組み入れる。）他に、「アメイジング・グレイス」の鑑賞をすると共に歌唱も行う。	4
9	（歌唱① ギターでメロディーを弾く）	「少年時代」の歌唱をする。楽譜の見方や声を出して歌う楽しさを味わう。	2
	（歌唱② ヒット曲を歌う）	「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」（モーツァルト）を鑑賞し、弦楽合奏の響きを味わうとともに、ソナタ形式について理解する。また、モーツァルトの生涯と作品について理解する。	2
	鑑賞② モーツァルトの音楽	引き続き、映画「アマデウス」を鑑賞し、フィクションではあるがモーツァルトを題材とした時代の社会背景やふんだんに演奏されるモーツァルトの音楽を味わうとともに、ストーリー・脚本・演技・衣装・メイク・推理などもあわせて鑑賞する。また、感想文を書く。（点数に組み入れる。）	6
～	映画鑑賞② 作曲家を題材とした映画の鑑賞	ギターの基本を理解しつつ、「メヌエット」（ベツォールト）の楽譜を用いてメロディーを弾く練習をする。また、メロディーと伴奏を交互に分担し、お互いの音を聴きながら演奏する楽しさを味わう。（テスト実施）	8
	器楽② ギターでメロディーを弾く	ベートーヴェンとシューベルトの生涯と作品について	
	その②		

1 2 1 ～ 3	鑑賞③ ベートーヴェン シューベルトの音楽 (歌唱③ 歌曲を歌う)	理解する。「交響曲第5番」「交響曲第9番合唱付き」やシューベルトの歌曲も鑑賞すると共に、ドイツ語で「野ばら」の歌唱も行う。	4
	鑑賞④ バレエの鑑賞	クリスマス時に海外でよく公演される「くるみ割り人形」(チャイコフスキー)を鑑賞し、バレエのストーリーを考慮しながら鑑賞する。また、チャイコフスキーの生涯と作品について理解する。	2
	器楽③ ギターでコードを弾く (弾き語り)	コード奏の指使いを理解し、「カントリーロード」のコード奏をメロディーに合わせて弾けるように練習する。また、それにより弾き語りの楽しさも味わえるように歌も覚える。 (テスト実施)	2
	鑑賞⑤ 東欧の音楽	「新世界から」(ドヴォルジャーク)を鑑賞し、オーケストラの響きを味わうとともに、5音音階の影響に着目して鑑賞する。また、ドヴォルジャークの生涯と作品について理解する。	7
	鑑賞⑥ オペラ(歌劇)の鑑賞	オペラ「椿姫」(ヴェルディ)を鑑賞し、オペラの有名な歌や場면을味わうとともに、総合芸術としてのオペラを理解する。また、ヴェルディの生涯と作品について理解する。	2
	(歌唱④ 卒業式で歌う曲)	卒業式を前に覚えておきたい歌「蛍の光」を歌唱する。	1
	鑑賞⑦ アメリカの音楽	ピアノ独奏の入ったシンフォニックジャズ「ラブソデ ィ・イン・ブルー」をベルリンフィルによる演奏で鑑賞する。	1

芸術 科 2 年 美術 年間授業計画（シラバス）					
科目名	美術	対象	進学	コース	単位数 2 単位
教科書	美術 1 出版社 光村図書				
副教材	なし				

1 学習の到達目標

- ① 美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	美術への関心・ 意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価の 趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい，多様な表現方法や美術文化に関心を持ち，主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて，感じ取ったことや考えたこと，目的や機能，美しさなどから主題を生成し，創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け，意図に応じて，表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し，そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価の 方法	学習態度 作品等の提出物	学習態度 作品等の提出物	学習態度 作品等の提出物	学習態度 作品等の提出物

②評価方法

上記の観点に沿って以下のように評価する。

- ・授業態度を含め意欲的に，主体的に取り組むことができたか。
- ・感性を働かせてその美しさを感じ取り，創造的な表現を工夫することができたか。
- ・学期ごとの課題作品提出、作品は完成させて提出できたか。

実技点 80 点 平常点 20 点

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	美術教科の1年間の学習についての説明	1
5	絵画（水彩画） 風景画	水彩絵の具による表現（透明水彩・不透明水彩） 自宅付近の風景描写（構図研究・色彩・遠近感） 画面構成、配色、マチエル、立体感、材質感の工夫 作品完成提出	8
	鑑賞批評（講評）	風景画の作品批評（講評）	1
6	絵画（水彩画）	画面構成、配色、マチエル、立体感、材質感の工夫	8
7	静物画	作品完成提出	
	鑑賞批評（講評）	静物画の作品批評（講評）	1
8	木彫	彫刻（木彫） 板材ローズウッドを使用してペーパーナイフ	20
9	ペーパーナイフ制作	制作	
10		クラフトデザインとしての機能を持たせ、単なる機能	
11		面だけでなく楽しいデザインとなるよう工夫する	
12		作品をサンドペーパーで磨きをかけ艶出しをして完成 作品完成提出	1
	鑑賞批評（講評）	ペーパーナイフの作品批評（講評）	
1	造形表現		14
2	スクラッチボードによる表現	一学期、二学期に制作した自分の作品やその題材（テーマ）を基にして、スクラッチボードによる作品を制作する ニードルを使用し、白と黒を生かした構成、点と線と面との構成などの表現	
3	鑑賞批評（講評）	作品完成提出 スクラッチボード作品の批評（講評）	1

芸術 科 2 年 書道 年間授業計画（シラバス）					
科目名	書道	対象	進学	コース	単位数 2 単位
教科書	新編 書道 I 出版社 教育出版				
副教材	なし				

1 学習の到達目標

①	生涯にわたる書を愛好する心情を育成する。
②	書の伝統と文化についての理解を深める。
③	感性を高め、書写能力の向上を図る。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	書への関心・意欲・ 態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技 能	鑑賞の能力
評価の 趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい，書の伝統と文化に関心を持って，主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り，感性を働かせながら，自らの意図に基づいて構想し，表現を工夫している。	創造的な書表現をするために，基礎的な能力を生かし，効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し，その価値を考え，書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価の 方法	学習態度 ワークシート 作品の提出物	学習態度 ワークシート 作品の提出物	学習態度 ワークシート 作品の提出物	学習態度 ワークシート 作品の提出物

②評価方法

上記の観点に沿って以下のように評価する。

- ・意欲的に、主体的に取り組むことができたか。
- ・感性を働かせてその美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫することができたか。
- ・書写能力を高め、用具、用材を生かし、実用的な表現や基礎的な技能を身に付けることができたか。

実技点 80 点 平常点 20 点

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	授業の取り組みの説明	1
5	漢字の臨書	楷・行・草・篆・隸書より自由に選択し臨書する	6
	漢字臨書作品制作	公募展に出品するにあたり作品として仕上げる（四半切）	3
6	一字書		4
		方筆・円筆の表現 用具の工夫、紙面構成 作品清書	1
7	漢字かな交じり書		4
		語句の選定 用具の工夫、紙面構成 作品清書	2
8	漢字行書臨書 1		4
9	漢字行書臨書 2	蘭亭序の臨書 半紙に六字書きで臨書する 風信帖の臨書 半紙に六字書きで臨書する	4
	色紙作品制作		1
10		語句の選定（漢字 4 文字）	1
		書体は行草体で草稿をつくる	1
11		いくつかの書風で書いてみる	6
		半紙で構成法に留意して練習する	2
		作品清書	1
		釈文を貼り付け仕上げ、鑑賞する	1
12	仮名古筆臨書		
1		「いろは」の練習	3
		仮名の用筆法の習得	2
		「高野切第三種」臨書	3
2	実用書の練習		
		冠婚葬祭の語句	2
		仕上げ	2
	まとめ		
		1 年間の感想と反省	1

芸術 科 2 年 音楽 年間授業計画（シラバス）					
科目名	音楽 I	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	ミュージックビュー 出版社 教育出版社				
副教材	なし				

1 学習の到達目標

- ⑤ 音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め創造的な表現力を伸ばす。また、作曲者の名前や生涯、作品内容を理解した上で鑑賞能力を伸ばす。
- ⑥ 器楽や歌唱の実技により演奏技術や表現を学ぶ。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	音楽への関心・ 意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
評価の 趣旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評価の 方法	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント	学習態度 歌唱、演奏 学習プリント

②評価方法

上記の観点に沿って以下のように評価する。

- ・ 楽曲を成立させた時代の文化・社会などの状況による様式の特徴に関心をもち、意欲的に聞くことができたか。

- ・ 楽器（ギター）による音色や音域の特徴を理解し楽曲を味わうことができたか。
- ・ ギターの演奏法を習得し、指使いやリズム等を把握し、工夫して演奏することができたか。
- ・ パートの役割を意識し、協力し合って主体的に合奏活動を行うことができたか。
- ・ 歌を覚え、積極的に歌唱することができたか。
- ・ 各年代の有名な曲や音楽映画を鑑賞し、原稿用紙または既定の用紙に感想や意見を書くことができたか。

実技点 80 点 平常点 20 点

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	鑑賞① ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルの音楽	協奏曲集「和声と調和の試み」第1番「春」（ヴィヴァルディ）や「トッカータとフーガニ短調」（バッハ）を鑑賞しチェンバロやパイプオルガンを用いたバロック音楽の作品と作曲者の生涯を理解する。	3
～	器楽① ギターでメロディーを弾く	ギターの基本を理解しつつ、「きらきら星」の楽譜を用いてメロディーを弾く練習をする。（テスト実施）。	7
6	その① 映画鑑賞① ギターでメロディーを弾く	映画「天使にラブソングを2」を鑑賞し、ゴスペルソングの楽しさを味わう。また、感想文を書く。（点数に組み入れる。）他に、「アメイジング・グレイス」の鑑賞をすると共に歌唱も行う。	4
9	（歌唱① ギターでメロディーを弾く）	「少年時代」の歌唱をする。楽譜の見方や声を出して歌う楽しさを味わう。	2
	（歌唱② ヒット曲を歌う）	「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」（モーツァルト）を鑑賞し、弦楽合奏の響きを味わうとともに、ソナタ形式について理解する。また、モーツァルトの生涯と作品について理解する。	2
	鑑賞② モーツァルトの音楽	引き続き、映画「アマデウス」を鑑賞し、フィクションではあるがモーツァルトを題材とした時代の社会背景やふんだんに演奏されるモーツァルトの音楽を味わうとともに、ストーリー・脚本・演技・衣装・メイク・推理などもあわせて鑑賞する。また、感想文を書く。（点数に組み入れる。）	6
～	映画鑑賞② 作曲家を題材とした映画の鑑賞	ギターの基本を理解しつつ、「メヌエット」（ベツォールト）の楽譜を用いてメロディーを弾く練習をする。また、メロディーと伴奏を交互に分担し、お互いの音を聴きながら演奏する楽しさを味わう。（テスト実施）	8
	器楽② ギターでメロディーを弾く	ベートーヴェンとシューベルトの生涯と作品について	
	その②		

1 2 1 ～ 3	鑑賞③ ベートーヴェン シューベルトの音楽 (歌唱③ 歌曲を歌う)	理解する。「交響曲第5番」「交響曲第9番合唱付き」やシューベルトの歌曲も鑑賞すると共に、ドイツ語で「野ばら」の歌唱も行う。	4
	鑑賞④ バレエの鑑賞	クリスマス時に海外でよく公演される「くるみ割り人形」(チャイコフスキー)を鑑賞し、バレエのストーリーを考慮しながら鑑賞する。また、チャイコフスキーの生涯と作品について理解する。	2
	器楽③ ギターでコードを弾く (弾き語り)	コード奏の指使いを理解し、「カントリーロード」のコード奏をメロディーに合わせて弾けるように練習する。また、それにより弾き語りの楽しさも味わえるように歌も覚える。 (テスト実施)	2
	鑑賞⑤ 東欧の音楽	「新世界から」(ドヴォルジャーク)を鑑賞し、オーケストラの響きを味わうとともに、5音音階の影響に着目して鑑賞する。また、ドヴォルジャークの生涯と作品について理解する。	7
	鑑賞⑥ オペラ(歌劇)の鑑賞	オペラ「椿姫」(ヴェルディ)を鑑賞し、オペラの有名な歌や場면을味わうとともに、総合芸術としてのオペラを理解する。また、ヴェルディの生涯と作品について理解する。	2
	(歌唱④ 卒業式で歌う曲)	卒業式を前に覚えておきたい歌「蛍の光」を歌唱する。	1
	鑑賞⑦ アメリカの音楽	ピアノ独奏の入ったシンフォニックジャズ「ラブソデ ィ・イン・ブルー」をベルリンフィルによる演奏で鑑賞する。	1

芸術 科 2 年 美術 年間授業計画（シラバス）					
科目名	美術	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	美術 1 出版社 光村図書				
副教材	なし				

1 学習の到達目標

① 美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	美術への関心・ 意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価の 趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい，多様な表現方法や美術文化に関心を持ち，主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて，感じ取ったことや考えたこと，目的や機能，美しさなどから主題を生成し，創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け，意図に応じて，表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し，そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価の 方法	学習態度 作品等の提出物	学習態度 作品等の提出物	学習態度 作品等の提出物	学習態度 作品等の提出物

②評価方法

上記の観点に沿って以下のように評価する。

- ・授業態度を含め意欲的に，主体的に取り組むことができたか。
- ・感性を働かせてその美しさを感じ取り，創造的な表現を工夫することができたか。
- ・学期ごとの課題作品提出、作品は完成させて提出できたか。

実技点 80 点 平常点 20 点

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	美術教科の1年間の学習についての説明	1
5	絵画（水彩画） 風景画	水彩絵の具による表現（透明水彩・不透明水彩） 自宅付近の風景描写（構図研究・色彩・遠近感） 画面構成、配色、マチエル、立体感、材質感の工夫 作品完成提出	8
	鑑賞批評（講評）	風景画の作品批評（講評）	1
6	絵画（水彩画）	画面構成、配色、マチエル、立体感、材質感の工夫	8
7	静物画	作品完成提出	
	鑑賞批評（講評）	静物画の作品批評（講評）	1
8	木彫	彫刻（木彫） 板材ローズウッドを使用してペーパーナイフ	20
9	ペーパーナイフ制作	制作	
10		クラフトデザインとしての機能を持たせ、単なる機能	
11		面だけでなく楽しいデザインとなるよう工夫する	
12		作品をサンドペーパーで磨きをかけ艶出しをして完成 作品完成提出	1
	鑑賞批評（講評）	ペーパーナイフの作品批評（講評）	
1	造形表現		14
2	スクラッチボードによる表現	一学期、二学期に制作した自分の作品やその題材（テーマ）を基にして、スクラッチボードによる作品を制作する ニードルを使用し、白と黒を生かした構成、点と線と面との構成などの表現	
3	鑑賞批評（講評）	作品完成提出 スクラッチボード作品の批評（講評）	1

芸術 科 2 年 書道 年間授業計画（シラバス）					
科目名	書道	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	新編 書道 I 出版社 教育出版				
副教材	なし				

1 学習の到達目標

- ① 生涯にわたる書を愛好する心情を育成する。
- ② 書の伝統と文化についての理解を深める。
- ③ 感性を高め、書写能力の向上を図る。

2 評価の観点・趣旨・方法，成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	書への関心・意欲・ 態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技 能	鑑賞の能力
評価の 趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい，書の伝統と文化に関心を持って，主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り，感性を働かせながら，自らの意図に基づいて構想し，表現を工夫している。	創造的な書表現をするために，基礎的な能力を生かし，効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し，その価値を考え，書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価の 方法	学習態度 ワークシート 作品の提出物	学習態度 ワークシート 作品の提出物	学習態度 ワークシート 作品の提出物	学習態度 ワークシート 作品の提出物

②評価方法

上記の観点に沿って以下のように評価する。

- ・意欲的に、主体的に取り組むことができたか。
- ・感性を働かせてその美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫することができたか。
- ・書写能力を高め、用具、用材を生かし、実用的な表現や基礎的な技能を身に付けることができたか。

実技点 80 点 平常点 20 点

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	授業の取り組みの説明	1
5	漢字の臨書	楷・行・草・篆・隸書より自由に選択し臨書する	6
	漢字臨書作品制作	公募展に出品するに当たり作品として仕上げる（四半切）	3
6	一字書		4
		方筆・円筆の表現 用具の工夫、紙面構成 作品清書	1
7	漢字かな交じり書		4
		語句の選定 用具の工夫、紙面構成 作品清書	2
8	漢字行書臨書 1		4
9	漢字行書臨書 2	蘭亭序の臨書 半紙に六字書きで臨書する 風信帖の臨書 半紙に六字書きで臨書する	4
	色紙作品制作		1
10		語句の選定（漢字 4 文字）	1
		書体は行草体で草稿をつくる	1
11		いくつかの書風で書いてみる	6
		半紙で構成法に留意して練習する	2
		作品清書	1
		釈文を貼り付け仕上げ、鑑賞する	1
12	仮名古筆臨書		
1		「いろは」の練習	3
		仮名の用筆法の習得	2
		「高野切第三種」臨書	3
2	実用書の練習		
		冠婚葬祭の語句	2
		仕上げ	2
	まとめ		
		1 年間の感想と反省	1

英語科		1 年		英語 C I		年間授業計画（シラバス）	
科目名	英 語 C I	対象	スポーツ		コース	単位数	3 単位
教科書	Power On English Communication I				出版社	東京書籍	
副教材	Power On English Communication I WORKBOOK STANDARD（東京書籍） Transfer A（桐原書店）						

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習 Pre-Lesson 1-3 辞書ガイド	品詞～語の種類を確かめよう／文構造～語の順序を確かめよう／句と節～語が集まって、どのような働きをするかを確かめよう／辞書の引き方	3
5 月	Lesson 1 Mt. Fuji — A Symbol of Japan	「日本の象徴，富士山」 G：動詞の現在形・過去形／未来進行形／進行形	8
6 月	Lesson 2 Sleep in Animals	1 学期中間考査 Starter, Lesson 1	1
		「動物の睡眠」 G：比較表現／不定詞／動名詞	8
7 月 8 月	Lesson 3 Nagatomo Yuto — A Long Hard Road to Success	「サッカー，長友佑都選手」 G：現在完了形／S+V+O[=that 節]／受け身	8
		1 学期期末考査 Lesson 2, Lesson 3	1
		第 1 回学力考査	1

9 月	Lesson 4 <i>Kawaii</i> and Japanese Pop Culture	「世界に広がるカワイイ文化」 G : It is[was]+形容詞+to 不定詞／助動詞／ 関係代名詞	8
10 月	Lesson 5 Banana Paper	「バナナペーパー」 G : 分詞の形容詞用法／S+V[=be 動詞以外]+C／ S+V+O+C[=形容詞]	8
		2 学期中間考査 Lesson 4, Lesson 5	1 8
11 月	Lesson 6 A Story about Instant Noodles	「インスタントラーメン誕生物語」 G : S+V[=知覚動詞]+O+C[=現在分詞]／ 動詞+受け身／S+V[=使役動詞]+O+C[=原形不定詞]	8
	Lesson 7 The Earth, Our Home!	「国際宇宙ステーションでの経験と地球への思い」 G : S+appear(s)[seem(s)]+to 不定詞／ 関係副詞 where／It is[was]+形容詞[名詞]+that 節	8
12 月	Lesson 8 Mr. Fija and <i>Uchinaaguchi</i>	「危機に瀕する言語の保存・継承活動」 G : 現在完了進行形／関係副詞 when／仮定法過去	8
		2 学期期末考査 Lesson 6, Lesson 7, Lesson 8 GTEC	1 1
1 月	Lesson 9 The Power to Unite People	第 2 回学力考査 「南アフリカ共和国, マンデラ大統領」 G : 過去完了形／未来進行形／ 分詞構文（現在分詞）／強調構文	1 8
2 月	Lesson 10 Carving for the Future	「世界遺産, サグラダ・ファミリア」 G : 関係代名詞の非制限用法／ S+V+O+C[=過去分詞]／関係代名詞 what	8
3 月		3 学期期末考査 Lesson 9, Lesson 10	1

英語科 1 年 英語表現 I 年間授業計画（シラバス）						
科目名	英語表現 I		対象	スポーツ コース		単位数 2 単位
教科書	MY WAY English Expression I				出版社	SANSEIDO
副教材	MY WAY English Expression I WORKBOOK（三省堂）					

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 事実や意見などを多様な観点から考察する。
 ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 度 目 標	時間数
4 月	予習復習体験学習 Get Ready!	学習の仕方を説明する	2
5 月	Unit 1 lesson 1 lesson 2 lesson 3 lesson 4 lesson 5	英語の決まりを復習し、理解しよう	2
		時制	2
		現在形／現在進行形	1
		過去形／過去進行形	1
		未来表現 will／be going to	1
		現在完了形（完了・結果／継続）	2
		現在完了形（経験）／過去完了形	1
6 月	Unit 2 lesson 6 lesson 7 lesson 8 lesson 9	《 1 学期中間考査 》	2
		助動詞と受動態	2
		助動詞 1 （許可・可能／義務）	2
		助動詞 2 （推量）	2
		受動態 1 （基本の形／by 以外の前置詞）	1
		受動態 2 （助動詞＋受動態／SVOO・SVO C）	2
7 月		《 1 学期期末考査 》	2

8 月			
	Unit 3	不定詞、動名詞、分詞など	2
9 月	lesson 10	不定詞 1（名詞的用法）	2
	lesson 11	不定詞 2（副詞的用法／形容詞的用法）	2
	lesson 12	動名詞	2
	lesson 13	分詞 1（限定用法）	2
1 0 月	lesson 14	分詞 2（補語となる分詞／分詞構文）	1
	lesson 15	知覚動詞／使役動詞	1
		《 2 学期中間考査 》	2
			2
	Unit 4	比較と関係詞	2
	lesson 16	比較 1（比較級／最上級）	2
	lesson 17	比較 2（as ... as ～／最上を表す表現）	2
1 1 月	lesson 18	関係代名詞 1（主格／目的格と省略）	2
	lesson 19	関係代名詞 2（whose・what／that）	2
	lesson 20	関係副詞	2
		《 2 学期期末考査 》	1
1 2 月			2
	Unit 5	仮定法、話法など	2
1 月	lesson 21	仮定法過去／仮定法過去完了	2
	lesson 22	その他の仮定表現	1
2 月	lesson 23	部分否定／準否定語	1
	lesson 24	間接話法と時制の一致	1
	lesson 25	接続詞など	1
		《 3 学期期末考査 》	2
3 月		まとめ	2

英語科		1 年	英語 C I		年間授業計画（シラバス）	
科目名	英 語 C I	対象	進学 I	コース	単位数	4 単位
教科書	Power On English Communication I			出版社	東京書籍	
副教材	Power On English Communication I WORKBOOK STANDARD（東京書籍） Transfer A（桐原書店）					

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習 Pre-Lesson 1-3 辞書ガイド	品詞～語の種類を確かめよう／文構造～語の順序を確かめよう／句と節～語が集まって、どのような働きをするかを確かめよう／辞書の引き方	4
5 月	Lesson 1 Mt. Fuji — A Symbol of Japan	「日本の象徴，富士山」 G：動詞の現在形・過去形／未来進行形／進行形	9
6 月	Lesson 2 Sleep in Animals	1 学期中間考査 Starter, Lesson 1	1
		「動物の睡眠」 G：比較表現／不定詞／動名詞	8
7 月 8 月	Lesson 3 Nagatomo Yuto — A Long Hard Road to Success	「サッカー，長友佑都選手」 G：現在完了形／S+V+O[=that 節]／受け身	8
		1 学期期末考査 Lesson 2, Lesson 3	1
		第 1 回学力考査	1

9 月	Lesson 4 <i>Kawaii</i> and Japanese Pop Culture	「世界に広がるカワイイ文化」 G : It is[was]+形容詞+to 不定詞／助動詞／ 関係代名詞	9
10 月	Lesson 5 Banana Paper	「バナナペーパー」 G : 分詞の形容詞用法／S+V[=be 動詞以外]+C／ S+V+O+C[=形容詞]	9
		2 学期中間考査 Lesson 4, Lesson 5	1 8
11 月	Lesson 6 A Story about Instant Noodles	「インスタントラーメン誕生物語」 G : S+V[=知覚動詞]+O+C[=現在分詞]／ 動詞+受け身／S+V[=使役動詞]+O+C[=原形不定詞]	8
	Lesson 7 The Earth, Our Home!	「国際宇宙ステーションでの経験と地球への思い」 G : S+appear(s)[seem(s)]+to 不定詞／ 関係副詞 where／It is[was]+形容詞[名詞]+that 節	8
12 月	Lesson 8 Mr. Fija and <i>Uchinaaguchi</i>	「危機に瀕する言語の保存・継承活動」 G : 現在完了進行形／関係副詞 when／仮定法過去	8
		2 学期期末考査 Lesson 6, Lesson 7, Lesson 8 GTEC	1 1
1 月	Lesson 9 The Power to Unite People	第 2 回学力考査 「南アフリカ共和国, マンデラ大統領」 G : 過去完了形／未来進行形／ 分詞構文（現在分詞）／強調構文	1 9
2 月	Lesson 10 Carving for the Future	「世界遺産, サグラダ・ファミリア」 G : 関係代名詞の非制限用法／ S+V+O+C[=過去分詞]／関係代名詞 what	9
3 月		3 学期期末考査 Lesson 9, Lesson 10	1

英語科 1 年 英語表現 I 年間授業計画（シラバス）						
科目名	英語表現 I		対象	進学 I コース		単位数 2 単位
教科書	MY WAY English Expression I				出版社	SANSEIDO
副教材	MY WAY English Expression I WORKBOOK（三省堂）					

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 事実や意見などを多様な観点から考察する。
 ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 度 目 標	時間数
4 月	予習復習体験学習 Get Ready!	学習の仕方を説明する	2
5 月	Unit 1 lesson 1 lesson 2 lesson 3 lesson 4 lesson 5	英語の決まりを復習し、理解しよう	2
		時制	2
		現在形／現在進行形	1
		過去形／過去進行形	1
		未来表現 will／be going to	1
		現在完了形（完了・結果／継続）	2
		現在完了形（経験）／過去完了形	1
6 月	Unit 2 lesson 6 lesson 7 lesson 8 lesson 9	《 1 学期中間考査 》	2
		助動詞と受動態	2
		助動詞 1（許可・可能／義務）	2
		助動詞 2（推量）	2
		受動態 1（基本の形／by 以外の前置詞）	1
		受動態 2（助動詞＋受動態／SVOO・SVO C）	2
7 月		《 1 学期期末考査 》	2
			2

8 月	Unit 3	不定詞、動名詞、分詞など	
	lesson 10	不定詞 1（名詞的用法）	
	lesson 11	不定詞 2（副詞的用法／形容詞的用法）	2
9 月	lesson 12	動名詞	2
	lesson 13	分詞 1（限定用法）	2
	lesson 14	分詞 2（補語となる分詞／分詞構文）	2
	lesson 15	知覚動詞／使役動詞	2
1 0 月		《 2 学期中間考査 》	1
			1
			2
			2
	Unit 4	比較と関係詞	
	lesson 16	比較 1（比較級／最上級）	
	lesson 17	比較 2（as ... as ～／最上を表す表現）	
	lesson 18	関係代名詞 1（主格／目的格と省略）	2
	lesson 19	関係代名詞 2（whose・what／that）	2
	lesson 20	関係副詞	2
1 1 月		《 2 学期期末考査 》	2
			2
			2
			2
	Unit 5	仮定法、話法など	1
	lesson 21	仮定法過去／仮定法過去完了	
1 2 月	lesson 22	その他の仮定表現	2
	lesson 23	部分否定／準否定語	
	lesson 24	間接話法と時制の一致	2
1 月	lesson 25	接続詞など	2
		《 3 学期期末考査 》	1
2 月			1
			1
			1
			2
3 月			2

英語科		1 年	英語 C I		年間授業計画（シラバス）	
科目名	英 語 C I	対象	進学Ⅱ	コース	単位数	4 単位
教科書	Power On English Communication I			出版社	東京書籍	
副教材	Power On English Communication I WORKBOOK STANDARD（東京書籍） Transfer A（桐原書店）					

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

② 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習 Pre-Lesson 1-3 辞書ガイド	品詞～語の種類を確かめよう／文構造～語の順序を確かめよう／句と節～語が集まって、どのような働きをするかを確かめよう／辞書の引き方	4
5 月	Lesson 1 Mt. Fuji — A Symbol of Japan	「日本の象徴，富士山」 G：動詞の現在形・過去形／未来進行形／進行形	9
6 月	Lesson 2 Sleep in Animals	1 学期中間考査 Starter, Lesson 1	1
	Lesson 3 Nagatomo Yuto — A Long Hard Road to Success	「動物の睡眠」 G：比較表現／不定詞／動名詞	8
7 月		「サッカー，長友佑都選手」 G：現在完了形／S+V+O[=that 節]／受け身	8
8 月		1 学期期末考査 Lesson 2, Lesson 3 第 1 回学力考査	1 1

9 月	Lesson 4 <i>Kawaii</i> and Japanese Pop Culture	「世界に広がるカワイイ文化」 G : It is[was]+形容詞+to 不定詞／助動詞／ 関係代名詞	9
10 月	Lesson 5 Banana Paper	「バナナペーパー」 G : 分詞の形容詞用法／S+V[=be 動詞以外]+C／ S+V+O+C[=形容詞]	9
		2 学期中間考査 Lesson 4, Lesson 5	1 8
11 月	Lesson 6 A Story about Instant Noodles	「インスタントラーメン誕生物語」 G : S+V[=知覚動詞]+O+C[=現在分詞]／ 動詞+受け身／S+V[=使役動詞]+O+C[=原形不定詞]	8
	Lesson 7 The Earth, Our Home!	「国際宇宙ステーションでの経験と地球への思い」 G : S+appear(s)[seem(s)]+to 不定詞／ 関係副詞 where／It is[was]+形容詞[名詞]+that 節	8
12 月	Lesson 8 Mr. Fija and <i>Uchinaaguchi</i>	「危機に瀕する言語の保存・継承活動」 G : 現在完了進行形／関係副詞 when／仮定法過去	8
		2 学期期末考査 Lesson 6, Lesson 7, Lesson 8 GTEC	1 1
1 月	Lesson 9 The Power to Unite People	第 2 回学力考査 「南アフリカ共和国, マンデラ大統領」 G : 過去完了形／未来進行形／ 分詞構文（現在分詞）／強調構文	1 9
2 月	Lesson 10 Carving for the Future	「世界遺産, サグラダ・ファミリア」 G : 関係代名詞の非制限用法／ S+V+O+C[=過去分詞]／関係代名詞 what	9
3 月		3 学期期末考査 Lesson 9, Lesson 10	1

英語科 1 年 英語表現 I 年間授業計画（シラバス）						
科目名	英語表現 I		対象	進学Ⅱ コース		単位数 2 単位
教科書	MY WAY English Expression I				出版社	SANSEIDO
副教材	MY WAY English Expression I WORKBOOK（三省堂）					

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ②事実や意見などを多様な観点から考察する。
 ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 度 目 標	時間数
4 月	予習復習体験学習 Get Ready!	学習の仕方を説明する	2
5 月	Unit 1 lesson 1 lesson 2 lesson 3 lesson 4 lesson 5	英語の決まりを復習し、理解しよう	2
		時制	2
		現在形／現在進行形	1
		過去形／過去進行形	1
		未来表現 will／be going to	1
		現在完了形（完了・結果／継続）	2
		現在完了形（経験）／過去完了形	1
6 月	Unit 2 lesson 6 lesson 7 lesson 8 lesson 9	《 1 学期中間考査 》	2
		助動詞と受動態	2
		助動詞 1（許可・可能／義務）	2
		助動詞 2（推量）	2
		受動態 1（基本の形／by 以外の前置詞）	1
		受動態 2（助動詞＋受動態／SVOO・SVO C）	2
7 月		《 1 学期期末考査 》	2
			2

8 月	Unit 3	不定詞、動名詞、分詞など	
	lesson 10	不定詞 1（名詞的用法）	2
9 月	lesson 11	不定詞 2（副詞的用法／形容詞的用法）	2
	lesson 12	動名詞	2
	lesson 13	分詞 1（限定用法）	2
	lesson 14	分詞 2（補語となる分詞／分詞構文）	2
1 0 月	lesson 15	知覚動詞／使役動詞	1
		《 2 学期中間考查 》	1
			2
			2
	Unit 4	比較と関係詞	
	lesson 16	比較 1（比較級／最上級）	2
	lesson 17	比較 2（as ... as ～／最上を表す表現）	2
1 1 月	lesson 18	関係代名詞 1（主格／目的格と省略）	2
	lesson 19	関係代名詞 2（whose・what／that）	2
	lesson 20	関係副詞	2
		《 2 学期期末考查 》	2
			1
1 2 月	Unit 5	仮定法、話法など	2
	lesson 21	仮定法過去／仮定法過去完了	
	lesson 22	その他の仮定表現	2
1 月	lesson 23	部分否定／準否定語	2
	lesson 24	間接話法と時制の一致	1
2 月	lesson 25	接続詞など	1
		《 3 学期期末考查 》	1
			1
			2
3 月			2

英語科 1年 コミュニケーション英語Ⅰ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	コミュニケーション英語Ⅰ	対象	特進	コース	単位数 4 単位
教科書	PROMINENCE Communication English I			出版社	桐原書店
副教材	PROMINENCE Communication English I 予習ノート PROMINENCE Communication English I WORKBOOK Standard				

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
②情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	課名	内 容		時間
		題材内容（場面）	言語材料	
4	Lesson 1 We Are Together	私たちが生きるうえで全ての土台となる地球。グローバルな観点から地球における共生について考える。	予習復習体験学習 ・文構造 ・動名詞 ・to 不定詞	8
4 5	Lesson 2 Animal Emotions	ペットや野生動物など、動物と人間の関わりをきっかけに動物の感情について考える。	・現在完了形 ・節を指す形式主語の it ・受け身 中間考査	10
6	Lesson 3 One Ocean, One People	ポリネシアの伝統航海術に関するインタビューを通して、異文化理解を深める。	・関係代名詞 ・分詞の後置修飾 ・助動詞	10
7	Lesson 4 Landfill Harmonic	ごみをリサイクルして作った楽器を演奏する、パラグアイの「リサイクル・オーケストラ」の活動について知り、環境問題や現代社会について考える。	期末考査 ・使役動詞・知覚動詞 ・過去完了形 ・S+V+O (O=what 節など)	10
8	Option 1 Information Please	電話がまだ珍しかった時代。当時子どもだった語り手と、親切な電話交換手の心の交流を		6

		描く感動物語。場面や心情を的確に理解しながら、話者が発した言葉の意味を解釈する。		
9	Lesson 5 Katsushika Hokusai, a Japanese Genius	アメリカの有名雑誌 <i>LIFE</i> の特集「過去千年の最重要人物」の上位 100 人に、日本人で唯一取り上げられた葛飾北斎。その人物像や、作品が西洋美術に与えた影響について知り、日本文化について考える。	- 句を指す形式目的語の it - 関係代名詞の非制限用法 - 未来完了形	1 0
1 0	Lesson 6 A Strange but True Superhero	やなせたかしと「アンパンマン」。「アンパンマン」が誕生した背景と、やなせたかしが作品に込めた思いについて知り、真の正義について考える。	- 関係副詞 - to 不定詞の意味上の主語 - 仮定法過去	1 0
1 1	Lesson 7 What's an Ig?	ノーベル賞のアメリカ版パロディであるイグ・ノーベル賞の創設の経緯や特徴、日本人受賞者のエピソードなどを知り、科学とユーモアについて考える。	- seem などの動詞 - S+V+O1+O2 (O2=that 節)	1 0
1 2	Lesson 8 The State-of-the-Art Origami Engineering	地図、飲料缶から最先端の宇宙科学まで幅広く応用され、世界が注目する日本発の科学技術「ミウラ折り」。その起源は何と日本の「折り紙」だった。日本の伝統文化が宇宙工学に応用された視点や着想に、科学的探究の醍醐味を味わう。	- 分詞構文 - S + be 動詞+C (C=that 節) - 仮定法過去完了	1 1
1	Lesson 9 Father of the Paralympic Games	パラリンピック大会の起源と医師ルートヴィヒ・グットマンの功績を知り、スポーツと社会参画について考える。	- 関係代名詞 - 付帯状況の with - 強調構文	7
2	Lesson 10 Save Washington Square Park	ワシントンスクエアパーク (ニューヨーク市) の保存のために住民運動を率いたジェーン・ジェイコブズの活動について知り、コミュニティー形成と社会参画について考える。	- S + V + O1 + O2 (O2= what などではまる節) - S + V + O1 + O2 (O2= if または whether ではまる節) - 分詞構文②	1 1
3	Option 2 Autumntime	「生きている木」に感動する子供を描くサイエンス・フィクション。近未来の小説に託されたメッセージを読み取る。		1 1

英語科 1 年 英語表現 I 年間授業計画（シラバス）						
科目名	英語表現 I		対象	特進	コース	単位数 3 単位
教科書	MY WAY English Expression I				出版社	SANSEIDO
副教材	MY WAY English Expression I WORKBOOK（三省堂）					
	総合英語 FACTBOOK これからの英文法（桐原書店）					
	総合英語 FACTBOOK English Grammar Standard（桐原書店）					

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ②事実や意見などを多様な観点から考察する。
- ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 度 目 標	時間数
4 月	予習復習体験学習	学習の仕方を説明する	2
	Get Ready!	英語の決まりを復習し、理解しよう	3
5 月	Unit 1	時制	3
	lesson 1	現在形／現在進行形	3
	lesson 2	過去形／過去進行形	3
	lesson 3	未来表現 will／be going to	3
	lesson 4	現在完了形（完了・結果／継続）	3
	lesson 5	現在完了形（経験）／過去完了形	3
		≪ 1 学期中間考査 ≫	
6 月	Unit 2	助動詞と受動態	3
	lesson 6	助動詞 1（許可・可能／義務）	3
	lesson 7	助動詞 2（推量）	3
	lesson 8	受動態 1（基本の形／by 以外の前置詞）	3
	lesson 9	受動態 2（助動詞＋受動態／SVOO・SVOC）	2
7 月		≪ 1 学期期末考査 ≫	

8 月	Unit 3	不定詞、動名詞、分詞など	3
	lesson 10	不定詞 1（名詞的用法）	4
9 月	lesson 11	不定詞 2（副詞的用法／形容詞的用法）	4
	lesson 12	動名詞	4
	lesson 13	分詞 1（限定用法）	4
	lesson 14	分詞 2（補語となる分詞／分詞構文）	4
1 0 月	lesson 15	知覚動詞／使役動詞	2
		《 2 学期中間考査 》	
	Unit 4	比較と関係詞	3
	lesson 16	比較 1（比較級／最上級）	4
	lesson 17	比較 2（as ... as ～／最上を表す表現）	4
1 1 月	lesson 18	関係代名詞 1（主格／目的格と省略）	4
	lesson 19	関係代名詞 2（whose・what／that）	4
1 2 月	lesson 20	関係副詞	2
		《 2 学期期末考査 》	
1 月	Unit 5	仮定法、話法など	4
	lesson 21	仮定法過去／仮定法過去完了	4
	lesson 22	その他の仮定表現	3
2 月	lesson 23	部分否定／準否定語	4
	lesson 24	間接話法と時制の一致	3
3 月	lesson 25	接続詞など	2
		《 3 学期期末考査 》	

英語科 2年 英語CⅡ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 CⅡ	対象	スポーツ	コース	単位数 4 単位
教科書	Power On English CommunicationⅡ			出版社	東京書籍
副教材	Power On English CommunicationⅡ WORKBOOK				

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ②情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習 Lesson 1 Take a Shot or Not	写真撮影と記憶の関係 It is[was] + 形容詞[名詞] + that 節 / 関係代名詞 what / 現在完了進行形	2 1 3
5 月	Lesson 2 Ethical Fashion	エシカルファッション [言語材料] 助動詞+受け身 / 強調構文 / S+V+O[=疑問詞+to不定詞]	1 3
6 月	Lesson 3 Landfill Harmonic	リサイクルオーケストラ [言語材料] 関係副詞 where / 過去完了形 / S+V [=使役動詞] + O+C[=原形不定詞]	1 3
	Lesson 4 Icons of Scotland	スコットランドの歴史と文化 [言語材料] 関係代名詞の非制限用法 / S+V [=知覚動詞] +O+	1 3

		C[=現在分詞] / S + appear(s)[seem(s)] + to 不定詞	
		1 学期期末考查 Lesson 3, Lesson 4	
7 月	Lesson 5	日本の秘密の健康食品	1 3
9 月	Japan's Secret Health Food	言語材料]	
		分詞構文（過去分詞）/ 倍数表現 / 直前の文の内容を先行詞とする which / 形式目的語 it [=to 不定詞]	
10 月	Lesson 6	野菜工場	1 3
	Vegetable Factories	[言語材料]	
		進行形の受け身 / It appears[seems] + that 節 / 未来完了形 / 譲歩を表す副詞節	
		2 学期中間考查 Lesson 5, Lesson 6	
11 月	Lesson 7	色がもつ力	1 3
	The Power of Color	[言語材料]	
		同格を表す接続詞 that/ 前置詞 + 関係代名詞/ 関係代名詞 whose の制限用法 / propose など + that + S + V[=動詞の原形]	
	Lesson 8	卓球, みうみまペア	1 3
	Miu and Mima, Friendly but	[言語材料]	
	Tough Competitors	付帯状況を表す with / while[when] (+S+be 動詞) / to + have + 過去分詞 / 助動詞 + have + 過去分詞	
12 月		2 学期期末考查 Lesson 7, Lesson 8	
1 月	Lesson 9	所有から共有へ	1 3
	From Owning to Sharing	[言語材料]	
2 月		強調表現（助動詞による強調）/ It is[was] said + that 節 / 形式目的語 it [=that 節] / 過去完了進行形	
	Lesson 10	太陽のエネルギーでクッキング	1 3
	Solar Cooking	[言語材料]	
3 月		be 動詞 + to 不定詞 / wish + 仮定法過去 / 関係副詞 where の非制限用法 / 関係副詞 when の非制限用法	
		3 学期期末考查 Lesson 9, Lesson 10	

英語科 2 年 英語 EⅡ 年間授業計画（シラバス）						
科目名	英 語 EⅡ	対象	ス ポ ー ツ コ ー ス		単位数	2 単位
教科書	My Way English ExpressionⅡ				出版社	三省堂
副教材	My Way English ExpressionⅡ 予習ノート（三省堂）					

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 事実や意見などを多様な観点から考察する。
- ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	● 英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	2
5 月	Unit 1	時制、助動詞、受動態の復習と発展	3
	Lesson 1	・ 現在形／現在進行形・未来進行形	3
	Lesson 2	・ 未来完了形／過去完了進行形	2
	Review Exercise 1		1
	Lesson 3	・ 助動詞 1（義務・必要など）	2
6 月	Lesson 4	・ 助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現）	2
		1 学期中間考査 Lesson 1～Lesson 4	
	Lesson 5	・ さまざまな受動態の表現	2
	Review Exercise 2		2
	Unit 2	不定詞、分詞、動名詞の復習と発展	2
	Lesson 6	・ 自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞	3
	Lesson 7	・ 疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など	3

		1 学期期末考查 Lesson 5～Lesson 7	
7 月	Lesson 8	・動名詞を用いたさまざまな表現	2
9 月	Lesson 9	・不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現	2
	Lesson 10	・さまざまな分詞構	2
	Review Exercise 3		2
1 0 月	Unit 3	比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展	2
	Lesson 11	・比較に関するさまざまな表現	2
	Lesson 12	・関係詞の非制限用法／複合関係詞	2
		2 学期中間考查 Lesson 8～Lesson 12	
	Review Exercise 4		3
1 1 月	Lesson 13	・仮定法を用いたさまざまな表現	3
	Lesson 14	・間接話法／否定表現	3
	Review Exercise 5		2
		2 学期期末考查 Lesson 13～Lesson14	
1 2 月	Unit 4	重要構文の学習	2
	Lesson 15	・代名詞を用いたさまざまな表現	2
1 月	Lesson 16	・時間に関する表現	2
	Lesson 17	・無生物主語構文／名詞的表現	2
	Lesson 18	・譲歩を表す表現	2
2 月	Review Exercise 6		1
	Lesson 19	・結果・程度、目的を表す表現	2
	Lesson 20	・強調表現／同格表現	2
			2
3 月		3 学期末考查 Lesson 15～Lesson 20	

英語科 2年 英語CⅡ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 CⅡ	対象	進学文系Ⅰ	コース	単位数 4 単位
教科書	Power On English CommunicationⅡ			出版社	東京書籍
副教材	Power On English CommunicationⅡ WORKBOOK				

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

② 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4月	予習復習体験学習 Lesson 1 Take a Shot or Not	写真撮影と記憶の関係 It is[was] + 形容詞[名詞] + that 節 / 関係代名詞 what / 現在完了進行形	2 1 3
5月	Lesson 2 Ethical Fashion	エシカルファッション [言語材料] 助動詞+受け身 / 強調構文 / S+V+O[=疑問詞+to不定詞]	1 3
6月	Lesson 3 Landfill Harmonic	リサイクルオーケストラ [言語材料] 関係副詞 where / 過去完了形 / S+V [=使役動詞] + O+C[=原形不定詞]	1 3
	Lesson 4 Icons of Scotland	スコットランドの歴史と文化 [言語材料] 関係代名詞の非制限用法 / S+V [=知覚動詞] + O+	1 3

		C[=現在分詞] / S + appear(s)[seem(s)] + to 不定詞	
		1 学期期末考查 Lesson 3, Lesson 4	
7 月	Lesson 5	日本の秘密の健康食品	1 3
9 月	Japan's Secret Health Food	言語材料]	
		分詞構文（過去分詞）/ 倍数表現 / 直前の文の内容を先行詞とする which / 形式目的語 it [=to 不定詞]	
10 月	Lesson 6	野菜工場	1 3
	Vegetable Factories	[言語材料]	
		進行形の受け身 / It appears[seems] + that 節 / 未来完了形 / 譲歩を表す副詞節	
		2 学期中間考查 Lesson 5, Lesson 6	
11 月	Lesson 7	色がもつ力	1 3
	The Power of Color	[言語材料]	
		同格を表す接続詞 that/ 前置詞 + 関係代名詞/ 関係代名詞 whose の制限用法 / propose など + that + S + V[=動詞の原形]	
	Lesson 8	卓球, みうみまペア	1 3
	Miu and Mima, Friendly but	[言語材料]	
	Tough Competitors	付帯状況を表す with / while[when] (+S+be 動詞) / to + have + 過去分詞 / 助動詞 + have + 過去分詞	
12 月		2 学期期末考查 Lesson 7, Lesson 8	
1 月	Lesson 9	所有から共有へ	1 3
	From Owning to Sharing	[言語材料]	
2 月		強調表現（助動詞による強調）/ It is[was] said + that 節 / 形式目的語 it [=that 節] / 過去完了進行形	
	Lesson 10	太陽のエネルギーでクッキング	1 3
	Solar Cooking	[言語材料]	
3 月		be 動詞 + to 不定詞 / wish + 仮定法過去 / 関係副詞 where の非制限用法 / 関係副詞 when の非制限用法	
		3 学期期末考查 Lesson 9, Lesson 10	

英語科 2 年 英語 EⅡ 年間授業計画（シラバス）						
科目名	英 語 EⅡ	対象	進学文系Ⅰ	コース	単位数	2 単位
教科書	My Way English ExpressionⅡ			出版社	三省堂	
副教材	My Way English ExpressionⅡ 予習ノート（三省堂）					

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 事実や意見などを多様な観点から考察する。
 ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	●英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	1
5 月	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Review Exercise 1 Lesson 3 Lesson 4	時制、助動詞、受動態の復習と発展 ・現在形／現在進行形・未来進行形 ・未来完了形／過去完了進行形 ・助動詞 1（義務・必要など） ・助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現）	
6 月	Lesson 5 Review Exercise 2 Unit 2 Lesson 6 Lesson 7	1 学期中間考査 Lesson 1～Lesson 4 ・さまざまな受動態の表現 不定詞、分詞、動名詞の復習と発展 ・自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞 ・疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など	1 2

7 月	Lesson 8	1 学期期末考查 Lesson 5～Lesson 7	1 2
9 月	Lesson 9	・動名詞を用いたさまざまな表現	
	Lesson 10	・不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現	
	Review Exercise 3	・さまざまな分詞構	
1 0 月	Unit 3	比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展	
	Lesson 11	・比較に関するさまざまな表現	
	Lesson 12	・関係詞の非制限用法／複合関係詞	
		2 学期中間考查 Lesson 8～Lesson 12	1 6
	Review Exercise 4	・仮定法を用いたさまざまな表現	
1 1 月	Lesson 13	・間接話法／否定表現	
	Lesson 14		
	Review Exercise 5		
		2 学期期末考查 Lesson 13～Lesson14	1 1
1 2 月	Unit 4	重要構文の学習	
	Lesson 15	・代名詞を用いたさまざまな表現	
1 月	Lesson 16	・時間に関する表現	
	Lesson 17	・無生物主語構文／名詞的表現	
	Lesson 18	・譲歩を表す表現	
2 月	Review Exercise 6		
	Lesson 19	・結果・程度、目的を表す表現	
	Lesson 20	・強調表現／同格表現	
3 月		3 学期期末考查 Lesson 15～Lesson 20	1 7

英語科 2年 英語CⅡ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 CⅡ	対象	進学文系Ⅱ	コース	単位数 4 単位
教科書	Power On English CommunicationⅡ			出版社	東京書籍
副教材	Power On English CommunicationⅡ WORKBOOK				

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

② 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4月	予習復習体験学習 Lesson 1 Take a Shot or Not	写真撮影と記憶の関係 It is[was] + 形容詞[名詞] + that 節 / 関係代名詞 what / 現在完了進行形	2 1 3
5月	Lesson 2 Ethical Fashion	エシカルファッション [言語材料] 助動詞+受け身 / 強調構文 / S+V+O[=疑問詞+to不定詞]	1 3
6月	Lesson 3 Landfill Harmonic	リサイクルオーケストラ [言語材料] 関係副詞 where / 過去完了形 / S+V [=使役動詞] + O+C[=原形不定詞]	1 3
	Lesson 4 Icons of Scotland	スコットランドの歴史と文化 [言語材料] 関係代名詞の非制限用法 / S+V [=知覚動詞] + O+	1 3

		C[=現在分詞] / S + appear(s)[seem(s)] + to 不定詞	
		1 学期期末考查 Lesson 3, Lesson 4	
7 月	Lesson 5	日本の秘密の健康食品	1 3
9 月	Japan's Secret Health Food	言語材料]	
		分詞構文（過去分詞）/ 倍数表現 / 直前の文の内容を先行詞とする which / 形式目的語 it [=to 不定詞]	
10 月	Lesson 6	野菜工場	1 3
	Vegetable Factories	[言語材料]	
		進行形の受け身 / It appears[seems] + that 節 / 未来完了形 / 譲歩を表す副詞節	
		2 学期中間考查 Lesson 5, Lesson 6	
11 月	Lesson 7	色がもつ力	1 3
	The Power of Color	[言語材料]	
		同格を表す接続詞 that/ 前置詞 + 関係代名詞/ 関係代名詞 whose の制限用法 / propose など + that + S + V[=動詞の原形]	
	Lesson 8	卓球, みうみまペア	1 3
	Miu and Mima, Friendly but	[言語材料]	
	Tough Competitors	付帯状況を表す with / while[when] (+S+be 動詞) / to + have + 過去分詞 / 助動詞 + have + 過去分詞	
12 月		2 学期期末考查 Lesson 7, Lesson 8	
1 月	Lesson 9	所有から共有へ	1 3
	From Owning to Sharing	[言語材料]	
2 月		強調表現（助動詞による強調）/ It is[was] said + that 節 / 形式目的語 it [=that 節] / 過去完了進行形	
	Lesson 10	太陽のエネルギーでクッキング	1 3
	Solar Cooking	[言語材料]	
3 月		be 動詞 + to 不定詞 / wish + 仮定法過去 / 関係副詞 where の非制限用法 / 関係副詞 when の非制限用法	
		3 学期期末考查 Lesson 9, Lesson 10	

英語科 2年 英語 EⅡ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 EⅡ	対象	進学文系Ⅱ	コース	単位数 2 単位
教科書	My Way English ExpressionⅡ			出版社	三省堂
副教材	My Way English ExpressionⅡ 予習ノート（三省堂）				

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 事実や意見などを多様な観点から考察する。
 ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	●英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	2
5 月	Unit 1	時制、助動詞、受動態の復習と発展	2
	Lesson 1	・現在形／現在進行形・未来進行形	2
	Lesson 2	・未来完了形／過去完了進行形	2
	Review Exercise 1		2
	Lesson 3	・助動詞 1（義務・必要など）	2
6 月	Lesson 4	・助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現）	2
		1 学期中間考査 Lesson 1～Lesson 4	
	Lesson 5	・さまざまな受動態の表現	2
	Review Exercise 2		2
	Unit 2	不定詞、分詞、動名詞の復習と発展	2
6 月	Lesson 6	・自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞	3
	Lesson 7	・疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など	3

		1 学期期末考查 Lesson 5～Lesson 7	
7 月	Lesson 8	・ 動名詞を用いたさまざまな表現	2
9 月	Lesson 9	・ 不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現	2
	Lesson 10	・ さまざまな分詞構	2
	Review Exercise 3		2
1 0 月	Unit 3	比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展	2
	Lesson 11	・ 比較に関するさまざまな表現	2
	Lesson 12	・ 関係詞の非制限用法／複合関係詞	2
		2 学期中間考查 Lesson 8～Lesson 12	
	Review Exercise 4	・ 仮定法を用いたさまざまな表現	2
1 1 月	Lesson 13	・ 間接話法／否定表現	3
	Lesson 14		3
	Review Exercise 5	2 学期期末考查 Lesson 13～Lesson14	3
1 2 月	Unit 4	重要構文の学習	2
	Lesson 15	・ 代名詞を用いたさまざまな表現	2
1 月	Lesson 16	・ 時間に関する表現	2
	Lesson 17	・ 無生物主語構文／名詞的表現	2
	Lesson 18	・ 譲歩を表す表現	2
2 月	Review Exercise 6		1
	Lesson 19	・ 結果・程度、目的を表す表現	2
	Lesson 20	・ 強調表現／同格表現	2
3 月		3 学期末考查 Lesson 15～Lesson 20	

英語科 2年 英語CⅡ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 CⅡ	対象	進学理系Ⅰ	コース	単位数 3 単位
教科書	Power On English CommunicationⅡ			出版社	東京書籍
副教材	Power On English CommunicationⅡ WORKBOOK				

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

② 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4月	予習復習体験学習 Lesson 1 Take a Shot or Not	写真撮影と記憶の関係 It is[was] + 形容詞[名詞] + that 節 / 関係代名詞 what / 現在完了進行形	2 1 3
5月	Lesson 2 Ethical Fashion	エシカルファッション [言語材料] 助動詞+受け身 / 強調構文 / S+V+O[=疑問詞+to不定詞]	1 3
6月	Lesson 3 Landfill Harmonic	1 学期中間考査 Lesson 1, Lesson 2 リサイクルオーケストラ [言語材料] 関係副詞 where / 過去完了形 / S+V [=使役動詞] + O+C[=原形不定詞]	1 3
	Lesson 4 Icons of Scotland	スコットランドの歴史と文化 [言語材料] 関係代名詞の非制限用法 / S+V [=知覚動詞] + O+	1 3

		C[=現在分詞] / S + appear(s)[seem(s)] + to 不定詞	
		1 学期期末考查 Lesson 3, Lesson 4	
7 月	Lesson 5 Japan's Secret Health Food	日本の秘密の健康食品 [言語材料]	1 3
9 月		分詞構文（過去分詞）/ 倍数表現 / 直前の文の内容を 先行詞とする which / 形式目的語 it [=to 不定詞]	
	Lesson 6 Vegetable Factories	野菜工場 [言語材料]	1 3
1 0 月		進行形の受け身 / It appears[seems] + that 節 / 未来 完了形 / 譲歩を表す副詞節	
	Lesson 7 The Power of Color		
		2 学期中間考查 Lesson 5, Lesson 6	
		色がもつ力 [言語材料]	1 3
1 1 月	Lesson 8 Miu and Mima, Friendly but Tough Competitors	同格を表す接続詞 that/ 前置詞 + 関係代名詞/ 関係代 名詞 whose の制限用法 / propose など + that + S + V[=動詞の原形] 卓球, みうみまペア [言語材料]	1 3
		付帯状況を表す with / while[when] (+S+be 動詞) / to + have + 過去分詞 / 助動詞 + have + 過去分詞	
1 2 月		2 学期期末考查 Lesson 7, Lesson 8	
1 月	Lesson 9 From Owning to Sharing	所有から共有へ [言語材料]	1 3
2 月		強調表現（助動詞による強調）/ It is[was] said + that 節 / 形式目的語 it[=that 節] / 過去完了進行形	
	Lesson 10 Solar Cooking	太陽のエネルギーでクッキング [言語材料]	1 3
3 月		be 動詞 + to 不定詞 / wish + 仮定法過去 / 関係副詞 where の非制限用法 / 関係副詞 when の非制限用法	
		3 学期期末考查 Lesson 9, Lesson 10	

英語科 2年 英語 EⅡ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 EⅡ	対象	理系 I	コース	単位数 2 単位
教科書	My Way English Expression II			出版社	三省堂
副教材	My Way English Expression II 予習ノート（三省堂）				

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 事実や意見などを多様な観点から考察する。
 ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	●英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	1
5 月	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Review Exercise 1 Lesson 3 Lesson 4	時制、助動詞、受動態の復習と発展 ・現在形／現在進行形・未来進行形 ・未来完了形／過去完了進行形 ・助動詞 1（義務・必要など） ・助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現）	
6 月	Lesson 5 Review Exercise 2 Unit 2 Lesson 6 Lesson 7	1 学期中間考査 Lesson 1～Lesson 4 ・さまざまな受動態の表現 不定詞、分詞、動名詞の復習と発展 ・自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞 ・疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など	1 2

7 月	Lesson 8	1 学期期末考查 Lesson 5～Lesson 7	1 2
9 月	Lesson 9	・動名詞を用いたさまざまな表現	
	Lesson 10	・不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現	
	Review Exercise 3	・さまざまな分詞構	
1 0 月	Unit 3	比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展	
	Lesson 11	・比較に関するさまざまな表現	
	Lesson 12	・関係詞の非制限用法／複合関係詞	
		2 学期中間考查 Lesson 8～Lesson 12	1 6
	Review Exercise 4	・仮定法を用いたさまざまな表現	
1 1 月	Lesson 13	・間接話法／否定表現	
	Lesson 14		
	Review Exercise 5		
		2 学期期末考查 Lesson 13～Lesson14	1 1
1 2 月	Unit 4	重要構文の学習	
	Lesson 15	・代名詞を用いたさまざまな表現	
1 月	Lesson 16	・時間に関する表現	
	Lesson 17	・無生物主語構文／名詞的表現	
	Lesson 18	・譲歩を表す表現	
2 月	Review Exercise 6		
	Lesson 19	・結果・程度、目的を表す表現	
	Lesson 20	・強調表現／同格表現	
3 月		3 学期末考查 Lesson 15～Lesson 20	1 7

英語科 2年 英語CⅡ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 CⅡ	対象	進学理系Ⅱ	コース	単位数 3 単位
教科書	Power On English CommunicationⅡ			出版社	東京書籍
副教材	Power On English CommunicationⅡ WORKBOOK				

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

② 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4月	予習復習体験学習 Lesson 1 Take a Shot or Not	写真撮影と記憶の関係 It is[was] + 形容詞[名詞] + that 節 / 関係代名詞 what / 現在完了進行形	2 1 3
5月	Lesson 2 Ethical Fashion	エシカルファッション [言語材料] 助動詞+受け身 / 強調構文 / S+V+O[=疑問詞+to不定詞]	1 3
6月	Lesson 3 Landfill Harmonic	リサイクルオーケストラ [言語材料] 関係副詞 where / 過去完了形 / S+V [=使役動詞] + O+C[=原形不定詞]	1 3
	Lesson 4 Icons of Scotland	スコットランドの歴史と文化 [言語材料] 関係代名詞の非制限用法 / S+V [=知覚動詞] + O+	1 3

		C[=現在分詞] / S + appear(s)[seem(s)] + to 不定詞	
		1 学期期末考查 Lesson 3, Lesson 4	
7 月	Lesson 5	日本の秘密の健康食品	1 3
9 月	Japan's Secret Health Food	言語材料] 分詞構文（過去分詞）/ 倍数表現 / 直前の文の内容を 先行詞とする which / 形式目的語 it [=to 不定詞]	
	Lesson 6	野菜工場	1 3
1 0 月	Vegetable Factories	[言語材料] 進行形の受け身 / It appears[seems] + that 節 / 未来 完了形 / 譲歩を表す副詞節	
		2 学期中間考查 Lesson 5, Lesson 6	
	Lesson 7	色がもつ力	1 3
1 1 月	The Power of Color	[言語材料] 同格を表す接続詞 that/ 前置詞 + 関係代名詞/ 関係代 名詞 whose の制限用法 / propose など + that + S + V[=動詞の原形]	
	Lesson 8	卓球, みうみまペア	1 3
	Miu and Mima, Friendly but	[言語材料] 付帯状況を表す with / while[when] (+S+be 動詞) / to + have + 過去分詞 / 助動詞 + have + 過去分詞	
	Tough Competitors		
1 2 月		2 学期期末考查 Lesson 7, Lesson 8	
1 月	Lesson 9	所有から共有へ	1 3
	From Owning to Sharing	[言語材料] 強調表現（助動詞による強調）/ It is[was] said + that 節 / 形式目的語 it [=that 節] / 過去完了進行形	
2 月	Lesson 10	太陽のエネルギーでクッキング	1 3
	Solar Cooking	[言語材料] be 動詞 + to 不定詞 / wish + 仮定法過去 / 関係副詞 where の非制限用法 / 関係副詞 when の非制限用法	
3 月		3 学期期末考查 Lesson 9, Lesson 10	

英語科 2年 英語 EⅡ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 EⅡ	対象	理系Ⅱ	コース	単位数 2 単位
教科書	My Way English ExpressionⅡ			出版社	三省堂
副教材	My Way English ExpressionⅡ 予習ノート（三省堂）				

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 事実や意見などを多様な観点から考察する。
 ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	●英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	1
5 月	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Review Exercise 1 Lesson 3 Lesson 4	時制、助動詞、受動態の復習と発展 ・現在形／現在進行形・未来進行形 ・未来完了形／過去完了進行形 ・助動詞 1（義務・必要など） ・助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現）	
6 月	Lesson 5 Review Exercise 2 Unit 2 Lesson 6 Lesson 7	1 学期中間考査 Lesson 1～Lesson 4 ・さまざまな受動態の表現 不定詞、分詞、動名詞の復習と発展 ・自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞 ・疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など	1 2

7 月	Lesson 8	1 学期期末考查 Lesson 5～Lesson 7	1 2
9 月	Lesson 9	・動名詞を用いたさまざまな表現 ・不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現 ・さまざまな分詞構	
1 0 月	Lesson 10	比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展	
	Review Exercise 3		
	Unit 3		
	Lesson 11	・比較に関するさまざまな表現 ・関係詞の非制限用法／複合関係詞	
	Lesson 12		
		2 学期中間考查 Lesson 8～Lesson 12	1 6
	Review Exercise 4		
1 1 月	Lesson 13	・仮定法を用いたさまざまな表現 ・間接話法／否定表現	
	Lesson 14		
	Review Exercise 5		
		2 学期期末考查 Lesson 13～Lesson14	1 1
1 2 月	Unit 4	重要構文の学習	
	Lesson 15	・代名詞を用いたさまざまな表現	
1 月	Lesson 16	・時間に関する表現	
	Lesson 17	・無生物主語構文／名詞的表現	
	Lesson 18	・譲歩を表す表現	
2 月	Review Exercise 6		
	Lesson 19	・結果・程度、目的を表す表現	
	Lesson 20	・強調表現／同格表現	
3 月		3 学期期末考查 Lesson 15～Lesson 20	1 7

英語科 2年 英語CⅡ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 CⅡ	対象	特進	コース	単位数 4 単位
教科書	Prominence English CommunicationⅡ			出版社	東京書籍
副教材	Prominence English CommunicationⅡ 予習ノート（東京書籍） Prominence English CommunicationⅡ WORKBOOK STANDARD（東京書籍）				

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

② 成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。
評価の内容 定期考査 8割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4月	予習復習体験学習	● 英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／DM 他	2
5月	Lesson 1 The Power of Empathy	Con : 感情について Gr. : SVOO(O=if / whether 節) : 完了形受け身	1 2
	Lesson 2 Come and Visit the Park in the Sky!	Con : Gr. : 比較級を修飾する表現 : 現在完了進行形	1 3
6月	Lesson 3 A Window to Ancient Earth	1 学期中間考査 Lesson 1&Lesson 2 Con : Gr. : S be C(=whether / what 節) : 非制限用法の関係副詞	1 2
	Lesson 4	Con :	1 2

	<i>Bonsai Goes Global</i>	Gr. : 強調のための倒置表現 : 独立分詞構文	
7 月		1 学期期末考查 Lesson 3&Lesson 4	
9 月	Lesson 5 Taking the Sting Out of Jellyfish	Con : Gr. : no matter what などの譲歩表現 : 完了不定詞	1 3
1 0 月	Lesson 6 Does It Spark Joy?	Con : Gr. : 未来進行形 : would などの習慣を表す表現	1 3
1 1 月	Lesson 7 Malala's Fight for Education	2 学期中間考查 Lesson 4, Lesson 5 Con : Gr. : 未来進行形 : would などの習慣を表す表現	1 3
	Lesson 8 Welcome to the World of Tove Jansson	Con : Gr. : 先行詞を含んだ関係副詞 : 受け身の To 不定詞	1 2
1 2 月	Lesson 9 A Country of Poles and Signs	2 学期期末考查 Lesson 6, Lesson 7, Lesson 8 Con : Gr. : 形式目的語の it...that 構文 : 助動詞 do による強調構文	1 3
1 月			
2 月	Lesson 10 How to Use "If"	Con : Gr. : 仮定を表す表現 : 実現の可能性が少ない仮定表現	1 2
3 月	Lesson for Recitation The Great Dictator		2
		3 学期期末考查 Lesson 9, Lesson 10	

英語科 2年 英語 EⅡ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 EⅡ	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	My Way English Expression II			出版社	三省堂
副教材	My Way English Expression II 予習ノート（三省堂）				

1 学習の到達目標

- ② 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ③ 事実や意見などを多様な観点から考察する。
- ④ 論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	● 英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	1
5 月	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Review Exercise 1 Lesson 3 Lesson 4	時制、助動詞、受動態の復習と発展 ・現在形／現在進行形・未来進行形 ・未来完了形／過去完了進行形 ・助動詞 1（義務・必要など） ・助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現）	
6 月	Lesson 5 Review Exercise 2 Unit 2 Lesson 6 Lesson 7	1 学期中間考査 Lesson 1～Lesson 4 ・さまざまな受動態の表現 不定詞、分詞、動名詞の復習と発展 ・自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞 ・疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など	1 2

7 月	Lesson 8	1 学期期末考查 Lesson 5～Lesson 7	1 2
9 月	Lesson 9	・動名詞を用いたさまざまな表現 ・不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現 ・さまざまな分詞構	
1 0 月	Lesson 10 Review Exercise 3 Unit 3 Lesson 11 Lesson 12	比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展 ・比較に関するさまざまな表現 ・関係詞の非制限用法／複合関係詞	
		2 学期中間考查 Lesson 8～Lesson 12	1 6
1 1 月	Review Exercise 4 Lesson 13 Lesson 14 Review Exercise 5	・仮定法を用いたさまざまな表現 ・間接話法／否定表現	
		2 学期期末考查 Lesson 13～Lesson14	1 1
1 2 月	Unit 4 Lesson 15	重要構文の学習 ・代名詞を用いたさまざまな表現	
1 月	Lesson 16 Lesson 17 Lesson 18	・時間に関する表現 ・無生物主語構文／名詞的表現 ・譲歩を表す表現	
2 月	Review Exercise 6 Lesson 19 Lesson 20	・結果・程度、目的を表す表現 ・強調表現／同格表現	
3 月		3 学期期末考查 Lesson 15～Lesson 20	1 7

英語科 3年 英語CⅢ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 CⅢ	対象	スポーツ	コース	単位数
教科書	MY WAY English CⅢ			出版社	三省堂
副教材	MY WAY English CⅢ Work Book, AXEL アクセル英語総合問題演習（桐原書店）				

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	学習の仕方を説明する。	5
5 月	Lesson 1 Narrow Boats in Britain	異文化・歴史／エッセイ イギリスで見かける「細長いボート」	6
	Lesson 2 A Mayor of Machu Picchu Village	生き方・国際交流／人物伝 マチュピチュ村の村長になった日本人	6
		1 学期中間考査	1
6 月	Lesson 3 iPS Cells	科学・医療／論説文 人工多能性幹細胞のしくみ	8
	Lesson 4 Roman Baths	異文化・歴史／エッセイ 古代ローマ人は公衆浴場が好きだった	8
		1 学期期末考査	1
			10

9 月	Lesson 5 Artificial Intelligence	科学・社会／論説文 人工知能の急激な進化がもたらす未来	
10 月	Lesson 6 Digital Books vs. Printed Books	文化・日常生活／ディベート 電子書籍と紙の書籍：それぞれの長所と短所	10
		2 学期中間考査	1
11 月	Lesson 7 Buckwheat Around the World	比較文化・食物／論説文 ソバはこんなに食べられている	11
	Lesson 8 A Message from Small Creatures	環境・共生／論説文 身近な生き物：なぜ減っているのか	11
12 月		2 学期期末考査	1
	まとめ・演習		

英語科		3 年	英語表現Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	英語表現Ⅱ	対象	スポーツコース		単位数	2 単位
教科書	MY WAY English ExpressionⅡ			出版社	三省堂	
副教材	英文法演習 New Frame 650（桐原書店）					

1 学習の到達目標

- ② 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ③ 事実や意見などを多様な観点から考察する。
- ④ 論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	●英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	2
5 月	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Review Exercise 1 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Review Exercise 2	時制、助動詞、受動態の復習と発展 ・現在形／現在進行形・未来進行形 ・未来完了形／過去完了進行形 ・助動詞 1（義務・必要など） ・助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現） ・さまざまな受動態の表現	8
		1 学期中間考査	1
6 月	Unit 2 Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9	不定詞、分詞、動名詞の復習と発展 ・自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞 ・疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など ・動名詞を用いたさまざまな表現 ・不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現	10

	Lesson 10 Review Exercise 3	・さまざまな分詞構	
9 月	Unit 3 Lesson 11 Lesson 12 Review Exercise 4	1 学期期末考查 比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展	1 10
1 0 月	Lesson 13 Lesson 14 Review Exercise 5	・比較に関するさまざまな表現 ・関係詞の非制限用法／複合関係詞	
		・仮定法を用いたさまざまな表現 ・間接話法／否定表現	
		2 学期中間考查	1
1 1 月	Unit 4 Lesson 15 Lesson 16 Lesson 17 Lesson 18 Review Exercise 6 Lesson 19 Lesson 20	重要構文の学習 ・代名詞を用いたさまざまな表現 ・時間に関する表現 ・無生物主語構文／名詞的表現 ・譲歩を表す表現	10
		・結果・程度、目的を表す表現 ・強調表現／同格表現	
1 2 月		2 学期期末考查	1

英語科 3年 英語CⅢ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 CⅢ	対象	進学文 I	コース	単位数 4 単位
教科書	MY WAY English CⅢ			出版社	三省堂
副教材	MY WAY English CⅢ Work Book, AXEL アクセル英語総合問題演習（桐原書店）				

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	学習の仕方を説明する。	5
5 月	Lesson 1 Narrow Boats in Britain	異文化・歴史／エッセイ イギリスで見かける「細長いボート」	6
	Lesson 2 A Mayor of Machu Picchu Village	生き方・国際交流／人物伝 マチュピチュ村の村長になった日本人	6
6 月		1 学期中間考査	1
	Lesson 3 iPS Cells	科学・医療／論説文 人工多能性幹細胞のしくみ	5
	Lesson 4 Roman Baths	異文化・歴史／エッセイ 古代ローマ人は公衆浴場が好きだった	5
	Lesson 5 Artificial Intelligence	科学・社会／論説文	5

		人工知能の急激な進化がもたらす未来	
9 月	Lesson 6 Digital Books vs. Printed Books	文化・日常生活／ディベート 電子書籍と紙の書籍：それぞれの長所と短所	1 7
1 0 月	Lesson 7 Buckwheat Around the World	比較文化・食物／論説文 ソバはこんなに食べられている	7
	Lesson 8 A Message from Small Creatures	環境・共生／論説文 身近な生き物：なぜ減っているのか	7
		2 学期中間考査	1
1 1 月	Lesson 9 Aung San Suu Kyi	生き方・平和／人物伝 アウンサンスーチー：ノーベル平和賞受賞の理由	11
	Lesson 10 The Wonders of Memory	脳科学・学習／論説文 記憶力増強の 5 つの方法	11
	まとめ・演習	2 学期期末考査	1
1 2 月			

英語科		3 年	英語表現Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	英語表現Ⅱ	対象	進学Ⅰコース（文系）		単位数	3 単位
教科書	MY WAY English ExpressionⅡ			出版社	三省堂	
副教材	英文法演習 New Frame 650（桐原書店）					

1 学習の到達目標

- ② 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ③ 事実や意見などを多様な観点から考察する。
- ④ 論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	●英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	3
5 月	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Review Exercise 1 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Review Exercise 2	時制、助動詞、受動態の復習と発展 ・現在形／現在進行形・未来進行形 ・未来完了形／過去完了進行形 ・助動詞 1（義務・必要など） ・助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現） ・さまざまな受動態の表現	11
		1 学期中間考査	1
6 月	Unit 2 Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9	不定詞、分詞、動名詞の復習と発展 ・自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞 ・疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など ・動名詞を用いたさまざまな表現 ・不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現	14

	Lesson 10 Review Exercise 3	・さまざまな分詞構	
		1 学期期末考查	1
9 月	Unit 3 Lesson 11 Lesson 12 Review Exercise 4	比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展 ・比較に関するさまざまな表現 ・関係詞の非制限用法／複合関係詞	14
1 0 月	Lesson 13 Lesson 14 Review Exercise 5	・仮定法を用いたさまざまな表現 ・間接話法／否定表現	
		2 学期中間考查	1
1 1 月	Unit 4 Lesson 15 Lesson 16 Lesson 17 Lesson 18 Review Exercise 6 Lesson 19 Lesson 20	重要構文の学習 ・代名詞を用いたさまざまな表現 ・時間に関する表現 ・無生物主語構文／名詞的表現 ・譲歩を表す表現 ・結果・程度、目的を表す表現 ・強調表現／同格表現	14
1 2 月		2 学期期末考查	1

英語科 3年 英語CⅢ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 CⅢ	対象	進学Ⅱ文系	コース	単位数 4 単位
教科書	MY WAY English CⅢ			出版社	三省堂
副教材	MY WAY English CⅢ Work Book, AXEL アクセル英語総合問題演習（桐原書店）				

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	学習の仕方を説明する。	5
5 月	Lesson 1 Narrow Boats in Britain	異文化・歴史／エッセイ イギリスで見かける「細長いボート」	6
	Lesson 2 A Mayor of Machu Picchu Village	生き方・国際交流／人物伝 マチュピチュ村の村長になった日本人	6
		1 学期中間考査	1
6 月	Lesson 3 iPS Cells	科学・医療／論説文 人工多能性幹細胞のしくみ	8
	Lesson 4 Roman Baths	異文化・歴史／エッセイ 古代ローマ人は公衆浴場が好きだった	8
		1 学期期末考査	1
			10

9 月	Lesson 5 Artificial Intelligence	科学・社会／論説文 人工知能の急激な進化がもたらす未来	
10 月	Lesson 6 Digital Books vs. Printed Books	文化・日常生活／ディベート 電子書籍と紙の書籍：それぞれの長所と短所	10
		2 学期中間考査	1
11 月	Lesson 7 Buckwheat Around the World	比較文化・食物／論説文 ソバはこんなに食べられている	11
	Lesson 8 A Message from Small Creatures	環境・共生／論説文 身近な生き物：なぜ減っているのか	11
12 月		2 学期期末考査	1
	まとめ・演習		

英語科		3 年	英語表現Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	英語表現Ⅱ	対象	進学Ⅱコース（文系）		単位数	3 単位
教科書	MY WAY English ExpressionⅡ			出版社	三省堂	
副教材	英文法演習 New Frame 650（桐原書店）					

1 学習の到達目標

- ② 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ③ 事実や意見などを多様な観点から考察する。
- ④ 論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	●英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	3
5 月	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Review Exercise 1 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Review Exercise 2	時制、助動詞、受動態の復習と発展 ・現在形／現在進行形・未来進行形 ・未来完了形／過去完了進行形 ・助動詞 1（義務・必要など） ・助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現） ・さまざまな受動態の表現	11
		1 学期中間考査	1
6 月	Unit 2 Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9	不定詞、分詞、動名詞の復習と発展 ・自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞 ・疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など ・動名詞を用いたさまざまな表現 ・不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現	14

	Lesson 10 Review Exercise 3	・さまざまな分詞構	
		1 学期期末考查	1
9 月	Unit 3 Lesson 11 Lesson 12 Review Exercise 4	比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展 ・比較に関するさまざまな表現 ・関係詞の非制限用法／複合関係詞	14
1 0 月	Lesson 13 Lesson 14 Review Exercise 5	・仮定法を用いたさまざまな表現 ・間接話法／否定表現	
		2 学期中間考查	1
1 1 月	Unit 4 Lesson 15 Lesson 16 Lesson 17 Lesson 18 Review Exercise 6 Lesson 19 Lesson 20	重要構文の学習 ・代名詞を用いたさまざまな表現 ・時間に関する表現 ・無生物主語構文／名詞的表現 ・譲歩を表す表現 ・結果・程度、目的を表す表現 ・強調表現／同格表現	14
1 2 月		2 学期期末考查	1

英語科 3年 英語CⅢ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 CⅢ	対象	進学理Ⅰ	コース	単位数 4 単位
教科書	MY WAY English CⅢ			出版社	三省堂
副教材	MY WAY English CⅢ Work Book, AXEL アクセル英語総合問題演習（桐原書店）				

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
月	予習復習体験学習	学習の仕方を説明する。	5
5 月	Lesson 1 Narrow Boats in Britain	異文化・歴史／エッセイ イギリスで見かける「細長いボート」	6
	Lesson 2 A Mayor of Machu Picchu Village	生き方・国際交流／人物伝 マチュピチュ村の村長になった日本人	6
		1 学期中間考査	1
6 月	Lesson 3 iPS Cells	科学・医療／論説文 人工多能性幹細胞のしくみ	5
	Lesson 4 Roman Baths	異文化・歴史／エッセイ 古代ローマ人は公衆浴場が好きだった	5
	Lesson 5 Artificial Intelligence	科学・社会／論説文	5

		人工知能の急激な進化がもたらす未来	
		1 学期期末考査	1
9 月	Lesson 6 Digital Books vs. Printed Books	文化・日常生活／ディベート 電子書籍と紙の書籍：それぞれの長所と短所	7
10 月	Lesson 7 Buckwheat Around the World	比較文化・食物／論説文 ソバはこんなに食べられている	7
	Lesson 8 A Message from Small Creatures	環境・共生／論説文 身近な生き物：なぜ減っているのか	7
		2 学期中間考査	1
11 月	Lesson 9 Aung San Suu Kyi	生き方・平和／人物伝 アウンサンスーチー：ノーベル平和賞受賞の理由	11
	Lesson 10 The Wonders of Memory	脳科学・学習／論説文 記憶力増強の 5 つの方法	11
12 月	まとめ・演習	2 学期期末考査	1

英語科		3 年	英語表現Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	英語表現Ⅱ	対象	進学Ⅰコース（理系）		単位数	2 単位
教科書	MY WAY English ExpressionⅡ			出版社	三省堂	
副教材	英文法演習 New Frame 650（桐原書店）					

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 事実や意見などを多様な観点から考察する。
- ③ 論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	●英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	2
5 月	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Review Exercise 1 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Review Exercise 2	時制、助動詞、受動態の復習と発展 ・現在形／現在進行形・未来進行形 ・未来完了形／過去完了進行形 ・助動詞 1（義務・必要など） ・助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現） ・さまざまな受動態の表現	8
		1 学期中間考査	1
6 月	Unit 2 Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9	不定詞、分詞、動名詞の復習と発展 ・自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞 ・疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など ・動名詞を用いたさまざまな表現 ・不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現	10

	Lesson 10 Review Exercise 3	・さまざまな分詞構	
9 月	Unit 3 Lesson 11 Lesson 12 Review Exercise 4	1 学期期末考查 比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展	1 10
1 0 月	Lesson 13 Lesson 14 Review Exercise 5	・比較に関するさまざまな表現 ・関係詞の非制限用法／複合関係詞	
		・仮定法を用いたさまざまな表現 ・間接話法／否定表現	
		2 学期中間考查	1
1 1 月	Unit 4 Lesson 15 Lesson 16 Lesson 17 Lesson 18 Review Exercise 6 Lesson 19 Lesson 20	重要構文の学習 ・代名詞を用いたさまざまな表現 ・時間に関する表現 ・無生物主語構文／名詞的表現 ・譲歩を表す表現	10
		・結果・程度、目的を表す表現 ・強調表現／同格表現	
1 2 月		2 学期期末考查	1

英語科 3 年 英語 C III 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英 語 C III	対象	進学Ⅱ理系	コース	単位数 4 単位
教科書	MY WAY English C III			出版社	三省堂
副教材	MY WAY English C III Work Book, AXEL アクセル英語総合問題演習（桐原書店）				

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	学習の仕方を説明する。	5
5 月	Lesson 1 Narrow Boats in Britain	異文化・歴史／エッセイ イギリスで見かける「細長いボート」	6
	Lesson 2 A Mayor of Machu Picchu Village	生き方・国際交流／人物伝 マチュピチュ村の村長になった日本人	6
6 月	Lesson 3 iPS Cells	科学・医療／論説文 人工多能性幹細胞のしくみ	1 8
	Lesson 4 Roman Baths	異文化・歴史／エッセイ 古代ローマ人は公衆浴場が好きだった	8
			1 学期中間考査 1 学期期末考査 1 10

9 月	Lesson 5 Artificial Intelligence	科学・社会／論説文 人工知能の急激な進化がもたらす未来	
10 月	Lesson 6 Digital Books vs. Printed Books	文化・日常生活／ディベート 電子書籍と紙の書籍：それぞれの長所と短所	10
		2 学期中間考査	1
11 月	Lesson 7 Buckwheat Around the World	比較文化・食物／論説文 ソバはこんなに食べられている	11
	Lesson 8 A Message from Small Creatures	環境・共生／論説文 身近な生き物：なぜ減っているのか	11
12 月		2 学期期末考査	1
	まとめ・演習		

英語科		3 年	英語表現Ⅱ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	英語表現Ⅱ	対象	進学Ⅱコース（理系）		単位数	2 単位
教科書	MY WAY English ExpressionⅡ		出版社		三省堂	
副教材	英文法演習 New Frame 650（桐原書店）					

1 学習の到達目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 ② 事実や意見などを多様な観点から考察する。
 ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達度目標	時間数
4 月	予習復習体験学習	●英文の構造と文章の構造を確認する 文をつくる品詞のいろいろ／文の中心となる動詞 ／語の順序と文型／句と節／品詞他	2
5 月	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Review Exercise 1 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Review Exercise 2	時制、助動詞、受動態の復習と発展 ・現在形／現在進行形・未来進行形 ・未来完了形／過去完了進行形 ・助動詞 1（義務・必要など） ・助動詞 2（過去の状態・習慣／慣用表現） ・さまざまな受動態の表現	8
		1 学期中間考査	1
6 月	Unit 2 Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9	不定詞、分詞、動名詞の復習と発展 ・自動詞＋不定詞／SVO＋不定詞 ・疑問詞＋不定詞／完了形の不定詞など ・動名詞を用いたさまざまな表現 ・不定詞と動名詞／不定詞を用いた表現	10

	Lesson 10 Review Exercise 3	・さまざまな分詞構	
		1 学期期末考查	1
9 月	Unit 3 Lesson 11 Lesson 12 Review Exercise 4	比較表現、関係詞、仮定法、否定表現、話法の復習と発展 ・比較に関するさまざまな表現 ・関係詞の非制限用法／複合関係詞	10
1 0 月	Lesson 13 Lesson 14 Review Exercise 5	・仮定法を用いたさまざまな表現 ・間接話法／否定表現	
		2 学期中間考查	1
1 1 月	Unit 4 Lesson 15 Lesson 16 Lesson 17 Lesson 18 Review Exercise 6 Lesson 19 Lesson 20	重要構文の学習 ・代名詞を用いたさまざまな表現 ・時間に関する表現 ・無生物主語構文／名詞的表現 ・譲歩を表す表現 ・結果・程度、目的を表す表現 ・強調表現／同格表現	10
1 2 月		2 学期期末考查	1

英語科		3 年	コミュニケーション英語Ⅲ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	コミュニケーション英語Ⅲ		対 象	特 進 文系コース	単位数	4 単位
教科書	PROMINENCE Communication English III			出版社	東京書籍	
副教材	Change the World Standard、NEO 現代を読む、NEO 現代を探る（いっずな書店） PROMINENCE Communication English III Wotrkrbook Standard、システム英単語（駿台文庫）					

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達度目標		時間
		内容（場面）	取り上げる Reading Skills	
4	予習復習体験学習 1. The News: Getting It the Way You Want to	オンラインニュース配信の台頭で揺らぐ新聞業界。新聞に未来はあるか？	スキヤニング，スキミング	1 3
5	3. Build a Tower, Build a Team	マシュマロとパスタで塔を建てる？身近な実験から問題解決能力を考える。	スキヤニング，語句の推測 1学期中間考査	1 3
6	6. Technology as Trash	増加の一途を辿るパソコンや携帯電話などの廃棄物が途上国で起こしている深刻な環境被害を告発する。	スキミング	1 3
7	7. Human BUYology	百貨店に仕掛けられた数々の罠に私たちは掛かっていた？ 五感と人の購買意欲の関わりとは？	スキヤニング，スキミング 1学期期末考査	6
8	9. A New Way of Remembering	文字と紙の発明以降，記憶の役割は急速に変化した。記憶が辿る未来の先に	スキヤニング，スキミング	2

9		は？	日大基礎学力到達度テスト	13
10	11. Leaving Microsoft to Change the World	世界中の子どもたちに本を届けるボランティア活動続けるジョン・ウッド氏を紹介する。	スキヤニング，スキミング 2学期中間考査	13
11	13. A One-Million-Dollar Lottery Ticket	100万ドルの当たりくじを巡ってアメリカで実際に起こった裁判から，法律について考える。	スキミング，語句の推測，指示の対象 2学期期末考査	10
12	16. Attitudes toward Time	世界における時間感覚の違いはどこから生まれるものなのか？世界の事例を踏まえ考察する。	スキヤニング，スキミング	4

英語科 3 年 英語表現Ⅱ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英語表現英語Ⅱ	対 象	特 進 文系コース	単位数	2 単位
教科書	MY WAY English ExpressionⅡ			出版社	三省堂
副教材	Steady Steps to Writing（数研出版）				

1 学習の到達目標

- ② 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ③ 事実や意見などを多様な観点から考察する。
- ④ 論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達度目標		時間
		内容（場面）	備考（読解方法）	
4	予習復習体験学習 Unit 1 Unit 2 Unit 3 Unit 4	ガイダンス 時制 受動態 助動詞 仮定法	4/18 日本大学到達度テスト	9
5	重要イディオム 1 Unit 5	不定詞		6
第 1 学期中間考査				
5	Unit 6 Unit 7	動名詞 分詞	5/13 全統記述模試	4
6	重要イディオム 2 Unit 8 Unit 9 Unit10	動詞の用法 1 動詞の用法 2 関係詞	6/4 日大チャレンジ模試 6/22 進研記述模試	1 3
第 1 学期期末考査				
7	重要イディオム 3 Unit 11	接続詞		5

	Unit 12	前置詞		
8			8/24 全統記述模試 8/26～ 学力テスト	0
9	重要イディオム 3 Unit 13 Unit 14 Unit 15	副詞の用法 比較 名詞の語法	9/14～ 進研マーク模試 9/26 日本大学到達度テスト	1 2
1 0	センター試験重要問題演習			3
第 2 学期中間考查				
1 0	センター試験重要問題演習 センター試験直前演習		10/27 全統記述模試	8
1 1	センター試験直前演習			1 0
第 2 学期期末考查				
1 2	センター試験問題集	河合塾出版問題集 駿台出版問題集	12/2～ センター試験対策開始 12/16 全統センタープレ模試	

英語科		3 年	コミュニケーション英語Ⅲ		年間授業計画（シラバス）	
科目名	コミュニケーション英語Ⅲ		対 象	特 進 理系コース	単位数	4 単位
教科書	PROMINENCE Communication English III			出版社	東京書籍	
副教材	Change the World Standard、NEO 現代を読む、NEO 現代を探る（いっずな書店） PROMINENCE Communication English III Wotrkrbook Standard、システム英単語（駿台文庫）					

1 学習の到達目標

- ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達度目標		時間
		内容（場面）	取り上げる Reading Skills	
4	予習復習体験学習 1. The News: Getting It the Way You Want to	オンラインニュース配信の台頭で揺らぐ新聞業界。新聞に未来はあるか？	スキヤニング，スキミング	1 3
5	3. Build a Tower, Build a Team	マシュマロとパスタで塔を建てる？身近な実験から問題解決能力を考える。	スキヤニング，語句の推測 1学期中間考査	1 3
6	6. Technology as Trash	増加の一途を辿るパソコンや携帯電話などの廃棄物が途上国で起こしている深刻な環境被害を告発する。	スキミング	1 3
7	7. Human BUYology	百貨店に仕掛けられた数々の罠に私たちは掛かっていた？ 五感と人の購買意欲の関わりとは？	スキヤニング，スキミング 1学期期末考査	6
8	9. A New Way of Remembering	文字と紙の発明以降，記憶の役割は急速に変化した。記憶が辿る未来の先に	スキヤニング，スキミング	2

9		は？	日大基礎学力到達度テスト	13
10	11. Leaving Microsoft to Change the World	世界中の子どもたちに本を届けるボランティア活動続けるジョン・ウッド氏を紹介する。	スキヤニング，スキミング 2学期中間考査	13
11	13. A One-Million-Dollar Lottery Ticket	100万ドルの当たりくじを巡ってアメリカで実際に起こった裁判から，法律について考える。	スキミング，語句の推測，指示の対象 2学期期末考査	10
12	16. Attitudes toward Time	世界における時間感覚の違いはどこから生まれるものなのか？世界の事例を踏まえ考察する。	スキヤニング，スキミング	4

英語科 3 年 英語表現Ⅱ 年間授業計画（シラバス）					
科目名	英語表現英語Ⅱ	対 象	特 進 理系コース	単位数	2 単位
教科書	MY WAY English ExpressionⅡ			出版社	三省堂
副教材	Steady Steps to Writing（数研出版）				

1 学習の到達目標

- ② 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ③ 事実や意見などを多様な観点から考察する。
- ③論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

② 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	知識・理解
評価の内容	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノートプリント 課題提出	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査	学習活動への姿勢 ノートプリント 定期考査

②成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末にまとめます。

評価の内容 定期考査 8 割 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 2 割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達度目標		時間
		内容（場面）	備考（読解方法）	
4	予習復習体験学習 Unit 1 Unit 2 Unit 3 Unit 4	ガイダンス 時制 受動態 助動詞 仮定法	4/18 日本大学到達度テスト	9
5	重要イディオム 1 Unit 5	不定詞		6
第 1 学期中間考査				
5	Unit 6 Unit 7	動名詞 分詞	5/13 全統記述模試	4
6	重要イディオム 2 Unit 8 Unit 9 Unit10	動詞の用法 1 動詞の用法 2 関係詞	6/4 日大チャレンジ模試 6/22 進研記述模試	1 3
第 1 学期期末考査				
7	重要イディオム 3 Unit 11	接続詞		5

	Unit 12	前置詞		
8			8/24 全統記述模試 8/26～ 学力テスト	0
9	重要イディオム 3 Unit 13 Unit 14 Unit 15	副詞の用法 比較 名詞の語法	9/14～ 進研マーク模試 9/26 日本大学到達度テスト	1 2
1 0	センター試験重要問題演習			3
第 2 学期中間考查				
1 0	センター試験重要問題演習 センター試験直前演習		10/27 全統記述模試	8
1 1	センター試験直前演習			1 0
第 2 学期期末考查				
1 2	センター試験問題集	河合塾出版問題集 駿台出版問題集	12/2～ センター試験対策開始 12/16 全統センタープレ模試	

家庭 科 3 年 家庭基礎 年間授業計画（シラバス）					
科目名	家庭基礎	対象	全	コース	単位数 2 単位
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造			出版社	東京書籍
副教材	なし				

1 学習の到達目標

- ① 各ライフステージの特徴と課題を理解し、生涯を見通した生き方を考えられるようにする。
- ② 生活に必要なお金にはどのようなものがあるか理解し、将来を見通した家計管理ができるようにする。
- ③ 五大栄養素の働きとそれらを多く含む食品を理解し、バランスのとれた食生活を実践できるようにする。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する力を身に付けている。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価の 方法	- 学習プリントへの取り組み - 定期考査 - 学習課題の提出	- 学習プリントへの取り組み - 定期考査 - 学習活動への姿勢	- 実習への姿勢 - 提出課題の完成度 - 確認テスト	- 確認テスト - 定期考査

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査 85% 平常点（学習態度・小テスト・課題など） 15%

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 活 動 と 到 達 目 標	時間数
4	I 家族・社会との共生 第1章 家族・社会との共生 II 生活の自立 第8章 経済生活を営む	○ガイダンス ・学習のねらい・授業の概要・評価方法(単位認定)を理解する。 ・「家庭基礎」を学ぶ意義を理解する。 ○職業生活を設計する ・経済的自立と将来に向けた職業設計の重要性について知り、自分の将来につなげる。 ○計画的に使う ・収入と支出の実態を知り、ライフステージ全体を見通して、計画的なお金の使い方をできるようにする。 ・給料明細表から見てくる社会の仕組み（社会保険料や税金など）について理解する。 ・家計のマネジメント ・金融商品・取引の知識を身に付ける。	7

5		○国民経済・国際経済と家庭の経済生活 ・家計が国民経済・国際経済に与える影響, また国民経済・国際経済が家計に与える影響を理解できるようにする。 ○消費行動と意思決定 ○一人暮らしの生活費 ・収支に合った生活の仕方を理解する。 ・自立した消費者として責任のある消費行動ができるよう, 意思決定について考える。	7
	第7章 住生活をつくる	○一人暮らしをスタートさせる時 ・家を借りる場合の基本的な知識を理解する。	
6	第8章 経済生活を営む	○車の購入に必要な費用を知る ・車を所有する場合の基本的な知識を理解する。 ○現代の消費社会 ・現代の消費生活の特徴を理解し, 自立した消費者を目指す。 ・消費行動における意思決定の過程とその重要性について認識し, クーリング・オフのやり方を学ぶ。 ○消費生活相談の現状から考える ・多様化する販売の方法や支払いの特徴を理解し, 上手な利用の仕方ができるようになる。 【1学期期末考査】	8
7		○消費者をめぐる問題 ・悪徳商法の手口を理解し回避するための知識と方法を習得する。	3
8	第5章 食生活をつくる	○食習慣のバランスチェック ・食生活に関心を持ち, 食事バランスのよい食事摂取の重要性を理解する。	2
		○食生活について考える ・食をめぐる課題について知り, 良い食生活の実践に役立てる。	
9		○食事と栄養・食品 ・栄養素の種類とはたらきを理解する。 ・各栄養素を多く含む食品の特徴を理解する。	8
10		○調理実習のためのオリエンテーション ・安全にそして協力して実習ができる。 ・衛生的に実習を行うためにも, 身だしなみや手洗いを徹底する。	7
		○実習1「親子丼」調理理論・実習 ○実習2「魚のおろし方とその調理」調理理論・実習 ○実習3「マドレーヌ」調理理論・実習	
11		○なにをどれだけ食べるか ・日本人の食事摂取基準, 食品群別摂取量のめやすを理解し, バランスのとれた食生活ができるようになる。 ・4つの食品群による摂取量のめやすを理解する。 【2学期期末考査】	8
12		○食生活に関する知識を深める ・食品や食習慣について様々な資料・情報より, 食生活について興味と関心を深め, 豊かな食生活ができるようになる。	3

情報 科 1 年 社会と情報 年間授業計画（シラバス）					
科目名	社会と情報	対象	スポーツ コース	単位数	2 単位
教科書	社会と情報 出版社 実教出版				
副教材	ポイントでマスター 基礎から始める情報リテラシー Office2016				

1 学習の到達目標

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを、適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を身につける。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 趣旨	日常の様々な事柄から自ら問題を発見し、効率的に解決を図る力を身につける。	『高度情報科社会』に適応するための情報処理能力を身につける。	課題や目的に応じた情報手段を適切に選択し、効率良く情報を収集し、判断・処理して、効果的に発信・伝達できる能力を身に付ける。	社会生活の中で情報や情報機器の果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、適切な対応が取れるようになる。
評価の 方法	確認テスト 単元テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など

②成績評価の方法

各学期の評価：課題制作 40点 + 期末ペーパーテスト 50点 + 出席点 10点
学年評定：各学期の得点の平均

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	アンケート。コンピュータ室の使い方	コンピュータ室及び、コンピュータ使用上の一般的な注意を理解する。 中学校までのコンピュータ、インターネット等の経験を調査する。アンケートの結果はコンピュータ上で入力し、集計する。	1
4	情報とは何か。データとは何か。	身の回りの様々な問題点を解決するためにどのように「情報」を扱っていくか、また、「情報」を取捨選択し、「データ」にする方法を身につける。	1
4-5	ワープロソフトの活用	効率的な文字入力を身につける。 Word の機能を利用し、文書作成を行う。	6
5-6	表計算ソフトの活用	表計算ソフトの一般的使用法を理解する。セル、番地、シート、日本語入力、罫線等の用い方を理解する。	8

		四則演算の方法を身につける。絶対番地を理解する。 関数の使い方を身につける。Sum, Count, Average, Rank, Vlookup グラフの使い方を身につける。 <1 学期期末考査>	
	インターネット検索方法の基礎知識	ディレクトリサーチ、キーワードサーチ、サーチエンジン、ロボット検索、アドレスのダイレクト入力について理解する。	1
6-7	ネチケットと著作権	ネチケット、著作権、コンピュータウィルス、インターネット犯罪等について理解する。	1
	インターネットの活用	インターネットを利用して情報収集を行う。	4
8-10	プレゼンテーションを作ろう。	プレゼンテーションについて理解する。パワーポイントの使い方を身につける。 企画立案 プランニングシート、スライドスケッチ、話すことの内容をまとめる。 各自それぞれにテーマを考え、インターネット等を用いて資料を収集する。スライドは6枚以上とし、発表効果を考えながら作成する。	11
11		プレゼンテーションのリハーサルを行う。 プレゼンテーションを修正する。 一人3分以内で発表する。	3 4
12	プレゼンテーション発表会		4
		<2 学期期末考査>	
	ホームページの仕組み	HTMLの基本を理解する。タグの使い方を身につける。	2
1-2	ホームページを作成しよう。	メモ帳の使い方を身につける。 各自それぞれにテーマを考え、インターネット等を用いて資料を収集する。リンクを効果的に使いながら、ホームページを作成する。	8
3	情報化社会の光と影	これからの情報化社会のあり方について理解する。 <学年末考査>	2

情報 科 2 年 社会と情報 年間授業計画（シラバス）					
科目名	社会と情報	対象	スポーツ コース	単位数	1 単位
教科書	社会と情報 出版社 実教出版				
副教材	ポイントでマスター 基礎から始める情報リテラシー				

1 学習の到達目標

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを、適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を身につける。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

①評価の観点・趣旨・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 趣旨	日常の様々な事柄から自ら問題を発見し、効率的に解決を図る力を身につける。	『高度情報科社会』に適応するための情報処理能力を身につける。	課題や目的に応じた情報手段を適切に選択し、効率良く情報を収集し、判断・処理して、効果的に発信・伝達できる能力を身に付ける。	社会生活の中で情報や情報機器の果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、適切な対応が取れるようになる。
評価の 方法	確認テスト 単元テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など

②成績評価の方法

各学期の評価：課題制作 40点 + 期末ペーパーテスト 50点 + 出席点 10点

学年評点：各学期の得点の平均

3 学習計画

月	学習項目	学習内容	時間数
4	アンケート。コンピュータ室の使い方	コンピュータ室及び、コンピュータ使用上の一般的な注意を理解する。	2
4	情報とは何か。データとは何か。	資格取得をめざし、各自のスキルを確認し、弱点を見つける。	
4		身の回りの様々な問題点を解決するためにどのように「情報」を扱っていくか、また、「情報」を取捨選択し、「データ」にする方法を身につける。	1
4		効率的な文字入力を身につける。	
5	ワープロソフトの活用	Word の機能を利用し、文書作成を行う。	3

6 ～ 7	表計算ソフトの活用	表計算ソフトの一般的な使用法を理解する。セル、番地、シート、日本語入力、罫線等の使い方を理解する。 四則演算の方法を身につける。絶対番地を理解する。 関数の使い方を身につける。Sum, Count, Average, Rank, Vlookup <1 学期期末考査> P検を受験して3級取得を目指す。 2 学年を振り返り、スライドを作成する。スライドは6枚以上とし、発表効果を考えながら作成する。	6
8 ～ 2	資格を取ろう。 プレゼンテーションを作ろう。	<2 学期期末考査>	22
3	情報化社会の光と影	これからの情報化社会のあり方について理解する。 <学年末考査>	2

情報科 2 年 社会と情報 年間授業計画（シラバス）						
科目名	社会と情報	対象	進学	コース	単位数	2 単位
教科書	社会と情報			出版社	実教出版	
副教材	ポイントでマスター 基礎から始める情報リテラシー Office2016					

1 学習の到達目標

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを、適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を身につける。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の趣旨	日常の様々な事柄から自ら問題を発見し、効率的に解決を図る力を身につける。	『高度情報科社会』に適応するための情報処理能力を身につける。	課題や目的に応じた情報手段を適切に選択し、効率良く情報を収集し、判断・処理して、効果的に発信・伝達できる能力を身に付ける。	社会生活の中で情報や情報機器の果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、適切な対応が取れるようになる。
評価の方法	確認テスト 単元テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など

②成績評価の方法

各学期の評価：課題制作 40点 + 期末ペーパーテスト 50点 + 出席点 10点

学年評点：各学期の得点の平均

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	アンケート。コンピュータ室の使い方	コンピュータ室及び、コンピュータ使用上の一般的な注意を理解する。 中学校までのコンピュータ、インターネット等の経験を調査する。アンケートの結果はコンピュータ上で入力し、集計する。	1
4	情報とは何か。データとは何か。	身の回りの様々な問題点を解決するためにどのように「情報」を扱っていくか、また、「情報」を取捨選択し、「データ」にする方法を身につける。	1
4-5	ワープロソフトの活用	効率的な文字入力を身につける。 Word の機能を利用し、文書作成を行う。	6

5-6	表計算ソフトの活用	表計算ソフトの一般的使用法を理解する。セル、番地、シート、日本語入力、罫線等の用い方を理解する。 四則演算の方法を身につける。絶対番地を理解する。 関数の用い方を身につける。Sum, Count, Average, Rank, Vlookup グラフの用い方を身につける。	8
6-7	インターネット検索方法の基礎知識	ディレクトリサーチ、キーワードサーチ、サーチエンジン、ロボット検索、アドレスのダイレクト入力について理解する。	1
	ネチケットと著作権	ネチケット、著作権、コンピュータウィルス、インターネット犯罪等について理解する。	1
	インターネットの活用	インターネットを利用して情報収集を行う。	4
8-10	プレゼンテーションを作ろう。	プレゼンテーションについて理解する。パワーポイントの使い方を身につける。 企画立案 プランニングシート、スライドスケッチ、話すことの内容をまとめる。 各自それぞれにテーマを考え、インターネット等を用いて資料を収集する。スライドは6枚以上とし、発表効果を考えながら作成する。	11
11		プレゼンテーションのリハーサルを行う。	3
		プレゼンテーションを修正する。	4
		一人3分以内で発表する。	
12	プレゼンテーション発表会	<2 学期期末考査>	4
	ホームページの仕組み	HTMLの基本を理解する。タグの用い方を身につける。	2
1-2	ホームページを作成しよう。	メモ帳の用い方を身につける。 各自それぞれにテーマを考え、インターネット等を用いて資料を収集する。リンクを効果的に用いながら、ホームページを作成する。	8
3	情報化社会の光と影	これからの情報化社会のあり方について理解する。 <学年末考査>	2

情報 科 2 年 社会と情報 年間授業計画（シラバス）					
科目名	社会と情報	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	社会と情報 出版社 実教出版				
副教材	ポイントでマスター 基礎から始める情報リテラシー Office2016				

1 学習の到達目標

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを、適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を身につける。

2 評価の観点・趣旨・方法、成績評価の方法

① 評価の観点・趣旨・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の趣旨	日常の様々な事柄から自ら問題を発見し、効率的に解決を図る力を身につける。	『高度情報科社会』に適応するための情報処理能力を身につける。	課題や目的に応じた情報手段を適切に選択し、効率良く情報を収集し、判断・処理して、効果的に発信・伝達できる能力を身に付ける。	社会生活の中で情報や情報機器の果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、適切な対応が取れるようになる。
評価の方法	確認テスト 単元テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察など

②成績評価の方法

各学期の評価：課題制作 40点 + 期末ペーパーテスト 50点 + 出席点 10点

学年評点：各学期の得点の平均

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	アンケート。コンピュータ室の使い方	コンピュータ室及び、コンピュータ使用上の一般的な注意を理解する。 中学校までのコンピュータ、インターネット等の経験を調査する。アンケートの結果はコンピュータ上で入力し、集計する。	1
4	情報とは何か。データとは何か。	身の回りの様々な問題点を解決するためにどのように「情報」を扱っていくか、また、「情報」を取捨選択し、「データ」にする方法を身につける。	1
4-5	ワープロソフトの活用	効率的な文字入力を身につける。 Word の機能を利用し、文書作成を行う。	6
5-6	表計算ソフトの活用	表計算ソフトの一般的使用法を理解する。セル、番地、シート、日本語入力、罫線等の用い方を理解する。	8

		四則演算の方法を身につける。絶対番地を理解する。 関数の使い方を身につける。Sum, Count, Average, Rank, Vlookup グラフの使い方を身につける。 <1 学期期末考査>	
6-7	インターネット検索方法の基礎知識	ディレクトリサーチ、キーワードサーチ、サーチエンジン、ロボット検索、アドレスのダイレクト入力について理解する。	1
	ネチケットと著作権	ネチケット、著作権、コンピュータウィルス、インターネット犯罪等について理解する。	1
	インターネットの活用	インターネットを利用して情報収集を行う。	4
8-10	プレゼンテーションを作ろう。	プレゼンテーションについて理解する。パワーポイントの使い方を身につける。 企画立案 プランニングシート、スライドスケッチ、話すことの内容をまとめる。 各自それぞれにテーマを考え、インターネット等を用いて資料を収集する。スライドは6枚以上とし、発表効果を考えながら作成する。	11
11		プレゼンテーションのリハーサルを行う。 プレゼンテーションを修正する。 一人3分以内で発表する。	3 4
12	プレゼンテーション発表会	<2 学期期末考査>	4
1-2	ホームページの仕組み	HTMLの基本を理解する。タグの使い方を身につける。	2
	ホームページを作成しよう。	メモ帳の使い方を身につける。 各自それぞれにテーマを考え、インターネット等を用いて資料を収集する。リンクを効果的に使いながら、ホームページを作成する。	8
3	情報化社会の光と影	これからの情報化社会のあり方について理解する。 <学年末考査>	2